
在宅要介護高齢者の 医療・介護連携の推進方策に関する 調査研究報告書

資料編 介護データ分析結果

平成31年3月

市 原 市

一般財団法人 厚生労働統計協会

目次

分析の観点1 重度化・軽度化と介護サービス利用の傾向

その1 要介護者の構成の変化

その2 重度化・軽度化の傾向

その3 介護サービス利用パターンと重度化・軽度化

その4 居宅系サービスと重度化・軽度化

分析の観点2 医療・介護連携に関連する重度化・軽度化の傾向

その1 特別な医療の必要性

その2 要介護認定時の「現状の状況」

分析の観点3 医療・介護連携に関連する介護サービス事業所の傾向

その1 入退院時の医療・介護連携

その2 看取り介護とターミナルケア

分析の観点4 日常生活圏域毎の新規認定割合の傾向

補足資料

補足1 資料編の図の一覧

補足2 オッズ比、集計条件等の表

表1 利用者属性毎の重度化・軽度化オッズ比

表2 介護サービス利用パターン毎の重度化・軽度化オッズ比

表3 居宅サービス毎の重度化・軽度化オッズ比

表4 日常生活圏域毎の新規認定割合オッズ比

表5 要介護認定者の属性間の関連性

表6 集計で利用しているサービス種類コード等

分析の観点1： 重度化・軽度化と介護サービス利用の傾向

その1 要介護者の構成の変化

その2 重度化・軽度化の傾向

その3 介護サービス利用パターンと重度化・軽度化

その4 居宅系サービスと重度化・軽度化

◎分析の観点1: 重度化・軽度化と介護サービス利用の傾向

～その1 要介護者の構成の変化

(集計・分析の主旨)

- ・ 集計・分析対象の要介護者について、性別、年齢階級別、認定区分別、要介護度別等による構成を、対象期間開始時（2016年度初）と終了時（2017年度末）について集計し、対象期間での変化を把握する
- ・ 対象期間終了まで要介護状態の人数、途中で要介護者の集計から外れる人数（非該当、転出・死亡）、途中で要介護者の集計に入る人数（転入・新規認定）について集計する

(集計・分析の方法)

- ・ 介護資格データ、介護認定データを使用して集計する
- ・ 共同研究で使用するデータおよび分析方法の制約(*)により実際の認定者数とは多少相違がある（集計結果利用時の留意事項）

(*) 対象者について（実際の要介護者数との相違の理由）

認定データの集計・分析方法に関連する要因	- 認定データにより心身状態等を把握しているため、他の自治体で要介護認定を受けた後、市原市に転入し、市原市での要介護認定をまだ受けていない人は、集計に含まれていない
資格データの集計・分析方法に関連する要因	- 心身状態変化を圏域別の観点を含めて調べるため、市原市の郵便番号以外の人集計・分析に含まれていない

◎分析の観点1: 重度化・軽度化と介護サービス利用の傾向
～その1 要介護者の構成の変化

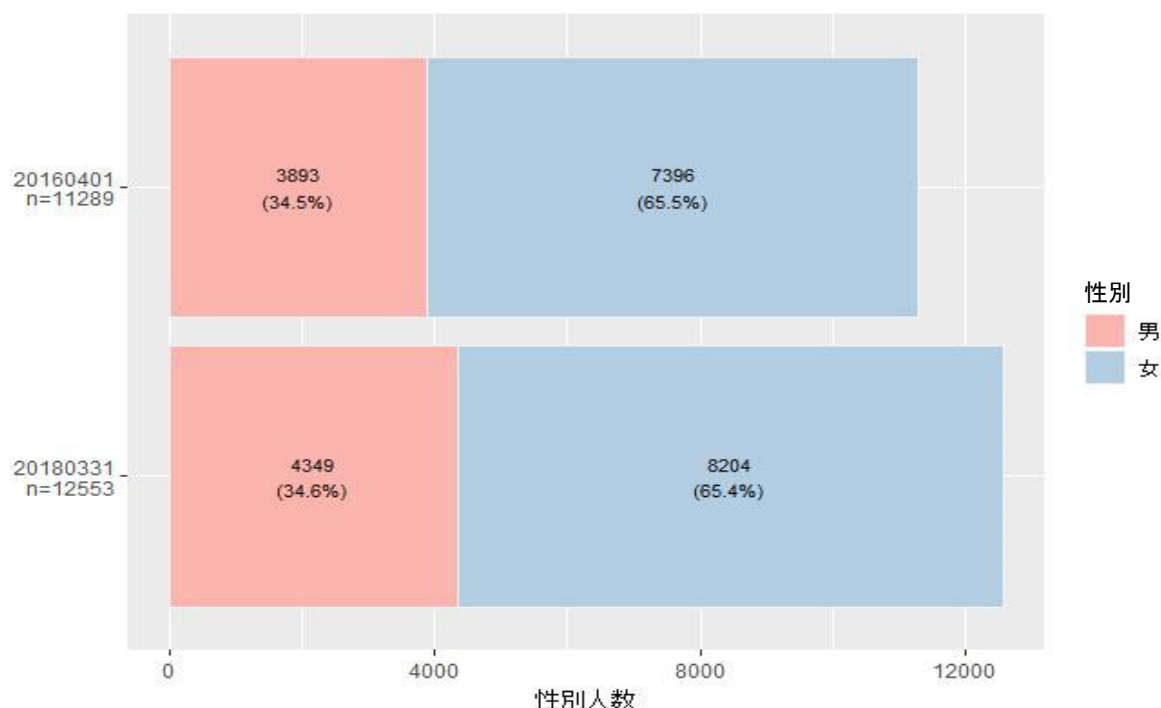
(主な集計・分析結果)

- ・ 2017年度末の要介護者の構成を、2016年度初めの構成と比べると、年齢階級で75-84歳の割合がやや増えているなどの細かい変化はあるが、大きな変化はない
- ・ 2016年度初めから2017年度末までの期間で継続して要介護状態の人は、2016年度初めで72%であり（28%は、転出・死亡または非該当）、新規・転入が40%（2016年度初めの人数に対する割合）あるため、2017年度末では、差し引きで要介護者は11%増加となっている。新規・転入は、転出・死亡と比べて、軽度の要介護者が多い（継続して要介護状態であった人は軽度化より重度化が多いため、全体として、要介護度の構成は変わっていない）

(主な集計・分析結果一覧) (1/2)

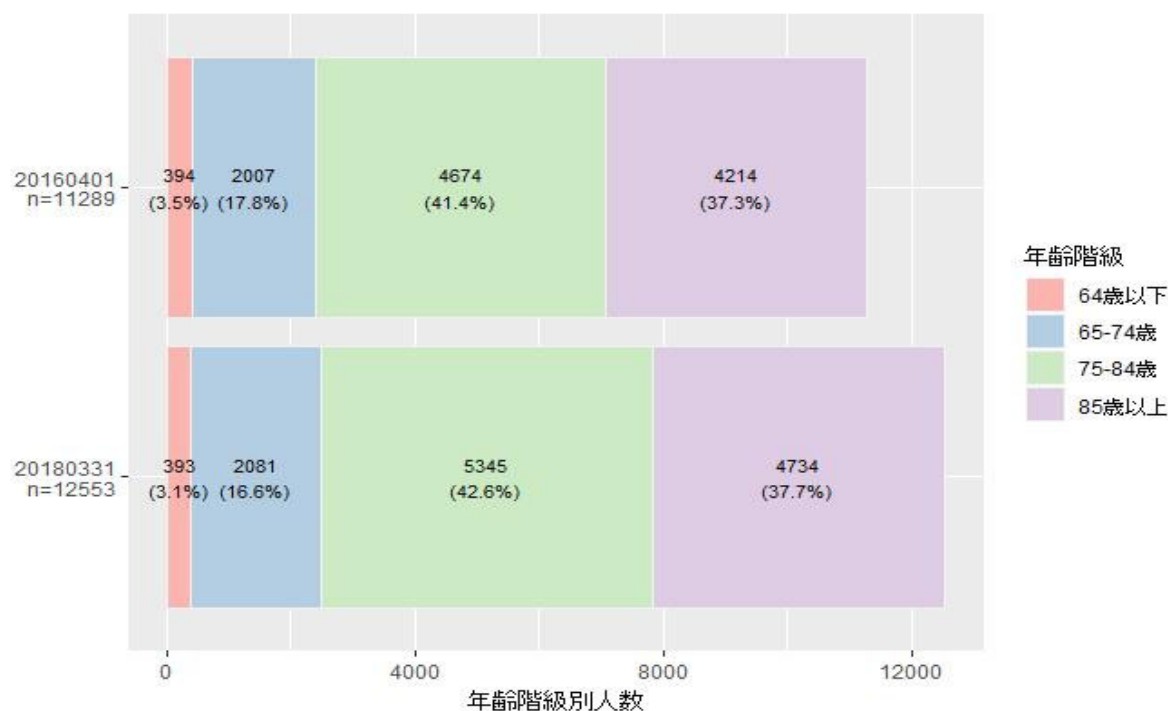
要介護者の構成の変化（2016-2017年度末）～性別、年齢階級別	・ 要介護認定者は、2016年度初11289人、2018年度末12553人であり、2年度で11%増加している（図1-1-1） ・ 性別では男性35%、女性65%で、2年度の期間で変化していない（図1-1-1） ・ 年齢階級別で大きな変化はないが、65-74歳の割合がやや減り、75-84歳の割合がやや増えている（図1-1-2）
要介護者の構成の変化（2016-2017年度末）～認定区分	・ 新規認定が20%程度、更新認定が70%強、区分変更認定が10%弱となっている。新規と区分変更がやや増え、更新がやや減っている（図1-1-3）

図1-1-1 要介護者の構成の変化 ～ 性別（2016年度初、2017年度末）



(*) 介護認定データを集計したもの。2016年4月1日の要介護者と、2018年3月31日の要介護者を対象とし、それぞれの時点からみて最新の介護認定データにより集計している。

図1-1-2 要介護者の構成の変化 ～ 年齢階級（2016年度初、2017年度末）



(*) 介護認定データを集計したもの。2016年4月1日の要介護者と、2018年3月31日の要介護者を対象とし、それぞれの時点からみて最新の介護認定データにより集計している。

図1-1-3 要介護者の構成の変化 ～ 認定区分（2016年度初、2017年度末）



(*) 介護認定データを集計したもの。2016年4月1日の要介護者と、2018年3月31日の要介護者を対象とし、それぞれの時点からみて最新の介護認定データにより集計している。

◎分析の観点1: 重度化・軽度化と介護サービス利用の傾向
～その1 要介護者の構成の変化

(主な集計・分析結果一覧) (2/2)

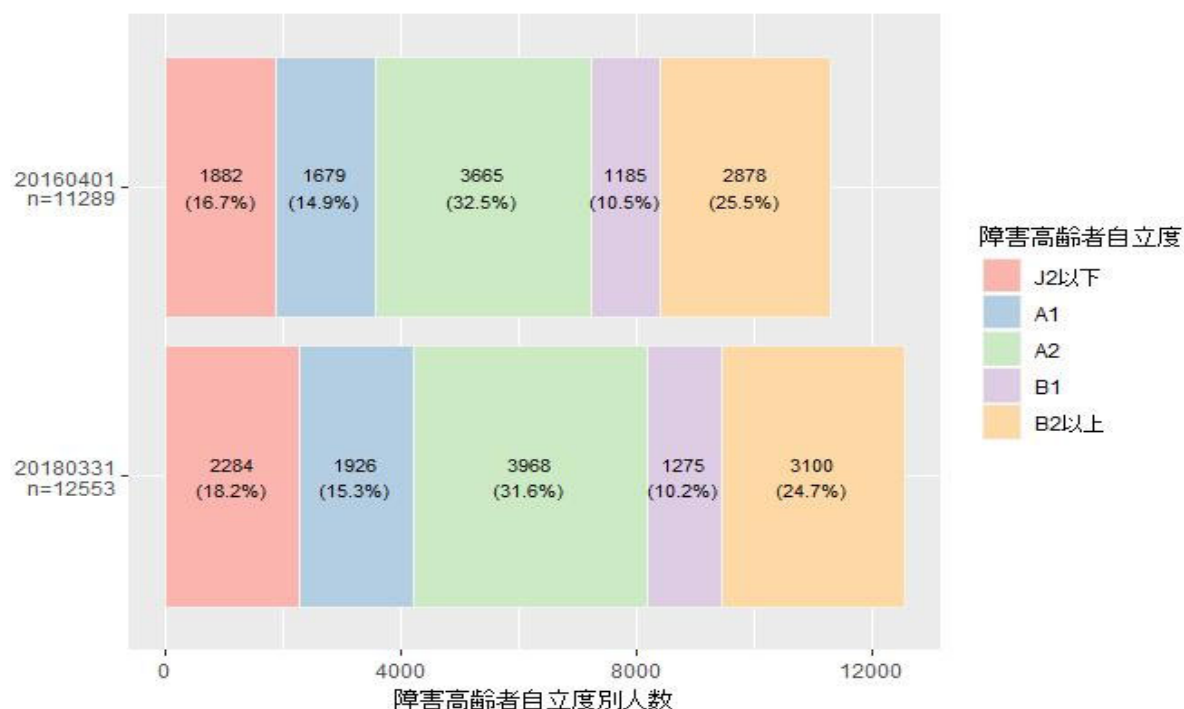
要介護者の構成の変化（2016-2017年度末）～要介護度等	要介護度別の構成、認知症高齢者別の構成は変化していない。障害高齢者自立度では、A1以下の割合がやや増えている（31%から34%に増えている）（図1-1-4、図1-1-5、図1-1-6）
要介護者の構成の変化と新規認定、死亡等（2016-2017年度末）	2016年度初の要介護認定者11289人のうち、8076人（72%）が、2017年度末も要介護認定状態にあり、3213人(28%)が、非該当、転出・死亡となっている。対象期間中に転入・新規認定となり、2017年度末も要介護認定状態にある人は4477人（2016年度初要介護者数に対して40%）であり、要介護者は1264人（11%）増えている（図1-1-7） - 対象期間中に転入・新規認定となった人は軽度が多く、転出・死亡した人は中重度が多い（継続して要介護状態であった人は軽度化より重度化が多いため、全体として、要介護度の構成は変わっていない）

図1-1-4 要介護者の構成の変化 ～ 要介護度（2016年度初、2017年度末）



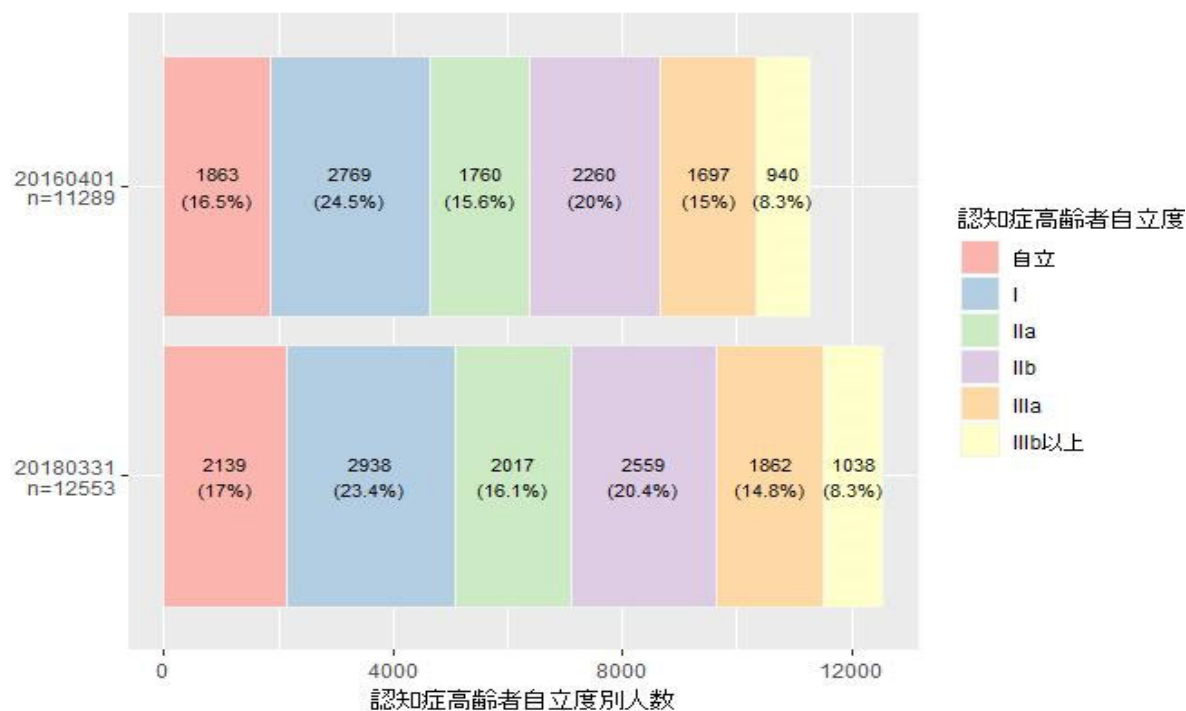
(*) 介護認定データを集計したもの。2016年4月1日の要介護者と、2018年3月31日の要介護者を対象とし、それぞれの時点からみて最新の介護認定データにより集計している。

図1-1-5 要介護者の構成の変化 ～ 障害高齢者自立度（2016年度初、2017年度末）



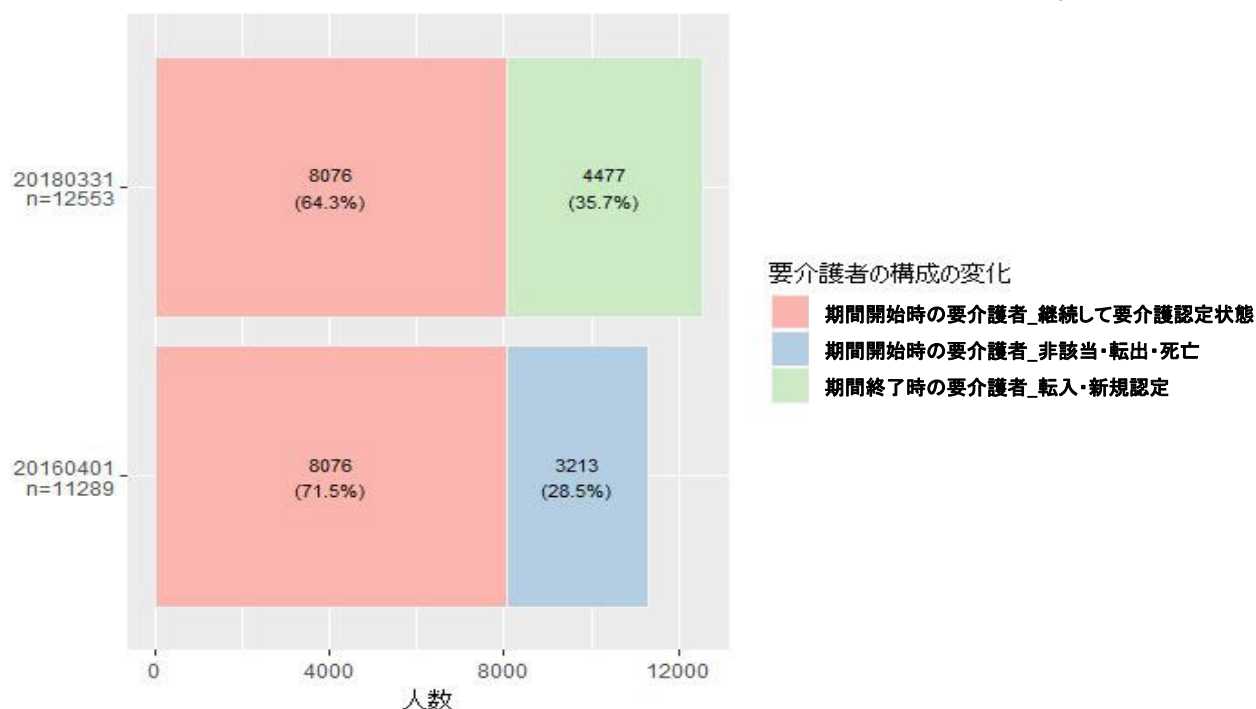
(*) 介護認定データを集計したもの。2016年4月1日の要介護者と、2018年3月31日の要介護者を対象とし、それぞれの時点からみて最新の介護認定データにより集計している。

図1-1-6 要介護者の構成の変化 ～ 認知症高齢者自立度（2016年度初、2017年度末）



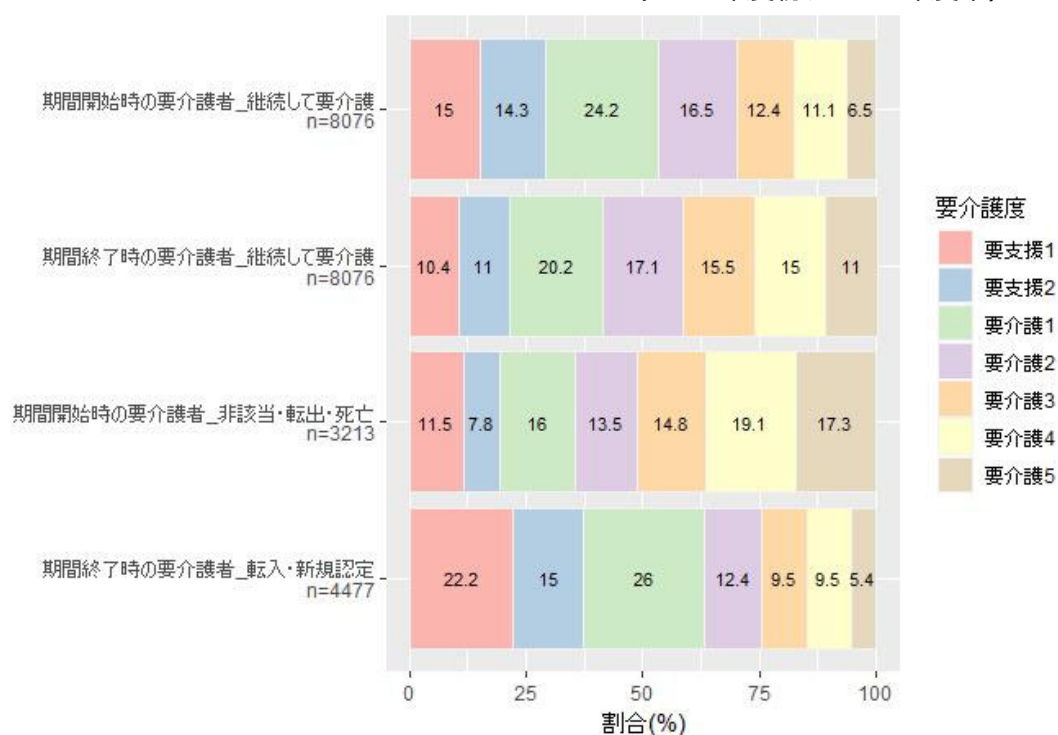
(*) 介護認定データを集計したもの。2016年4月1日の要介護者と、2018年3月31日の要介護者を対象とし、それぞれの時点からみて最新の介護認定データにより集計している。

図1-1-7a 要介護者の構成の変化～転入・新規認定・非該当・転出・死亡
(2016年度初、2017年度末)



(*) 介護認定データ、被保険者資格データにより集計している。

図1-1-7b 要介護者の構成の変化～転入・新規認定・非該当・転出・死亡
(2016年度初、2017年度末)



(*) 介護認定データ、被保険者資格データにより集計している。

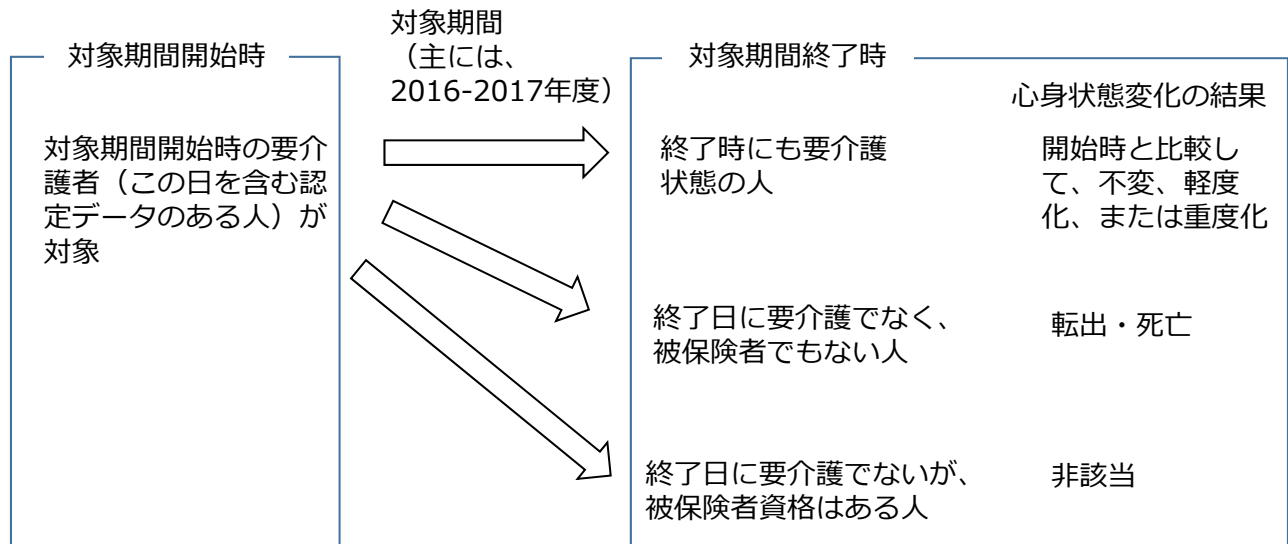
◎分析の観点1:重度化・軽度化と介護サービス利用の傾向 ～ その2 重度化・軽度化の傾向

(集計・分析の主旨)

自立支援・重度化防止は、介護保険事業の重点施策であり、施策検討のためにはまず重度化・軽度化の傾向を把握する必要がある。

(集計・分析の方法)

下表の考え方で、対象者毎に、対象期間終了時の心身状態を対象期間開始時の心身状態と比較して、集計することにより心身状態変化を把握する。



◎分析の観点1:重度化・軽度化と介護サービス利用の傾向 ～ その2 重度化・軽度化の傾向

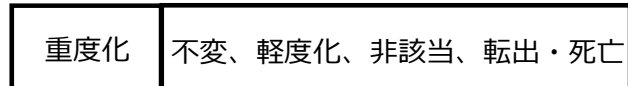
下図の考え方で、重度化オッズ、軽度化オッズをグループ（年齢階級、圏域等）毎に計算し、グループ間を比較して、重度化オッズ比、軽度化オッズ比を計算する（推定値、信頼区間）。

オッズ：グループ毎に計算する（年齢階級、圏域等）

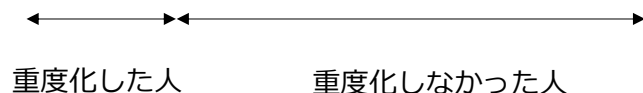
2016年度初めの要介護認定者
(集計・分析の対象)



2017年度末の、2016年度
初との比較



2016-2017年度での重度化
オッズ
重度化した人数の重度化し
なかった人数に対する比率



オッズ比：グループとグループを比較する

グループAのグループBに対
する重度化オッズ比

=

グループAの重度化オッズ

グループBの重度化オッズ

◎分析の観点1:重度化・軽度化と介護サービス利用の傾向 ～ その2 重度化・軽度化の傾向

(主な集計・分析結果)

- ・年齢階級、認定区分、要介護度、障害高齢者自立度、認知症高齢者自立度が、重度化・軽度化と関連がある。軽度化が多く、重度化が少ないのは、65-74歳（75-84歳、85歳以上に対して）、要介護度2・3・4（要介護度1に対して）、新規、区分変更（更新認定に対して）である

(主な集計・分析結果一覧) (1/3)

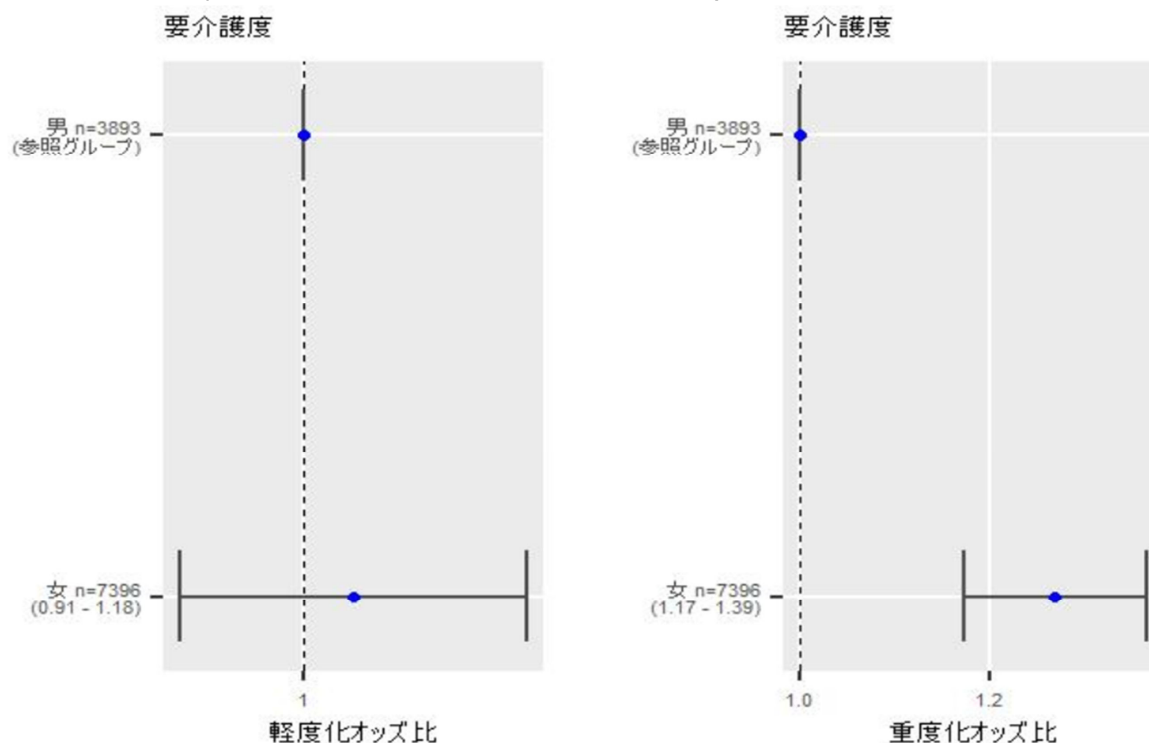
重度化・軽度化の傾向（2016-2017年度末）～性別、年齢階級別	・性別では、軽度化は変わらないが、重度化は女性が多い。また男性は転出・死亡が多い（図1-2-1a、図1-2-1b） ・75-84歳、85歳以上は、65-74歳と比べて、軽度化が少なく、重度化が多い（図1-2-2a、図1-2-2b）
重度化・軽度化の傾向（2016-2017年度末）～日常生活圏域別	・重度化・軽度化に関して、日常生活圏域間での大きな差異はない（図1-2-3a、図1-2-3b）
重度化・軽度化の傾向（2016-2017年度末）～認定区分別	・新規、区分変更は、更新と比べて、軽度化が多く、重度化が少ない（図1-2-4a、図1-2-4b）

図1-2-1a 重度化・軽度化の傾向 ～ 性別（2016-2017年度）



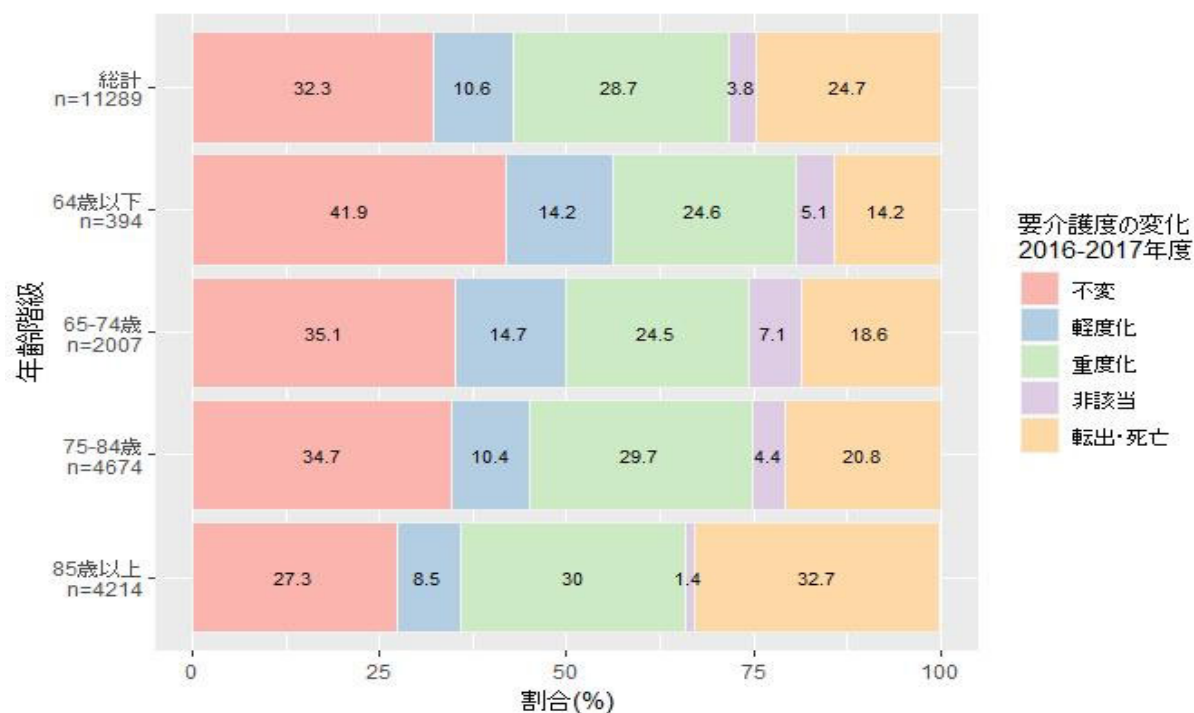
(*) 介護認定データより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日）からみて直近の認定データを参照している。

図1-2-1b 重度化・軽度化の傾向 ～ 性別（2016-2017年度） オッズ比



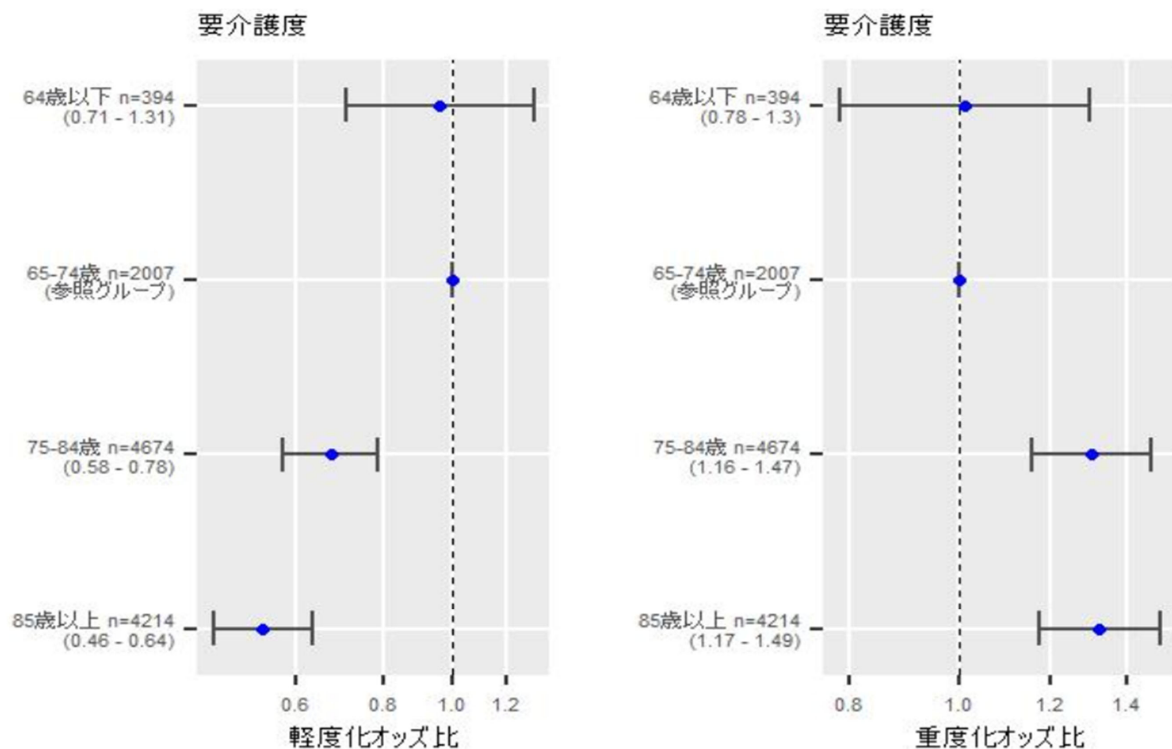
(*) 介護認定データより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日）からみて直近の認定データを参照している。

図1-2-2a 重度化・軽度化の傾向 ～ 年齢階級（2016-2017年度）



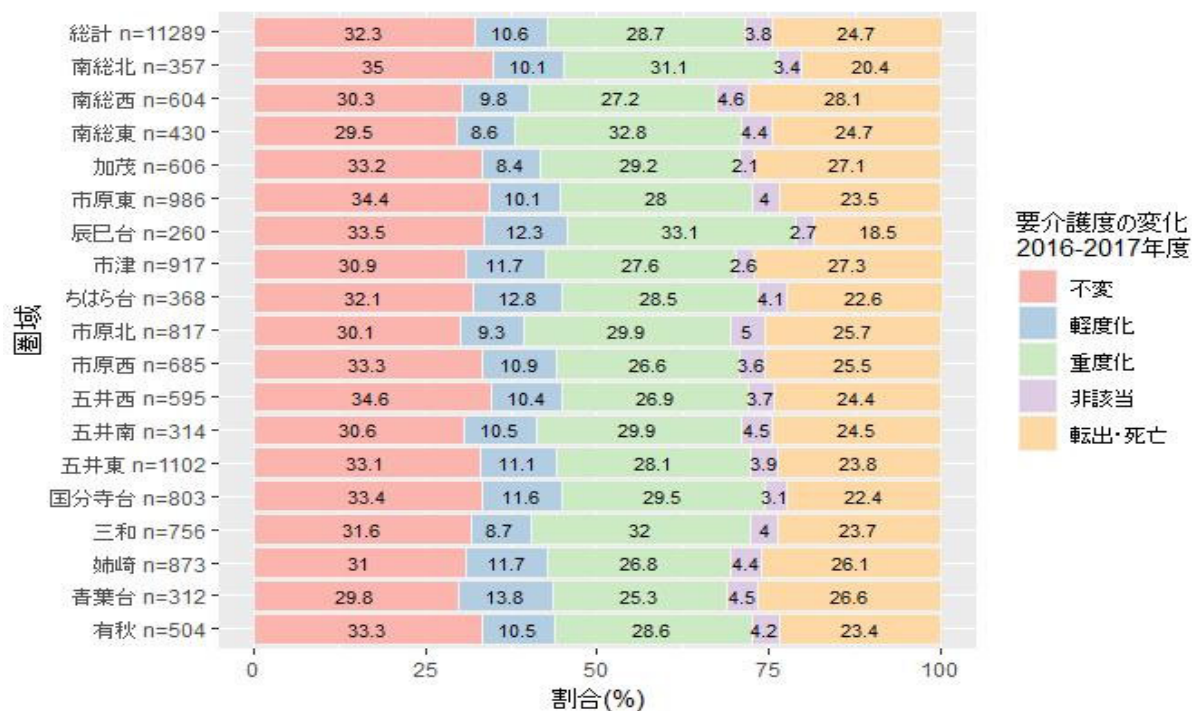
(*) 介護認定データより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日）からみて直近の認定データを参照している。

図1-2-2b 重度化・軽度化の傾向 ～ 年齢階級（2016-2017年度） オッズ比



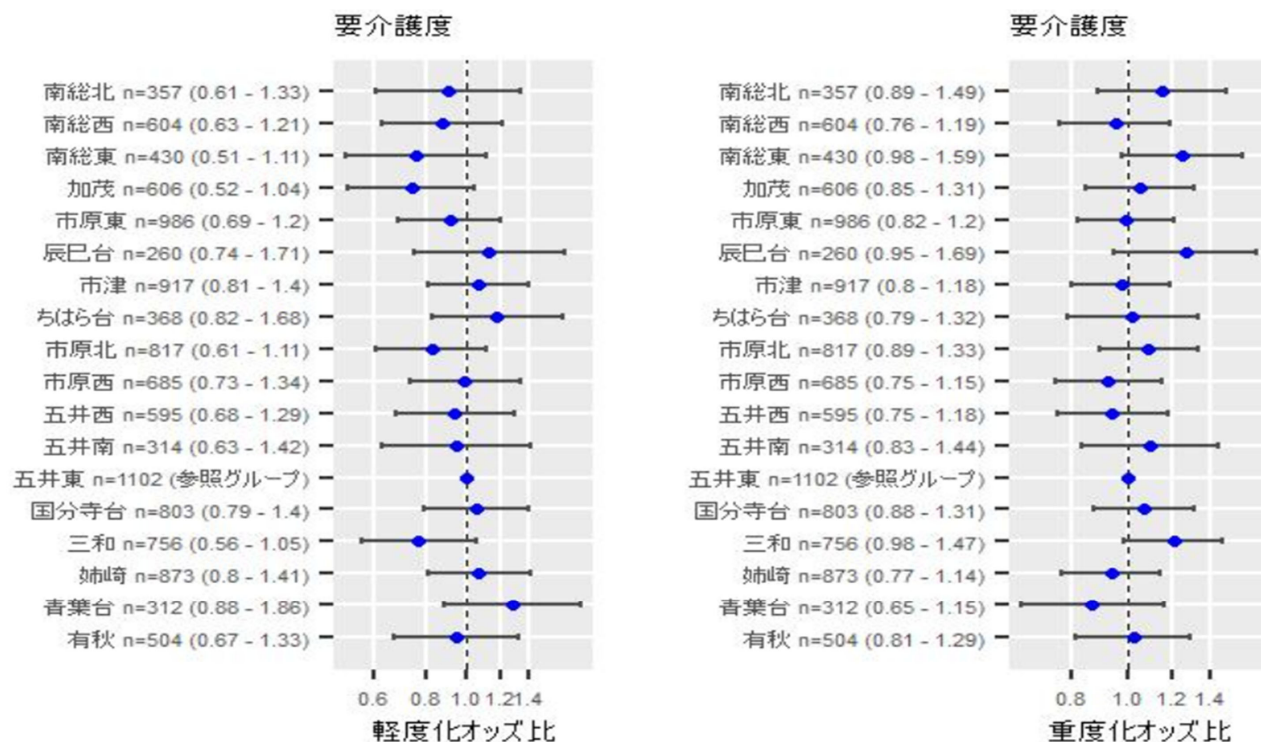
(*) 介護認定データより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日）からみて直近の認定データを参照している。

図1-2-3a 重度化・軽度化の傾向 ～ 日常生活圏域（2016-2017年度）



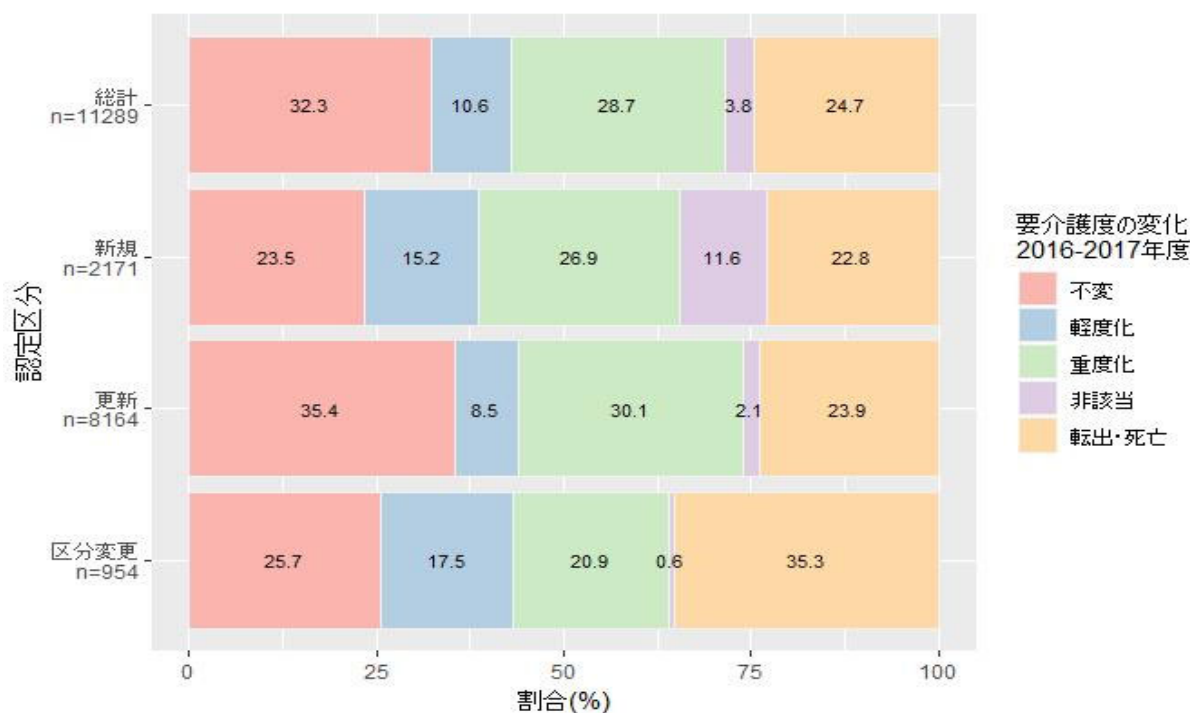
(*) 介護認定データより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日）からみて直近の認定データを参照している。

図1-2-3b 重度化・軽度化の傾向 ～ 日常生活圏域（2016-2017年度） オッズ比



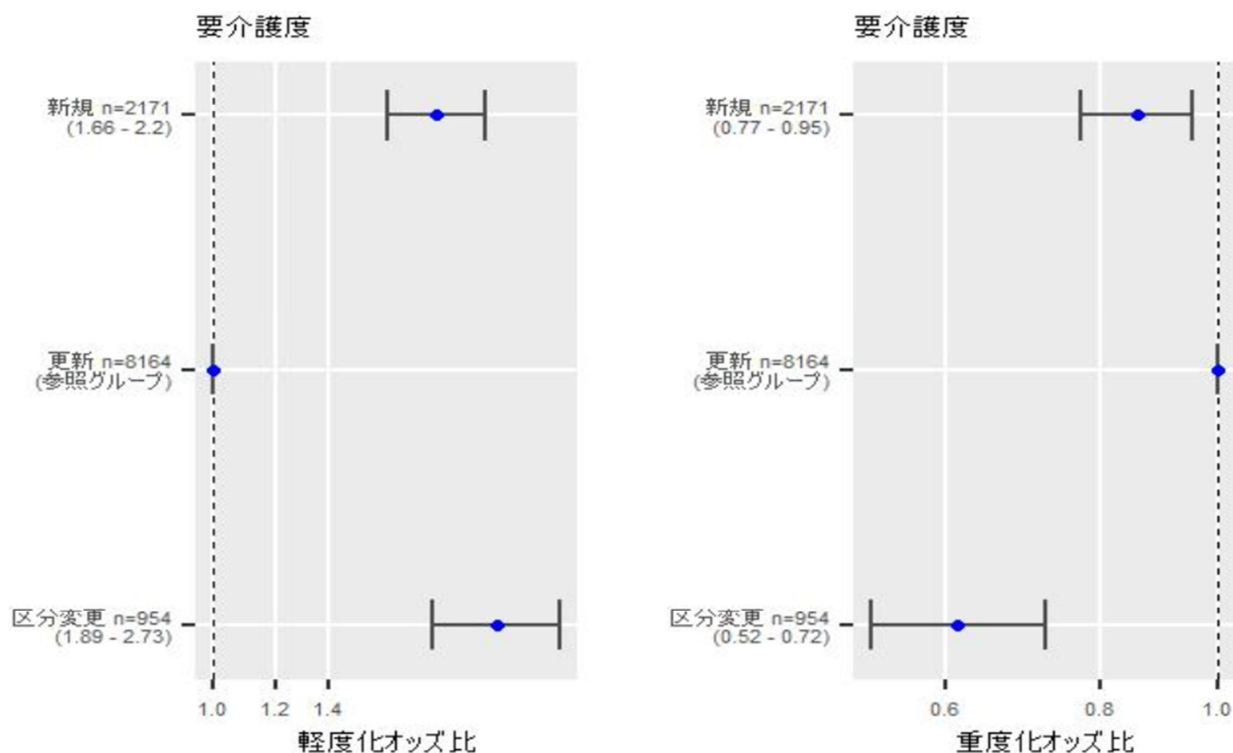
(*) 介護認定データより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日）からみて直近の認定データを参照している。

図1-2-4a 重度化・軽度化の傾向 ～ 認定区分（2016-2017年度）



(*) 介護認定データより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日）からみて直近の認定データを参照している。

図1-2-4b 重度化・軽度化の傾向 ～ 認定区分（2016-2017年度） オッズ比



(*) 介護認定データより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日）からみて直近の認定データを参照している。

◎分析の観点1:重度化・軽度化と介護サービス利用の傾向 ～ その2 重度化・軽度化の傾向

(主な集計・分析結果一覧) (2/3)

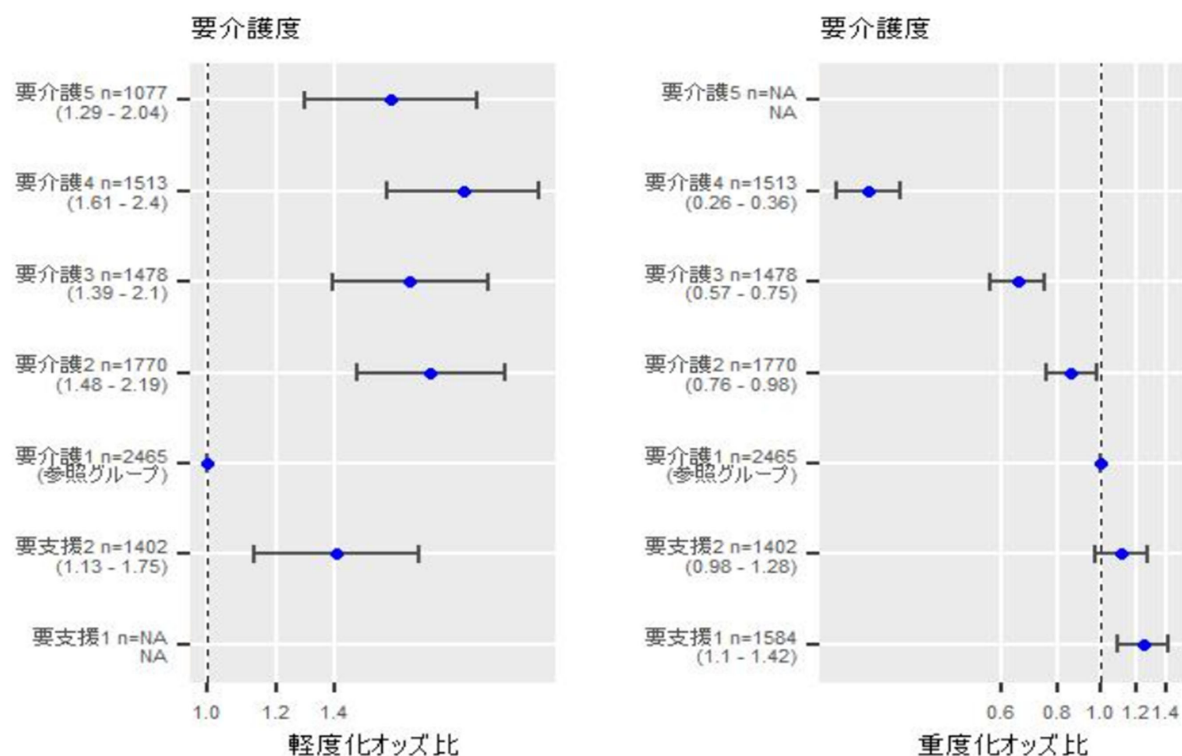
重度化・軽度化の傾向（2016-2017年度末）～ 要介護度別	要介護1と比べた傾向は以下のとおり（図1-2-5a、図1-2-5b） - 要支援1は、重度化が多い - 要支援2は、軽度化が多い - 要介護2・3・4は、軽度化が多く、重度化が少ない - 要介護5は軽度化が多い
重度化・軽度化の傾向（2016-2017年度末）～ 障害高齢者自立度別	要介護1と比べた傾向は以下のとおり（図1-2-6a、図1-2-6b） - 要支援2は、重度化が多い - 要介護3・4は、重度化が少ない - 要介護5は、重度化、軽度化ともに少ない
重度化・軽度化の傾向（2016-2017年度末）～ 認知症高齢者自立度別	要介護1と比べた傾向は以下のとおり（図1-2-7a、図1-2-7b） - 要支援1は、重度化が少ない - 要介護2・3・4は、重度化が少ない - 要介護5は、重度化、軽度化ともに少ない

図1-2-5a 重度化・軽度化の傾向（2016-2017年度）～ 要介護度別



(*) 介護認定データより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日）からみて直近の認定データを参照している。

図1-2-5b 重度化・軽度化の傾向（2016-2017年度）～ 要介護度別 オッズ比



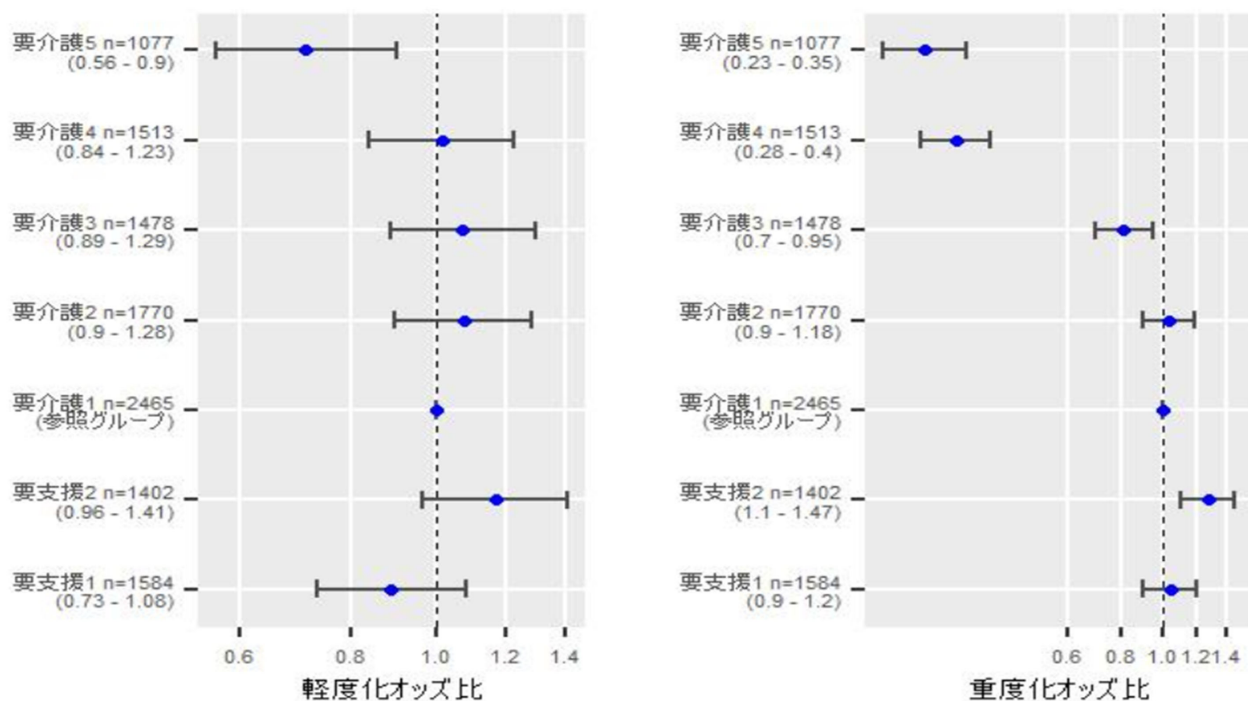
(*) 介護認定データより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日）からみて直近の認定データを参照している。

図1-2-6a 重度化・軽度化の傾向（2016-2017年度）～ 障害高齢者自立度の変化（要介護度別）



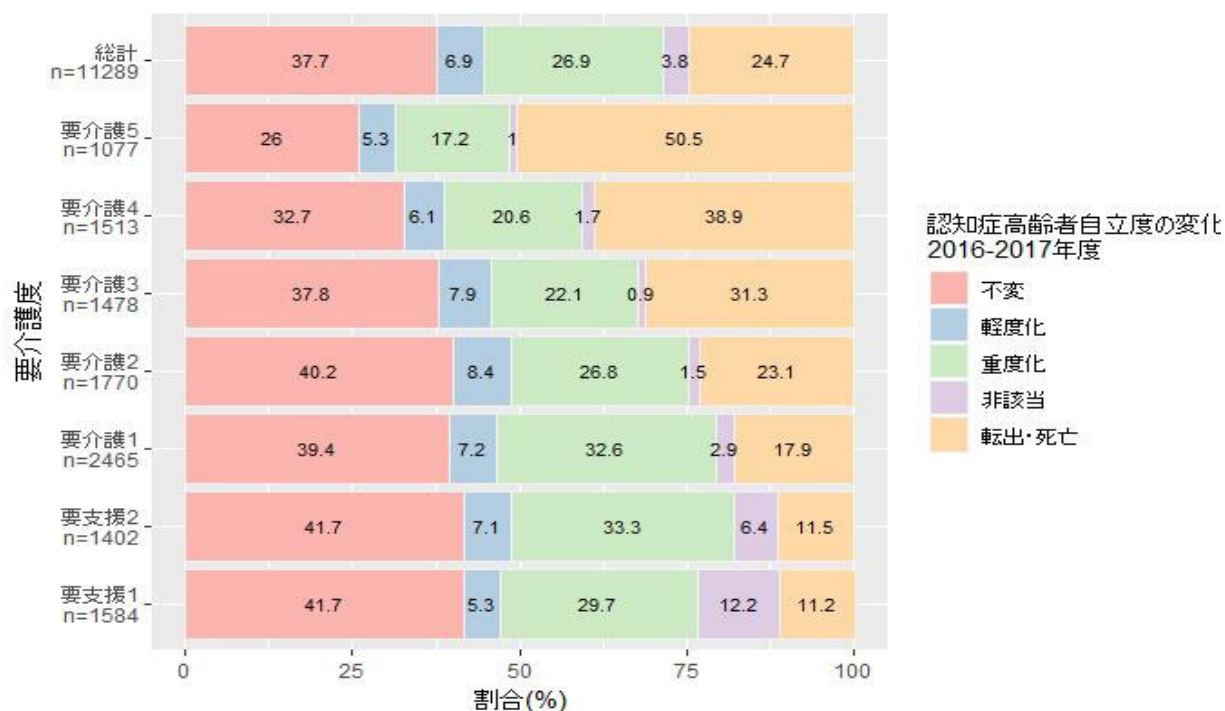
(*) 介護認定データより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日）からみて直近の認定データを参照している。

図1-2-6b 重度化・軽度化の傾向（2016-2017年度）～ 障害高齢者自立度（要介護度別）オッズ比



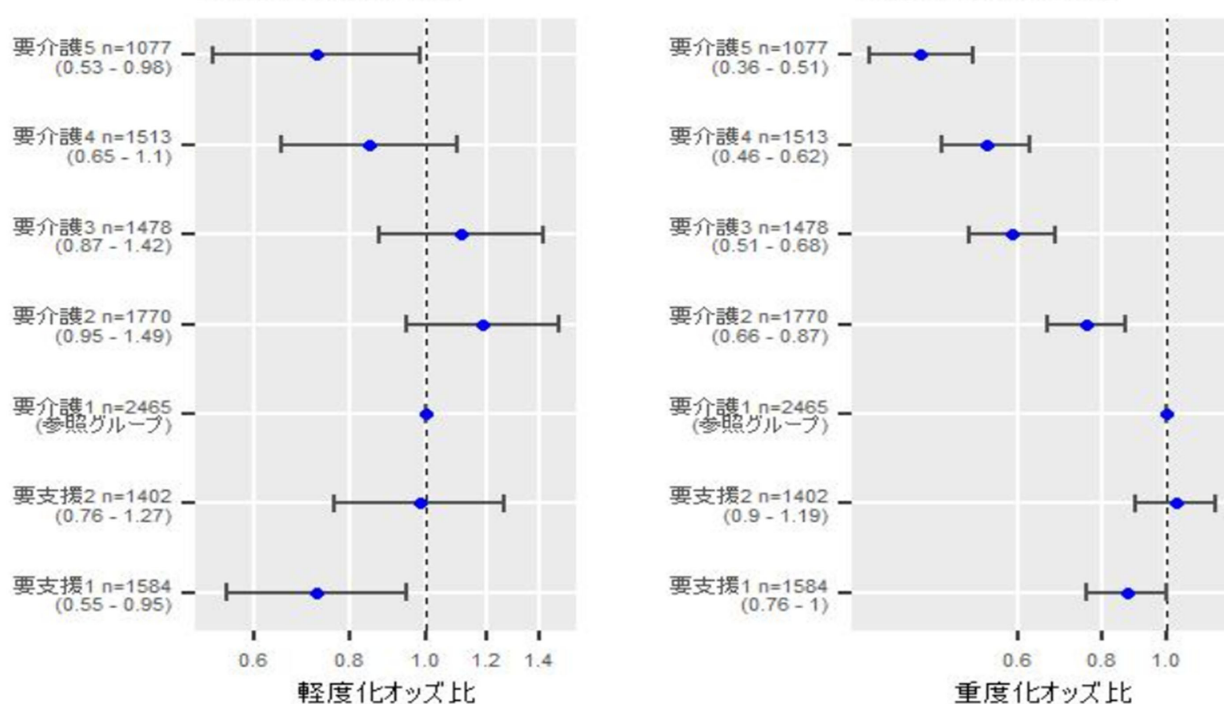
(*) 介護認定データより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日）からみて直近の認定データを参照している。

図1-2-7a 重度化・軽度化の傾向（2016-2017年度）～認知症高齢者自立度の変化（要介護度別）



(*) 介護認定データより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日）からみて直近の認定データを参照している。

図1-2-7b 重度化・軽度化の傾向（2016-2017年度）～認知症高齢者自立度（要介護度別）オッズ比



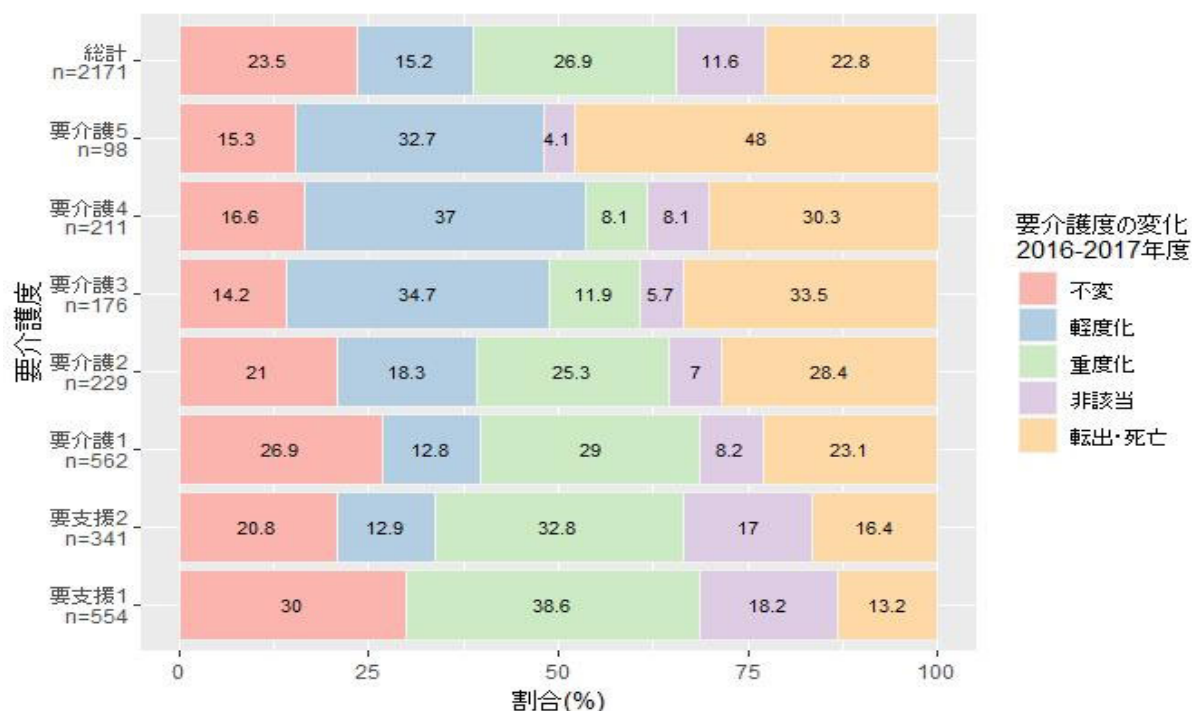
(*) 介護認定データより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日）からみて直近の認定データを参照している。

◎分析の観点1:重度化・軽度化と介護サービス利用の傾向 ～ その2 重度化・軽度化の傾向

(主な集計・分析結果一覧) (3/3)

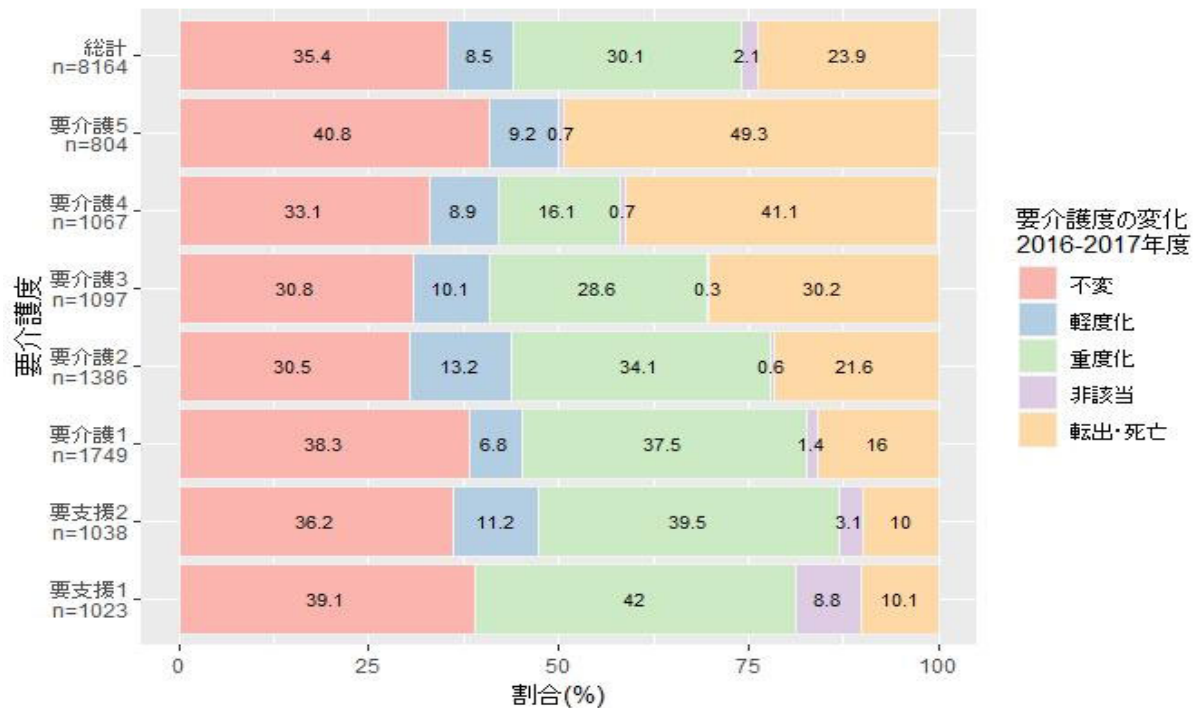
重度化・軽度化の傾向(2016-2017年度末)～認定区分・要介護度別	・新規認定の場合、軽度化(15%)、非該当への変化(12%)が多い。軽度化は要介護3・4・5で多く、非該当への変化は要支援1・2で多い(図1-2-8a) ・更新の場合、要介護度に関わらず、軽度化が少ない傾向がある(図1-2-8b) ・区分変更の場合、要介護2・3・4・5で軽度化が多い(図1-2-8c)
重度化・軽度化の傾向(2016-2017年度末)～障害高齢者自立度別	・障害高齢者自立度の変化を、障害高齢者自立度A1の要介護者と比べた場合、A2-C2は軽度化が多く、重度化が少ない(図1-2-9a、図1-2-9b) ・新規認定では、B1-C2は、40%前後が軽度化している(図1-2-9c)
重度化・軽度化の傾向(2016-2017年度末)～認知症高齢者自立度別	・認知症高齢者自立度の変化を、認知症高齢者自立度Iの要介護者と比べた場合、IIIbは軽度化が多く、重度化が少ない。IIaは重度化が多く、IIb、IIIaは重度化が少ない(図1-2-10a、図1-2-10b) ・新規認定では、自立、Iの要介護者は非該当への変化が比較的多い(19%および13%) (図1-2-10c)

図1-2-8a 重度化・軽度化の傾向 2016-2017年度)～要介護度別(新規認定の場合)



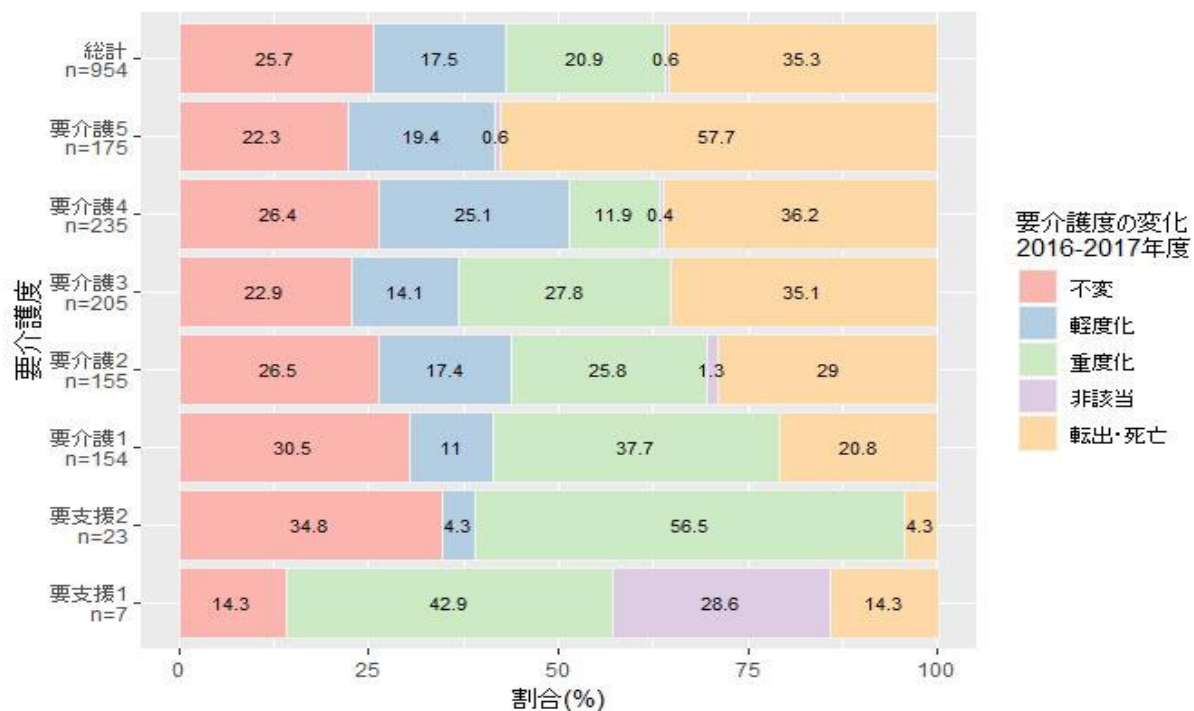
(*) 介護認定データより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時(2018年3月31日)からみて直近の認定データを参照している。

図1-2-8b 重度化・軽度化の傾向 2016-2017年度) ～ 要介護度別（更新の場合）



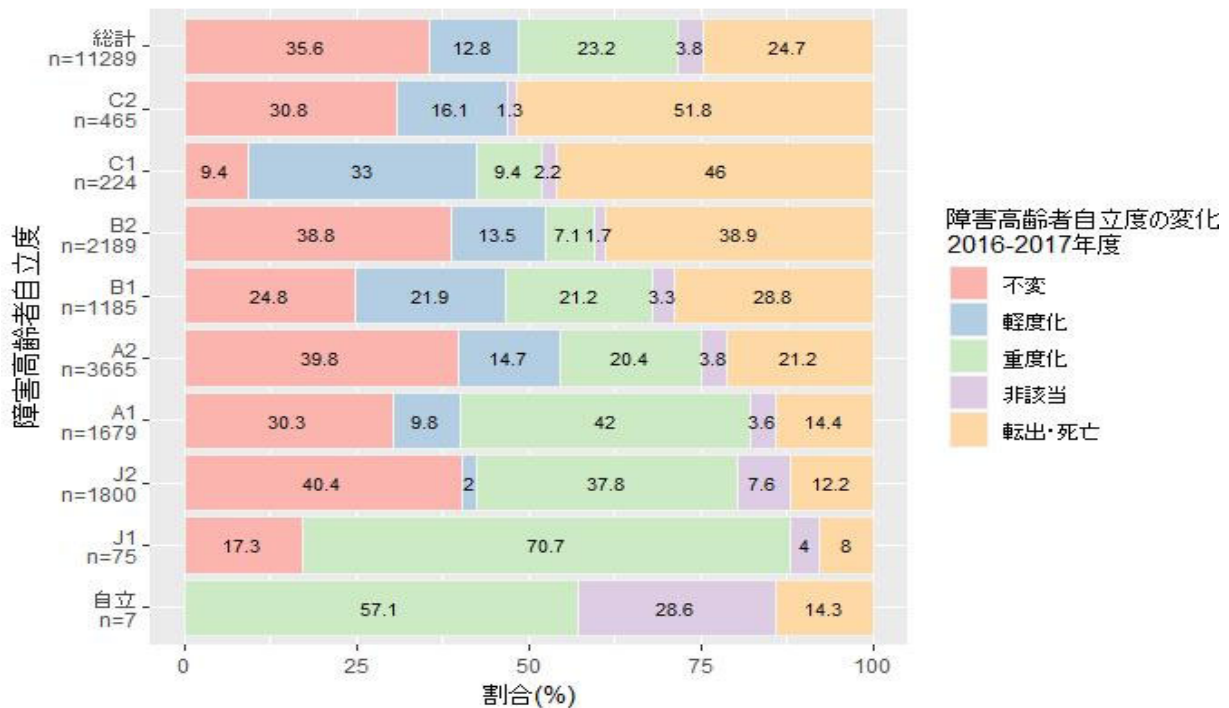
(*) 介護認定データより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日）からみて直近の認定データを参照している。

図1-2-8c 重度化・軽度化の傾向 2016-2017年度) ～ 要介護度別（区分変更の場合）



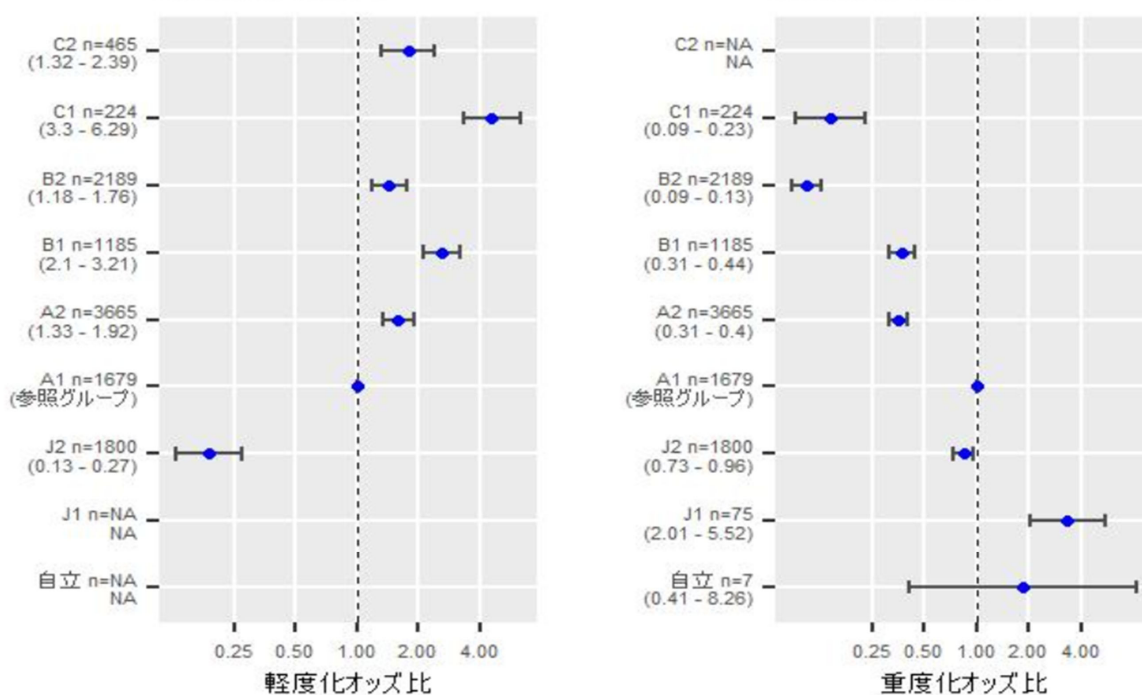
(*) 介護認定データより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日）からみて直近の認定データを参照している。

図1-2-9a 重度化・軽度化の傾向（2016-2017年度）～ 障害高齢者自立度別



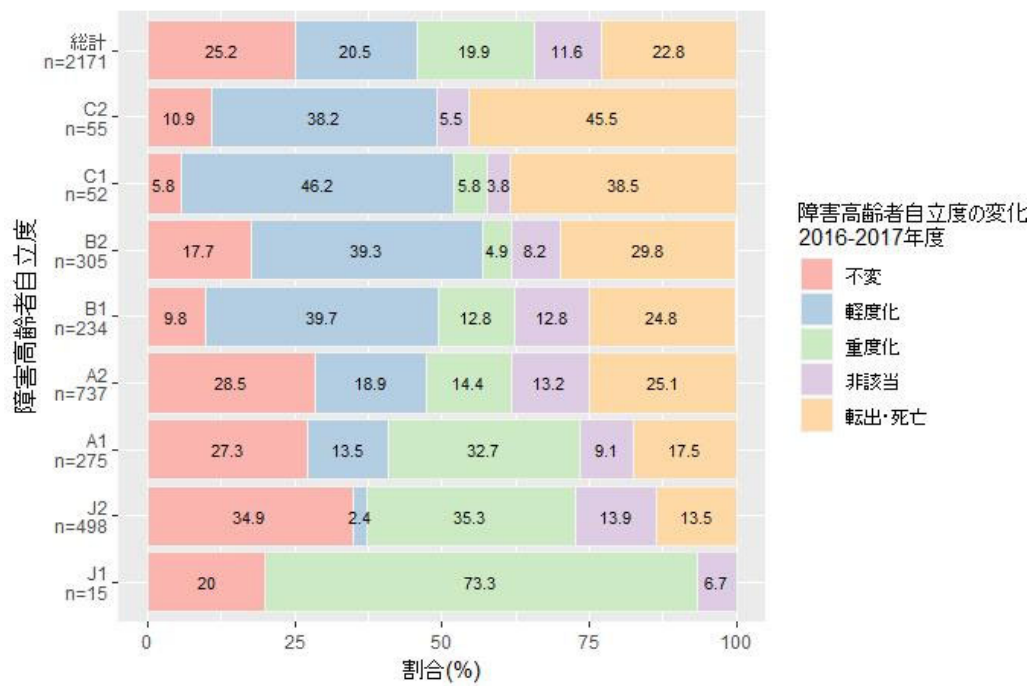
(*) 介護認定データより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日）からみて直近の認定データを参照している。

図1-2-9b 重度化・軽度化の傾向（2016-2017年度）～ 障害高齢者自立度別オッズ比



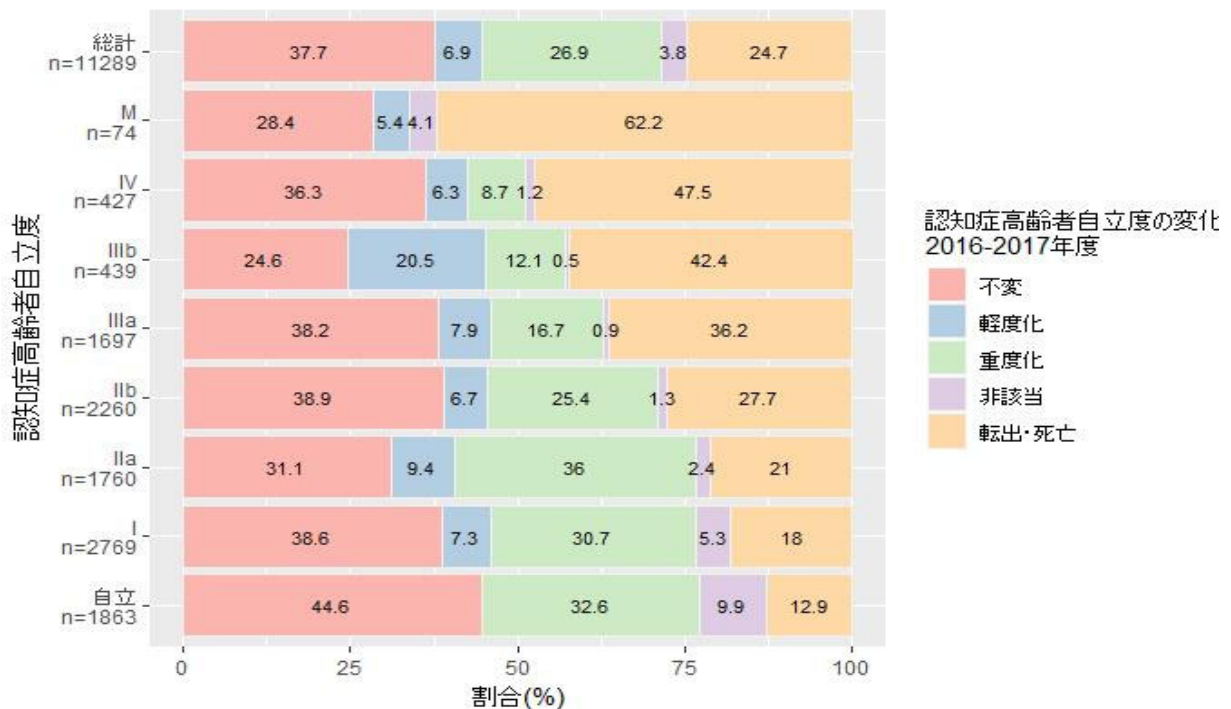
(*) 介護認定データより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日）からみて直近の認定データを参照している。

図1-2-9c 重度化・軽度化の傾向（2016-2017年度）～ 障害高齢者自立度別（新規認定）



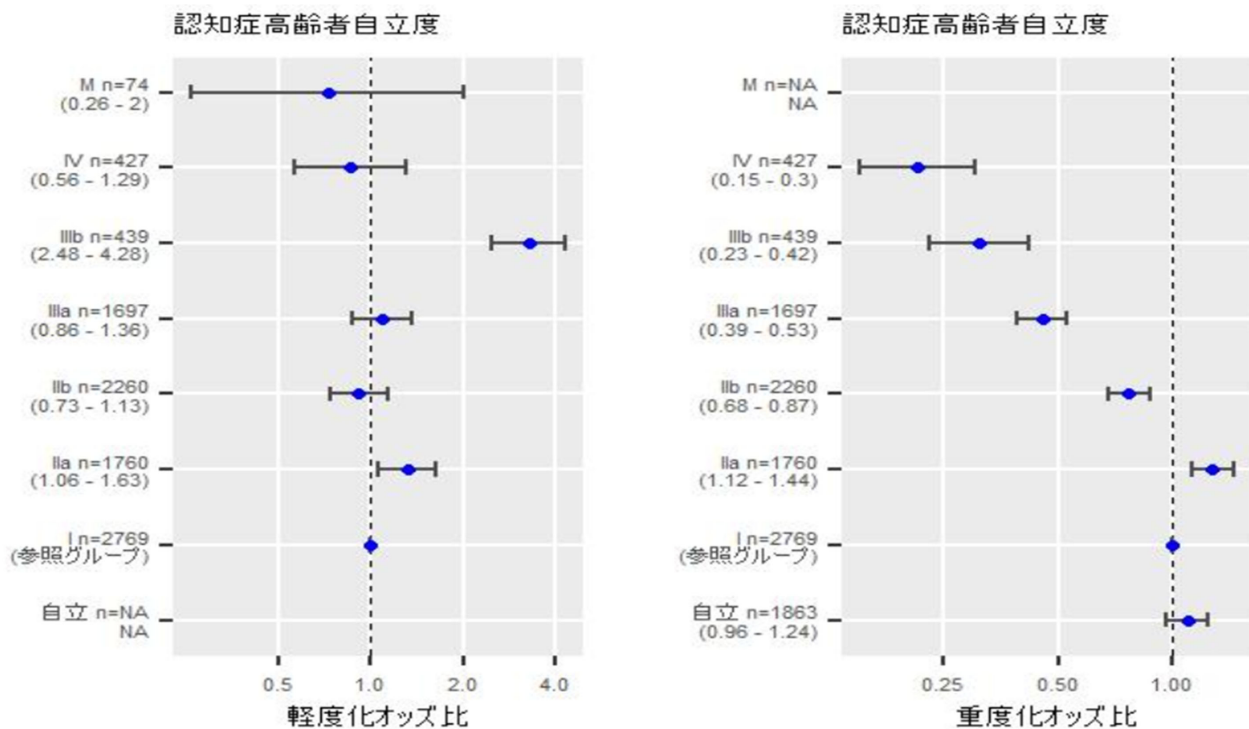
(*) 介護認定データより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日）からみて直近の認定データを参照している。

図1-2-10a 重度化・軽度化の傾向（2016-2017年度）～ 認知症高齢者自立度別



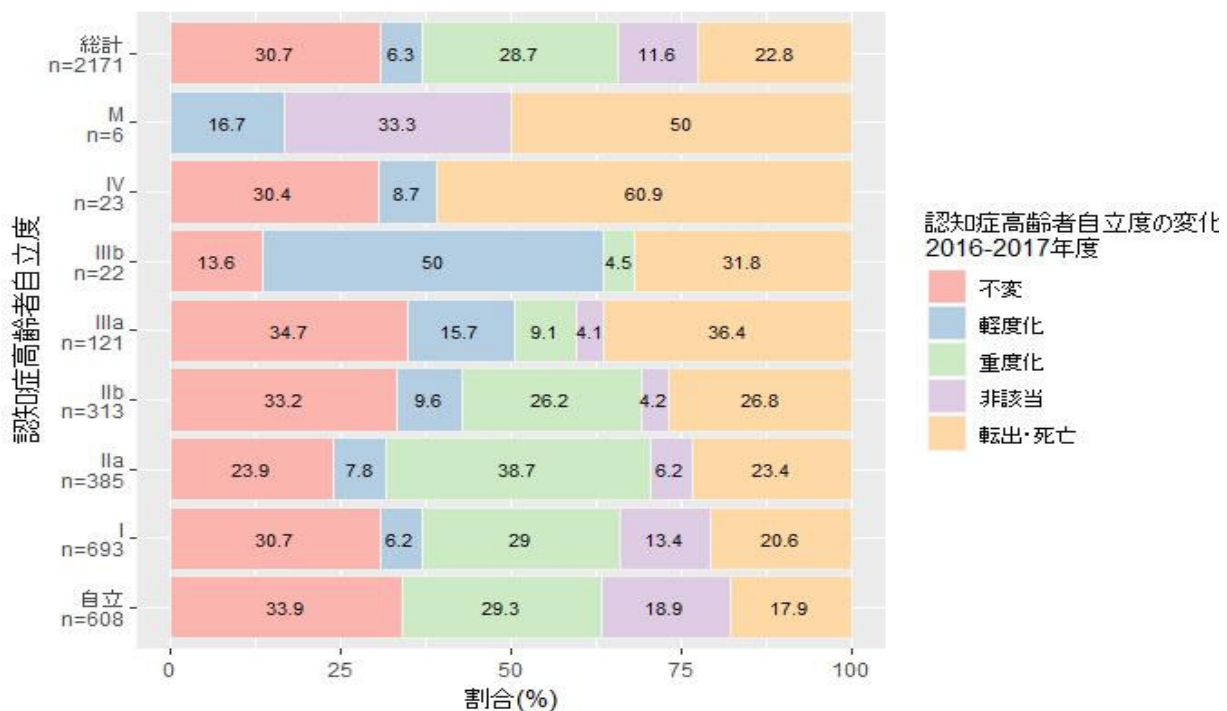
(*) 介護認定データより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日）からみて直近の認定データを参照している。

図1-2-10b 重度化・軽度化の傾向（2016-2017年度）～認知症高齢者自立度別オッズ比



(*) 介護認定データより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日）からみて直近の認定データを参照している。

図1-2-10c 重度化・軽度化の傾向（2016-2017年度）～ 認知症高齢者自立度別（新規認定）



(*) 介護認定データより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日）からみて直近の認定データを参照している。

◎分析の観点1: 重度化・軽度化と介護サービス利用の傾向

～その3 介護サービス利用パターンと重度化・軽度化

(集計・分析の主旨)

- ・ 本共同研究では、要介護状態の人がどのような介護サービスを利用し、心身状態がどのように変化したかについて、医療・介護連携の関係者等が把握し、施策に結び付けることを目的としている。介護サービス利用については、施設系、居住系、居宅系に分かれるので、こうした分類の観点での利用パターンと心身状態変化の関連を集計・分析する
- ・ 医療・介護連携推進の他、重度化防止施策検討等の検討材料とすることを想定している

(集計・分析の方法)

- ・ 介護給付データを集計・分析し、対象期間について、施設/居住/居宅系の別による給付パターンを集計する
- ・ 給付パターンと心身状態変化との関係を、集計・分析する

◎分析の観点1: 重度化・軽度化と介護サービス利用の傾向

～その3 介護サービス利用パターンと重度化・軽度化

(利用パターンと心身状態変化の集計方法)

各月について、居宅系のサービス利用と施設系のサービス利用の程度を集計し、対象期間の各月の月別利用形態をまとめることで、対象期間の介護サービス利用パターンを定義している。

利用パターン	説明
居宅系毎月利用パターン	対象期間の各月に居宅系だけを利用
居宅系利用・施設系不使用パターン	居宅系だけを利用する月と、何も利用しない月がある (居宅系を受けていて、入院等で介護サービスを利用しない月がある場合や、転出・死亡になった場合等)
施設系毎月利用パターン	対象期間の各月に施設系を利用
施設系利用・居宅系不使用パターン	施設系を利用する月と、何も利用しない月がある (施設系を受けていて、入院等でサービスを利用しない月がある場合や、転出・死亡になった場合など)
混合パターン	上記以外 (居宅系から施設系に移行した場合等)
サービス不使用パターン	サービスを利用しない

(*) 集計の都合上ここでは、居住系のうちグループホームと特定施設を施設系に、小規模多機能を居宅系に含めている。

◎分析の観点1: 重度化・軽度化と介護サービス利用の傾向

～その3 介護サービス利用パターンと重度化・軽度化

(主な集計・分析結果の概要)

- ・ 居宅系だけ利用（毎月利用）型は、施設系利用（毎月利用）型と比べて、軽度の要介護者の割合が多く、74歳以下がやや多い。軽度化は多く、重度化は差異がない

(主な集計・分析・結果の一覧) (1/2)

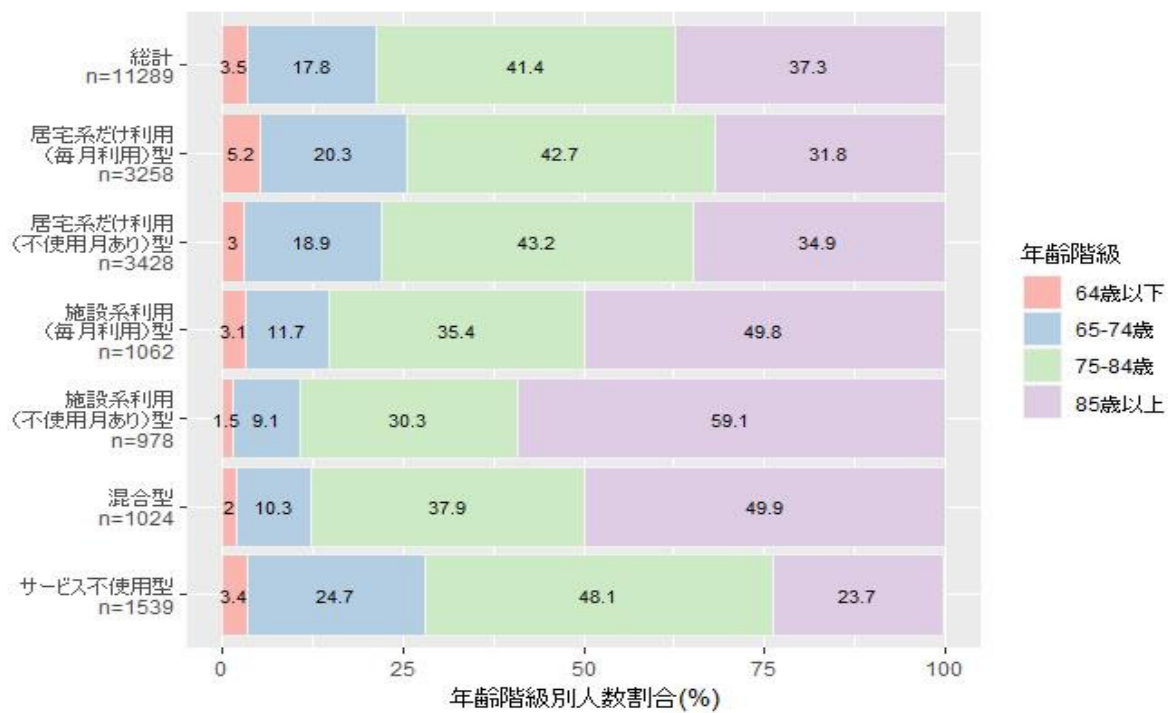
利用パターン別の利用者の内訳～要介護度 (2016年度初)	・ 居宅系だけ利用（毎月利用）型、居宅系だけ利用（不使用月あり）型では、要支援1・2要介護1・2が多くなっている。施設系だけ利用（毎月利用）型、施設系だけ利用（不使用月あり）型では、要介護3-5が多くなっている（図1-3-1） ・ 混合型は、居宅系だけ利用型と、施設系だけ利用型の中間の傾向となっている（図1-3-1） ・ サービス不使用型では、55%が要支援1-2となっている（図1-3-1）
利用パターン別の利用者の内訳～年齢階級 (2016年度初)	・ サービス不使用型、居宅系だけ利用型、混合型、施設系だけ利用型の順に、74歳以下の割合が多くなっている（図1-3-2）

図1-3-1 利用パターン別の利用者の内訳 ～ 要介護度



(*) 要介護度は介護認定データより、サービス利用は介護レセプトデータより集計している。2016年度初めの要介護者を、2016-2017年度の介護サービス利用パターンにより、居宅系だけ利用型（毎月利用/不使用月有）、施設系利用有（毎月利用/不使用月有）、混合型（それ以外のパターン）、サービス不使用型に分類している。

図1-3-2 利用パターン別の利用者の内訳 ～ 年齢階級別



(*) 要介護度は介護認定データより、サービス利用は介護レセプトデータより集計している。2016年度初の要介護者を、2016-2017年度の介護サービス利用パターンにより、居宅系だけ利用型（毎月利用/不毎月利用）、施設系利用（毎月利用/不毎月利用）、混合型（それ以外のパターン）、サービス不利用型に分類している。

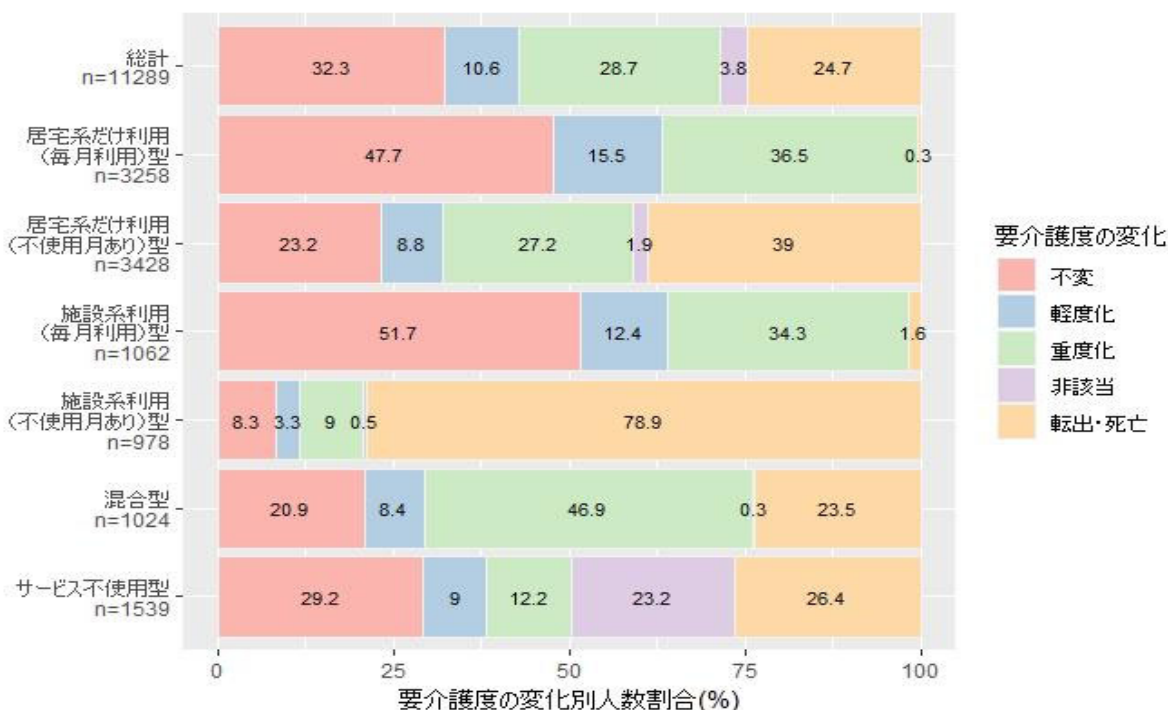
◎分析の観点1: 重度化・軽度化と介護サービス利用の傾向

～その3 介護サービス利用パターンと重度化・軽度化

(主な集計・分析・結果の一覧) (2/2)

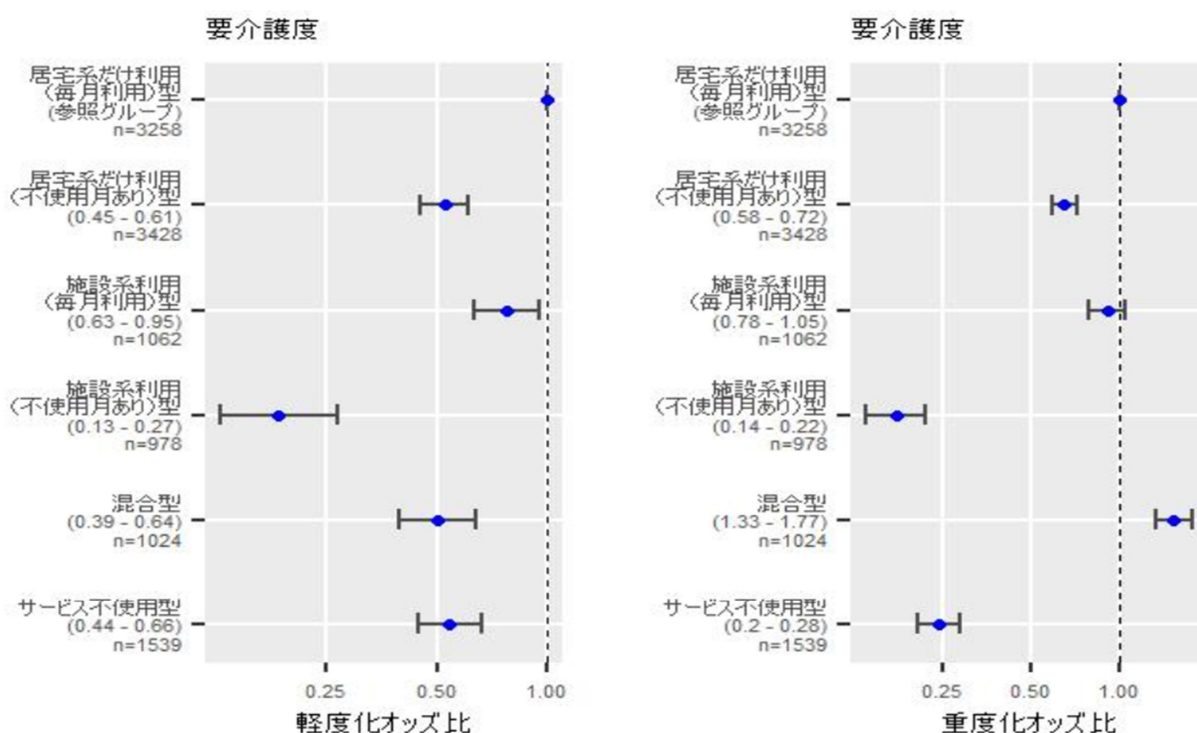
利用パターン別の心身状態の変化～要介護度の変化 (2016-2017年度初)	・ 居宅系だけ利用(毎月利用)型と比べて他のパターンは下記となっている (図1-3-3、図1-3-4) ・ 居宅系だけ利用 (不毎月利用) 型、および施設系利用 (不毎月利用) 型、サービス不利用型は、軽度化、重度化とも少ない。不毎月利用型では転出・死亡の割合が多く、サービス不利用型では非該当と転出・死亡の割合が多い ・ 施設系利用 (毎月利用) 型は、軽度化は少なく、重度化は居宅系だけ利用(毎月利用)型と差異がない ・ 混合型は、軽度化が少なく、重度化が多い
--	---

図1-3-3 利用パターン別の心身状態変化～ 要介護度の変化



(*) 要介護度は介護認定データより、サービス利用は介護レセプトデータより集計している。2016年度初の要介護者を、2016-2017年度の介護サービス利用パターンにより、居宅系だけ利用型（毎月利用/不毎月利用有）、施設系利用有（毎月利用/不毎月利用有）、混合型（それ以外のパターン）、サービス不利用型に分類している。

図1-3-4 利用パターン別の心身状態変化～ 要介護度の変化 オッズ比



(*) 要介護度は介護認定データより、サービス利用は介護レセプトデータより集計している。2016年度初の要介護者を、2016-2017年度の介護サービス利用パターンにより、居宅系だけ利用型（毎月利用/不毎月利用有）、施設系利用有（毎月利用/不毎月利用有）、混合型（それ以外のパターン）、サービス不利用型に分類している。

◎分析の観点1: 重度化・軽度化と介護サービス利用の傾向

～その4 居宅系サービスと重度化・軽度化

(集計・分析の主旨)

- ・分析の観点1: 重度化・軽度化と介護サービス利用の傾向 その3で、居宅系、施設系等の利用パターン別の集計・分析を行ったが、そのうち利用者数も多く、利用するサービスの種類も多い居宅系のサービス利用者だけを対象として、主な居宅系サービス種類ごとに、利用者の特徴（年齢階級、要介護度等）と要介護度等の変化について集計・分析する
- ・重度化、軽度化はオッズ比により評価する
- ・介護認定・介護レセプトデータから把握できる、各サービス種類毎の利用者の傾向や、重度化・軽度化の傾向を示すデータは、医療・介護連携推進、自立支援・重度化防止施策検討時の材料の一つとして活用する

(集計・分析の方法)

- ・対象期間（2016-2017年度）サービス利用パターンが、居宅系だけ利用（毎月利用）型および、居宅系だけ利用（不使用月あり）型を対象とする
- ・居宅系サービスの種類としては、利用者の多い訪問介護、訪問看護、訪問リハビリテーション、通所介護、通所リハビリテーション、短期利用および居住系サービスの小規模多機能を対象とする。居宅系サービスは通常、複数のサービス種類を組み合わせで利用しているが、ここでは、それぞれの利用者として集計する
- ・サービス利用者について、居宅系と施設系の両方の利用者も含めたサービス利用量（2016-2017年度のサービス利用単位数の合計）により4等分し、少ない順に25%まで、25-50%、50-75%、75%以上としている。サービス利用回数、要介護度によるサービス単価（要介護度により異なるサービス種類の場合）、利用月数等の要素を含んでいる

◎分析の観点1: 重度化・軽度化と介護サービス利用の傾向

～その4 居宅系サービスと重度化・軽度化

(主な集計・分析結果)

- ・通所リハビリテーション利用者（他の居宅系サービスと併用している人を含む）は、利用しない人（他の居宅系サービス利用者を含む）より軽度化が多い
- ・訪問リハビリテーション利用者も同様に軽度化が多い。但し、サービス利用量が少ない人（25%まで）とやや多い人（50-75%）のみ、はっきりとした差異が認められた
- ・サービス種類とサービス利用量によっては、軽度化が少ない、あるいは、重度化が多いという差異がみられた（そのサービスを利用しない人との比較）。また、この集計の範囲では、いずれのサービス種類をとっても、重度化が少ないという差異は認められなかった

(*) ここでは、居宅系サービスと重度化・軽度化の分析結果のうち、各サービス種類毎のサービス利用者の要介護度構成、要介護度の変化、重度化・軽度化オッズ比のみ記載している。各サービス種類毎の障害高齢者自立度の変化、認知症高齢者自立度の変化については、資料編補足資料に収録している。

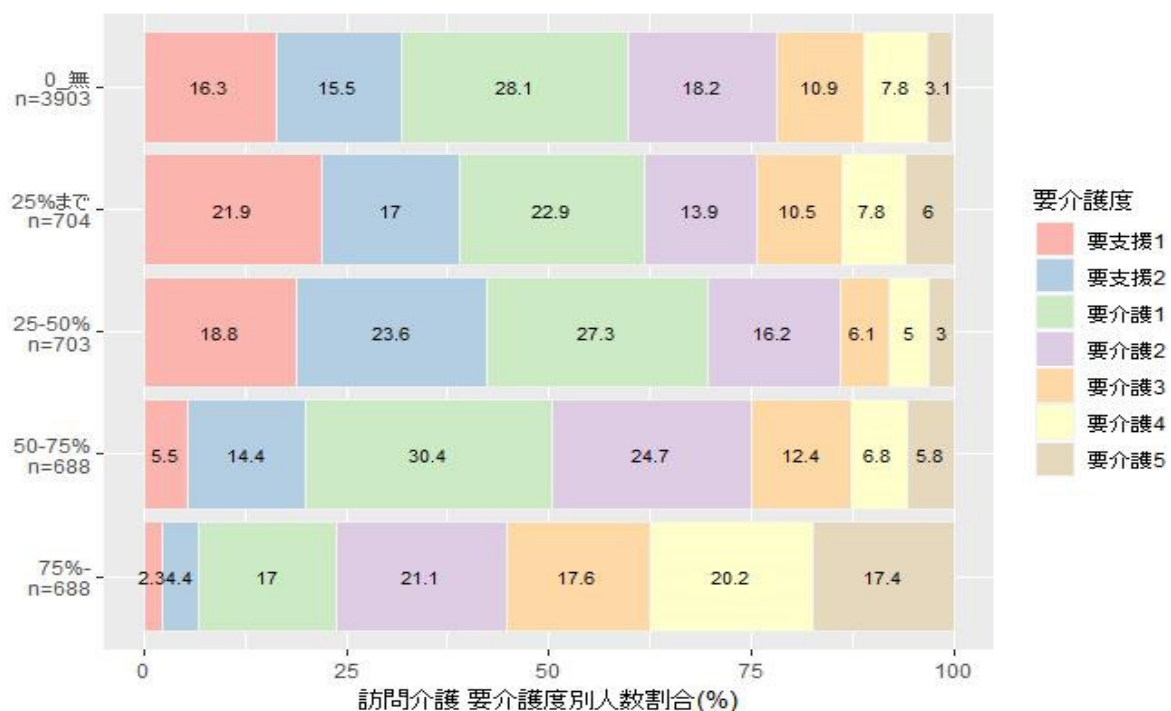
◎分析の観点1: 重度化・軽度化と介護サービス利用の傾向

～その4 居宅系サービスと重度化・軽度化

(主な集計・分析・結果の一覧) (1/3)

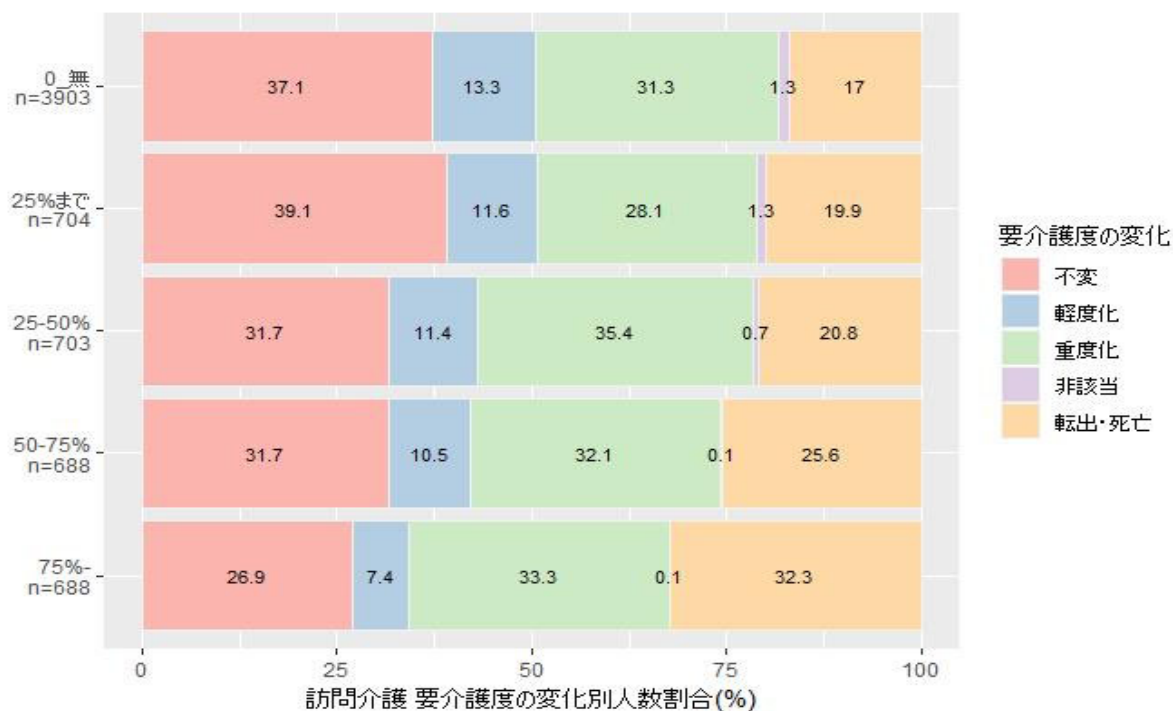
居宅系サービス別要介護度変化の傾向～訪問介護（2016-2017年度）	・ 利用量がやや少ない、または少ない人（50%まで）は、要支援1・2要介護1の割合が多い（図1-4-1a） ・ 利用量がやや多い、または多い人（50%以上）は、要支援1・2要介護1の割合が少ない（図1-4-1a） ・ 利用量がやや多い、または多い人（50%以上）は、軽度化が少ない（図1-4-1b、図1-4-1c） ・ 利用量がやや少ない人（25-50%）は、重度化が多い（図1-4-1b、図1-4-1c）
居宅系サービス別要介護度変化の傾向～訪問看護（2016-2017年度）	・ 利用量の多い・少ないにあまり関わりなく、利用しない人より、要介護3・4・5が多い（図1-4-2a） ・ 利用量が多い人（75%以上）は、軽度化が少ない（図1-4-2b、図1-4-2c）
居宅系サービス別要介護度変化の傾向～訪問リハビリテーション（2016-2017年度）	・ 利用量の多い・少ないにあまり関わりなく、利用しない人より、要介護3・4・5が多い（図1-4-3a） ・ 利用量が少ない人（25%まで）、やや多い人（50-75%）は、軽度化が多い（図1-4-3b、図1-4-3c） ・ 利用量が多い人は重度化が多い（図1-4-3b、図1-4-3c）

図1-4-1a 居宅系サービス毎の傾向 2016-2017年度 ～ 訪問介護（利用者の要介護度）



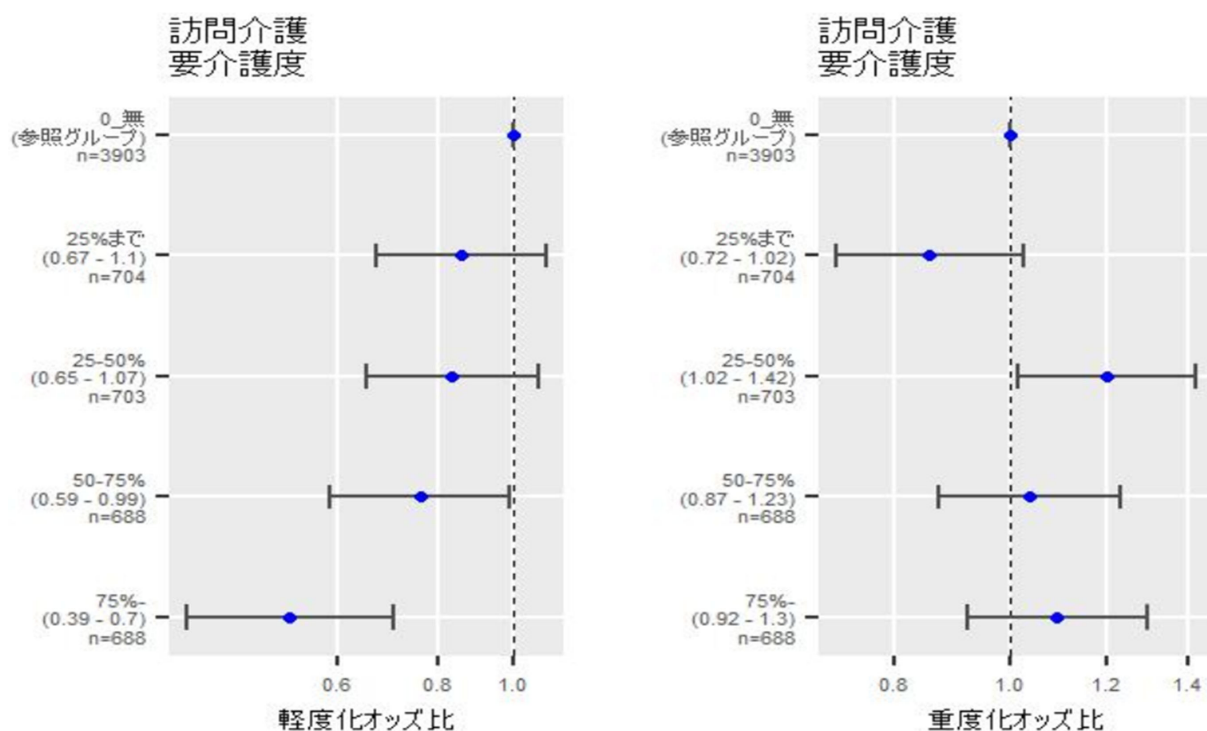
(*) 要介護度は介護認定データより、サービス利用は介護レセプトデータより集計している。2016年度初めの要介護者で、2016-2017年度に居宅系だけを利用した人（毎月利用、不使用月有を含む）が対象。サービス利用者について、居宅系と施設系の両方の利用者も含めてサービス利用量（2016-2017年度のサービス利用単位数の合計）により4等分し、少ない順に25%まで、25-50%、50-75%、75%以上としている。

図1-4-1b 居宅系サービス毎の傾向 2016-2017年度 ～ 訪問介護（要介護度の変化）



(*) 要介護度は介護認定データより、サービス利用は介護レセプトデータより集計している。2016-2017年度に居宅系だけを利用した要介護者（毎月利用、不利用月有を含む）が対象。サービス利用者について、居宅系・施設系利用者も含めてサービス利用量（2016-2017年度のサービス利用単位数の合計）により4等分し、少ない順に25%まで、25-50%、50-75%、75%以上としている。

図1-4-1c 居宅系サービス毎の傾向 2016-2017年度 ～ 訪問介護（重度化・軽度化オッズ比）



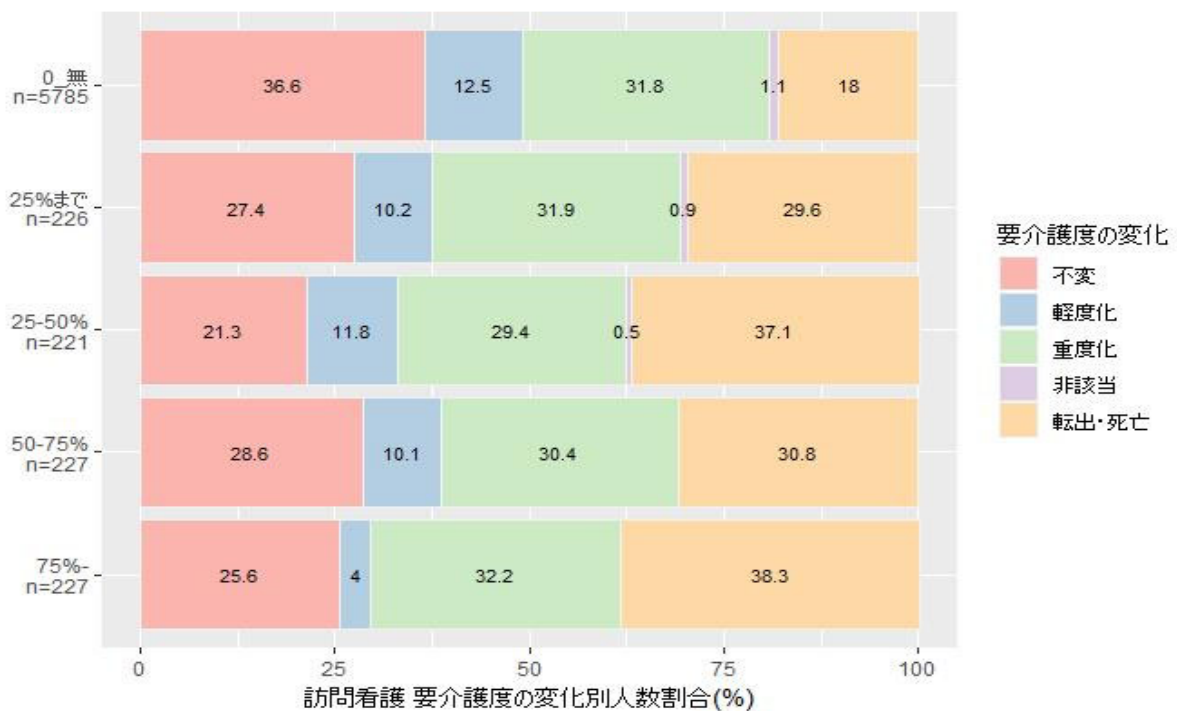
(*) 要介護度は介護認定データより、サービス利用は介護レセプトデータより集計している。2016-2017年度に居宅系だけを利用した要介護者（毎月利用、不利用月有を含む）が対象。サービス利用者について、居宅系・施設系利用者も含めてサービス利用量（2016-2017年度のサービス利用単位数の合計）により4等分し、少ない順に25%まで、25-50%、50-75%、75%以上としている。

図1-4-2a 居宅系サービス毎の傾向 2016-2017年度 ～訪問看護（利用者の要介護度）



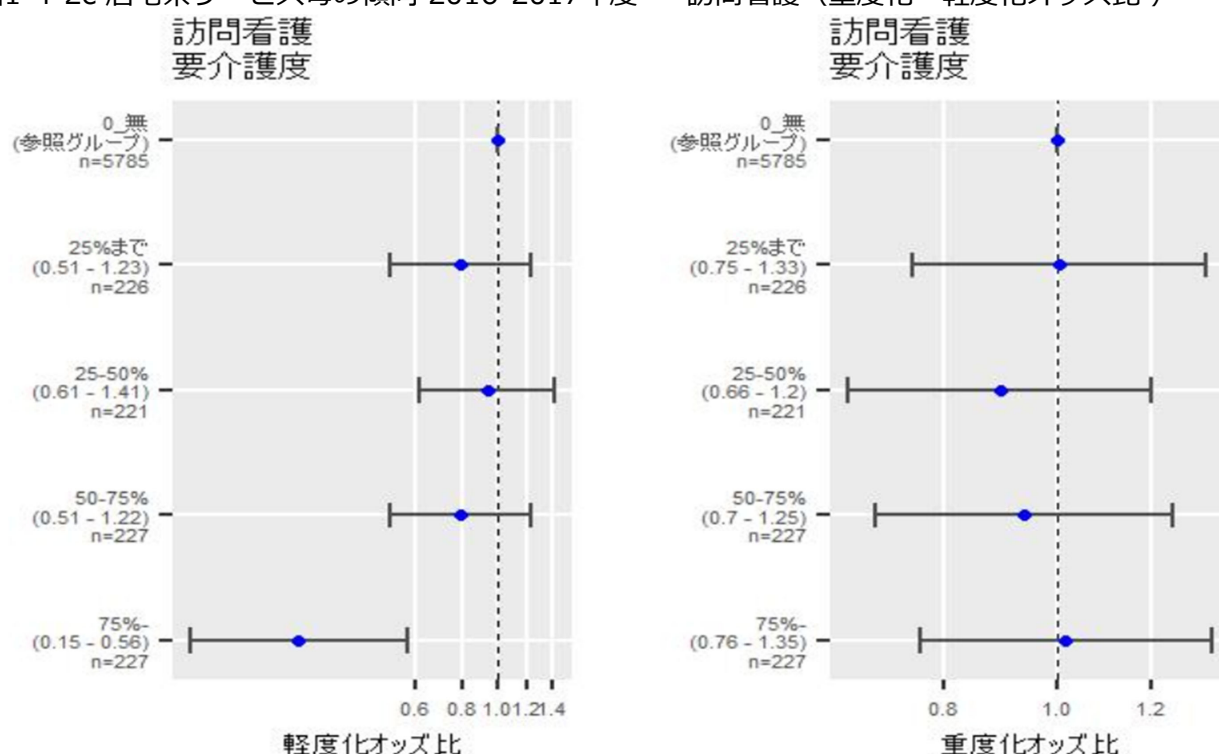
(*) 要介護度は介護認定データより、サービス利用は介護レセプトデータより集計している。2016年度初の要介護者で、2016-2017年度に居宅系だけを利用した人（毎月利用、不使用月有を含む）が対象。サービス利用者について、居宅系と施設系の両方の利用者も含めてサービス利用量（2016-2017年度のサービス利用単位数の合計）により4等分し、少ない順に25%まで、25-50%、50-75%、75%以上としている。

図1-4-2b 居宅系サービス毎の傾向 2016-2017年度 ～訪問看護（要介護度の変化）



(*) 要介護度は介護認定データより、サービス利用は介護レセプトデータより集計している。2016-2017年度に居宅系だけを利用した要介護者（毎月利用、不使用月有を含む）が対象。サービス利用者について、居宅系・施設系利用者も含めてサービス利用量（2016-2017年度のサービス利用単位数の合計）により4等分し、少ない順に25%まで、25-50%、50-75%、75%以上としている。

図1-4-2c 居宅系サービス毎の傾向 2016-2017年度 ～ 訪問看護（重度化・軽度化オッズ比）



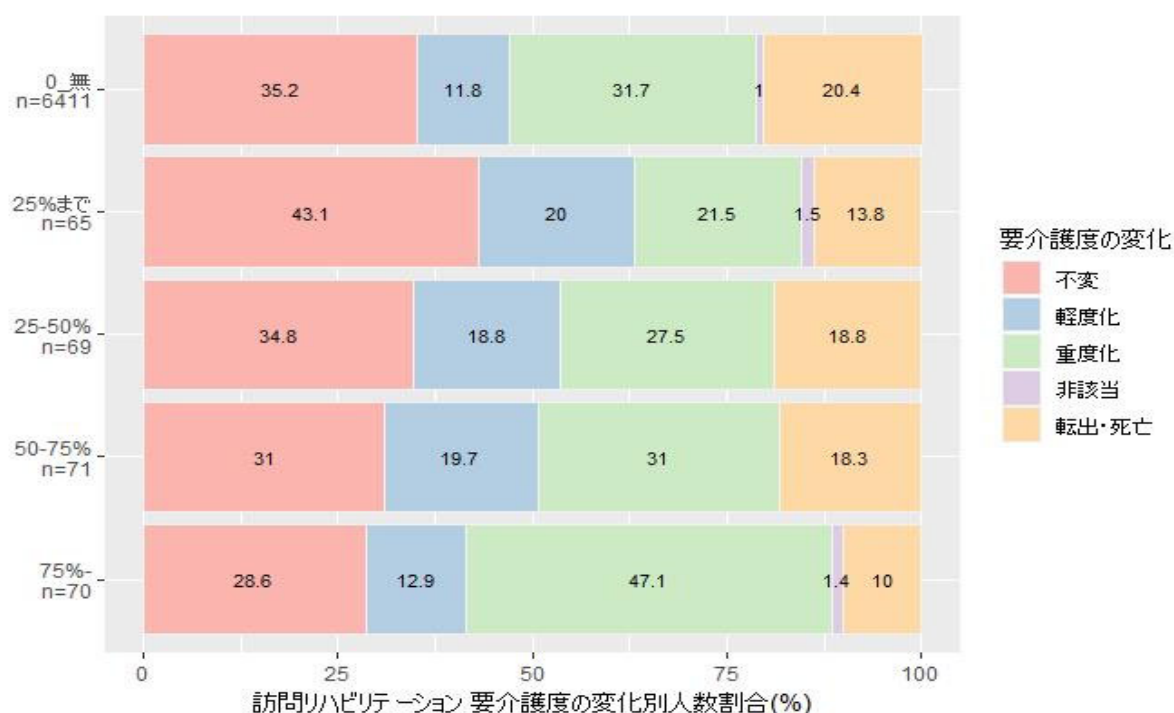
(*) 要介護度は介護認定データより、サービス利用は介護レセプトデータより集計している。2016-2017年度に居宅系だけを利用した要介護者（毎月利用、不使用月有を含む）が対象。サービス利用者について、居宅系・施設系利用者も含めてサービス利用量（2016-2017年度のサービス利用単位数の合計）により4等分し、少ない順に25%まで、25-50%、50-75%、75%以上としている。

図1-4-3a 居宅系サービス毎の傾向 2016-2017年度 ～ 訪問リハビリテーション（利用者の要介護度）



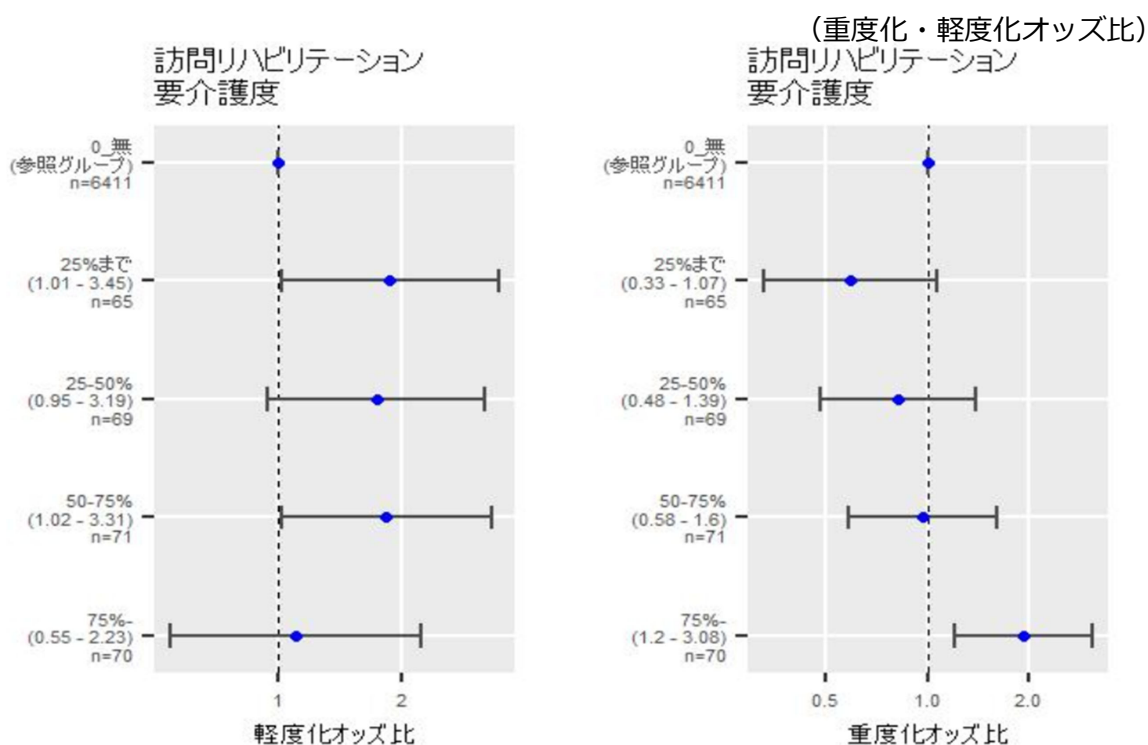
(*) 要介護度は介護認定データより、サービス利用は介護レセプトデータより集計している。2016年度初の要介護者で、2016-2017年度に居宅系だけを利用した人（毎月利用、不使用月有を含む）が対象。サービス利用者について、居宅系と施設系の両方の利用者も含めてサービス利用量（2016-2017年度のサービス利用単位数の合計）により4等分し、少ない順に25%まで、25-50%、50-75%、75%以上としている。

図1-4-3b 居宅系サービス毎の傾向 2016-2017年度 ～ 訪問リハビリテーション（要介護度の変化）



(*) 要介護度は介護認定データより、サービス利用は介護レセプトデータより集計している。2016-2017年度に居宅系だけを利用した要介護者（毎月利用、不使用月有を含む）が対象。サービス利用者について、居宅系・施設系利用者も含めてサービス利用量（2016-2017年度のサービス利用単位数の合計）により4等分し、少ない順に25%まで、25-50%、50-75%、75%以上としている。

図1-4-3c 居宅系サービス毎の傾向 2016-2017年度 ～ 訪問リハビリテーション



(*) 要介護度は介護認定データより、サービス利用は介護レセプトデータより集計している。2016-2017年度に居宅系だけを利用した要介護者（毎月利用、不使用月有を含む）が対象。サービス利用者について、居宅系・施設系利用者も含めてサービス利用量（2016-2017年度のサービス利用単位数の合計）により4等分し、少ない順に25%まで、25-50%、50-75%、75%以上としている。

◎分析の観点1: 重度化・軽度化と介護サービス利用の傾向

～その4 居宅系サービスと重度化・軽度化

(主な集計・分析・結果の一覧) (2/3)

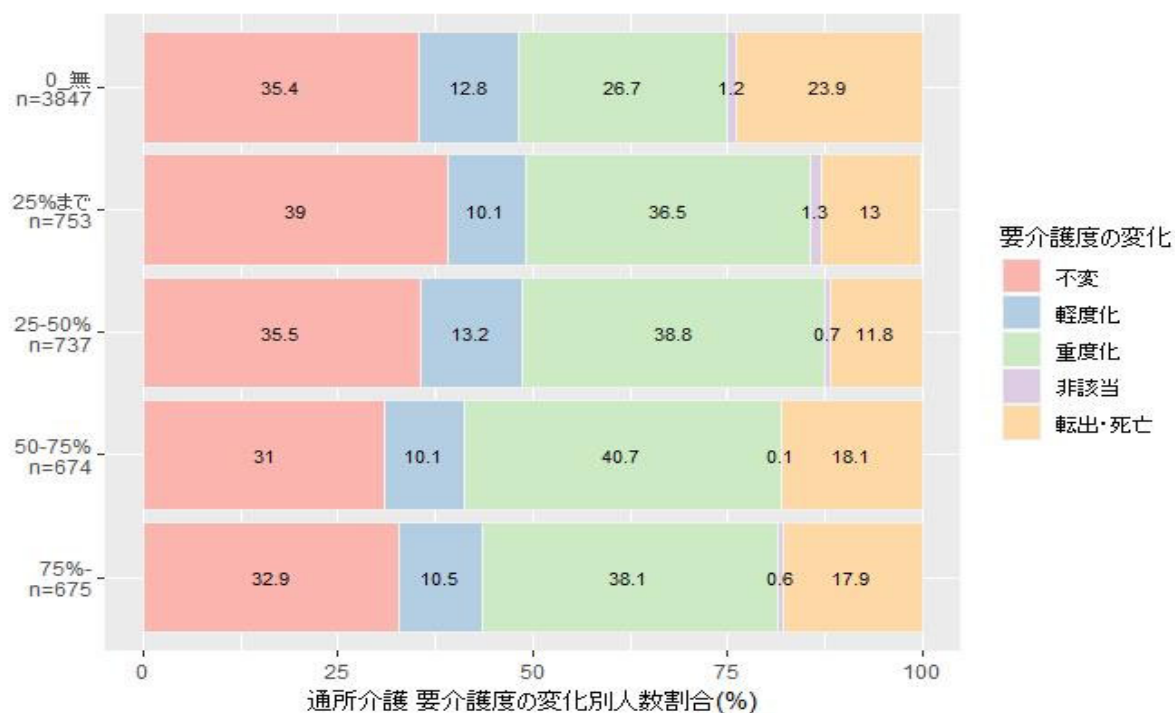
居宅系サービス別要介護度変化の傾向～通所介護（2016-2017年度）	・ 利用量が少ない、またはやや少ない人（50%まで）は、要支援1・2が多い。やや多い人は要介護1以下、多い人は要介護2以下が多い（図1-4-4a） ・ 利用量が少ない人（25%まで）は、軽度化が少ない（図1-4-4b、図1-4-4c） ・ 利用量に関わらず、利用しない人（他のサービスを利用している人）より重度化が多い（図1-4-4b、図1-4-4c）
居宅系サービス別要介護度変化の傾向～通所リハビリテーション（2016-2017年度）	・ 利用量がやや少ない、または少ない人（50%まで）は、要支援1・2要介護1・2の割合が多い。利用量がやや多い、または多い人は、要支援1・2の割合が少ない（図1-4-5a） ・ 利用量が多い・少ないにあまり関わりなく、利用していない人より軽度化が多い（図1-4-5b、図1-4-5c） ・ 利用量がやや多い人（50-75%）は重度化が多い（図1-4-5b、図1-4-5c）

図1-4-4a 居宅系サービス毎の傾向 2016-2017年度 ～ 通所介護（利用者の要介護度）



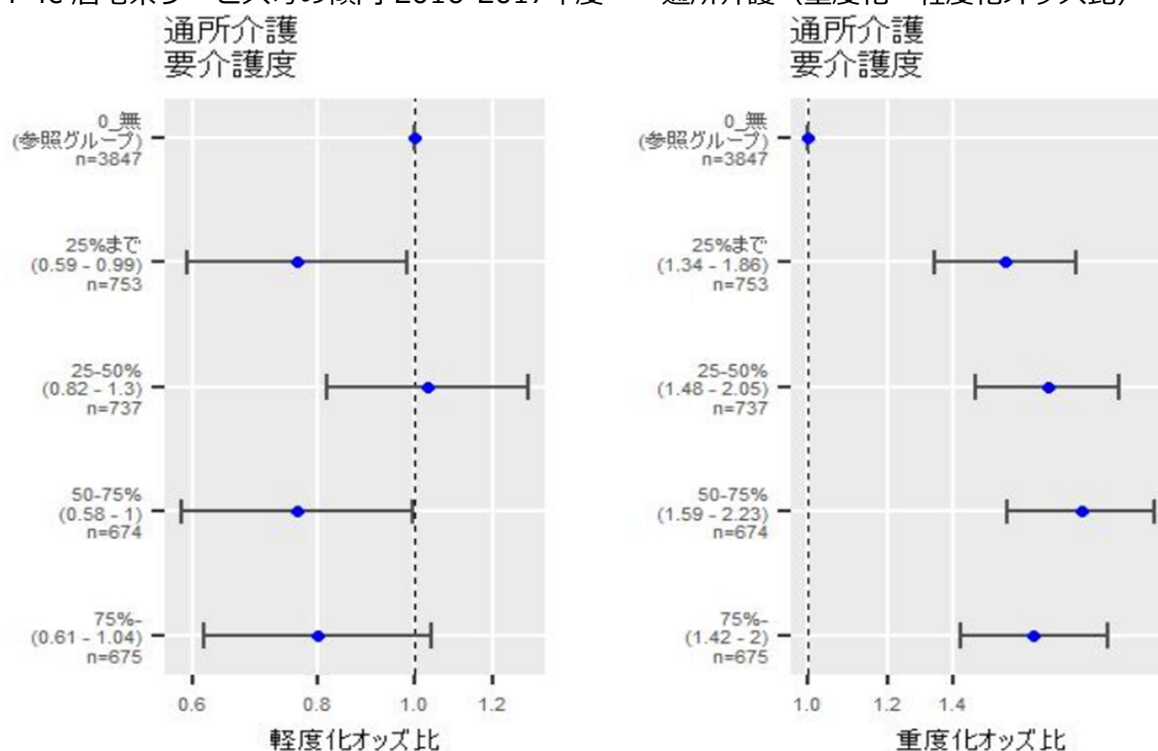
(*) 要介護度は介護認定データより、サービス利用は介護レセプトデータより集計している。2016年度初の要介護者で、2016-2017年度に居宅系だけを利用した人（毎月利用、不使用月有を含む）が対象。サービス利用者について、居宅系と施設系の両方の利用者も含めてサービス利用量（2016-2017年度のサービス利用単位数の合計）により4等分し、少ない順に25%まで、25-50%、50-75%、75%以上としている。

図1-4-4b 居宅系サービス毎の傾向 2016-2017年度 ～ 通所介護（要介護度の変化）



(*) 要介護度は介護認定データより、サービス利用は介護レセプトデータより集計している。2016-2017年度に居宅系だけを利用した要介護者（毎月利用、不使用月有を含む）が対象。サービス利用者について、居宅系・施設系利用者も含めてサービス利用量（2016-2017年度のサービス利用単位数の合計）により4等分し、少ない順に25%まで、25-50%、50-75%、75%以上としている。

図1-4-4c 居宅系サービス毎の傾向 2016-2017年度 ～ 通所介護（重度化・軽度化オッズ比）



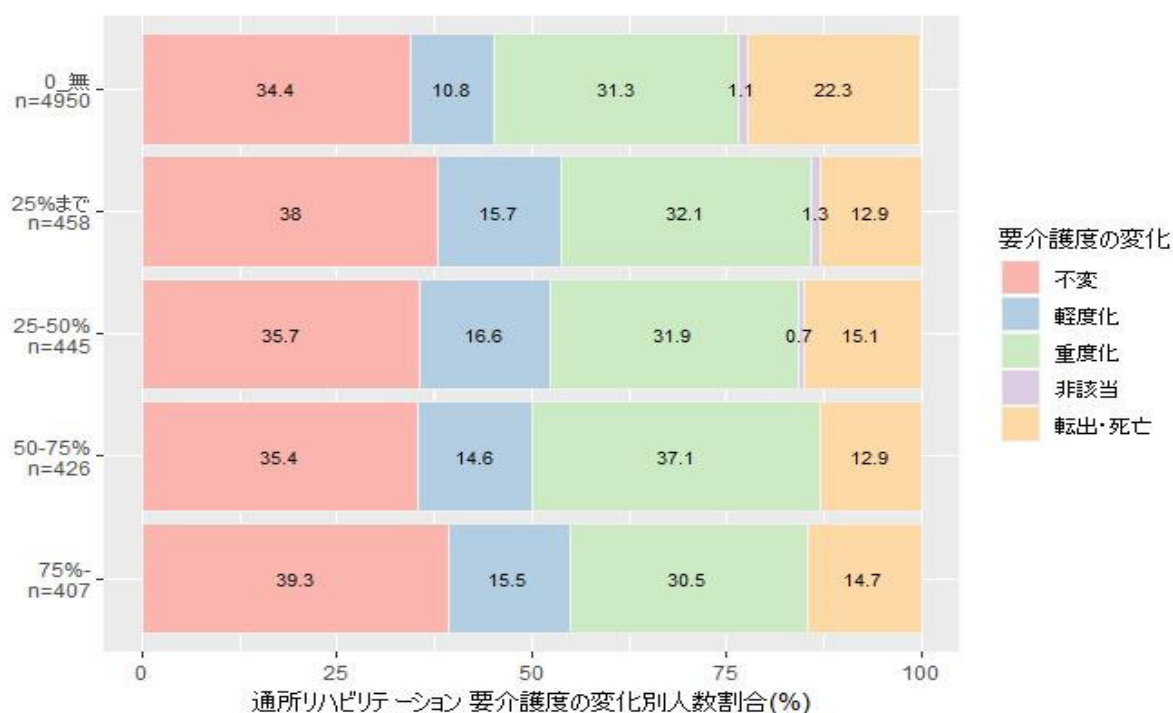
(*) 要介護度は介護認定データより、サービス利用は介護レセプトデータより集計している。2016-2017年度に居宅系だけを利用した要介護者（毎月利用、不使用月有を含む）が対象。サービス利用者について、居宅系・施設系利用者も含めてサービス利用量（2016-2017年度のサービス利用単位数の合計）により4等分し、少ない順に25%まで、25-50%、50-75%、75%以上としている。

図1-4-5a 居宅系サービス毎の傾向 2016-2017年度 ～ 通所リハビリテーション（利用者の要介護度）



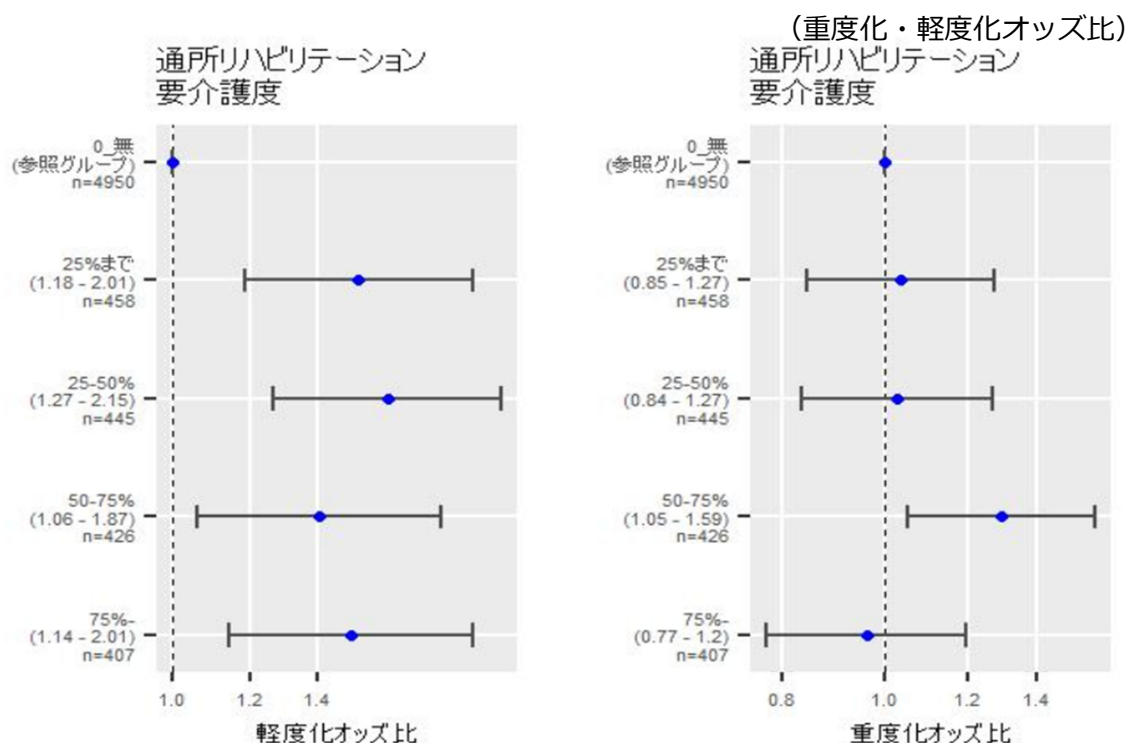
(*) 要介護度は介護認定データより、サービス利用は介護レセプトデータより集計している。2016年度初の要介護者で、2016-2017年度に居宅系だけを利用した人（毎月利用、不使用月有を含む）が対象。サービス利用者について、居宅系と施設系の両方の利用者も含めてサービス利用量（2016-2017年度のサービス利用単位数の合計）により4等分し、少ない順に25%まで、25-50%、50-75%、75%以上としている。

図1-4-5b 居宅系サービス毎の傾向 2016-2017年度 ～ 通所リハビリテーション（要介護度の変化）



(*) 要介護度は介護認定データより、サービス利用は介護レセプトデータより集計している。2016-2017年度に居宅系だけを利用した要介護者（毎月利用、不使用月有を含む）が対象。サービス利用者について、居宅系・施設系利用者も含めてサービス利用量（2016-2017年度のサービス利用単位数の合計）により4等分し、少ない順に25%まで、25-50%、50-75%、75%以上としている。

図1-4-5c 居宅系サービス毎の傾向 2016-2017年度 ～ 通所リハビリテーション



(*) 要介護度は介護認定データより、サービス利用は介護レセプトデータより集計している。2016-2017年度に居宅系だけを利用した要介護者（毎月利用、不利用月有を含む）が対象。サービス利用者について、居宅系・施設系利用者も含めてサービス利用量（2016-2017年度のサービス利用単位数の合計）により4等分し、少ない順に25%まで、25-50%、50-75%、75%以上としている。

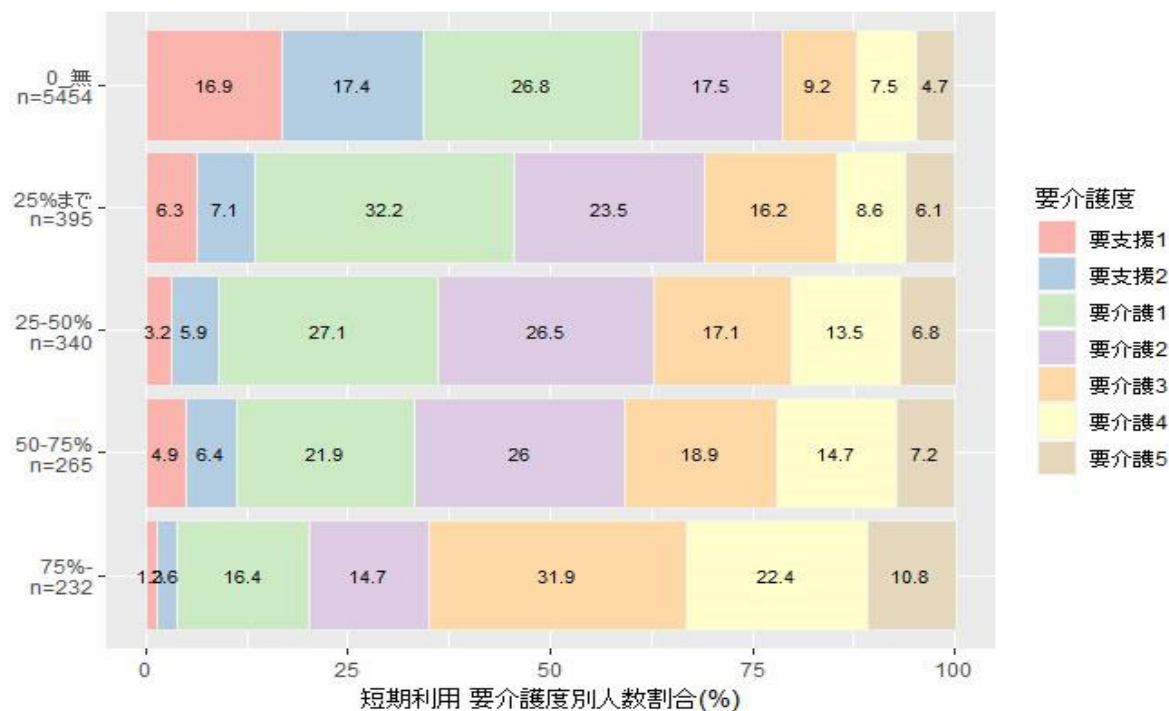
◎分析の観点1: 重度化・軽度化と介護サービス利用の傾向

～その4 居宅系サービスと重度化・軽度化

(主な集計・分析・結果の一覧) (3/3)

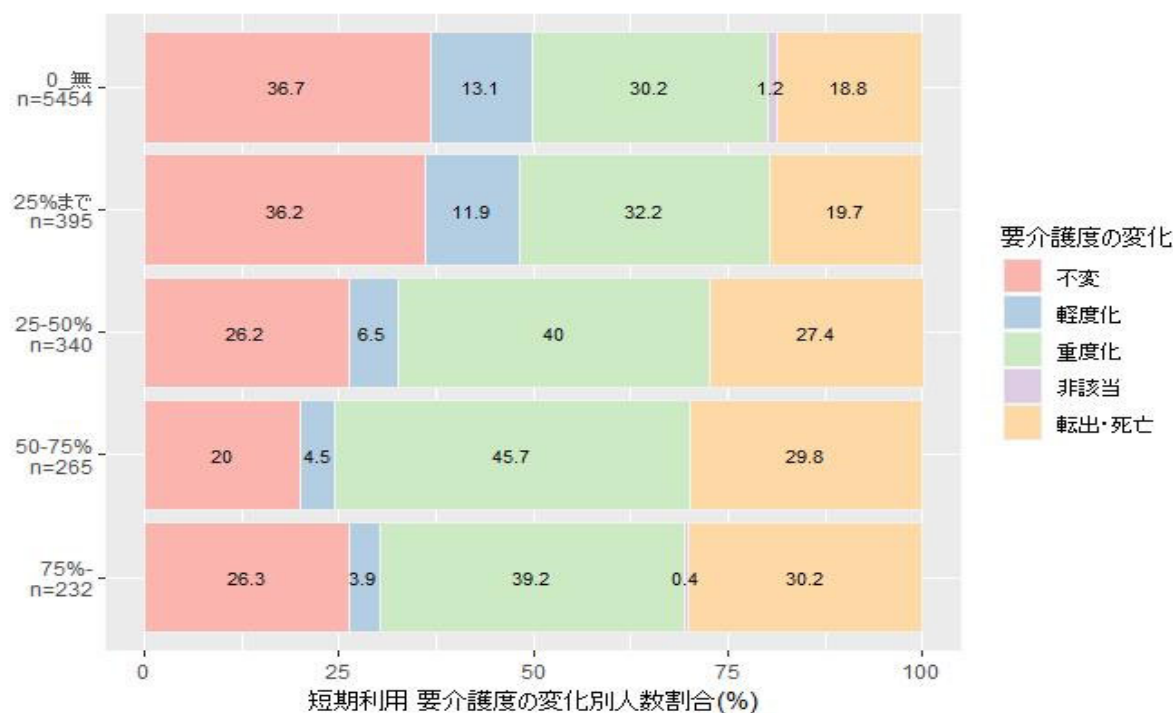
居宅系サービス別要介護度変化の傾向～短期利用（2016-2017年度）	・ 利用量が多いほど、要介護2・3・4・5が多いという傾向がみられた（図1-4-6a） ・ 利用量がやや少ない人、やや多い人、または多い人（25%以上）は、軽度化が少なく、重度化が多い（図1-4-6b、図1-4-6c）
居宅系サービス別要介護度変化の傾向～小規模多機能（2016-2017年度）	・ 利用量が少ない人（25%まで）は、要介護度1以下が多い。利用量がやや少ない人、やや多い人、または多い人（25%以上）は、要介護度2・3・4・5が多い（図1-4-7a） ・ 重度化、軽度化については、小規模多機能の利用者と、利用しない人とは大きな差異はない（図1-4-7b、図1-4-7c）

図1-4-6a 居宅系サービス毎の傾向 2016-2017年度 ～ 短期利用（利用者の要介護度）



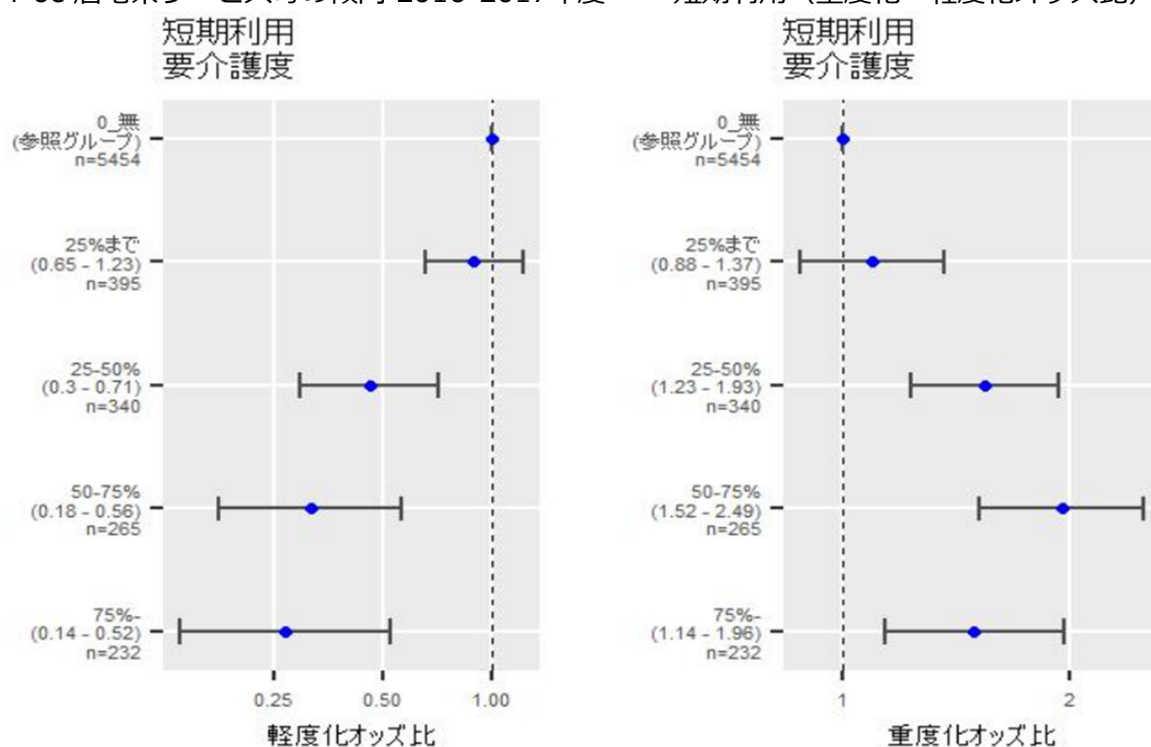
(*) 要介護度は介護認定データより、サービス利用は介護レセプトデータより集計している。2016年度初の要介護者で、2016-2017年度に居宅系だけを利用した人（毎月利用、不使用月有を含む）が対象。サービス利用者について、居宅系と施設系の両方の利用者も含めてサービス利用量（2016-2017年度のサービス利用単位数の合計）により4等分し、少ない順に25%まで、25-50%、50-75%、75%以上としている。

図1-4-6b 居宅系サービス毎の傾向 2016-2017年度 ～ 短期利用（要介護度の変化）



(*) 要介護度は介護認定データより、サービス利用は介護レセプトデータより集計している。2016-2017年度に居宅系だけを利用した要介護者（毎月利用、不使用月有を含む）が対象。サービス利用者について、居宅系・施設系利用者も含めてサービス利用量（2016-2017年度のサービス利用単位数の合計）により4等分し、少ない順に25%まで、25-50%、50-75%、75%以上としている。

図1-4-6c 居宅系サービス毎の傾向 2016-2017年度 ～ 短期利用（重度化・軽度化オッズ比）



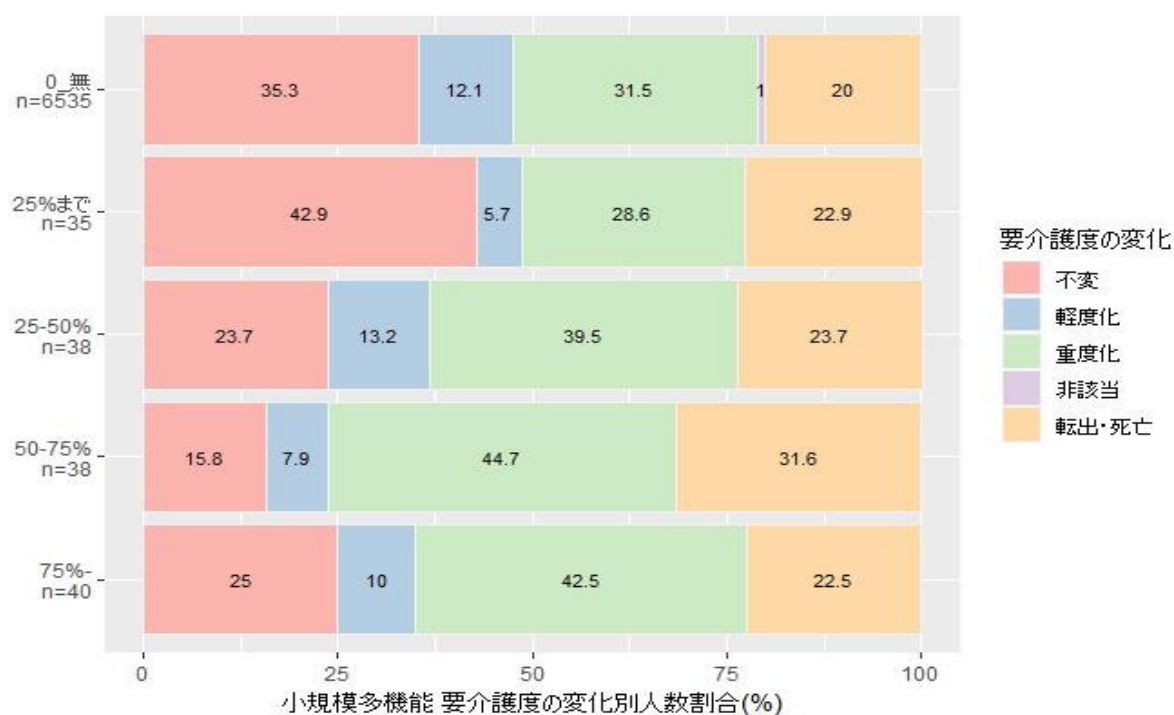
(*) 要介護度は介護認定データより、サービス利用は介護レセプトデータより集計している。2016-2017年度に居宅系だけを利用した要介護者（毎月利用、不使用月有を含む）が対象。サービス利用者について、居宅系・施設系利用者も含めてサービス利用量（2016-2017年度のサービス利用単位数の合計）により4等分し、少ない順に25%まで、25-50%、50-75%、75%以上としている。

図1-4-7a 居宅系サービス毎の傾向 2016-2017年度 ～ 小規模多機能（利用者の要介護度）



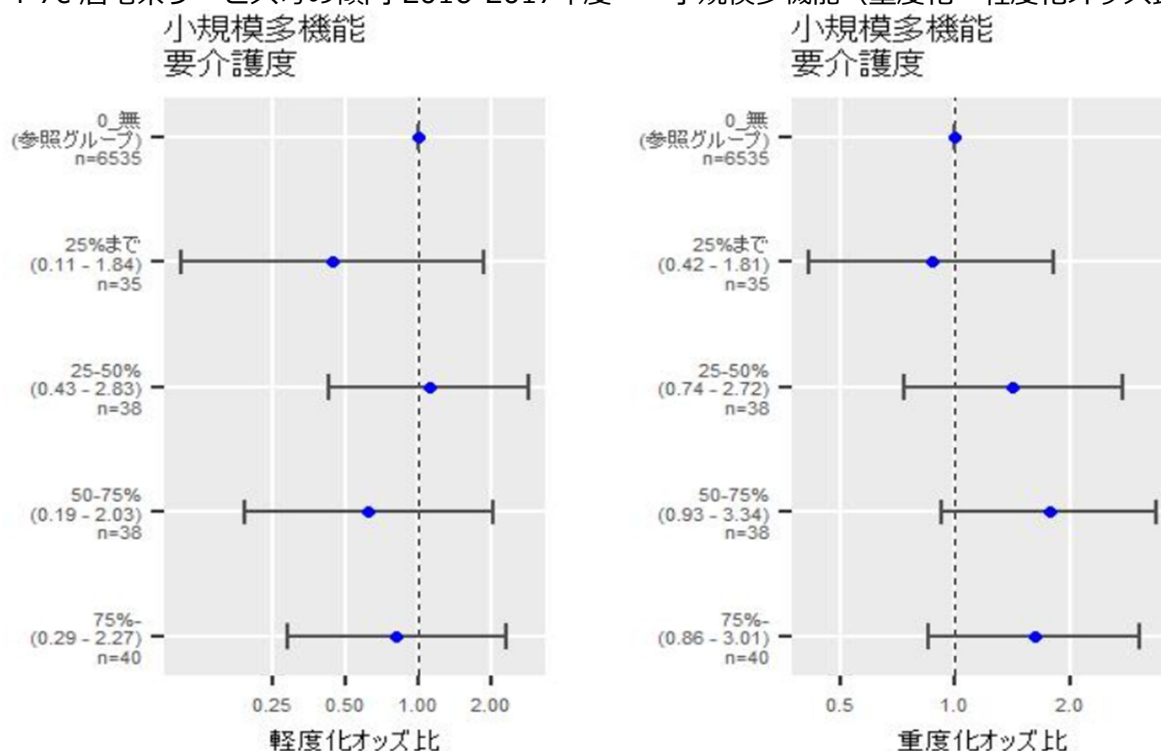
(*) 要介護度は介護認定データより、サービス利用は介護レセプトデータより集計している。2016年度初の要介護者で、2016-2017年度に居宅系だけを利用した人（毎月利用、不使用月有を含む）が対象。サービス利用者について、居宅系と施設系の両方の利用者も含めてサービス利用量（2016-2017年度のサービス利用単位数の合計）により4等分し、少ない順に25%まで、25-50%、50-75%、75%以上としている。

図1-4-7b 居宅系サービス毎の傾向 2016-2017年度 ～ 小規模多機能（要介護度の変化）



(*) 要介護度は介護認定データより、サービス利用は介護レセプトデータより集計している。2016-2017年度に居宅系だけを利用した要介護者（毎月利用、不使用月有を含む）が対象。サービス利用者について、居宅系・施設系利用者も含めてサービス利用量（2016-2017年度のサービス利用単位数の合計）により4等分し、少ない順に25%まで、25-50%、50-75%、75%以上としている。

図1-4-7c 居宅系サービス毎の傾向 2016-2017年度 ～ 小規模多機能（重度化・軽度化オッズ比）



(*) 要介護度は介護認定データより、サービス利用は介護レセプトデータより集計している。2016-2017年度に居宅系だけを利用した要介護者（毎月利用、不使用月有を含む）が対象。サービス利用者について、居宅系・施設系利用者も含めてサービス利用量（2016-2017年度のサービス利用単位数の合計）により4等分し、少ない順に25%まで、25-50%、50-75%、75%以上としている。

分析の観点2：医療・介護連携に関連する重度化・軽度化の傾向

その1 特別な医療の必要性

その2 要介護認定時の「現在の状況」

◎ 分析の観点2: 医療・介護連携に関する重度化・軽度化の傾向 ～ その1 特別な医療の必要性

(集計・分析の主旨)

- ・ 医療・介護連携推進を検討するうえで、医療ニーズのある要介護者が、どのような介護サービスを利用しているか、利用者の心身状態の変化はどのようになっているか、について把握することが考えられる。この観点からここでは介護認定データに含まれている特別な医療の必要性(*)のデータ項目に着目して、集計・分析する
- ・ 集計・分析結果を医療・介護連携の推進等の参考とすることを想定する

(*)下記の12種類の特別な医療の必要性有無が、介護認定データに含まれている。

点滴の管理、中心静脈栄養、透析、ストーマの処置、酸素療法、レスピレータ、気管切開の処置、疼痛の看護、経管栄養、モニター測定、じょくそうの処置、カテーテル

(集計・分析の方法)

- ・ 認定データの集計により、ある時点の要介護認定者の中での特別な医療を必要とする人の割合、要介護度などの傾向を集計・分析する
- ・ 対象期間開始時（2016年度初）の要介護者について、対象期間（2016-2017年度の2年間）での心身状態変化の傾向を、特別な医療の必要性の有無との関連で分析する（12種類の特別な医療のいずれかが必要な人のグループを、いずれも必要ない人のグループと比較する）

◎ 分析の観点2: 医療・介護連携に関する重度化・軽度化の傾向 ～ その1 特別な医療の必要性

(主な集計・分析結果)

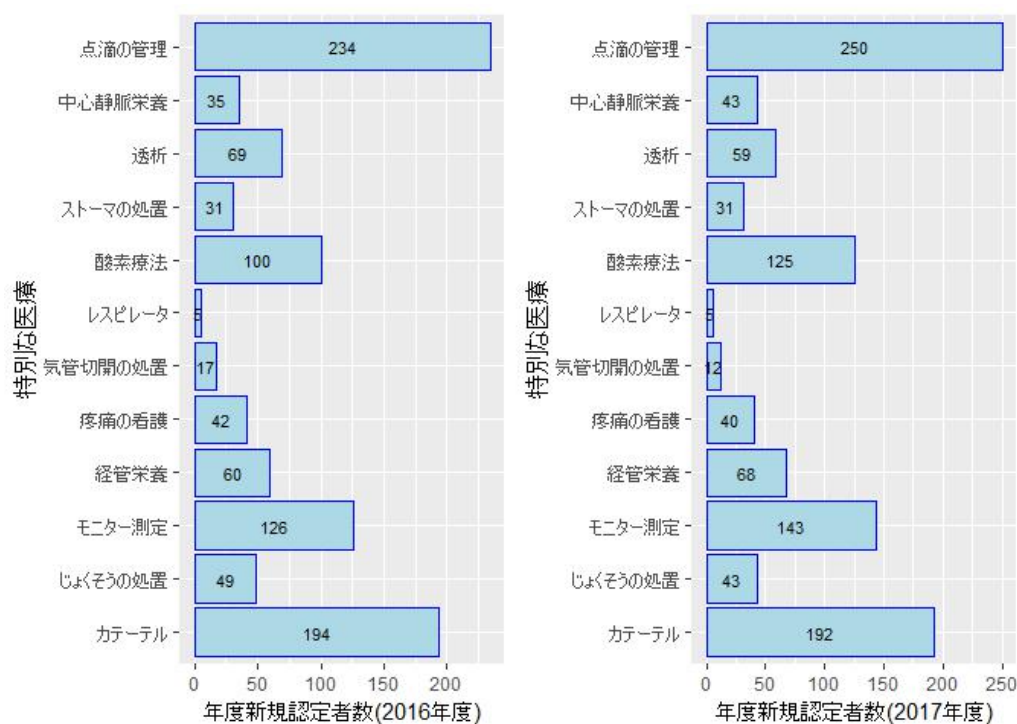
- ・ 主な集計・分析結果を下表（主な集計・分析結果の一覧）に示す
- ・ 特別な医療が必要な人の軽度化（要介護度、障害高齢者自立度）が多くみられることについては、中重度者が多いことも影響しているが、医療系の介護サービスが関与したことが関係していることも考えられる。但し、認知症高齢者自立度については、特別な医療の必要性のある人の軽度化は、少なかった
- ・ 重度化が少ない（オッズ比が低い）のは、死亡・転出が多いことも影響している

◎ 分析の観点2: 医療・介護連携に関する重度化・軽度化の傾向
～ その1 特別な医療の必要性

(主な集計・分析結果の一覧) (1/2)

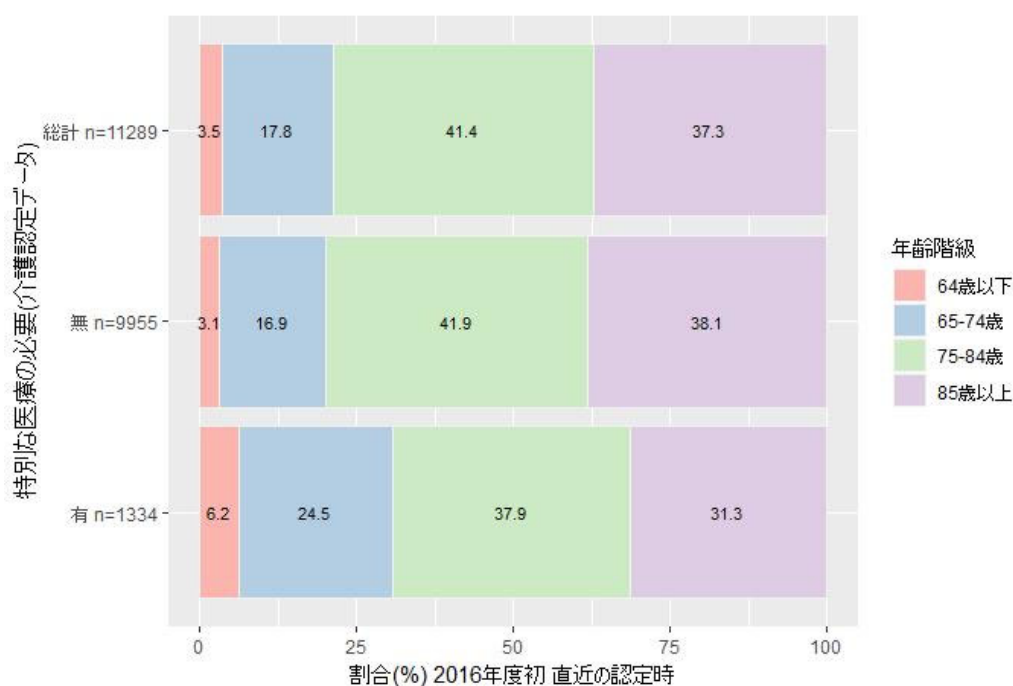
特別な医療の種類 (2016年度、2017 年度新規認定者)	・ 2016年度、2017年度の新規認定者で特別な医療の必要がある要介護者についてみると、特別な医療の種類では、点滴の管理、カテーテル、モニター測定、酸素療法が多くなっている（図2-1-1）。また、2016年度より2017年度は増えている
特別な医療が必要な 人の年齢階級、要介 護度等 (2016年度初時点)	・ 特別な医療の必要性のある要介護者数は、全体11289人に対して、1334人となっている（図2-1-2）。割合は12%となっている ・ 特別な医療の必要性のある要介護者を、特別な医療の必要性のない要介護者と比較すると、年齢階級はやや若く（74歳以下が30%、図2-1-2）、認定区分は新規と区分変更が多く（新規と区分変更で44%、図2-1-3）、要介護度は中重度が多くなっている（要介護3・4・5で70%、図2-1-4） ・ 特別な医療の必要性のある要介護者の認定時の「現在の状況」では、40%が医療施設（療養病床以外）となっている（図2-1-5）

図2-1-1 特別な医療の必要な要介護者 ～ 特別な医療の種類



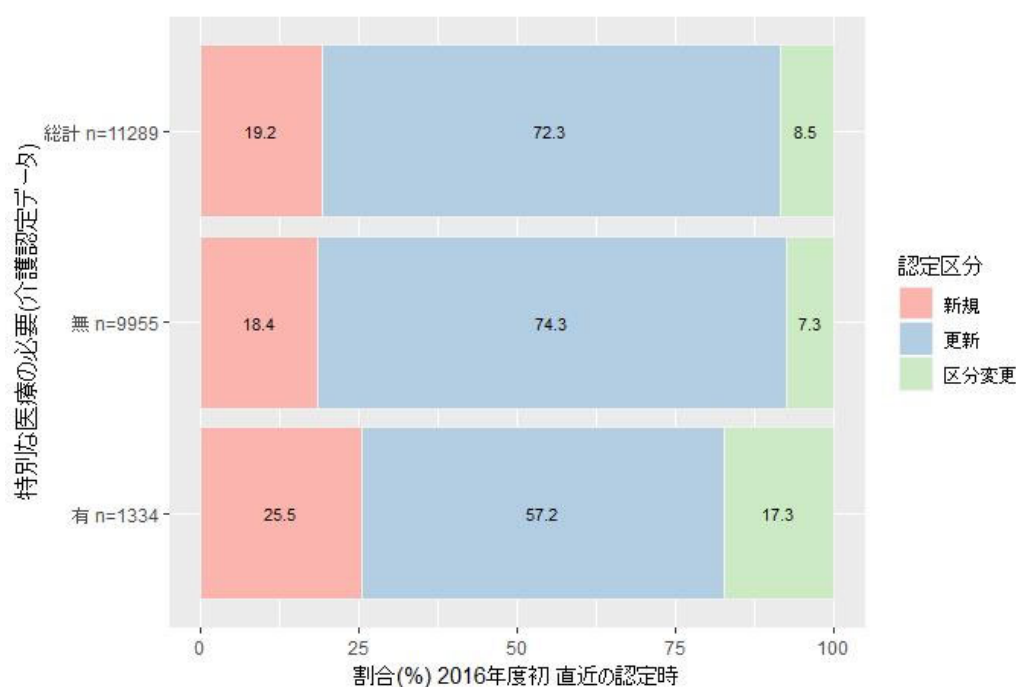
(*) 介護認定データより集計したもの。2016年度および2017年度の新規認定データより集計。複数の特別な医療の必要がある場合は、それぞれについて集計している。

図2-1-2 特別な医療の必要な要介護者 ～ 年齢階級



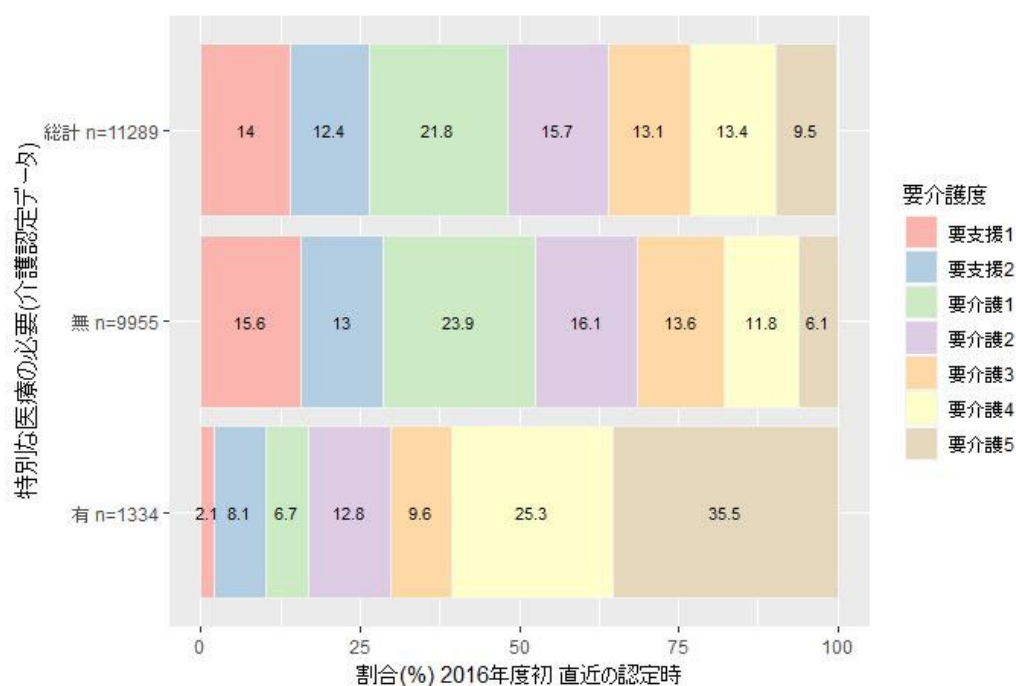
(*) 介護認定データより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、点滴の管理等12種類の特別な医療のいずれかが必要な要介護者数を集計している。

図2-1-3 特別な医療の必要な要介護者 ～ 認定区分



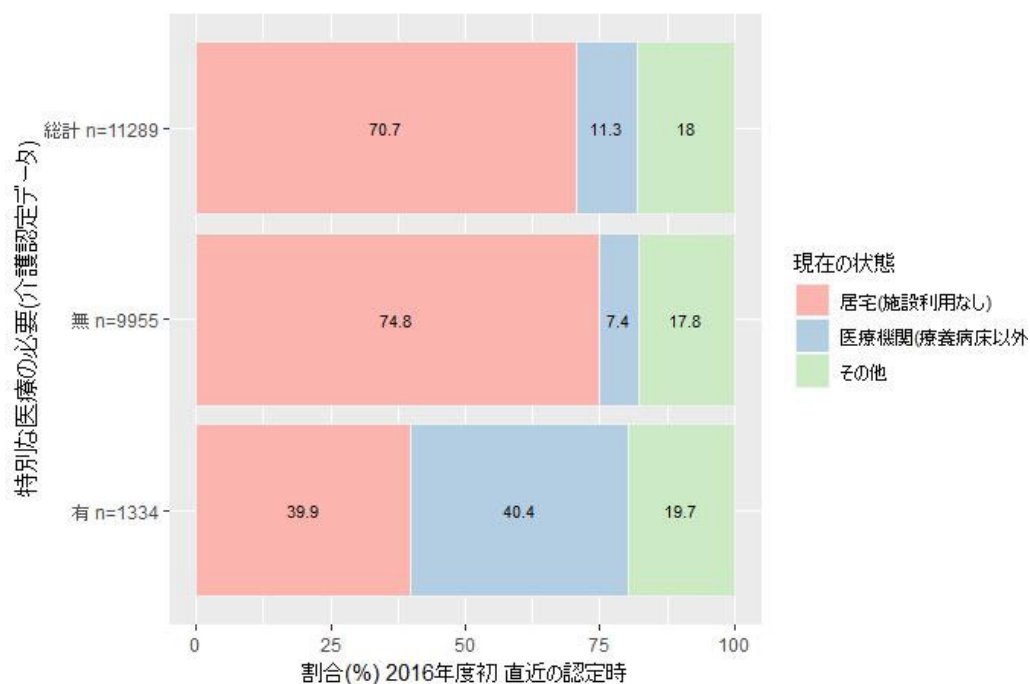
(*) 介護認定データより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、点滴の管理等12種類の特別な医療のいずれかが必要な要介護者数を集計している。

図2-1-4 特別な医療の必要な要介護者 ～ 要介護度



(*) 介護認定データより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、点滴の管理等12種類の特別な医療のいずれかが必要な要介護者数を集計している。

図2-1-5 特別な医療の必要な要介護者 ～ 介護認定時の「現在の状況」



(*) 介護認定データより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、点滴の管理等12種類の特別な医療のいずれかが必要な要介護者数を集計している。

◎ 分析の観点2: 医療・介護連携に関連する重度化・軽度化の傾向
～ その1 特別な医療の必要性

(主な集計・分析結果の一覧) (2/2)

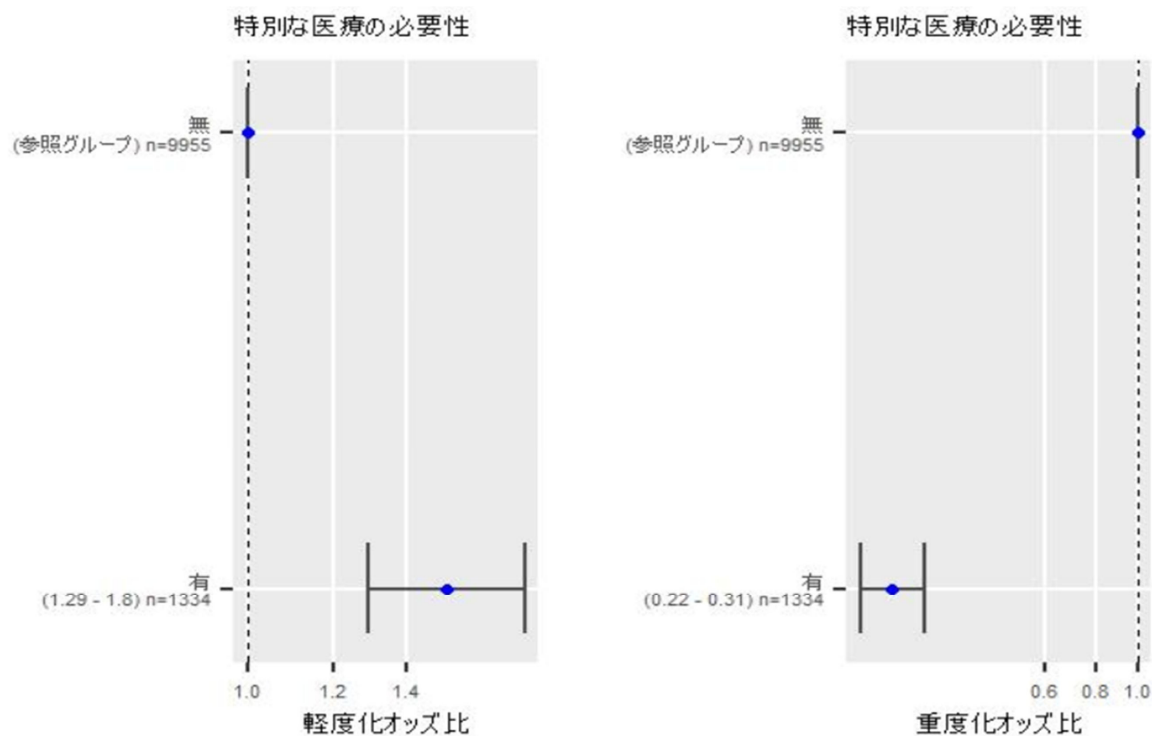
特別な医療が必要な人の重度化・軽度化の傾向 (2016-2017年度)	- 特別な医療の必要性のある要介護者を、特別な医療の必要性のない要介護者と比較すると、軽度化が多く（10%に対して、14.5%）、重度化が少ない（31.1%に対して、10.5%）、但し転出・死亡は多い（21.7%に対して、46.5%）（図2-1-6a） - 軽度化・重度化オッズ比でも、特別な医療の必要性のある要介護者は、特別な医療の必要性のない要介護者と比較すると、はっきりと軽度化が多く、重度化が少ない（図2-1-6b）
特別な医療が必要な人の介護サービス利用 (2016-2017年度)	- 特別な医療の必要性のある要介護者を、特別な医療の必要性のない要介護者と比較すると、居宅系のサービス利用がやや少なく、施設系のサービス利用がやや多くなっている（図2-1-7） - サービス種類でみると、特別な医療の必要性のある要介護者は、特別な医療の必要性のない要介護者より、訪問看護、老健の利用割合は多い。特別な医療の必要性のある要介護者の16.5%は訪問看護の利用があり（図2-1-8a）、15.6%は老健の利用がある（図2-1-8b）

図2-1-6a 特別な医療の必要な要介護者 ～ 要介護度の変化



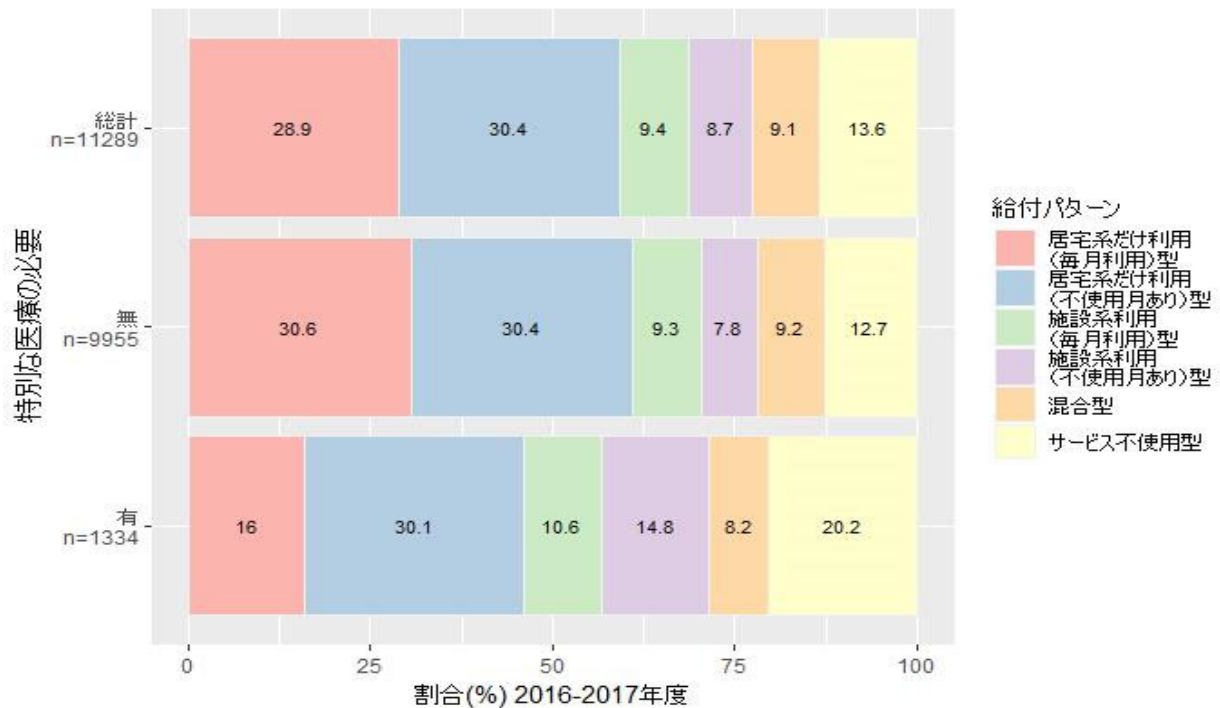
(*) 介護認定データより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、点滴の管理等12種類の特別な医療のいずれかが必要な要介護者数を集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日）からみて直近の認定データを参照している。

図2-1-6b 特別な医療の必要な要介護者 ～ 重度化・軽度化オッズ比



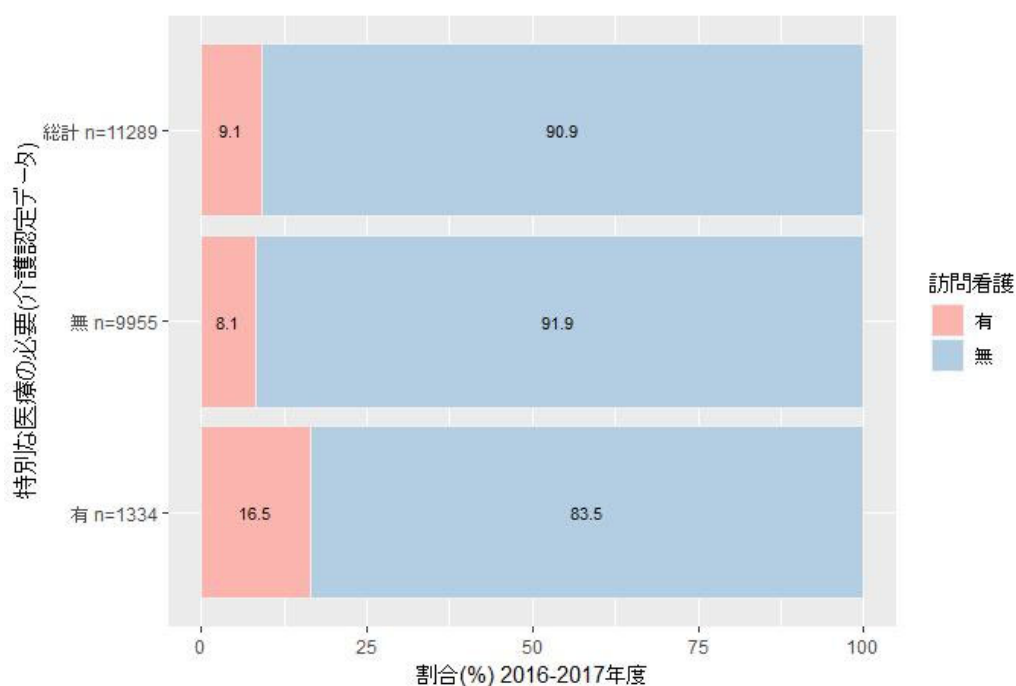
(*) 介護認定データより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、点滴の管理等12種類の特別な医療のいずれかが必要な要介護者数を集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日）からみて直近の認定データを参照している。

図2-1-7 特別な医療の必要な要介護者 ～ 介護サービスの利用パターン



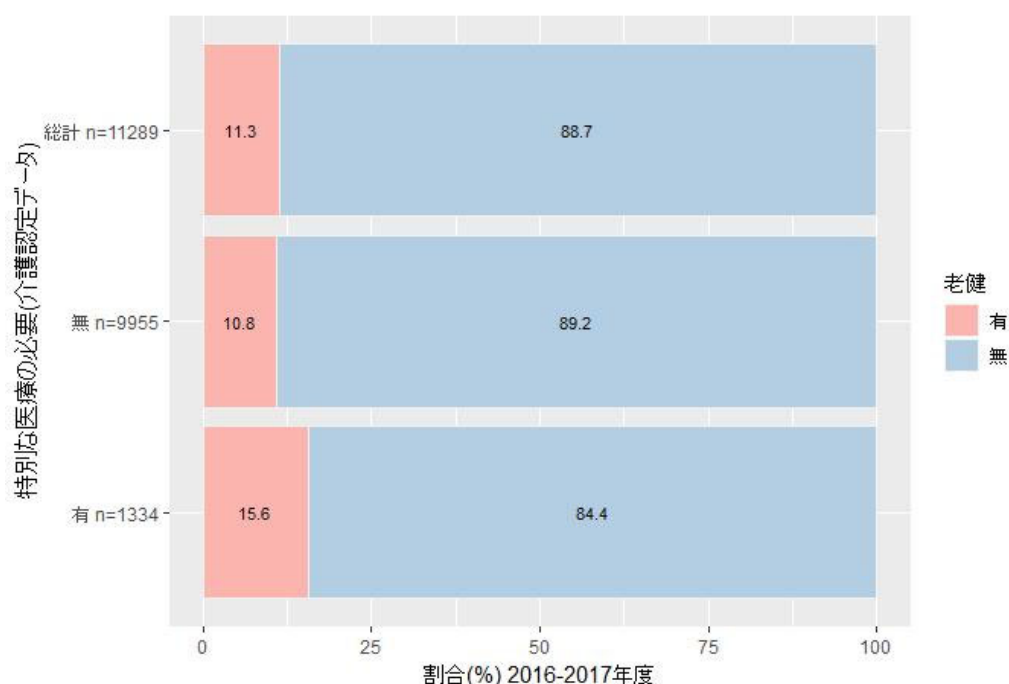
(*) 介護認定・レセプトデータより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、点滴の管理等12種類の特別な医療のいずれかが必要な要介護者数を集計している。介護サービス利用については、対象期間（2016-2017年度）の介護レセプトデータを参照している。

図2-1-8a 特別な医療の必要な要介護者 ～ 訪問看護



(*) 介護認定・レセプトデータより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、点滴の管理等12種類の特別な医療のいずれかが必要な要介護者数を集計している。介護サービス利用については、対象期間（2016-2017年度）の介護レセプトデータを参照している。

図2-1-8b 特別な医療の必要な要介護者 ～ 老健



(*) 介護認定・レセプトデータより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、点滴の管理等12種類の特別な医療のいずれが必要となる要介護者数を集計している。介護サービス利用については、対象期間（2016-2017年度）の介護レセプトデータを参照している。

◎ 分析の観点2: 医療・介護連携に関連する重度化・軽度化の傾向

～ その2 要介護認定時の「現在の状況」

（集計・分析の主旨）

- ・ 医療・介護連携推進を検討するうえで、入院時に要介護認定を受けた要介護者が、退院後どのような介護サービスを利用しているか、利用者の心身状態の変化はどのようなになっているか、について把握することが考えられる。ここでは介護認定データに含まれている「現在の状況(*)」についてのデータ項目に着目して、「現在の状況(*)」が医療施設（療養病床を除く）だった要介護者と、居宅等それ以外だった要介護者の心身状態変化の傾向について集計・分析する
- ・ 医療・介護連携の推進等の参考とすることを想定する

(*) 「現在の状況」は、下記の9種類に分けられている。

居宅(施設利用なし)、指定介護老人福祉施設、介護老人保健施設、指定介護療養型医療施設、グループホーム、ケアハウス等、医療機関(医療保険適用療養病床)、医療機関(療養病床以外)、その他の施設

（集計・分析の方法）

- ・ 認定データの集計により、ある時点の要介護認定者の中で、要介護時の「現在の状況」が医療施設（療養病床を除く）だった人の割合、要介護度などの傾向を集計・分析する
- ・ 対象期間開始時（2016年度初）の要介護者について、対象期間（2016-2017年度）での心身状態変化の傾向を、「現在の状況」が医療施設（療養病床を除く）だった人かどうかとの関連で分析する

◎ 分析の観点2: 医療・介護連携に関連する重度化・軽度化の傾向

～ その2 要介護認定時の「現在の状況」

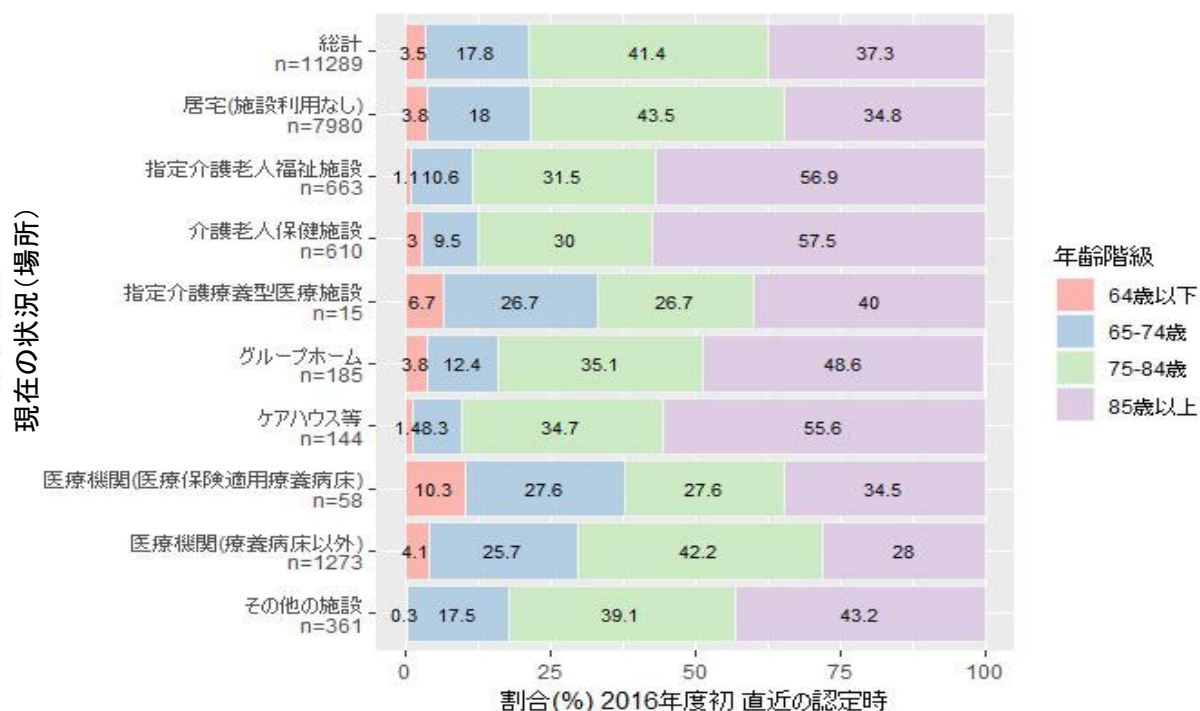
(主な集計・分析結果)

- ・ 要介護認定時の「現在の状況」が医療機関（療養病床以外）だった人を、それ以外の人と比べると、重度化が少なく、軽度化が非常に多い。中重度者が多いこと、特別な医療の必要性がある人が多いことも影響している

(主な集計・分析結果の一覧) (1/3)

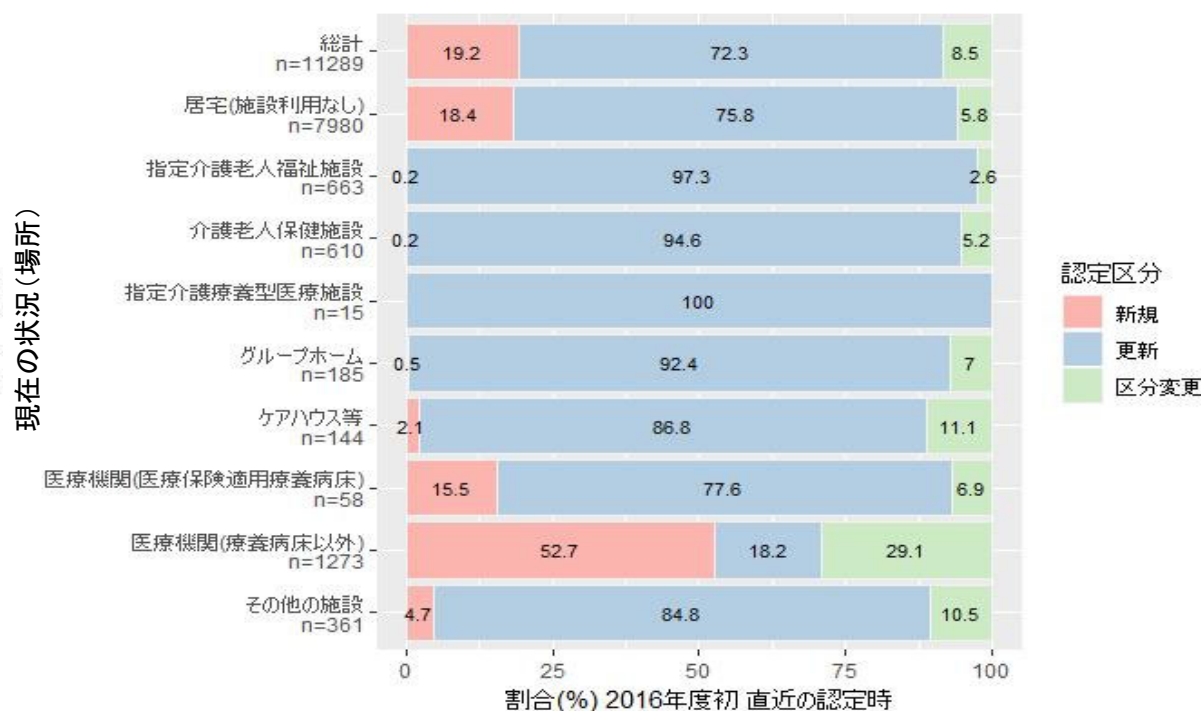
認定時の「現在の状況」別の傾向 (2016年度初時点)	・ 認定時の「現在の状況」が医療施設（療養病床以外）であった要介護者は、居宅（施設利用無）だった要介護者に次いで多く、全体11289人に対して1273人、割合は11%となっている（図2-2-1） ・ 認定時の「現在の状況」が医療施設（療養病床以外）であった要介護者をその他の要介護者と比較すると、年齢階級はやや若く（74歳以下が30%、図2-2-1）、認定区分は新規と区分変更が非常に多くなっている（新規と区分変更で82%、図2-2-2） ・ 要介護度について、中重度の割合を比較すると、居宅（施設利用無）より中重度の割合が多くなっているが、特養、老健、グループホームよりは中重度の割合は少ない（要介護3・4・5で63%、図2-2-3） ・ 特別な医療の必要性がある要介護者の割合は、他の要介護者より多く、58%となっている（図2-2-4）
-----------------------------	---

図2-2-1 認定時の「現在の状況」（場所）別の傾向 ～ 年齢階級



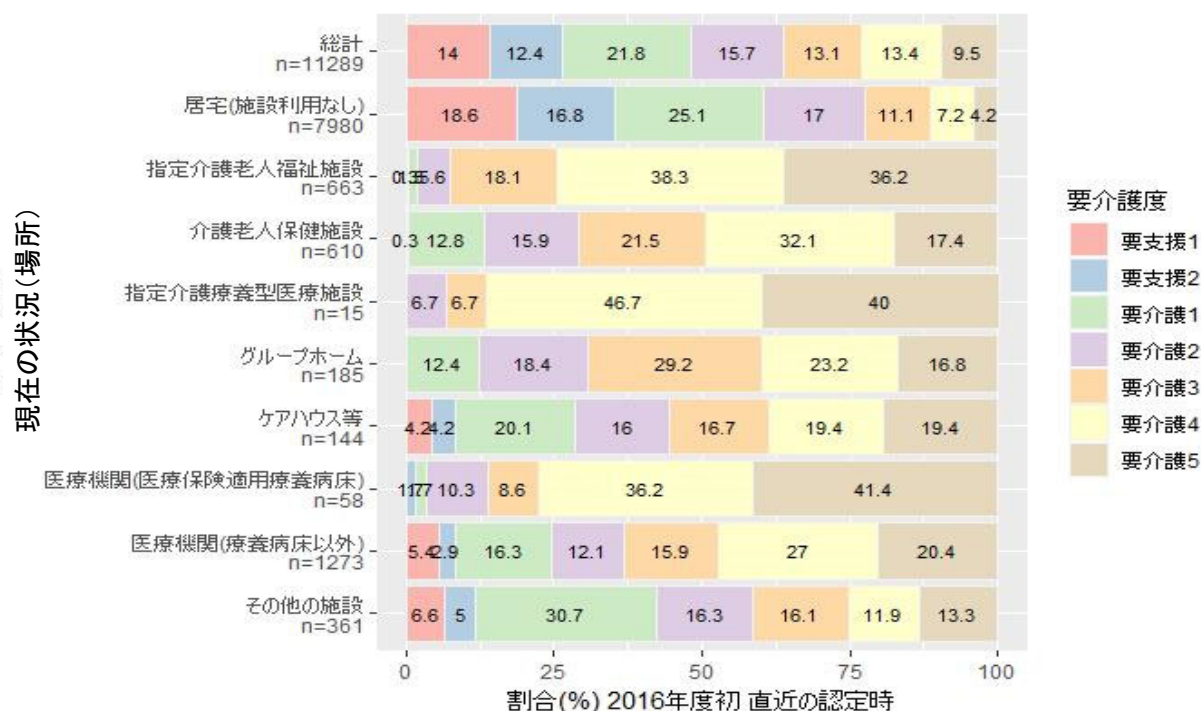
(*) 介護認定データより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。

図2-2-2 認定時の「現在の状況」（場所）別の傾向 ～ 認定区分



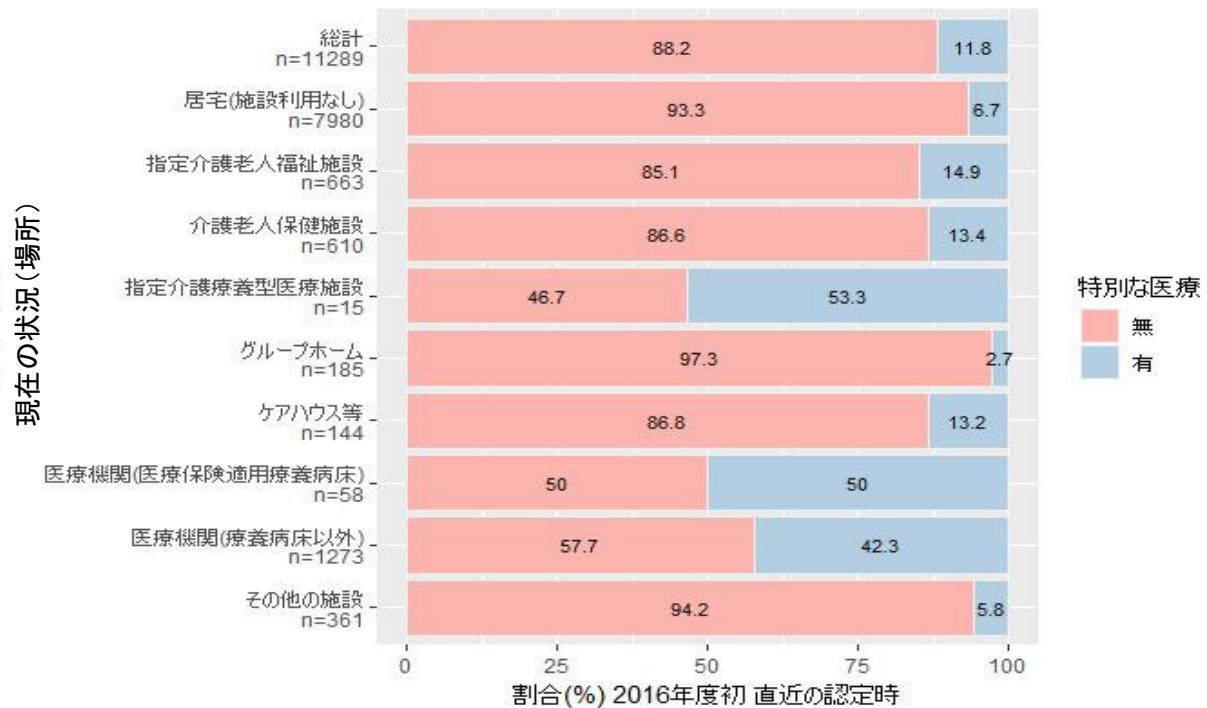
(*) 介護認定データより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。

図2-2-3 認定時の「現在の状況」（場所）別の傾向 ～ 要介護度



(*) 介護認定データより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。

図2-2-4 認定時の「現在の状況」（場所）別の傾向 ～ 特別な医療の必要



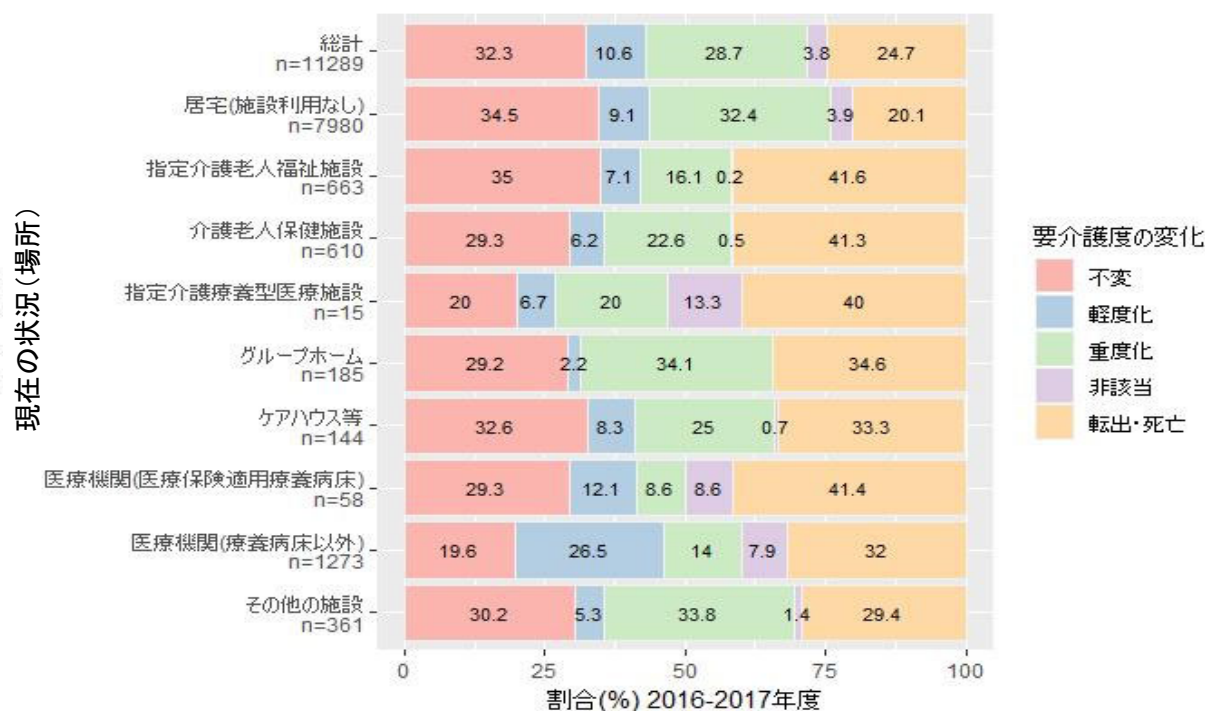
(*) 介護認定データより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。

◎ 分析の観点2: 医療・介護連携に関連する重度化・軽度化の傾向
～ その2 要介護認定時の「現在の状況」

(主な集計・分析結果の一覧) (2/3)

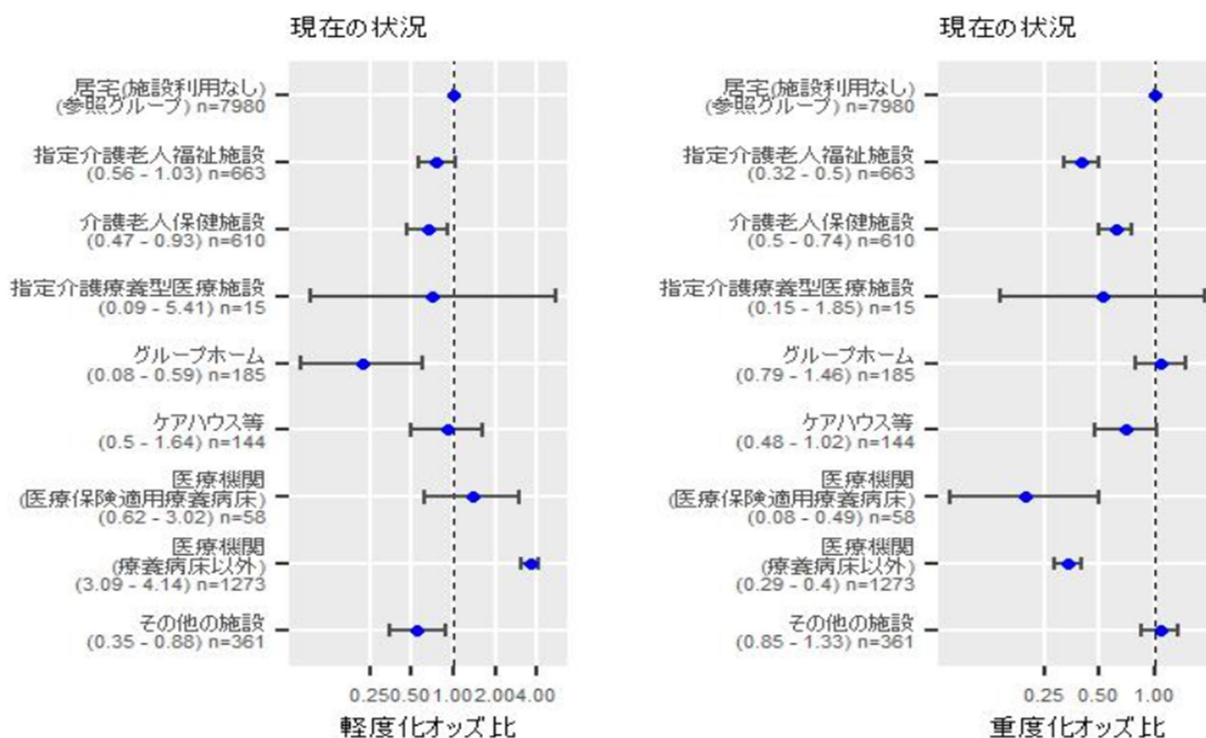
認定時の「現在の状況」別の傾向～重度化・軽度化(2016-2017年度)	- 認定時の「現在の状況」が医療施設(療養病床以外)であった要介護者は、他の要介護者と比べて、軽度化が非常に多く(26.5%)、重度化は少ない(14%)。転出・死亡は居宅(施設利用無)よりやや多いが、特養、老健より少ない(32%) (図2-2-5a) - オッズ比でも、軽度化が多く、重度化が少なくなっている (図2-2-5b)
認定時の「現在の状況」別の傾向～介護サービス利用(2016-2017年度)	- 認定時の「現在の状況」が医療施設(療養病床以外)であった要介護者の居宅系サービス利用の割合は、居宅(施設利用無)であった要介護者よりはやや少ないが、特養、老健などよりは多く、46%となっている (図2-2-6) - 訪問看護利用の割合は、居宅(施設利用無)であった要介護者よりはやや少ないが、特養、老健などよりは多く、9.6%となっている (図2-2-7a) - 通所リハビリテーション利用の割合は17.3% (図2-2-7b)、老健利用の割合は16.3% (図2-2-7c) となっている

図2-2-5a 認定時の「現在の状況」（場所）別の傾向 ～ 要介護度の変化



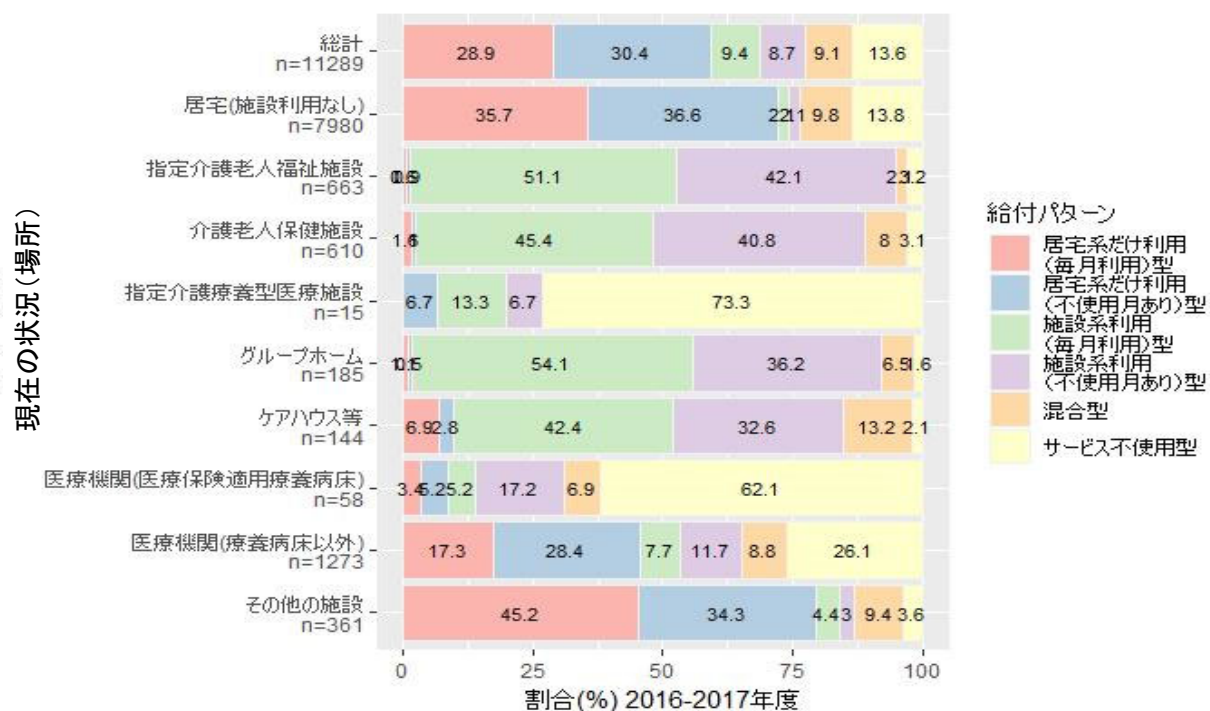
(*) 介護認定データより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日）からみて直近の認定データを参照している。

図2-2-5b 認定時の「現在の状況」（場所）別の傾向 ～ 重度化・軽度化オッズ比



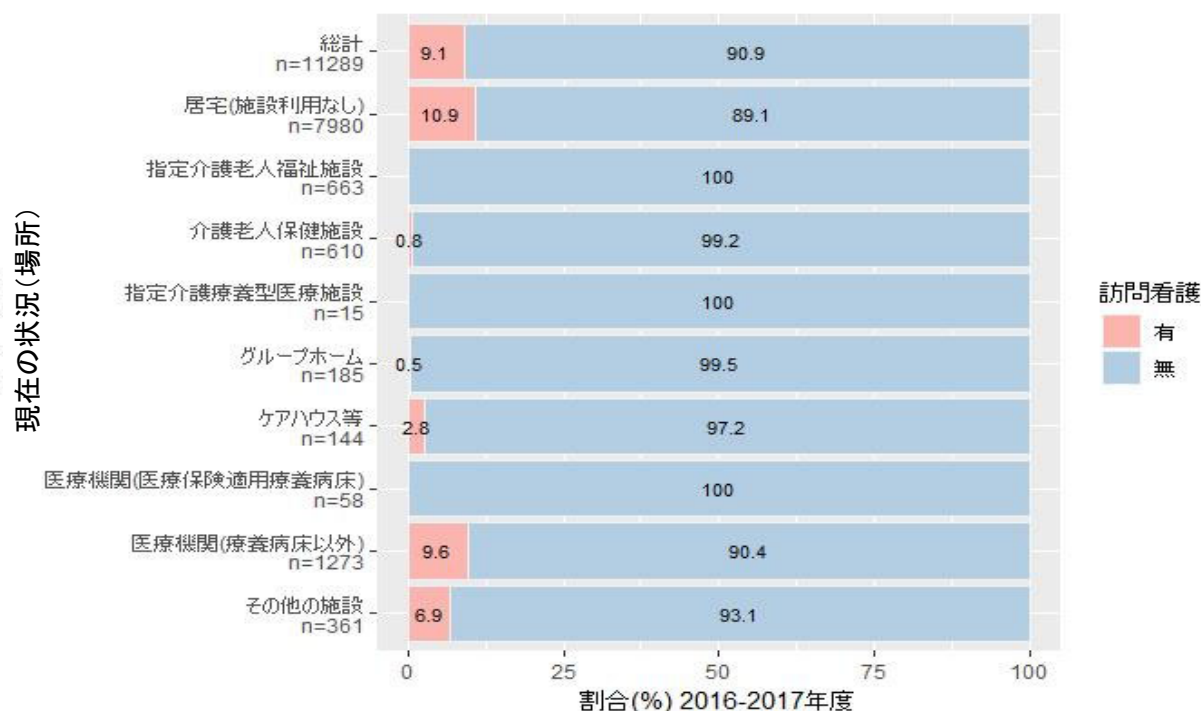
(*) 介護認定データより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日）からみて直近の認定データを参照している。

図2-2-6 認定時の「現在の状況」（場所）別の傾向 ～ 介護サービス利用パターン



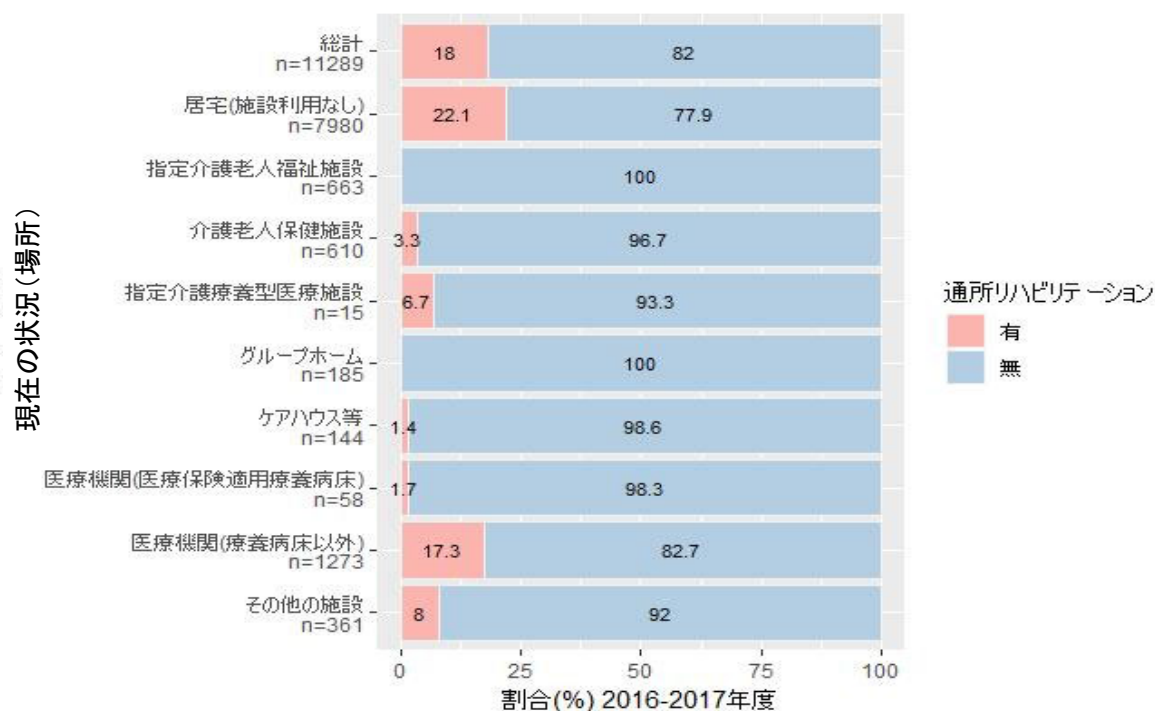
(*) 介護認定・レセプトデータより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。介護サービス利用については、対象期間（2016-2017年度）の介護レセプトデータを参照している。

図2-2-7a 認定時の「現在の状況」（場所）別の傾向 ～ 訪問看護



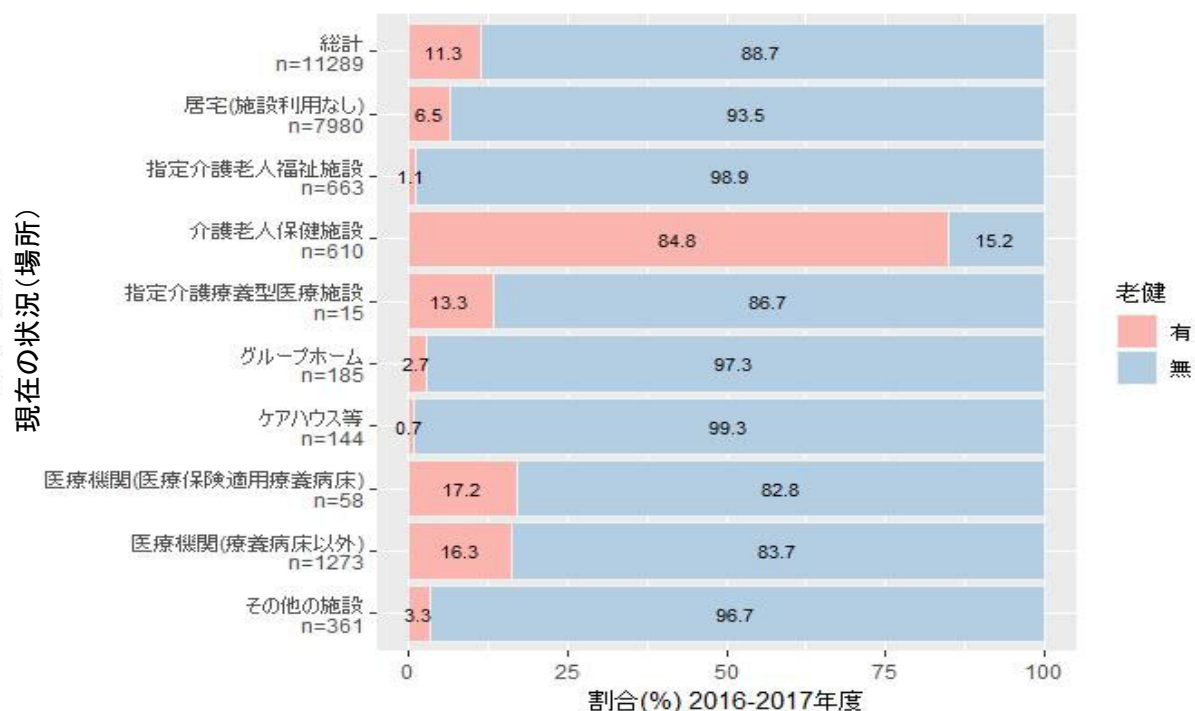
(*) 介護認定・レセプトデータより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。介護サービス利用については、対象期間（2016-2017年度）の介護レセプトデータを参照している。

図2-2-7b 認定時の「現在の状況」（場所）別の傾向 ～ 通所リハビリテーション



(*) 介護認定・レセプトデータより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。介護サービス利用については、対象期間（2016-2017年度）の介護レセプトデータを参照している。

図2-2-7c 認定時の「現在の状況」（場所）別の傾向 ～ 老健



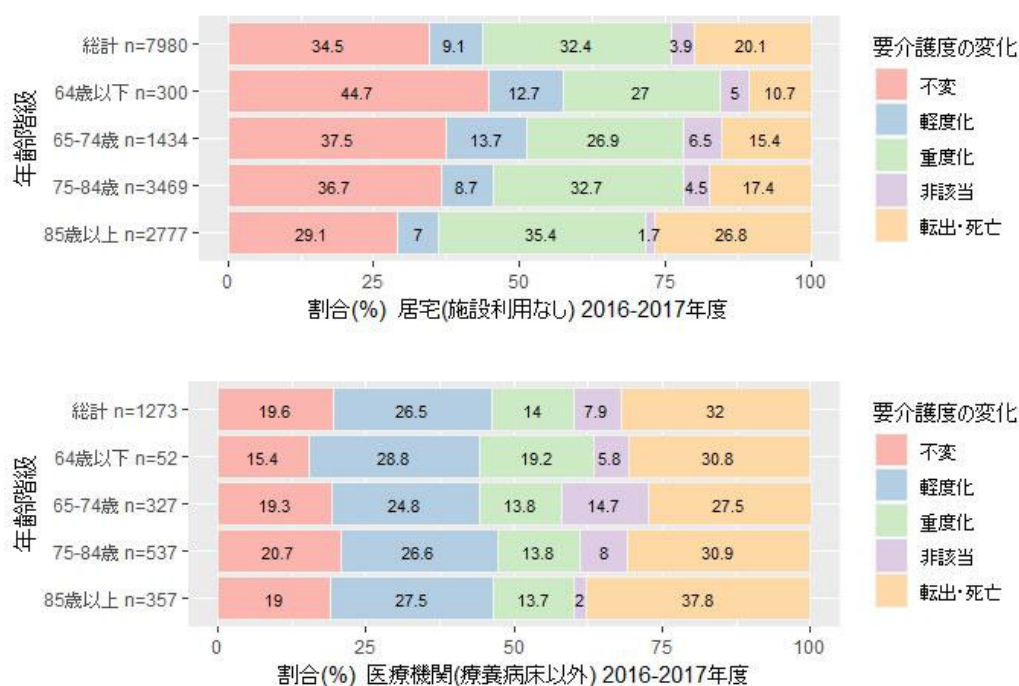
(*) 介護認定・レセプトデータより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。介護サービス利用については、対象期間（2016-2017年度）の介護レセプトデータを参照している。

◎ 分析の観点2: 医療・介護連携に関連する重度化・軽度化の傾向

(主な集計・分析結果の一覧) (3/3) ~ その2 要介護認定時の「現在の状況」

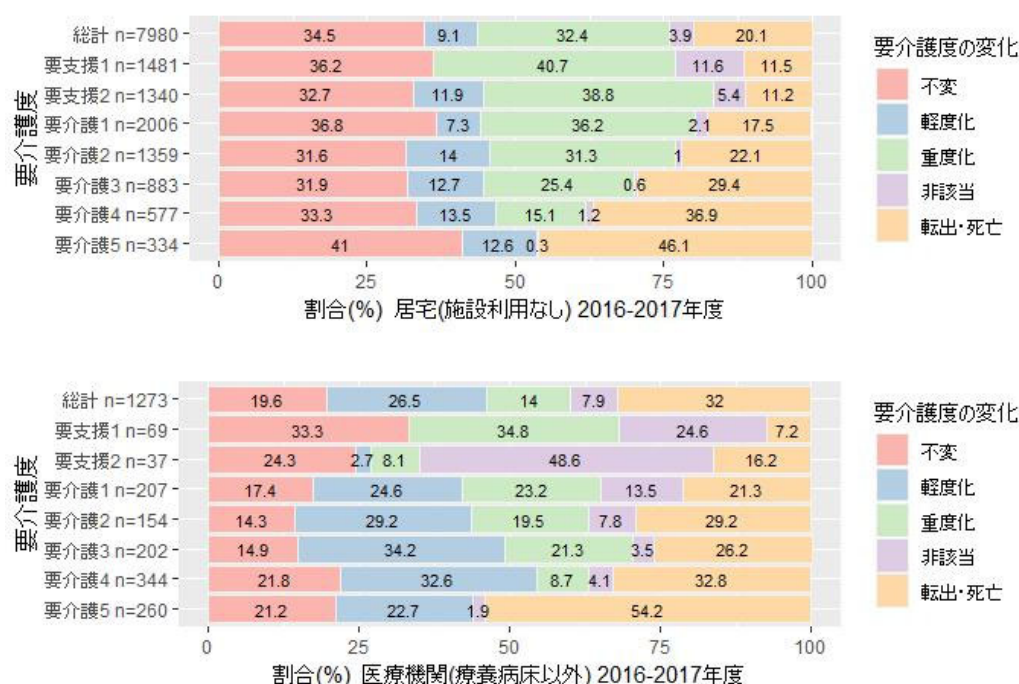
認定時の「現在の状況」による重度化・軽度化の比較 (2016-2017年度)	・ 認定時の「現在の状況」が医療施設（療養病床以外）であった要介護者を、認定時の「現在の状況」が居宅(施設利用無)と比較すると、各年齢階級とも、軽度化が多く、重度化が少なくなっている（図2-2-8）。また、年齢階級による差異が少ないという傾向がある ・ 要介護度別では、軽度化が多く、重度化が少ない他、要支援1・2では、非該当となる割合も大きく、要支援1の25%、要支援2の49%が非該当になっている（図2-2-9） ・ 認定区分別でも同様に各認定区分で軽度化が多く、重度化が少なくなっている。新規認定の29%は軽度化している（図2-2-10）
認定時の「現在の状況」と介護サービス利用別による重度化・軽度化の傾向 (2016-2017年度)	・ 介護サービス利用パターンでみると、「現在の状況」が医療施設（療養病床以外）で、居宅系サービス毎月利用者は53%が軽度化している（図2-2-11） ・ 軽度化した人の中では、通所リハビリテーション(31%)、訪問介護(27%)、通所介護(25%)、老健(19%)のサービスを利用した人が多い（図2-2-12b）。重度化した人の中では、訪問介護(34%)、通所介護(25%)のサービスを利用した人が多い（図2-2-12c）。状態が変わらなかった人では、訪問介護(25%)、特養(21%)、転出・死亡の人では、訪問介護(22%)、老健(15%)が多くなっている（図2-2-12a、図2-2-12e） ・ 医療施設（療養病床以外）の軽度化した人が利用したサービス種類を、「現在の状況」が居宅（施設利用なし）で軽度化した人（図2-2-13b）と比べると、通所リハビリテーションや老健の割合が大きい

図2-2-8 認定時の「現在の状況」（場所）による重度化・軽度化の比較 ~ 年齢階級別



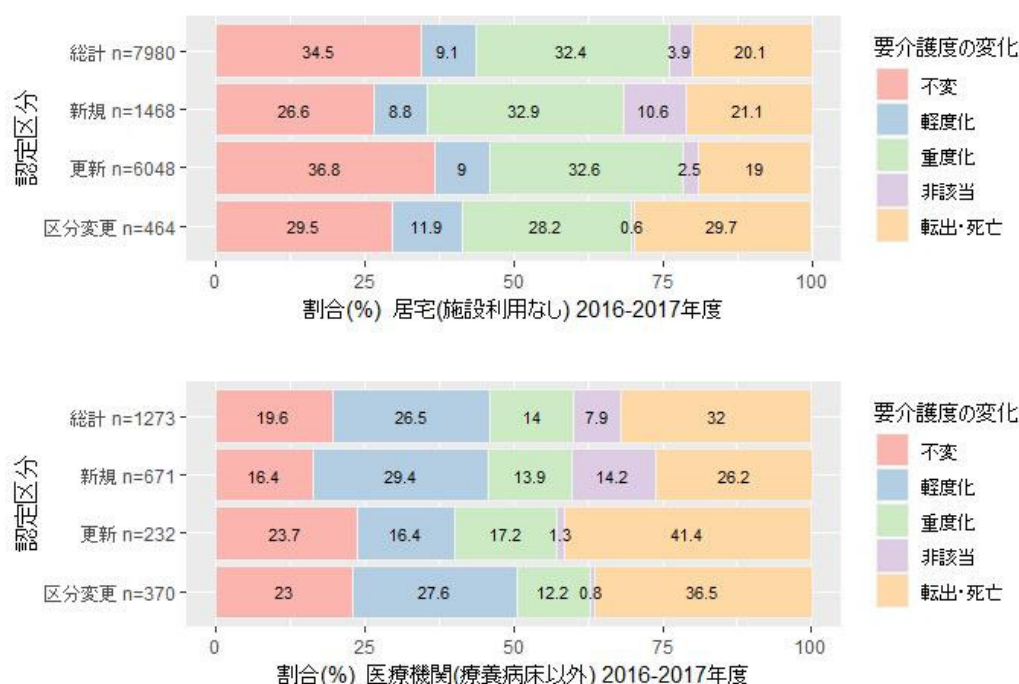
(*) 介護認定・レセプトデータより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日）からみて直近の認定データを参照している。介護サービス利用については、対象期間（2016-2017年度）の介護レセプトデータを参照している。

図2-2-9 認定時の「現在の状況」（場所）による重度化・軽度化の比較 ～ 要介護度別



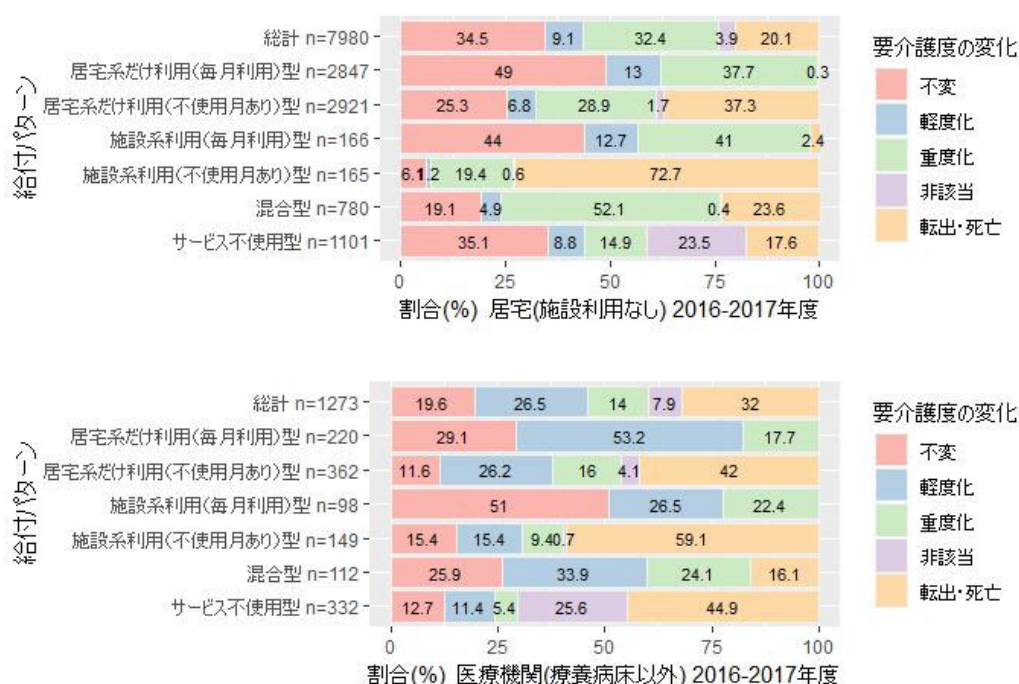
(*) 介護認定・レセプトデータより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日）からみて直近の認定データを参照している。介護サービス利用については、対象期間（2016-2017年度）の介護レセプトデータを参照している。

図2-2-10 認定時の「現在の状況」（場所）による重度化・軽度化の比較 ～ 認定区分別



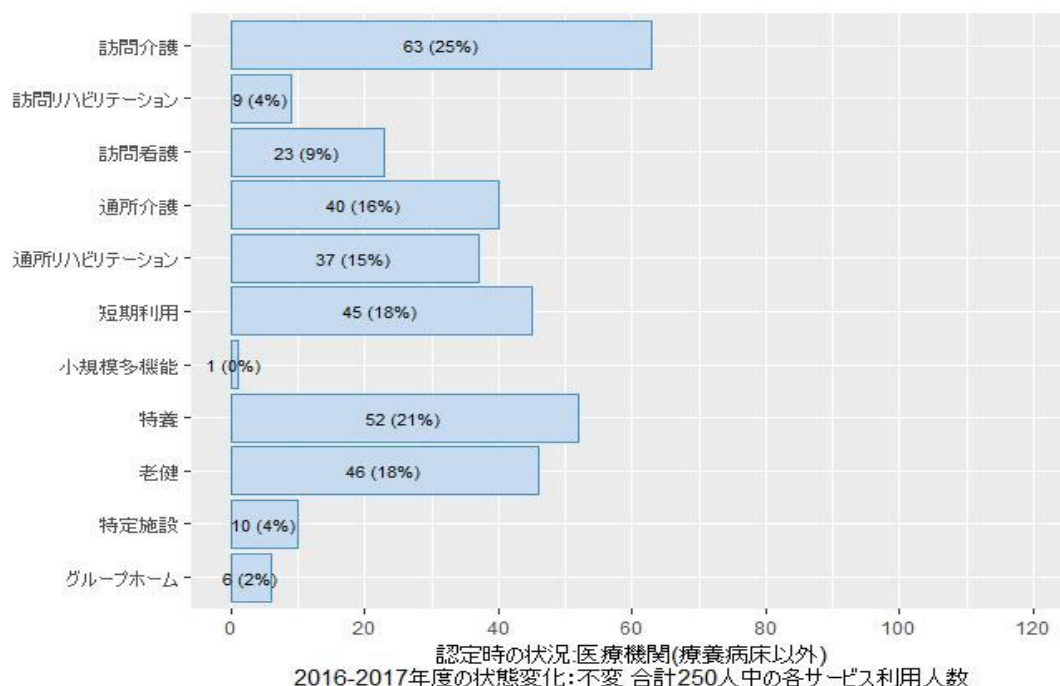
(*) 介護認定・レセプトデータより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日）からみて直近の認定データを参照している。介護サービス利用については、対象期間（2016-2017年度）の介護レセプトデータを参照している。

図2-2-11 認定時の「現在の状況」（場所）による重度化・軽度化の比較 ～
利用サービスパターン別



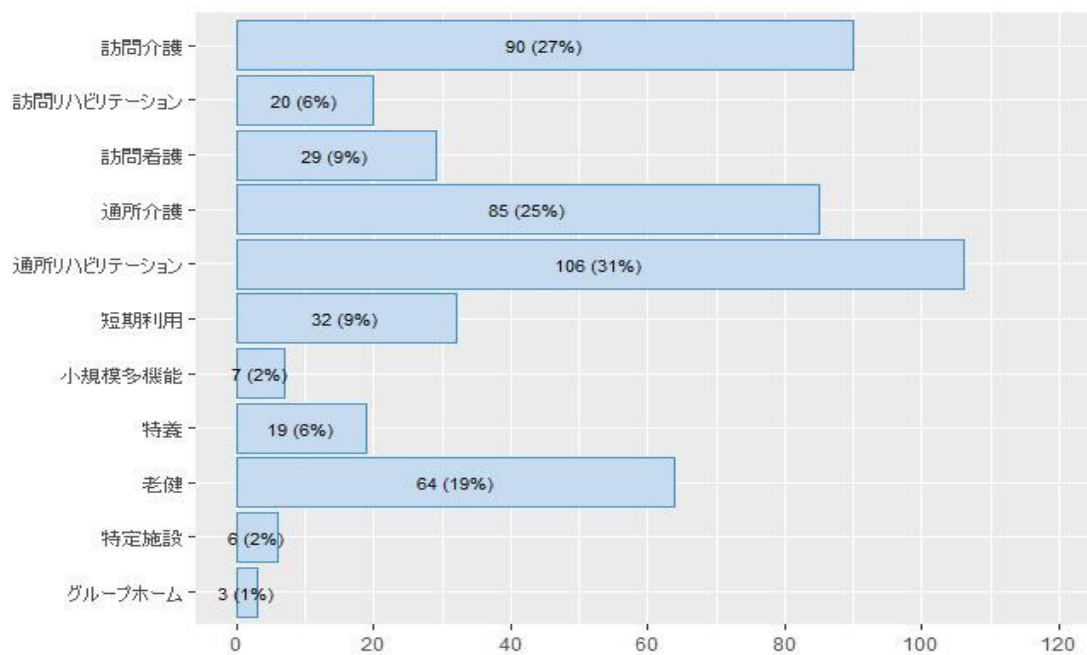
(*) 介護認定・レセプトデータより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日）からみて直近の認定データを参照している。介護サービス利用については、対象期間（2016-2017年度）の介護レセプトデータを参照している。

図2-2-12a 認定時の「現在の状況」（場所）が医療機関（療養病床以外）の人の
2016-2017年度の状態変化と利用したサービス ～ 状態変化：不変



(*) 介護認定・レセプトデータより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日）からみて直近の認定データを参照している。介護サービス利用については、対象期間（2016-2017年度）の介護レセプトデータを参照している。2年間に利用したサービス種類が複数ある場合、それぞれのサービス種類の利用者として集計される。

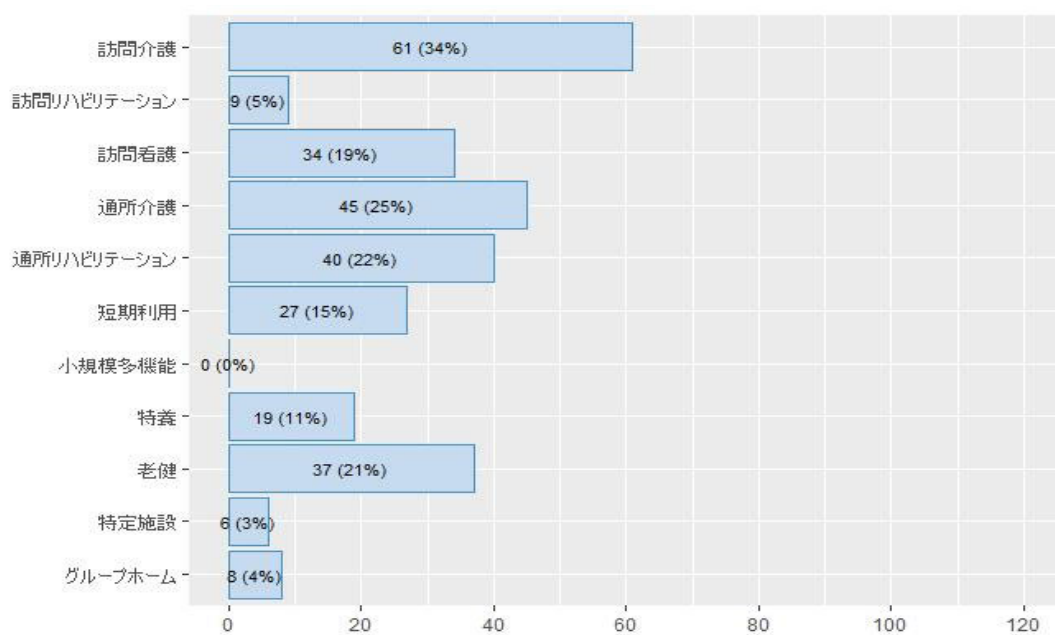
図2-2-12b 認定時の「現在の状況」（場所）が医療機関（療養病床以外）の人の
2016-2017年度の状態変化と利用したサービス ～ 状態変化：軽度化



認定時の状況:医療機関(療養病床以外)
2016-2017年度の状態変化:軽度化 合計337人中の各サービス利用人数

(*) 介護認定・レセプトデータより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日）からみて直近の認定データを参照している。介護サービス利用については、対象期間（2016-2017年度）の介護レセプトデータを参照している。2年間に利用したサービス種類が複数ある場合、それぞれのサービス種類の利用者として集計される。

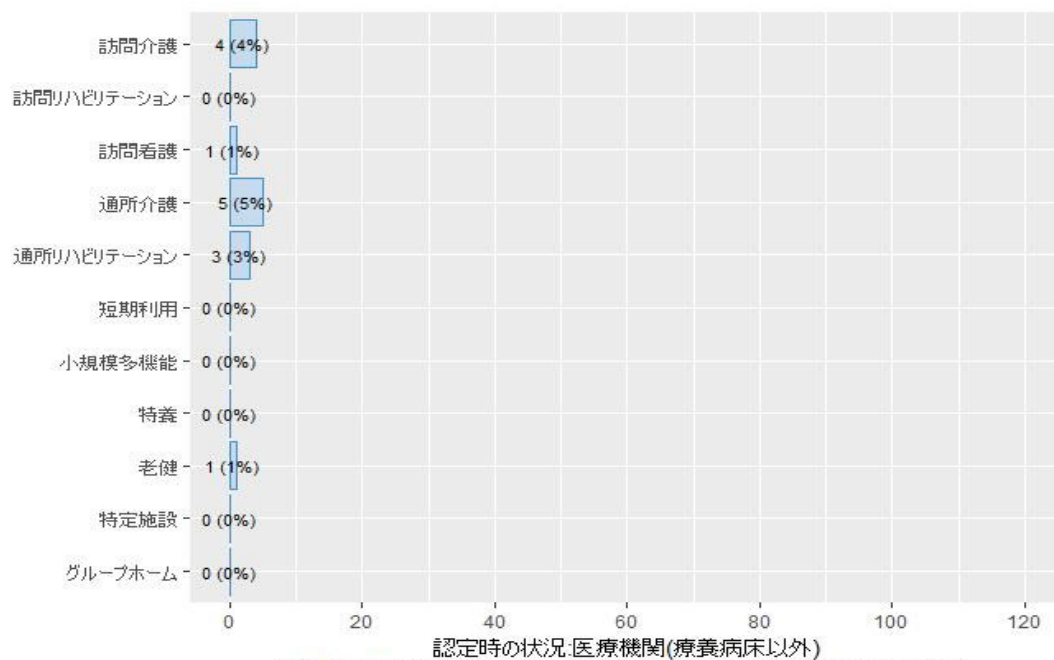
図2-2-12c 認定時の「現在の状況」（場所）が医療機関（療養病床以外）の人の
2016-2017年度の状態変化と利用したサービス ～ 状態変化：重度化



認定時の状況:医療機関(療養病床以外)
2016-2017年度の状態変化:重度化 合計178人中の各サービス利用人数

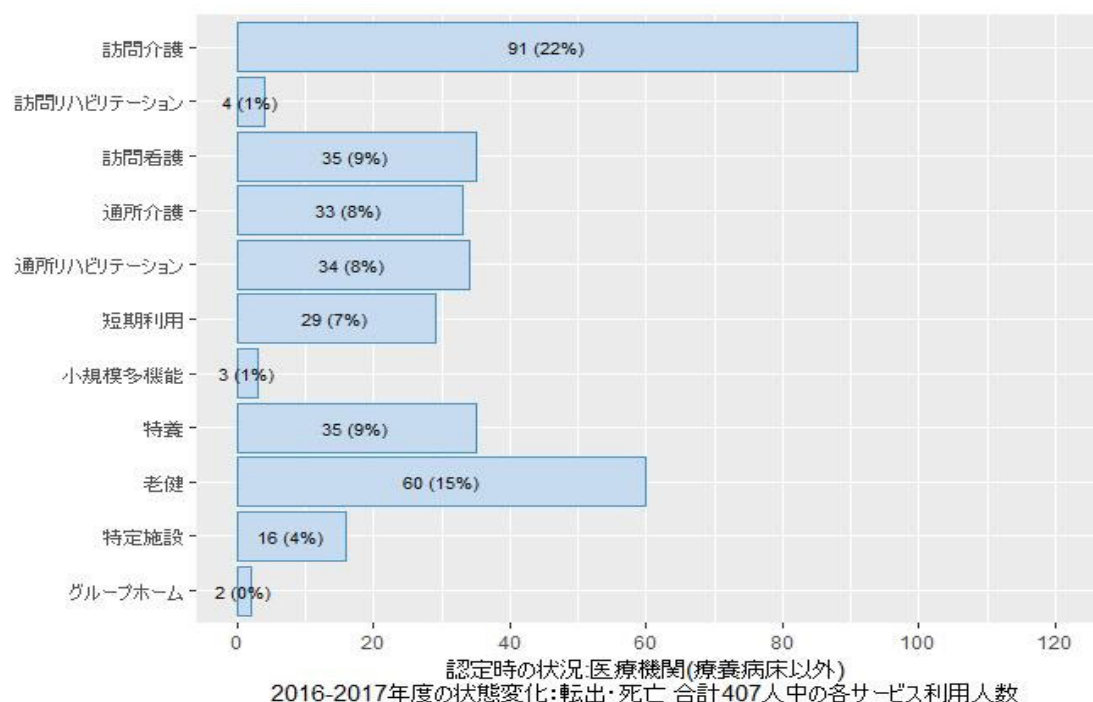
(*) 介護認定・レセプトデータより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日）からみて直近の認定データを参照している。介護サービス利用については、対象期間（2016-2017年度）の介護レセプトデータを参照している。2年間に利用したサービス種類が複数ある場合、それぞれのサービス種類の利用者として集計される。

図2-2-12d 認定時の「現在の状況」（場所）が医療機関（療養病床以外）の人の
2016-2017年度の状態変化と利用したサービス ～ 状態変化：非該当



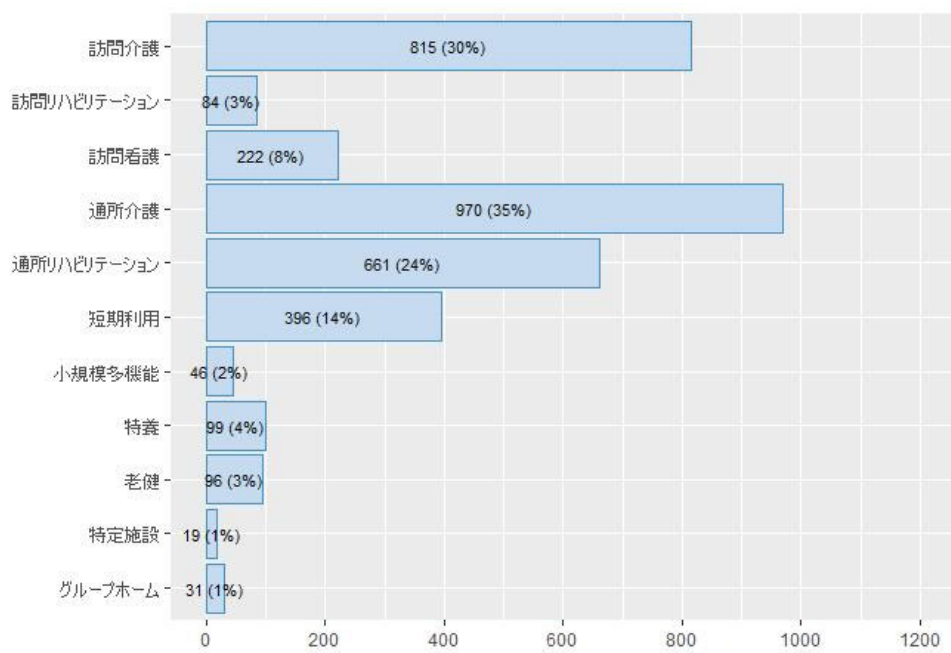
(*) 介護認定・レセプトデータより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日）からみて直近の認定データを参照している。介護サービス利用については、対象期間（2016-2017年度）の介護レセプトデータを参照している。2年間に利用したサービス種類が複数ある場合、それぞれのサービス種類の利用者として集計される。

図2-2-12e 認定時の「現在の状況」（場所）が医療機関（療養病床以外）の人の
2016-2017年度の状态変化と利用したサービス ～ 状态変化：転出・死亡



(*) 介護認定・レセプトデータより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日）からみて直近の認定データを参照している。介護サービス利用については、対象期間（2016-2017年度）の介護レセプトデータを参照している。2年間に利用したサービス種類が複数ある場合、それぞれのサービス種類の利用者として集計される。

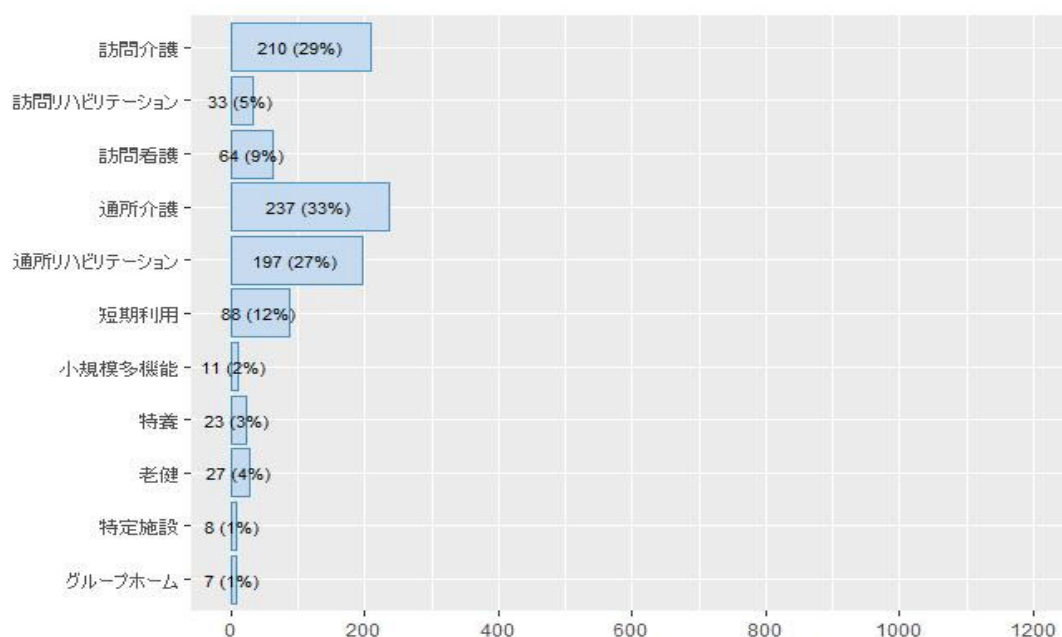
図2-2-13a 認定時の「現在の状況」（場所）が居宅（施設利用なし）の人の
2016-2017年度の状態変化と利用したサービス ～ 状態変化：不変



認定時の状況:居宅(施設利用なし)
2016-2017年度の状态変化:不変 合計2752人中の各サービス利用人数

(*) 介護認定・レセプトデータより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日）からみて直近の認定データを参照している。介護サービス利用については、対象期間（2016-2017年度）の介護レセプトデータを参照している。2年間に利用したサービス種類が複数ある場合、それぞれのサービス種類の利用者として集計される。

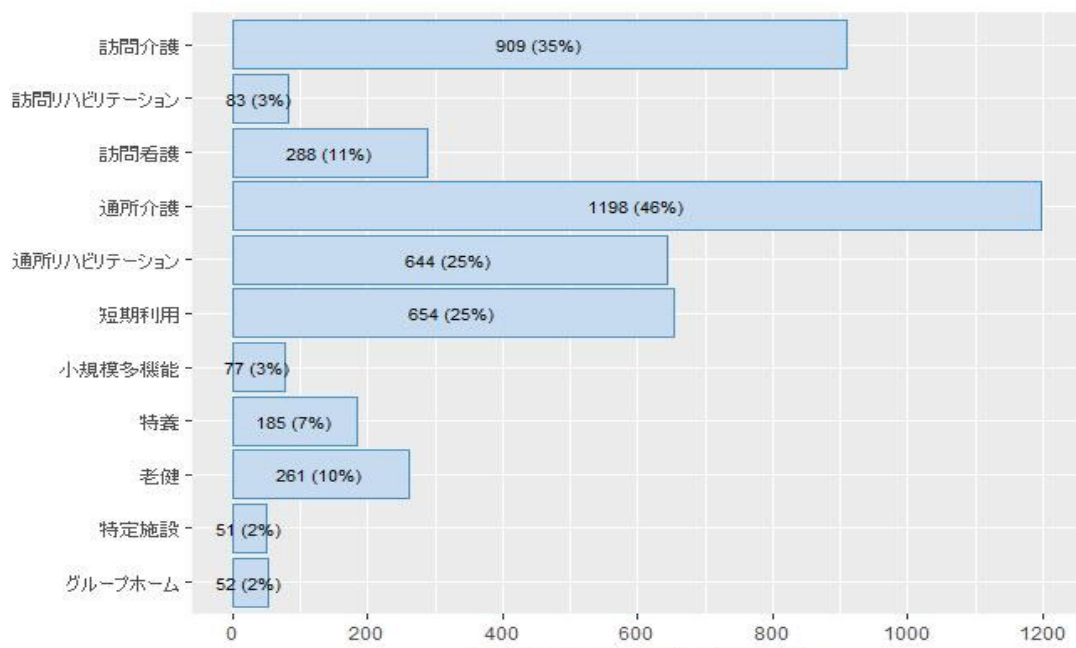
図2-2-13b 認定時の「現在の状況」（場所）が居宅（施設利用なし）の人の
2016-2017年度の状态変化と利用したサービス ～ 状态変化：軽度化



認定時の状況:居宅(施設利用なし)
2016-2017年度の状态変化:軽度化 合計729人中の各サービス利用人数

(*) 介護認定・レセプトデータより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日）からみて直近の認定データを参照している。介護サービス利用については、対象期間（2016-2017年度）の介護レセプトデータを参照している。2年間に利用したサービス種類が複数ある場合、それぞれのサービス種類の利用者として集計される。

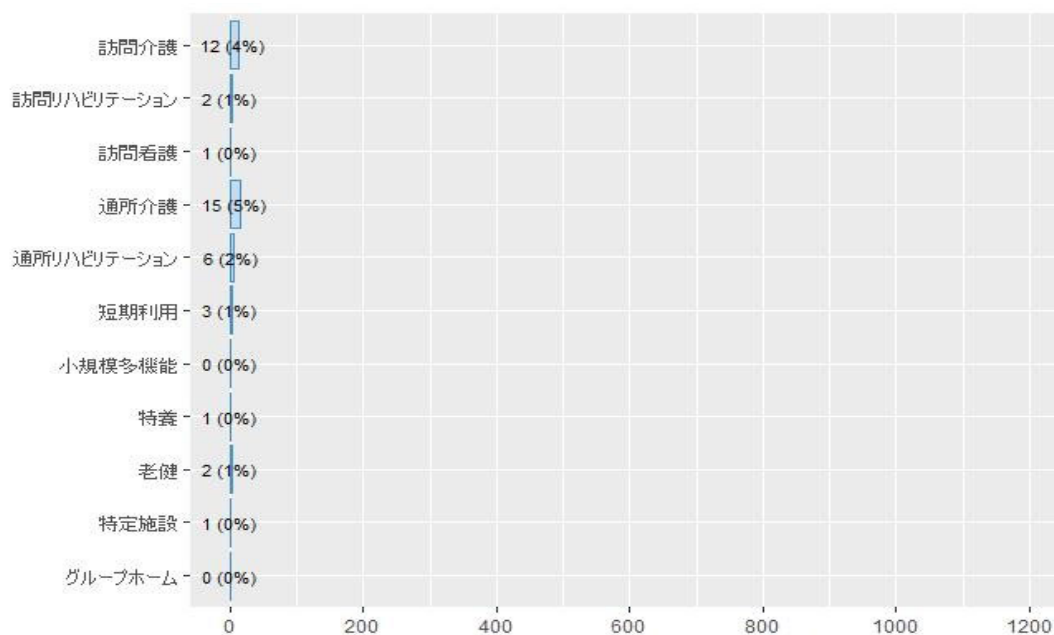
図2-2-13c 認定時の「現在の状況」（場所）が居宅（施設利用なし）の人の
2016-2017年度の状態変化と利用したサービス ～ 状態変化：重度化



認定時の状況：居宅(施設利用なし)
2016-2017年度の状態変化：重度化 合計2587人中の各サービス利用人数

(*) 介護認定・レセプトデータより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日）からみて直近の認定データを参照している。介護サービス利用については、対象期間（2016-2017年度）の介護レセプトデータを参照している。2年間に利用したサービス種類が複数ある場合、それぞれのサービス種類の利用者として集計される。

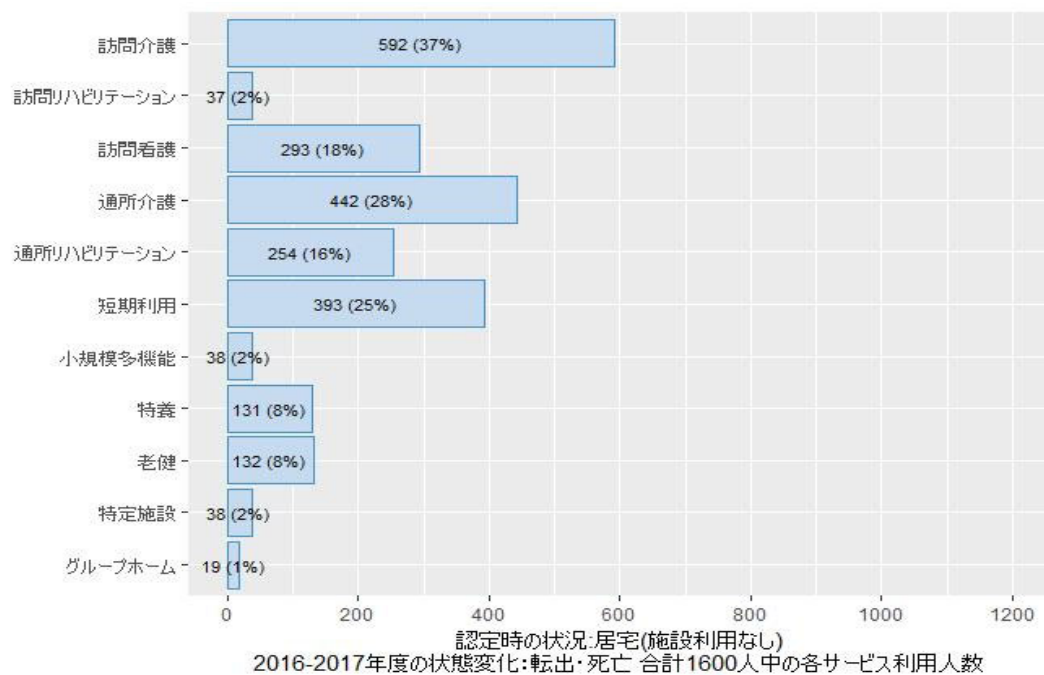
図2-2-13d 認定時の「現在の状況」（場所）が居宅（施設利用なし）の人の
2016-2017年度の状態変化と利用したサービス ～ 状態変化：非該当



認定時の状況：居宅(施設利用なし)
2016-2017年度の状態変化：非該当 合計312人中の各サービス利用人数

(*) 介護認定・レセプトデータより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日）からみて直近の認定データを参照している。介護サービス利用については、対象期間（2016-2017年度）の介護レセプトデータを参照している。2年間に利用したサービス種類が複数ある場合、それぞれのサービス種類の利用者として集計される。

図2-2-13e 認定時の「現在の状況」（場所）が居宅（施設利用なし）の人の
2016-2017年度の状態変化と利用したサービス ～ 状態変化：転出・死亡



(*) 介護認定・レセプトデータより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日）からみて直近の認定データを参照している。介護サービス利用については、対象期間（2016-2017年度）の介護レセプトデータを参照している。2年間に利用したサービス種類が複数ある場合、それぞれのサービス種類の利用者として集計される。

分析の観点3：医療・介護連携に関連する介護サービス事業所の傾向

その1 入退院時の医療・介護連携

その2 看取り介護とターミナルケア

◎ 分析の観点3：医療・介護連携に関連する介護サービス事業所の傾向

～ その1 入退院時の医療・介護連携

(集計・分析の主旨)

- ・ 医療・介護連携施策を検討する際に、介護サービス事業所が提供している、医療・介護連携に関する介護サービスについて、現状を把握することは有効と考えられる。ここでは、入院時、退院退所時の医療・介護連携に係る下記の介護サービス量を集計・分析する
 - 居宅介護支援の入院時情報連携加算、退院退所加算
 - 訪問看護の退院時共同指導加算
- ・ 医療・介護連携施策の検討の参考とすることを想定する

(集計・分析条件等)

- ・ 2014年度から2017年度の介護給付データより、サービスコードにより集計し、算定事業所数、対象人数、サービス単位数の年度推移により、時系列の傾向を把握する
- ・ 算定事業所割合を公開されている全国データ（2016年5月審査分の算定事業所の割合）と比較するため、2016年4月のデータも集計する
- ・ 市原市のデータ（サービス単位数）を全国と比較するため、参考として全国データの0.22%（1号被保険者数の割合）と比較する
- ・ 事業所ごとに利用者人数、算定対象人数の傾向を把握するため、サービス種類コードによる利用者数、加算コードに該当する利用者数を集計する
- ・ 郵便番号で判別し、市原市以外の対象者は集計から除く。事業所は市原市外も含める

◎ 分析の観点3：医療・介護連携に関連する介護サービス事業所の傾向

～ その1 入退院時の医療・介護連携

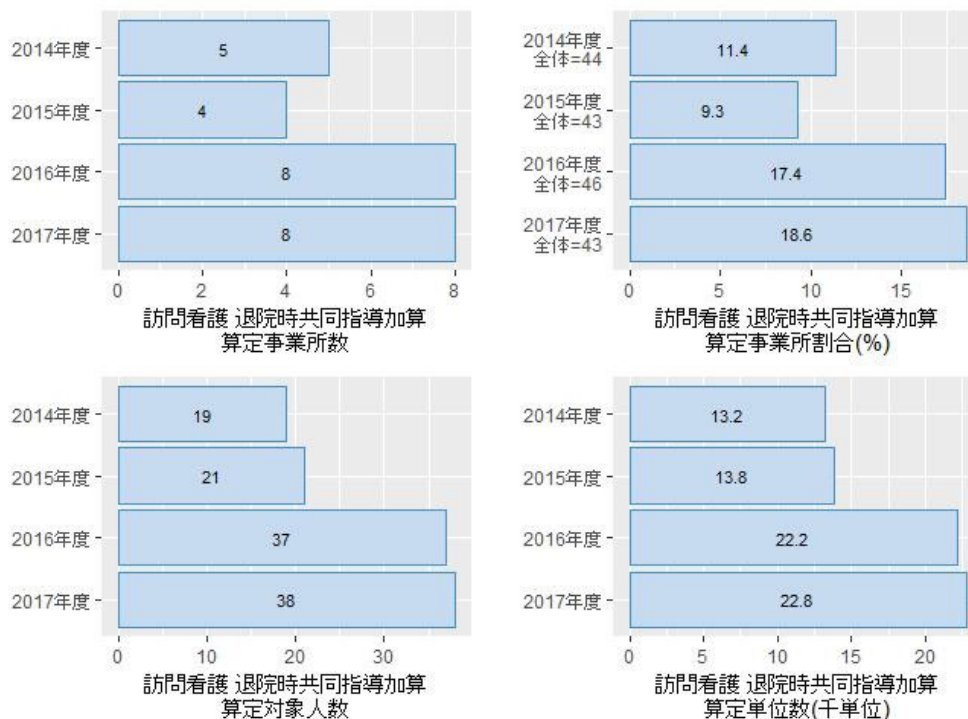
(主な集計・分析結果)

- ・ 入院時、退院退所時の医療・介護連携に係る集計・分析結果を下表（主な集計・分析結果の一覧）に示す
- ・ 居宅介護支援の入院時情報連携加算、退院退所加算については、サービス量で比較すると全国値と同等以上だが、算定事業所の割合では、全国値より少ない。より多くの事業所が関与する必要があるかどうか、検討することも考えられる
- ・ 訪問看護の退院時共同指導加算については、サービス量で比較すると全国値より少ない。事業所別にみると、多く算定している事業所と、利用者は多いが算定していない事業所がみられる。より多くの事業所が関与する必要があるかどうか、検討することも考えられる

(主な集計・分析結果の一覧) (1/2)

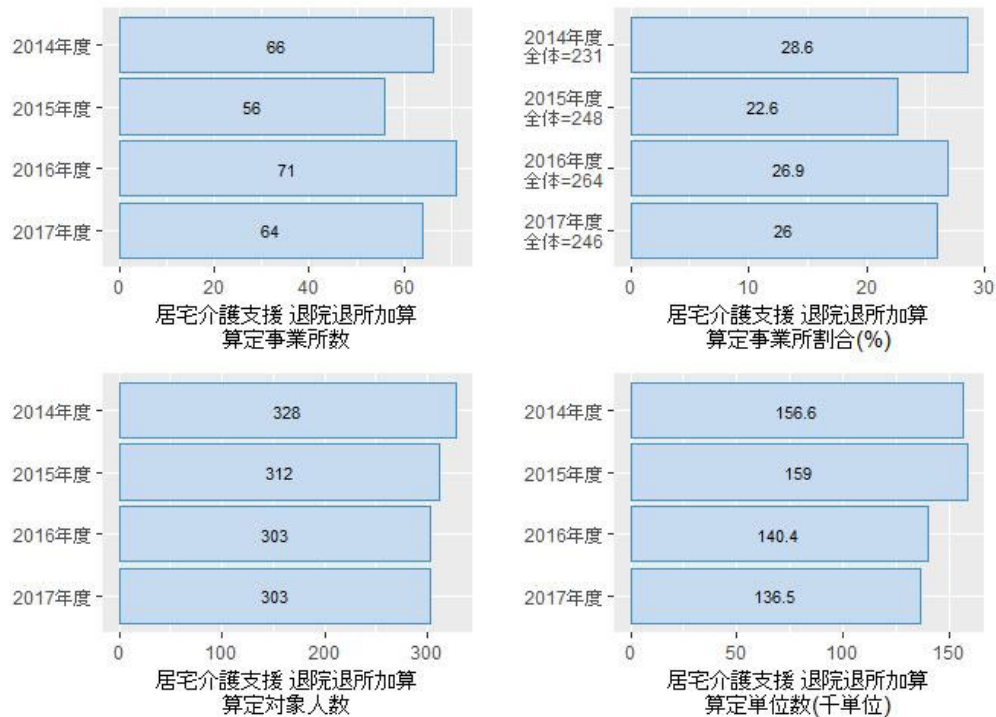
入院時、退院退所時の医療・介護連携の年次推移（2014-2017年度）	・ 訪問看護の退院時共同指導は、2014-2017年度の期間では増加傾向にあり、2017年度は8事業所、対象者は38人となっている（対象者は市内の郵便番号の者のみ、事業所は市外を含む、以下同様）（図3-1-1） ・ 居宅介護支援の退院退所加算は、同期間にやや減少傾向にあり、2017年度は64事業所、対象者は303人となっている（図3-1-2） ・ 居宅介護支援の入院時情報連携加算は、同期間に増加傾向にあり、2017年度は100事業所、対象者は833人となっている（図3-1-3）
-------------------------------------	---

図3-1-1 訪問看護 退院時共同指導加算の年次推移



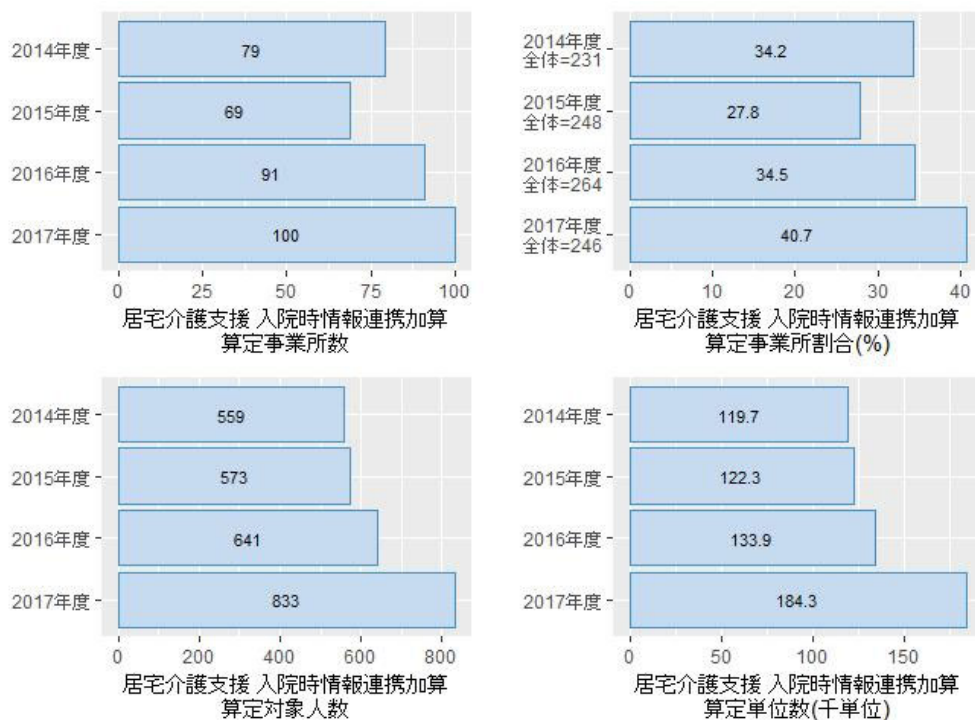
(*) 介護レセプトデータを集計したもの。事業所は、市原市の住民が利用した市原市内及び市外の事業所を含んでいる。

図3-1-2 居宅介護支援 退院退所加算の年次推移



(*) 介護レセプトデータを集計したもの。事業所は、市原市の住民が利用した市原市内及び市外の事業所を含んでいる。

図3-1-3 居宅介護支援 入院時の情報連携加算の年次推移



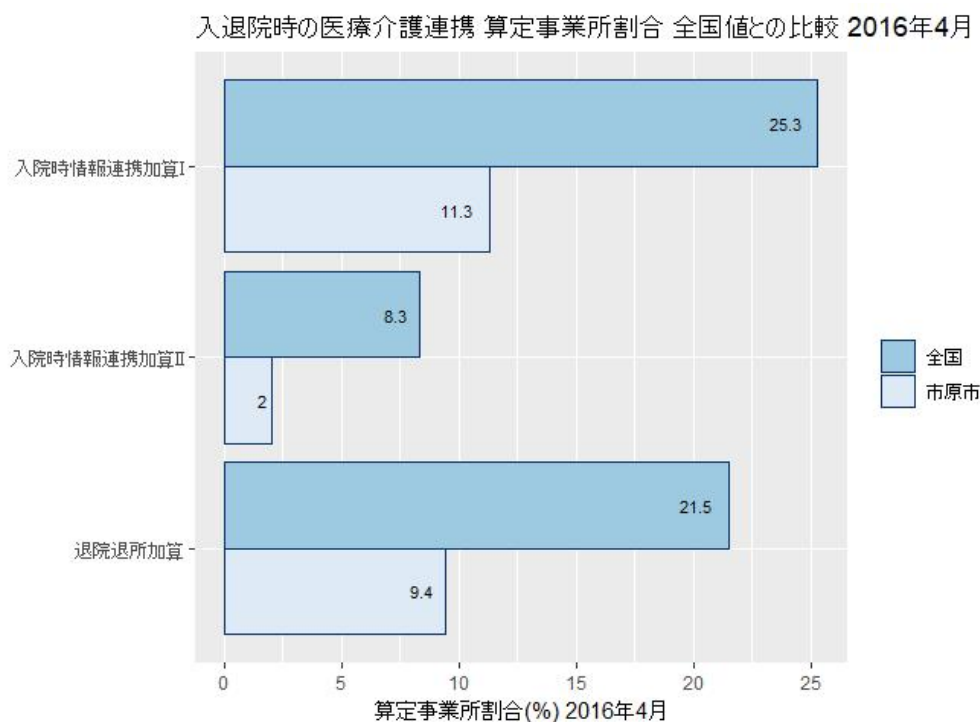
(*) 介護レセプトデータを集計したもの。事業所は、市原市の住民が利用した市原市内及び市外の事業所を含んでいる。

◎ 分析の観点3：医療・介護連携に関連する介護サービス事業所の傾向
～ その1 入退院時の医療・介護連携

(主な集計・分析結果の一覧) (2/2)

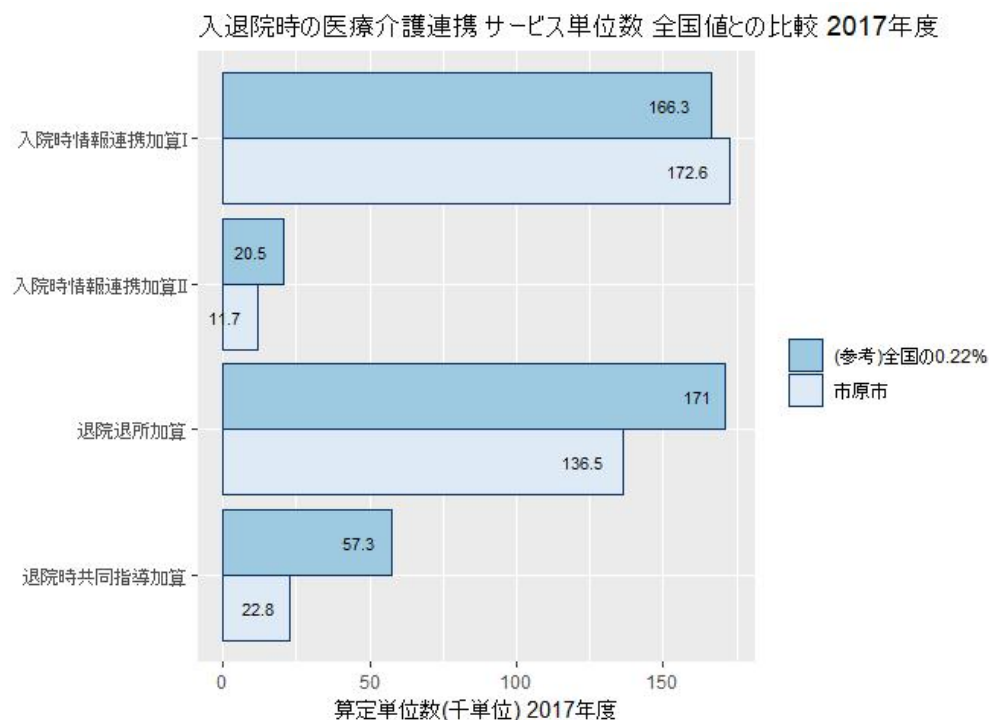
入院時、退院退所時の医療・介護連携の全国データとの比較 (2016年4月、2017年度)	- 入院時情報連携加算、退院退所加算について公開されている全国データ（介護給付費分科会 2017年11月29日）と比較すると、算定している事業所の割合は、少ない（図3-1-4） 2017年度のサービス単位数で比較すると、入院時情報連携加算、退院・退所加算は同等以上であり、退院時共同指導加算は少ない（図3-1-5）
入院時、退院退所時の医療・介護連携の事業所の傾向（2017年度）	- 訪問看護の退院時共同指導では、利用者人数の少ない事業所で、算定の無い事業所が多くみられる他、利用者数が20-30人程度以上で、算定の無い事業所もいくつか見られる（図3-1-6） - 居宅介護支援の退院退所加算、入院時情報連携加算では、利用者人数の少ない事業所で、算定の無い事業所が多くみられる他、利用者数が50-100人程度以上で、算定の無い事業所もいくつか見られる（図3-1-7、図3-1-8）

図3-1-4 居宅介護支援 入院時情報連携加算、退院退所加算の
全国データとの比較 ～ 算定事業所の割合



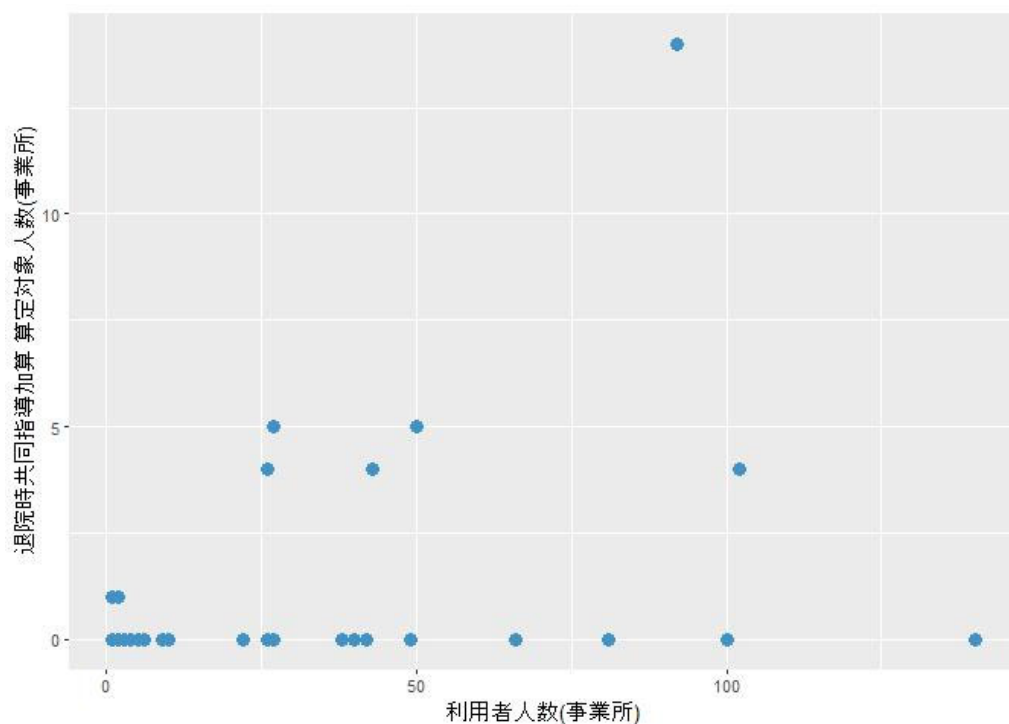
(*) 市原市のデータは介護レセプトデータを集計したもの、全国のデータは第152回介護給付費分科会（2017年11月29日）資料1による。

図3-1-5 居宅介護支援 入院時情報連携加算、退院退所加算、
訪問看護 退院時共同指導加算 の全国データとの比較 ～ サービス単位数



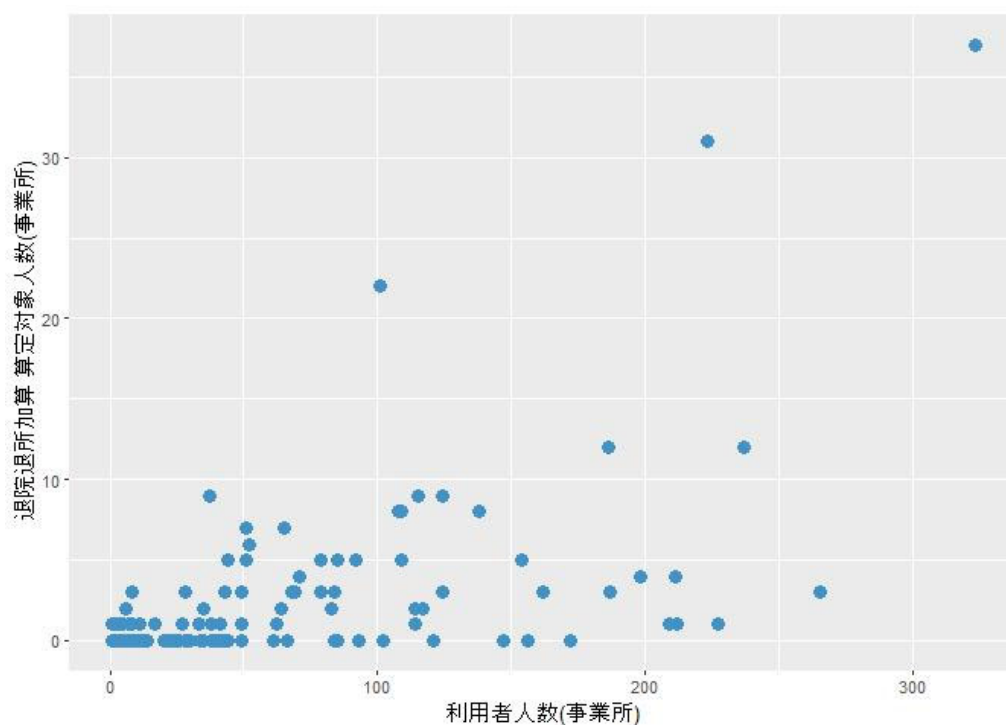
(*) 市原市のデータは介護レセプトデータを集計したもの、全国のデータは介護給付等実態調査（平成29年5月審査分～平成30年4月審査分）のデータを加工したもの。

図3-1-6 訪問看護 退院時共同指導加算の事業所の傾向 ～ 事業所利用人数と算定対象人数



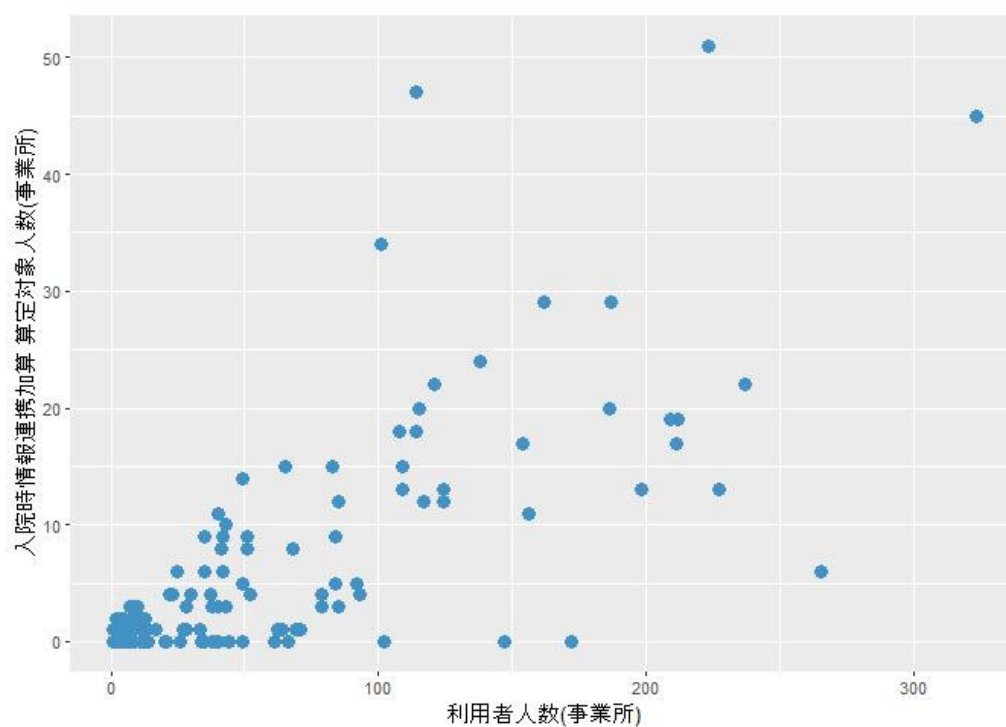
(*) 介護レセプトデータを集計したもの（2017年度）。図の点は、事業所を表している。事業所は、市原市の住民が利用した市原市内及び市外の事業所を含んでいる。

図3-1-7 居宅介護支援 退院退所加算の事業所の傾向 ～ 事業所利用人数と算定対象人数



(*) 介護レセプトデータを集計したもの（2017年度）。図の点は、事業所を表している。事業所は、市原市の住民が利用した市原市内及び市外の事業所を含んでいる。

図3-1-8 居宅介護支援 入院時情報連携加算の事業所の傾向 ～ 事業所利用人数と算定対象人数



(*) 介護レセプトデータを集計したもの（2017年度）。図の点は、事業所を表している。事業所は、市原市の住民が利用した市原市内及び市外の事業所を含んでいる。

◎ 分析の観点3：医療・介護連携に関連する介護サービス事業所の傾向
～ その2 看取り介護とターミナルケア

(集計・分析の主旨)

- ・ 医療・介護連携施策を検討する際に、介護サービス事業所が提供している、看取り介護とターミナルケアに関する介護サービスについて、現状を把握することは有効と考えられる。ここでは、下記の介護サービス量を集計・分析する
 - 訪問看護ターミナルケア加算
 - 老健ターミナルケア加算
 - 特養看取り介護加算
 - 特定施設看取り介護加算
 - グループホーム看取り介護加算
 - 小規模多機能看取り連携体制加算(*)
- (*) 集計した結果非常に少ないため、集計結果の図には含めていない
- ・ 医療・介護連携施策を検討する際に、参考とすることを想定する

◎ 分析の観点3：医療・介護連携に関連する介護サービス事業所の傾向
～ その2 看取り介護とターミナルケア

(集計条件等)

- ・ 2014年度から2017年度の介護給付データより、サービスコードにより集計し、算定事業所数、対象人数、サービス単位数の年度推移により、時系列の傾向を把握する
- ・ 市原市のデータ（サービス単位数）を全国と比較するため、参考として全国データの0.22%（1号被保険者数の割合）と比較する
- ・ 事業所ごとに利用者人数、算定対象人数の傾向を把握するため、サービス種類コードによる利用者数、加算コードに該当する利用者数を集計する
- ・ 郵便番号で判別し、市原市以外の対象者は集計から除く。事業所は市原市外も含める

(主な集計・分析結果)

- ・ 集計・分析結果を下表（主な集計・分析結果の一覧）に示す
- ・ 2017年度のサービス単位数で全国データと比較すると、老健のターミナルケア加算は全国よりやや多く、訪問看護のターミナルケア加算、特定施設の看取り介護加算は全国と同程度であり、特養の看取り介護加算、グループホームの看取り介護加算は全国より少ないとの結果となった

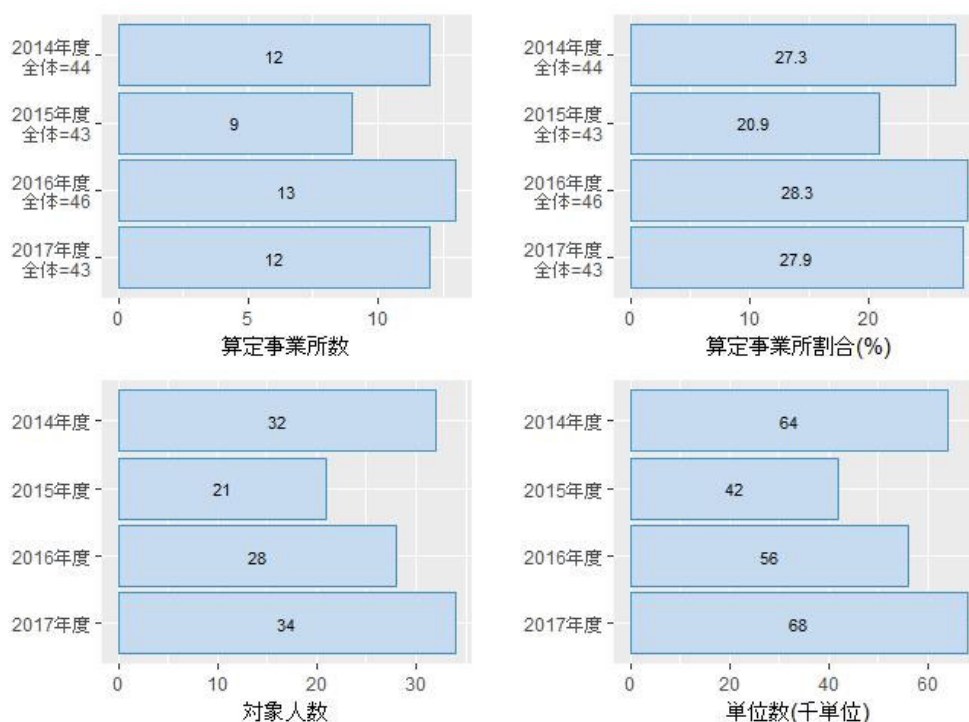
◎ 分析の観点3：医療・介護連携に関連する介護サービス事業所の傾向
～ その2 看取り介護とターミナルケア

(主な集計・分析結果の一覧) (1/2)

看取り介護、ターミナルケアの年次推移
(2014-2017年度)

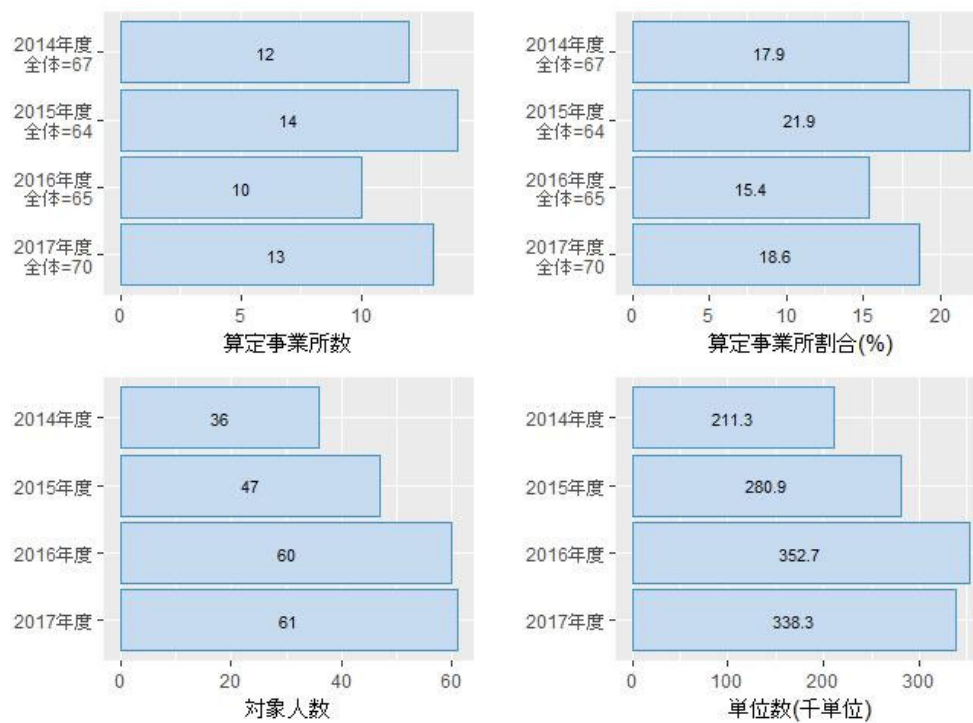
- ・ 訪問看護のターミナルケアは、2014-2017年度の期間では、算定事業所数は横ばい、対象人数は2015年度以降増加傾向にある(2014-2015年度は減少)。2017年度の算定事業所は12事業所、対象者は34人となっている(図3-2-1)
- ・ 老健のターミナルケア加算は、同期間に算定事業所数は微増、対象人数は増加傾向にあり、2017年度の算定事業所は13事業所、対象者は61人となっている(図3-2-2)
- ・ 特養の看取り介護加算は、同期間にやや減少傾向にあり、2017年度の算定事業所は3事業所、対象者は11人となっている(図3-2-3)
- ・ 特定施設の看取り介護加算は、同期間に算定事業所数は横ばい、対象人数は増加傾向にあり、2017年度の算定事業所は3事業所、対象者は16人となっている(図3-2-4)
- ・ グループホームの看取り介護加算は少なく、2017年度の算定事業所は2事業所、対象者は3人となっている(図3-2-5)
- ・ 小規模多機能の看取り連携体制加算は少なく、2016年度に1事業所、1名のみとなっている

図3-2-1 訪問看護 ターミナルケア加算の年次推移



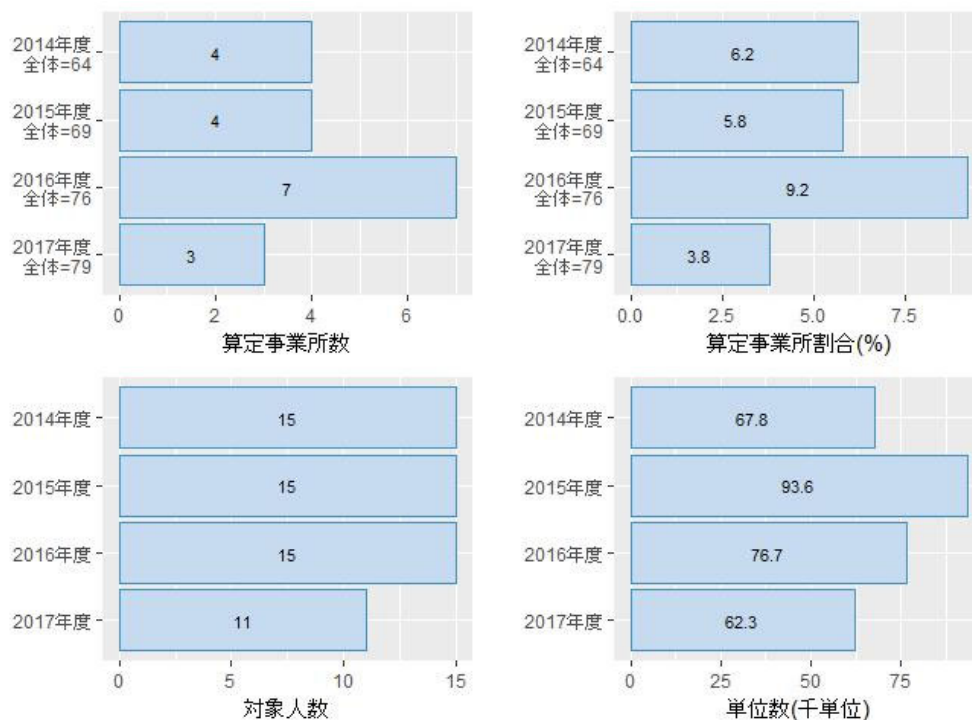
(*) 介護レセプトデータを集計したもの。事業所は、市原市の住民が利用した市原市内及び市外の事業所を含んでいる。

図3-2-2 老健 ターミナルケア加算の年次推移



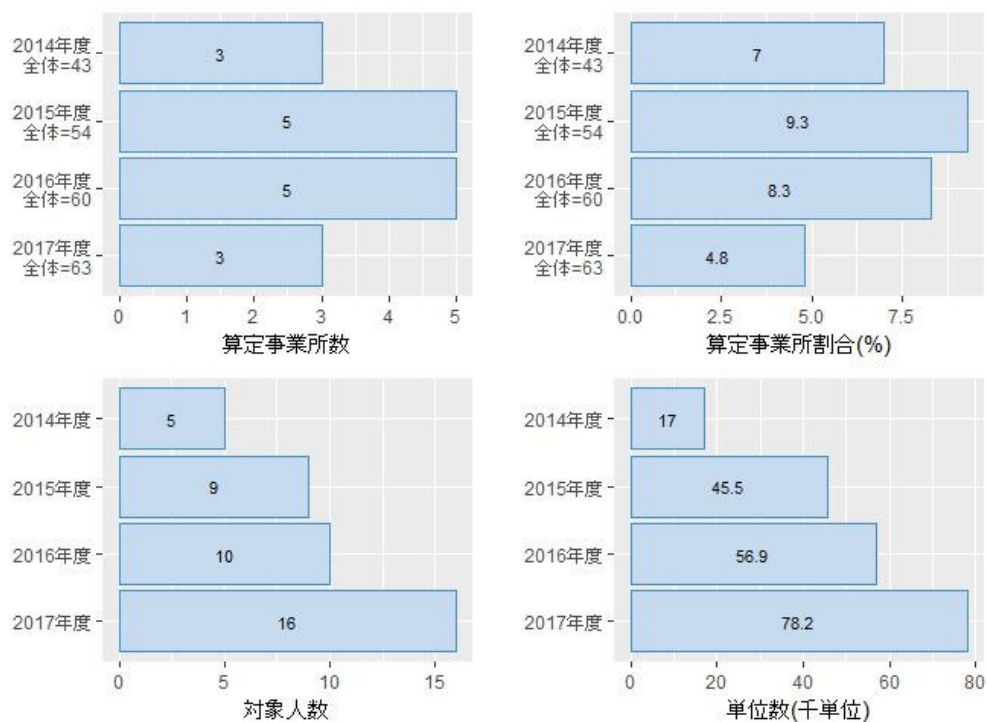
(*) 介護レセプトデータを集計したもの。事業所は、市原市の住民が利用した市原市内及び市外の事業所を含んでいる。

図3-2-3 特養 看取り介護加算の年次推移



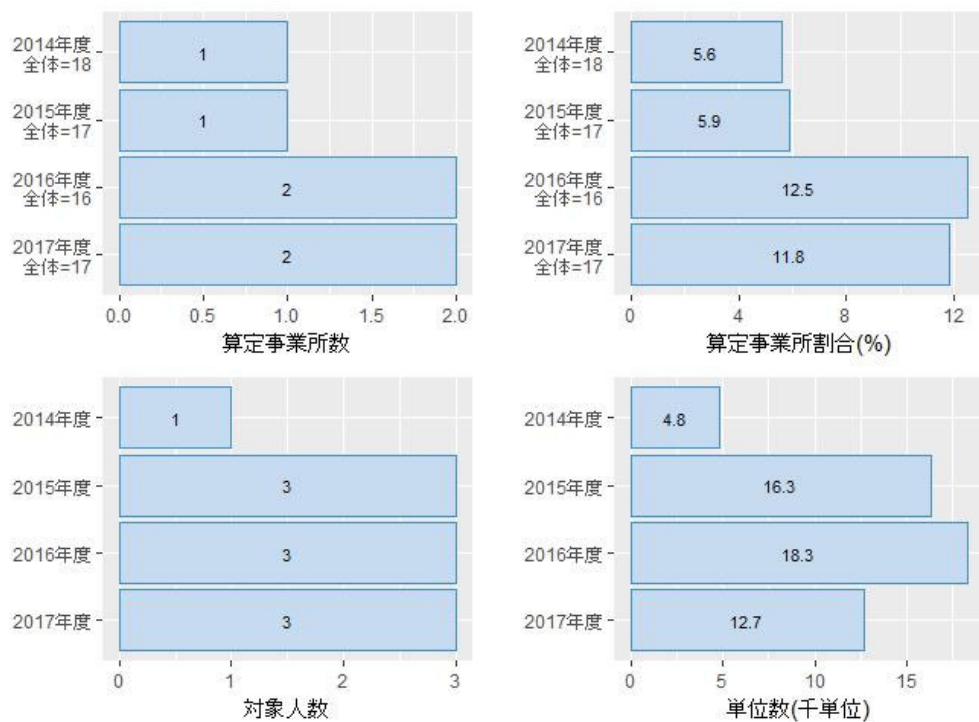
(*) 介護レセプトデータを集計したもの。事業所は、市原市の住民が利用した市原市内及び市外の事業所を含んでいる。

図3-2-4 特定施設 看取り介護加算の年次推移



(*) 介護レセプトデータを集計したもの。事業所は、市原市の住民が利用した市原市内及び市外の事業所を含んでいる。

図3-2-5 グループホーム 看取り介護加算の年次推移



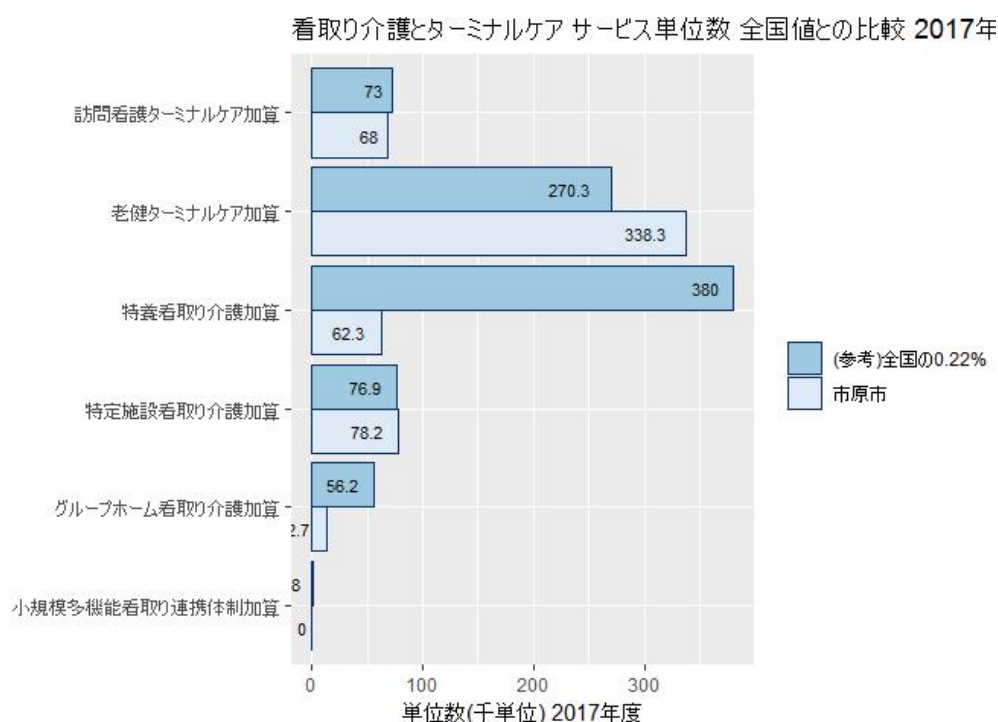
(*) 介護レセプトデータを集計したもの。事業所は、市原市の住民が利用した市原市内及び市外の事業所を含んでいる。

◎ 分析の観点3：医療・介護連携に関連する介護サービス事業所の傾向
～ その2 看取り介護とターミナルケア

(主な集計・分析結果の一覧) (2/2)

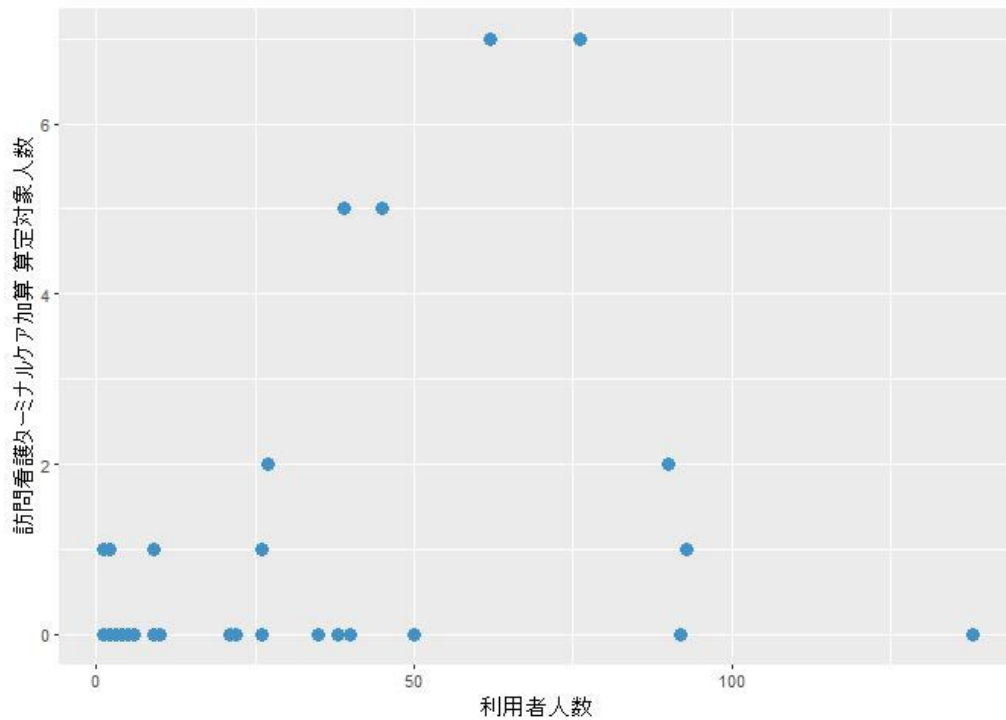
看取り介護、ターミナルケアの全国データとの比較 (2017年度)	・ 2017年度のサービス単位数で全国データと比較すると、老健のターミナルケア加算は全国よりやや多い (図3-2-6) ・ 訪問看護のターミナルケア加算は、全国と同程度 (図3-2-6) ・ 特定施設の看取り介護加算は全国と同程度、特養の看取り介護加算、グループホームの看取り介護加算は全国より少ない (図3-2-6)
看取り加算、ターミナルケアの事業所の傾向 (2017年度)	・ 訪問看護のターミナルケアでは、利用者人数によらず、算定対象人数の多い事業所がみられる (図3-2-7) ・ 老健のターミナルケアでは、利用人数の多い事業所で、算定人数が多くみられる傾向がある (図3-2-8) ・ 特養の看取り介護加算、特定施設の看取り介護加算、グループホームの看取り介護加算は一部の事業所でのみ算定されている (図3-2-9、図3-2-10、図3-2-11) ・ 小規模多機能の看取り連携体制加算は、2017年度は算定されていない

図3-2-6 全国データとの比較



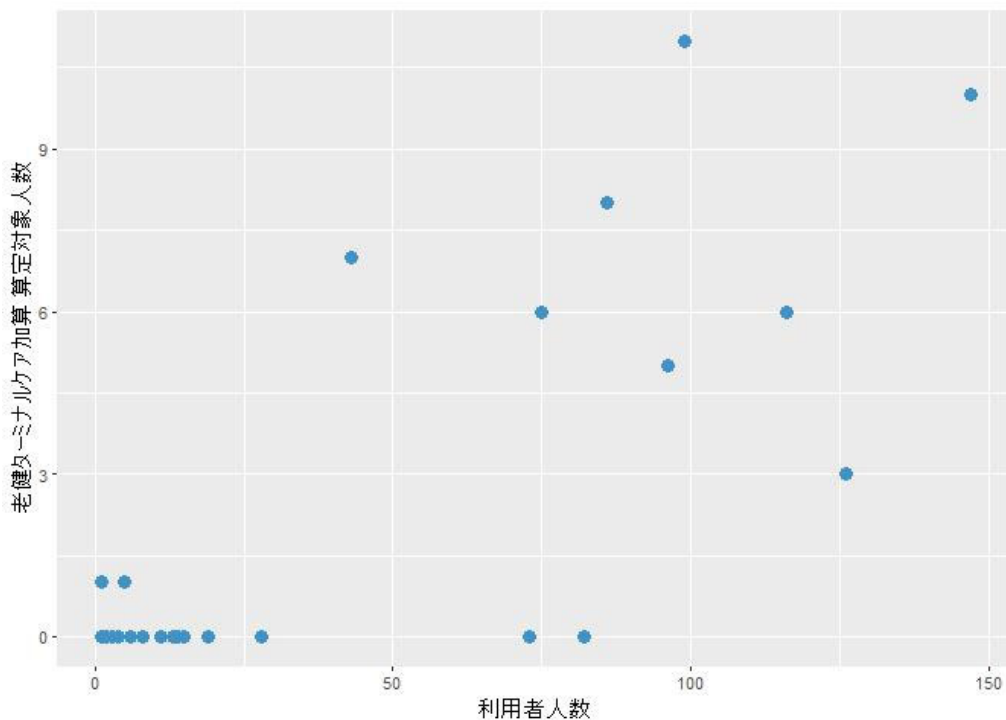
(*) 市原市のデータは介護レセプトデータを集計したもの、全国のデータは介護給付等実態調査 (平成29年5月審査分～平成30年4月審査分) のデータを加工したもの。

図3-2-7 訪問看護 ターミナルケア加算 事業所の傾向 事業所利用人数と算定対象人数



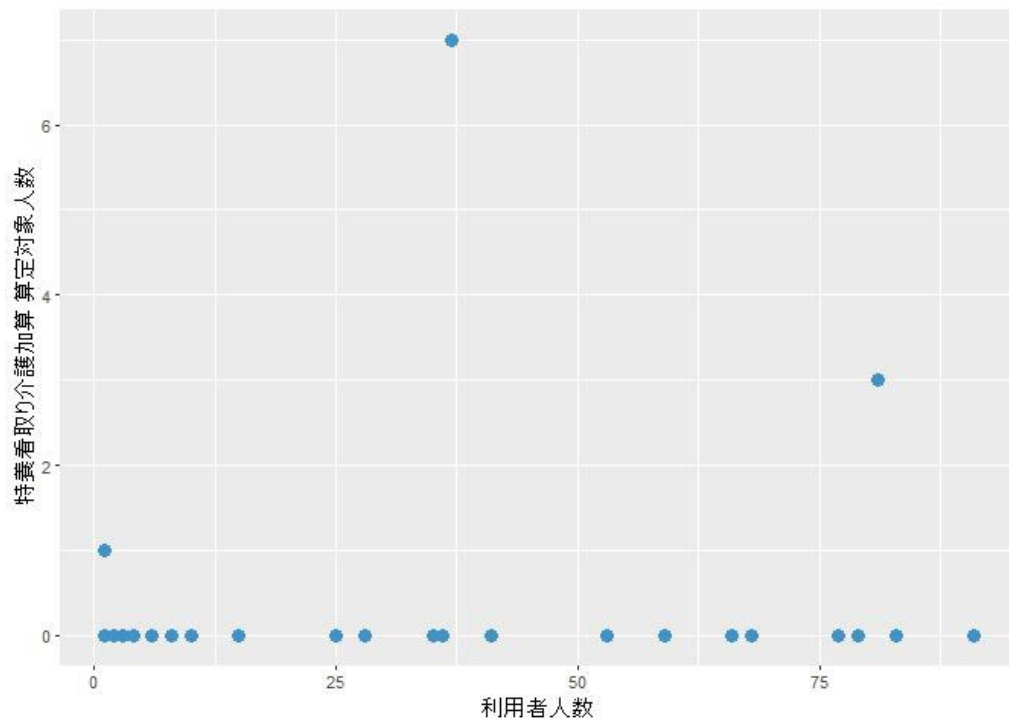
(*) 介護レセプトデータを集計したもの（2017年度）。図の点は、事業所を表している。事業所は、市原市の住民が利用した市原市内及び市外の事業所を含んでいる。

図3-2-8 老健ターミナルケア加算 事業所の傾向 事業所利用人数と算定対象人数



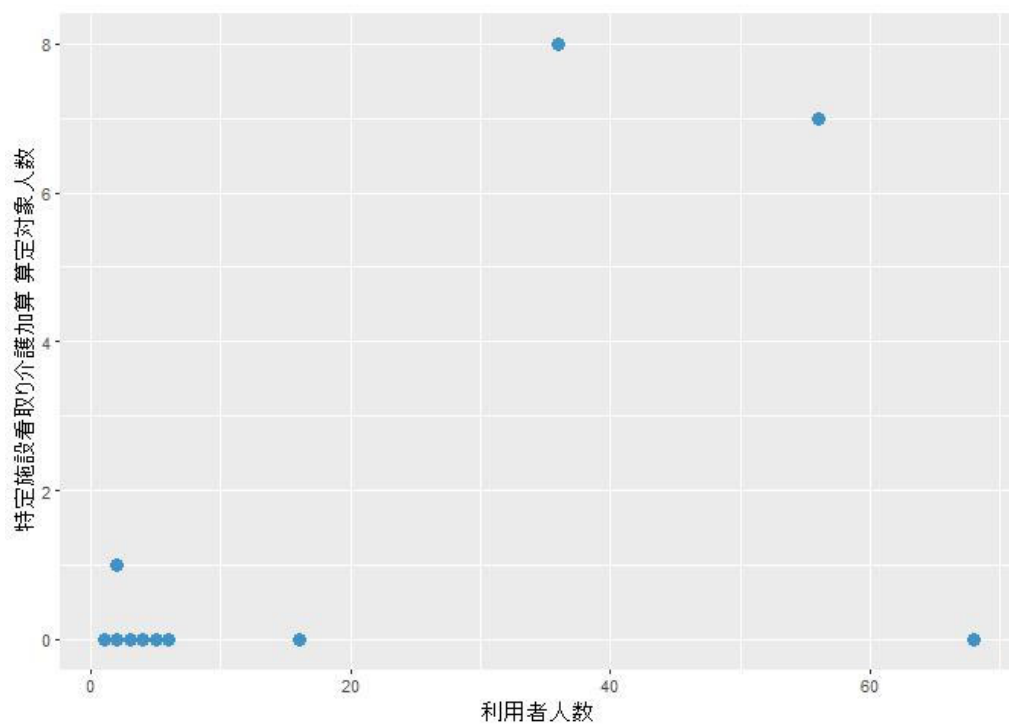
(*) 介護レセプトデータを集計したもの（2017年度）。図の点は、事業所を表している。事業所は、市原市の住民が利用した市原市内及び市外の事業所を含んでいる。

図3-2-9 特養 看取り介護加算 事業所の傾向 事業所利用人数と算定対象人数



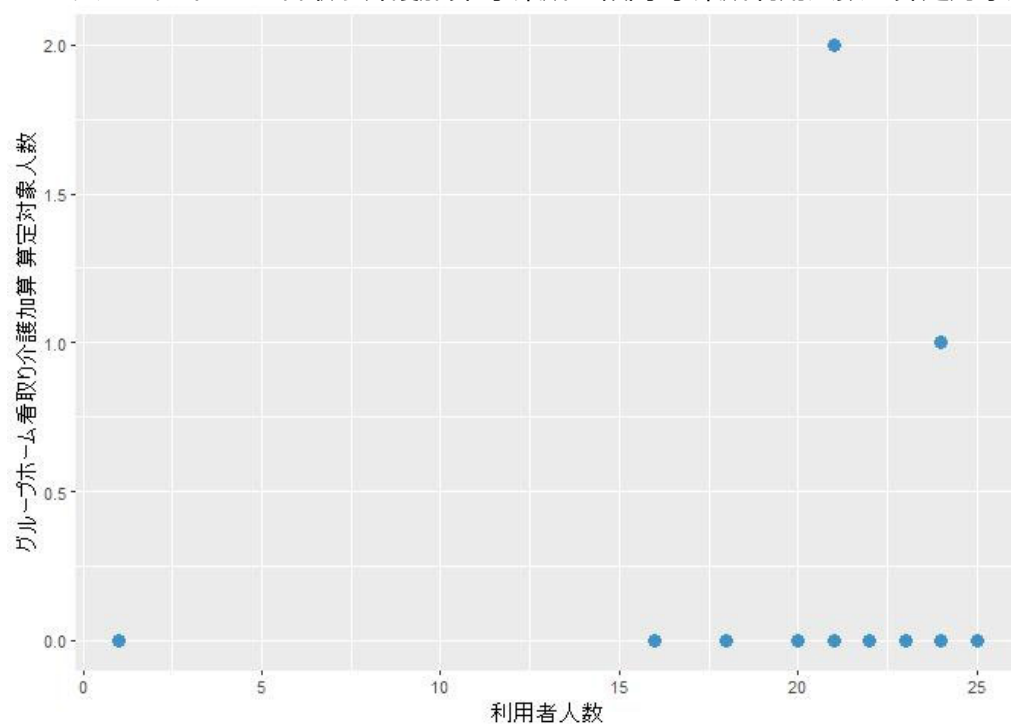
(*) 介護レセプトデータを集計したもの（2017年度）。図の点は、事業所を表している。事業所は、市原市の住民が利用した市原市内及び市外の事業所を含んでいる。

図3-2-10 特定施設看取り介護加算 事業所の傾向 事業所利用人数と算定対象人数



(*) 介護レセプトデータを集計したもの（2017年度）。図の点は、事業所を表している。事業所は、市原市の住民が利用した市原市内及び市外の事業所を含んでいる。

図3-2-11 グループホーム 看取り介護加算 事業所の傾向 事業所利用人数と算定対象人数



(*) 介護レセプトデータを集計したもの（2017年度）。図の点は、事業所を表している。事業所は、市原市の住民が利用した市原市内及び市外の事業所を含んでいる。

分析の観点4：日常生活圏域毎の新規認定割合の傾向

◎ 分析の観点4:日常生活圏域毎の新規認定割合の傾向

(集計・分析の主旨)

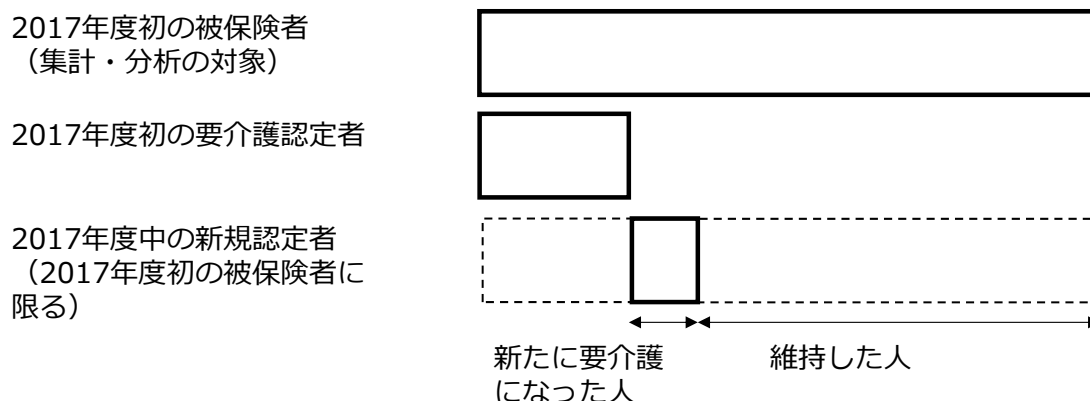
- ・ 介護予防の施策は、各日常生活圏域の取り組みに特徴があり、各日常生活圏域の新規認定者の割合を把握することは有効と考えられる。ここでは認定データにより新規認定者数を集計・分析し、高齢化率と合わせてみるなどして日常生活圏域毎等の傾向を確認する
- ・ 日常生活圏域毎のデータ集計・結果を、日常生活圏域毎の介護予防施策の状況と関連付けて検討することにより、次の施策を考える際の検討材料の一つとすることを想定する

(集計・分析の方法)

- ・ 今回の他のデータ分析の観点と異なり、この分析観点では、要介護状態になっていない方を含めて被保険者全体を対象とする。但し、今回の対象データには、被保険者全体の性別・年齢階級データは含まれていないため（要介護認定者については、認定データの性別・年齢階級を使用）、日常生活圏域毎の性別・年齢階級別の人口データ（市原市のホームページで公開されているデータ）を用いて分析する
- ・ ある期間の開始時の被保険者を対象とし、そのうち要介護状態でなかった人のうち、どの程度の割合の人が新規認定されたかという集計を行う
- ・ 介護予防の取り組みは、主に軽度（要支援1・2要介護1・2）の新規の要介護状態にならないことに関係しているとも考えられるので、全体の新規認定の集計・分析と合わせて、軽度の要介護度の新規認定について集計・分析する

◎ 分析の観点4:日常生活圏域毎の新規認定割合の傾向

(新規認定のオッズ比の説明図) ・ ・ ・ 対象期間を2017年度とした場合の例



(*1) ある日常生活圏域のある期間の新規認定オッズ

(新たに要介護状態になった人数) ÷ (要介護状態にならなかった人数)

(*2) ある日常生活圏域のある期間の新規認定オッズ比 (比較対象となる日常生活圏域を決めて計算する)

(ある日常生活圏域の新規認定オッズ) ÷ (比較対象となる日常生活圏域の新規認定オッズ)

(*3) 期間中に転入して、新規認定となった方は、この集計・分析には含んでいない

(*4) 認定データにより期間開始時の要介護者を把握しているため、実際よりやや少なく集計される (データ収集期間に、期間開始日を有効期間に含む認定データがない場合、転入者等)

◎ 分析の観点4:日常生活圏域毎の新規認定割合の傾向

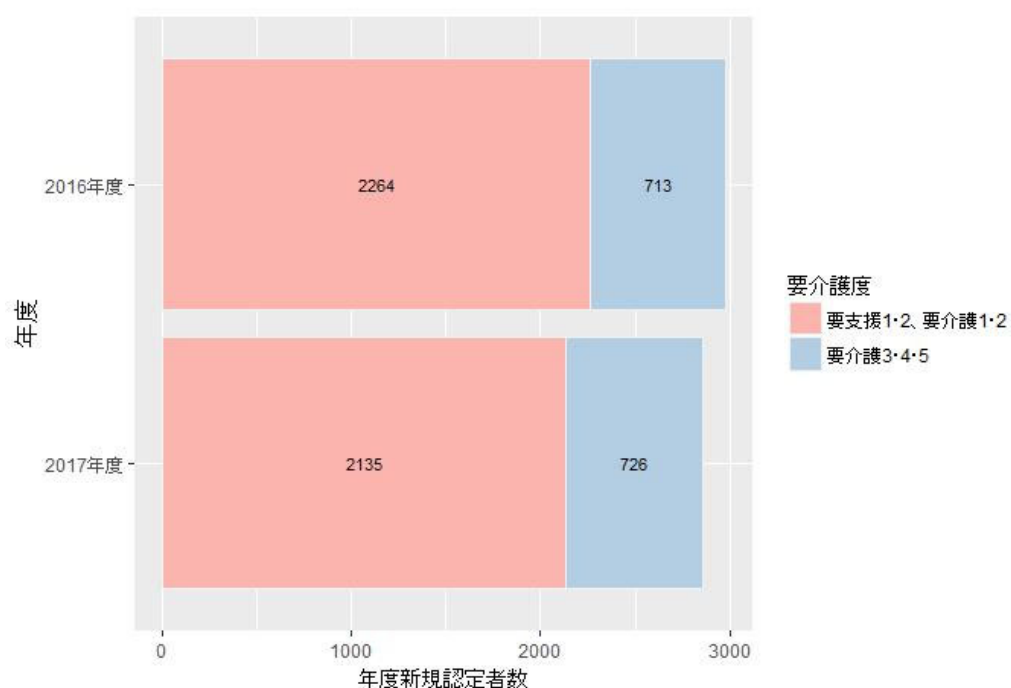
(主な集計・分析結果)

- ・ 新規認定者数の2016年度から2017年度への年次推移を新規認定者全体でみると減少傾向にあるが、中重度の新規認定者、特別の医療の必要性のある新規認知者数は増加している
- ・ 日常生活圏域別に高齢者人口の最も多い五井東との比較で、新規認定者の割合の多い日常生活圏域、少ない日常生活圏域があるとの結果が得られた。集計方法の制約を考慮して使用する必要がある

(主な集計・分析結果の一覧) (1/3)

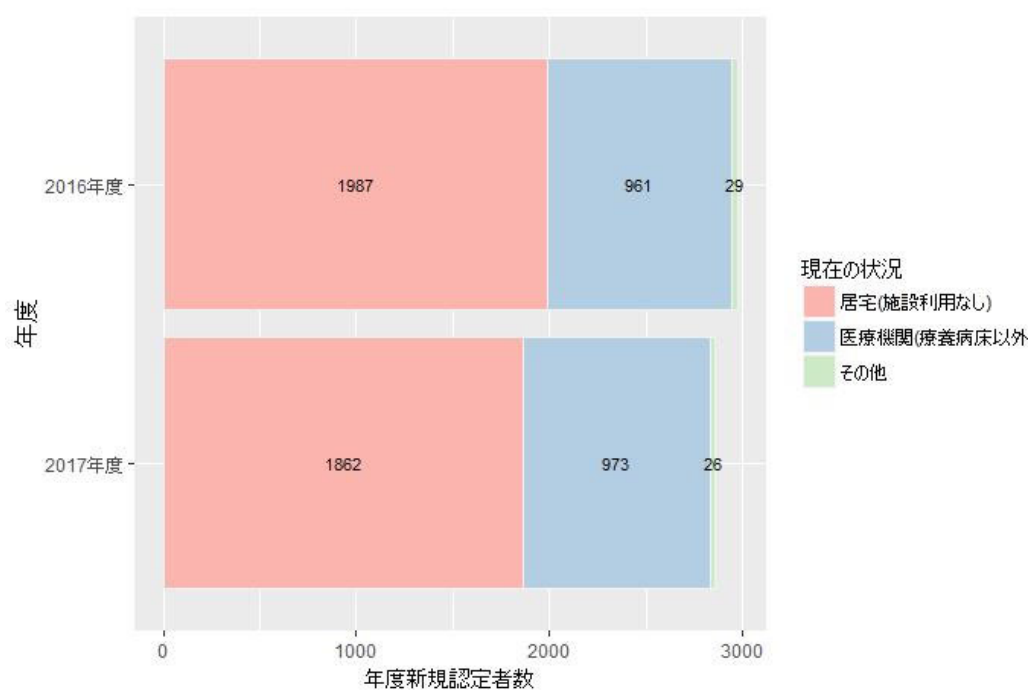
新規認定の年次推移 (2016年度-2017年度)	・ 2016年度と比べて2017年度の新規認定者数は減っているが、要介護3・4・5の新規認定者数は増加している (図4-1-1) ・ 特別な医療の必要な新規認定者、認定時の現在の場所が医療期間 (療養病床以外) である新規認定者数は、いずれも増加している (図4-1-2、図4-1-3)
期初認定者、期中新規認定者の傾向 (2016-2017年度)	・ 期初の認定者の割合、期中の新規認定者の割合とも日常生活圏域によってばらつきがある。また年度により多少差異がある (図4-2-1a、図4-2-1b)

図4-1-1 新規認定の年次推移 ～ 軽度と中重度



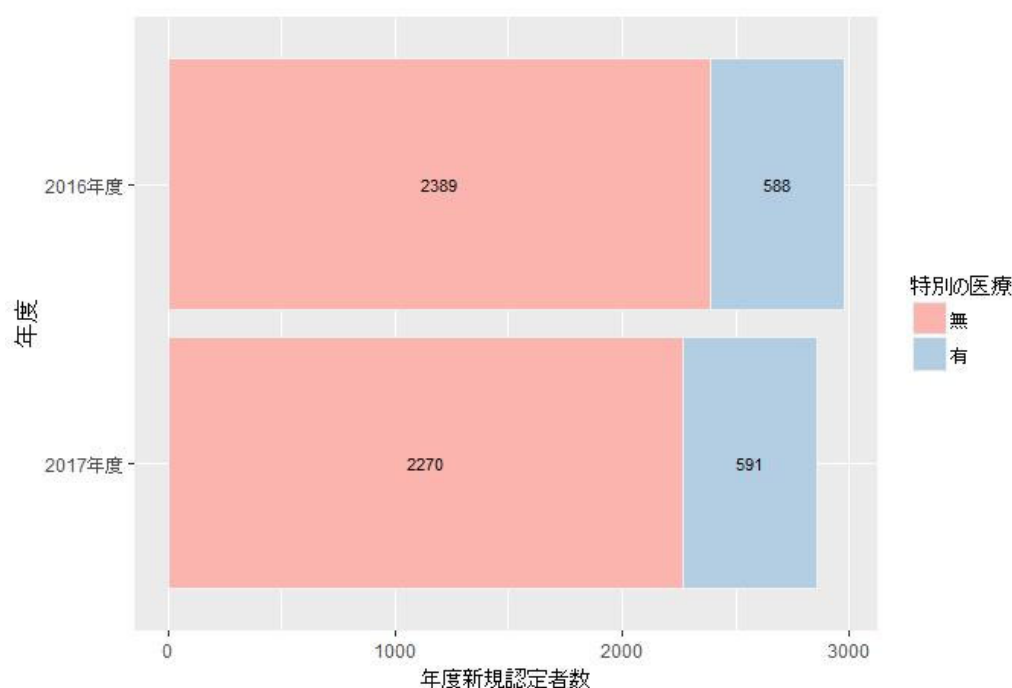
(*) 介護認定データより集計。2016年度および2017年度の介護認定データのうち認定区分が新規認定であるデータにより集計している。

図4-1-2 新規認定の年次推移 ～ 「現在の状況」（場所）が医療機関の新規認定



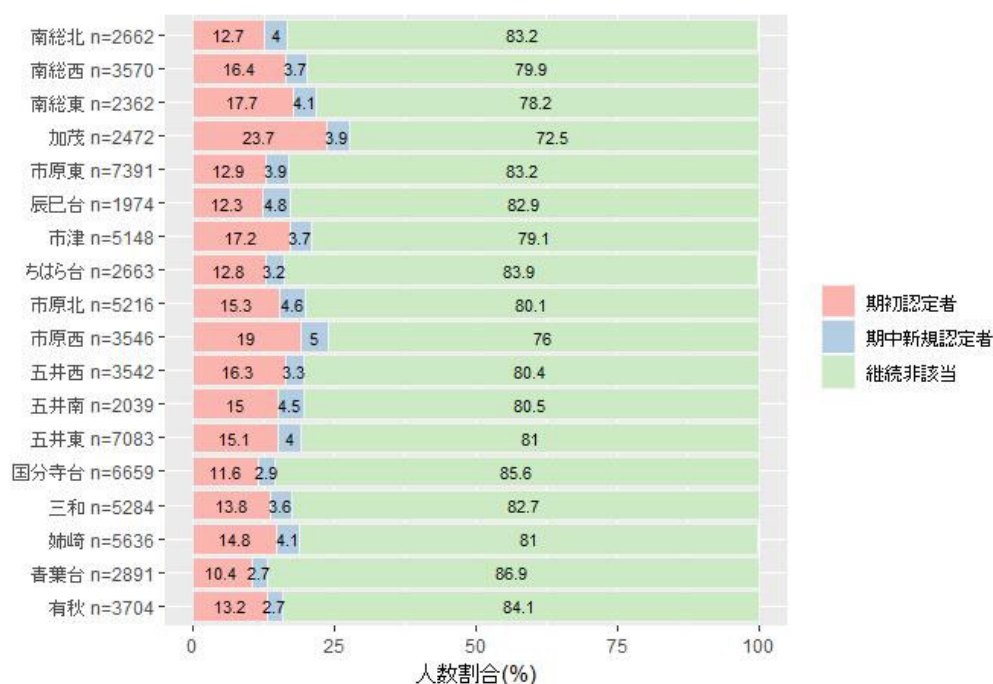
(*) 介護認定データより集計。2016年度および2017年度の介護認定データのうち認定区分が新規認定であるデータにより集計している。

図4-1-3 新規認定の年次推移 ～ 特別な医療の必要性のある新規認定



(*) 介護認定データより集計。2016年度および2017年度の介護認定データのうち認定区分が新規認定であるデータにより集計している。

図4-2-1a 日常生活圏域毎の期初認定者、期中新規認定者の傾向 ～ 65歳以上 2016年度



(*) 介護認定データより集計。日常生活圏域毎の高齢者数は、市原市ホームページのデータより加工。日常生活圏域毎の期初の要介護認定者数および期中の新規認定者数は、介護認定データにより集計している。介護認定データの日常生活圏域は、被保険者資格データに収録されている郵便番号により判断している。

図4-2-1b日常生活圏域毎の期初認定者、期中新規認定者の傾向 ～ 65歳以上 2017年度



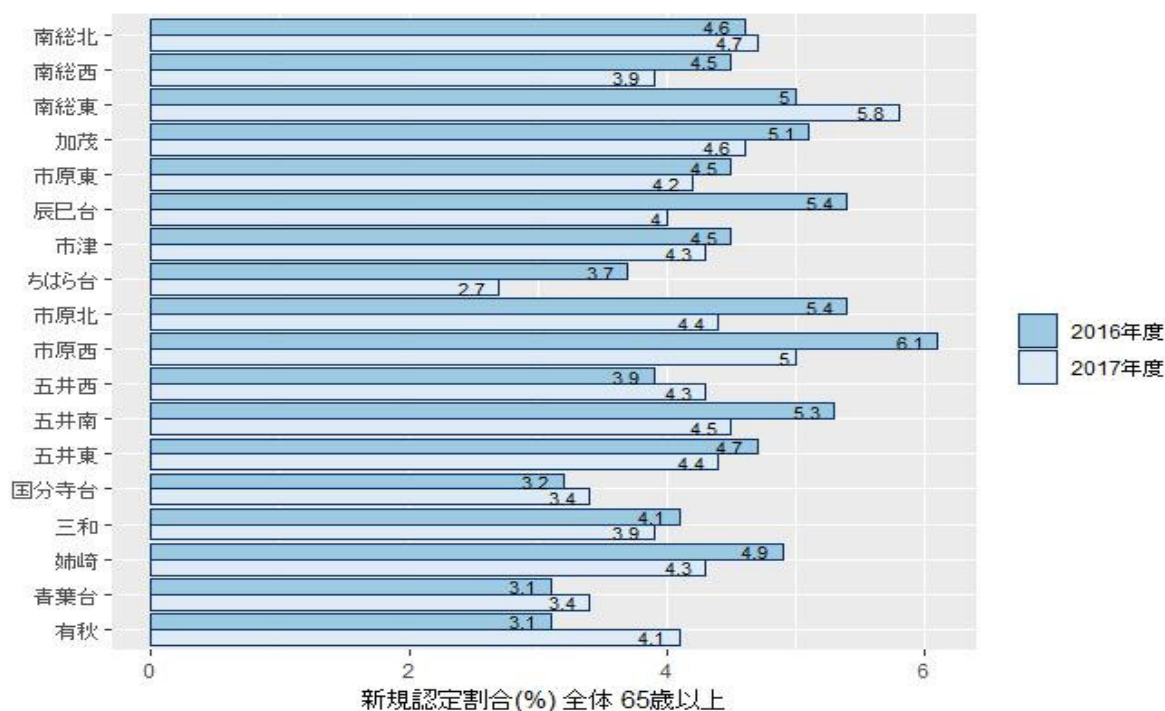
(*) 介護認定データより集計。日常生活圏域毎の高齢者数は、市原市ホームページのデータより加工。日常生活圏域毎の期初・期中の要介護認定者数および期中の新規認定者数は、介護認定データにより集計している。介護認定データの日常生活圏域は、被保険者資格データに収録されている郵便番号により判断している。

◎ 分析の観点4:日常生活圏域毎の新規認定割合の傾向

(主な集計・分析結果の一覧) (2/3)

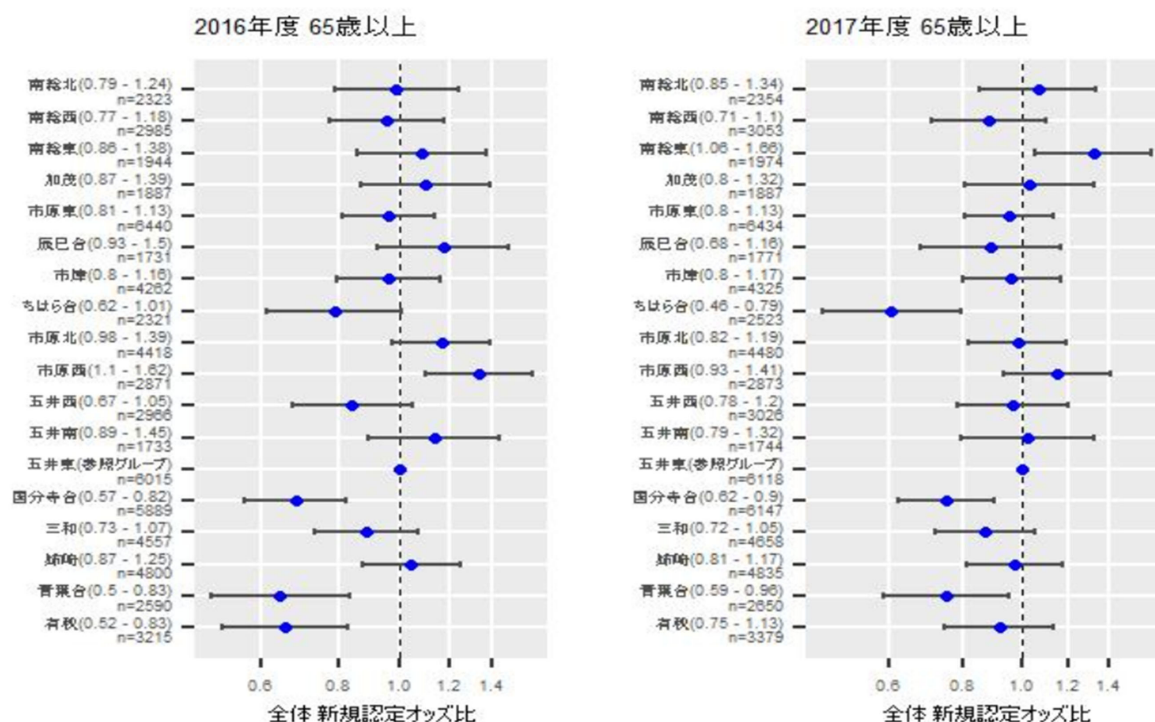
日常生活圏域毎の新規認定割合の増減 (2016年度-2017年度)	2016年度から2017年度に増加している日常生活圏域（南総東、有秋等）、減少している日常生活圏域（辰巳台、市原西等）がある（図4-3-1）
日常生活圏域による新規認定割合の差異 (2016年度、2017年度)	2016年度は、国分寺台、青葉台、有秋が低く、市原西が高い（図4-3-2、図4-3-3a） 2017年度は、ちはら台、国分寺台、青葉台が低く、南総東が高い（図4-3-2、図4-3-3b）
日常生活圏域による高齢化率と新規認定割合の傾向（2016年度、2017年度）	2016年度は、青葉台は高齢化を考慮すると低く、辰巳台は高齢化を考慮すると高くなっている（図4-3-4a） 2017年度は、南総東は高齢化を考慮しても高く、青葉台は高齢化を考慮すると低くなっている（図4-3-3b）

図4-3-1 日常生活圏域毎の新規認定割合の増減 ～ 65歳以上 2016-2017年度



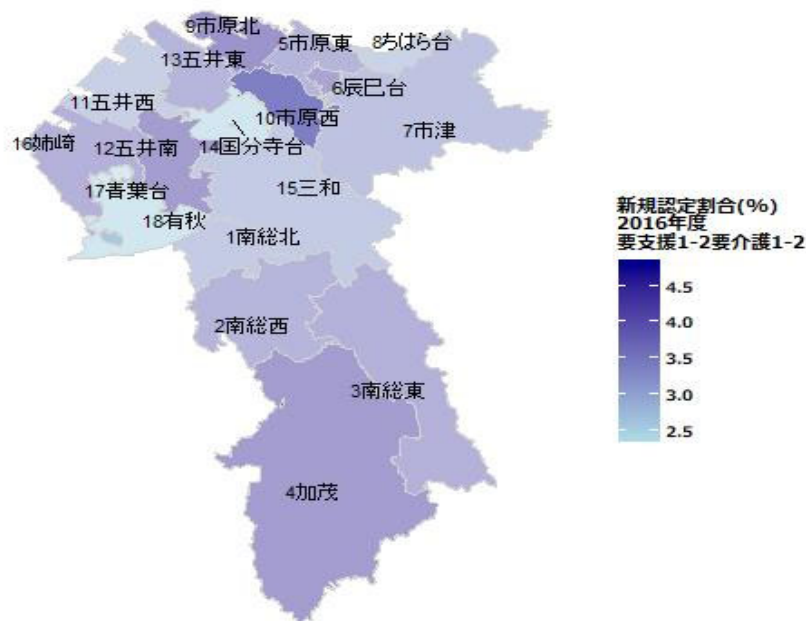
(*) 介護認定データより集計。日常生活圏域毎の高齢者数は、市原市ホームページを参照して加工。日常生活圏域毎の期初の要介護認定者数および期中の新規認定者数は、介護認定データにより集計している。日常生活圏域毎の要介護認定者数は、被保険者資格データに収録されている郵便番号により判断している。

図4-3-2 日常生活圏域毎の新規認定の傾向 ～ 65歳以上 オッズ比



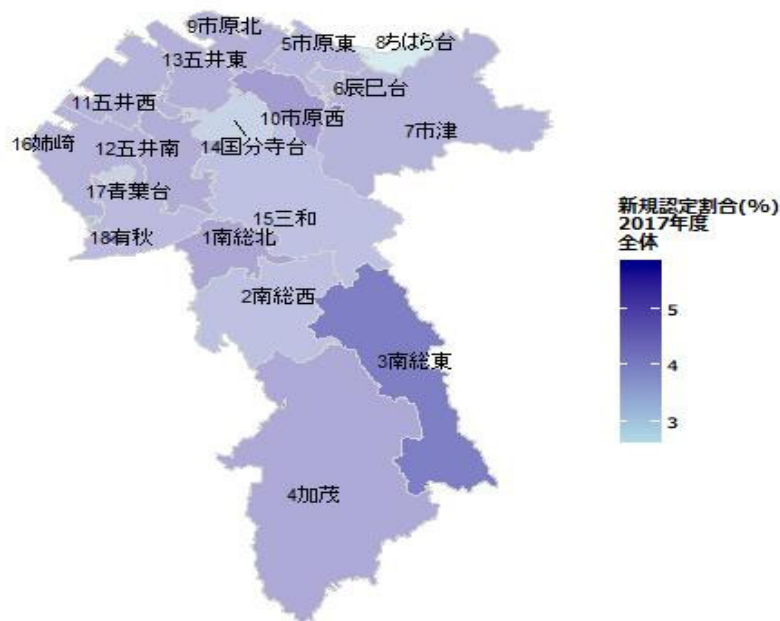
(*) 介護認定データより集計。日常生活圏域毎の高齢者数は、市原市ホームページを参照して加工。日常生活圏域毎の期初の要介護認定者数および期中の新規認定者数は、介護認定データにより集計している。日常生活圏域毎の要介護認定者数は、被保険者資格データに収録されている郵便番号により判断している。オッズ比では各日常生活圏域を、人口が最も多い五井東と比較している。

図4-3-3a 日常生活圏域毎の新規認定の傾向 ～ 65歳以上 2016年度 マップ



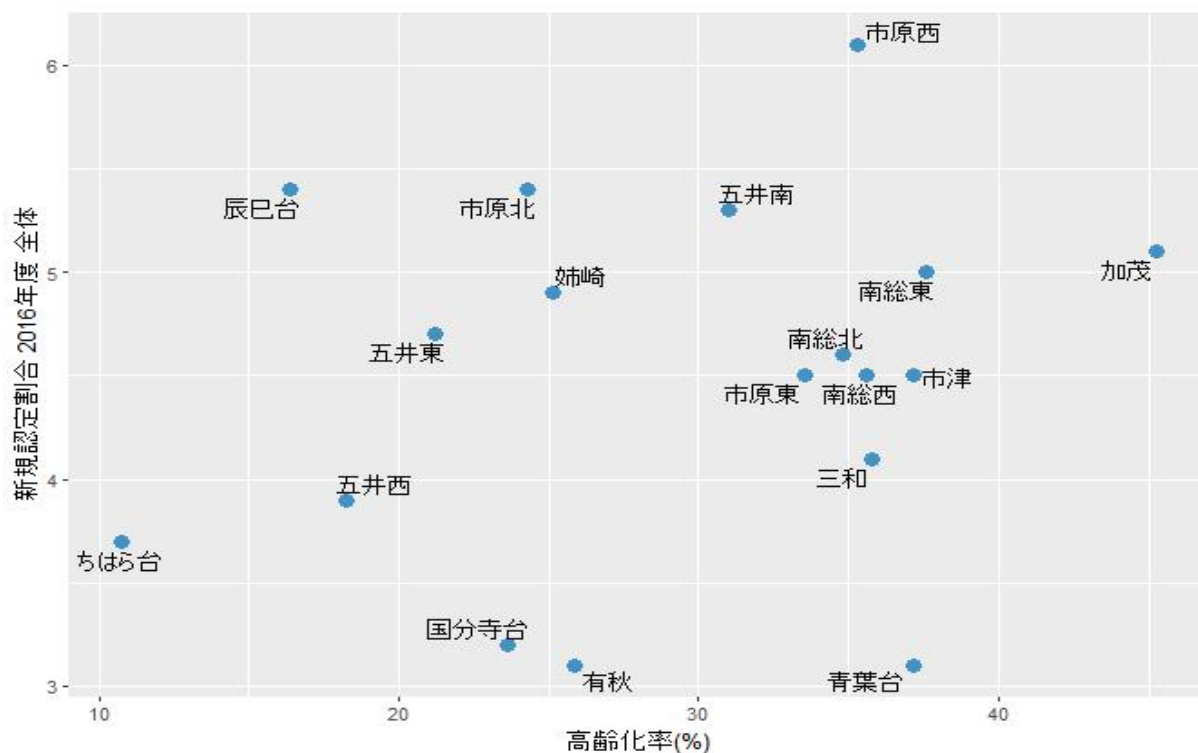
(*) 介護認定データより集計。日常生活圏域毎の高齢者数は、市原市ホームページを参照して加工。日常生活圏域毎の期初の要介護認定者数および期中の新規認定者数は、介護認定データにより集計している。日常生活圏域毎の要介護認定者数は、被保険者資格データに収録されている郵便番号により判断している。

図4-3-3b 日常生活圏域毎の新規認定の傾向 ～ 65歳以上 2017年度 マップ



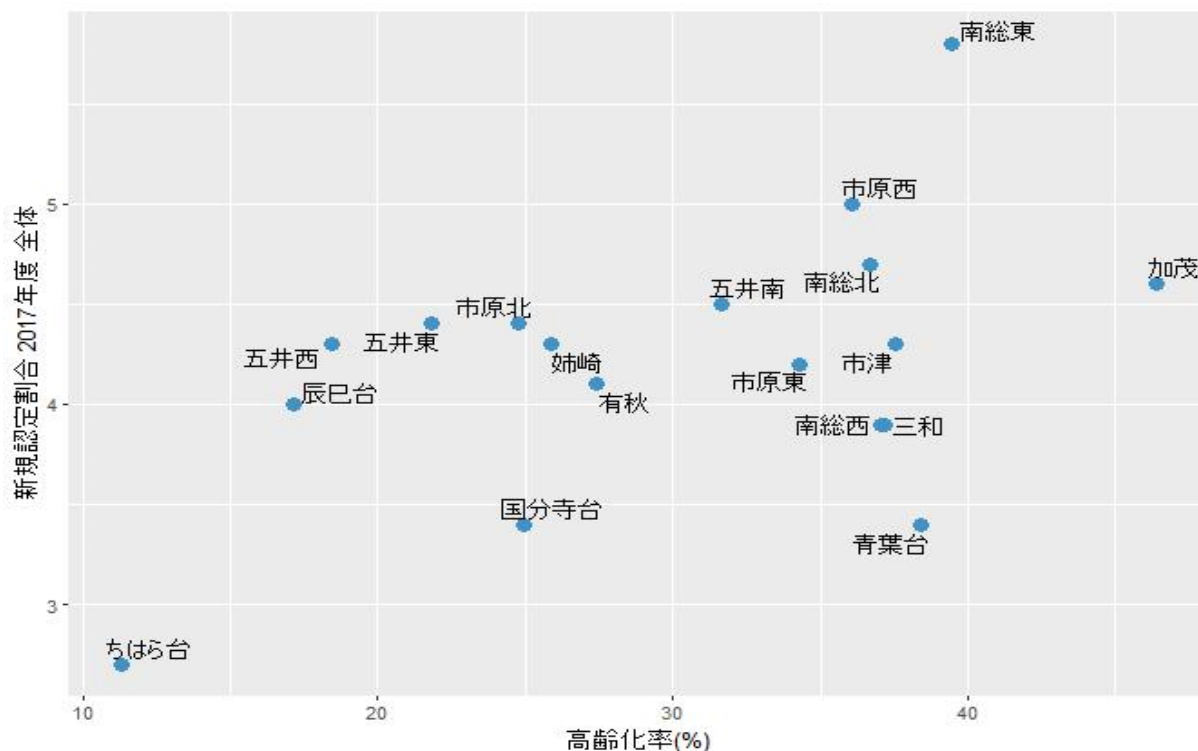
(*) 介護認定データより集計。日常生活圏域毎の高齢者数は、市原市ホームページを参照して加工。日常生活圏域毎の期初の要介護認定者数および期中の新規認定者数は、介護認定データにより集計している。日常生活圏域毎の要介護認定者数は、被保険者資格データに収録されている郵便番号により判断している。

図4-3-4a 日常生活圏域毎の高齢化率と新規認定の傾向 ～ 65歳以上 2016年度



(*) 介護認定データより集計。日常生活圏域毎の高齢者率は、市原市ホームページを参照して加工。日常生活圏域毎の期初の要介護認定者数および期中の新規認定者数は、介護認定データにより集計している。日常生活圏域毎の要介護認定者数は、被保険者資格データに収録されている郵便番号により判断している。

図4-3-4b 日常生活圏域毎の高齢化率と新規認定の傾向 ～ 65歳以上 2017年度



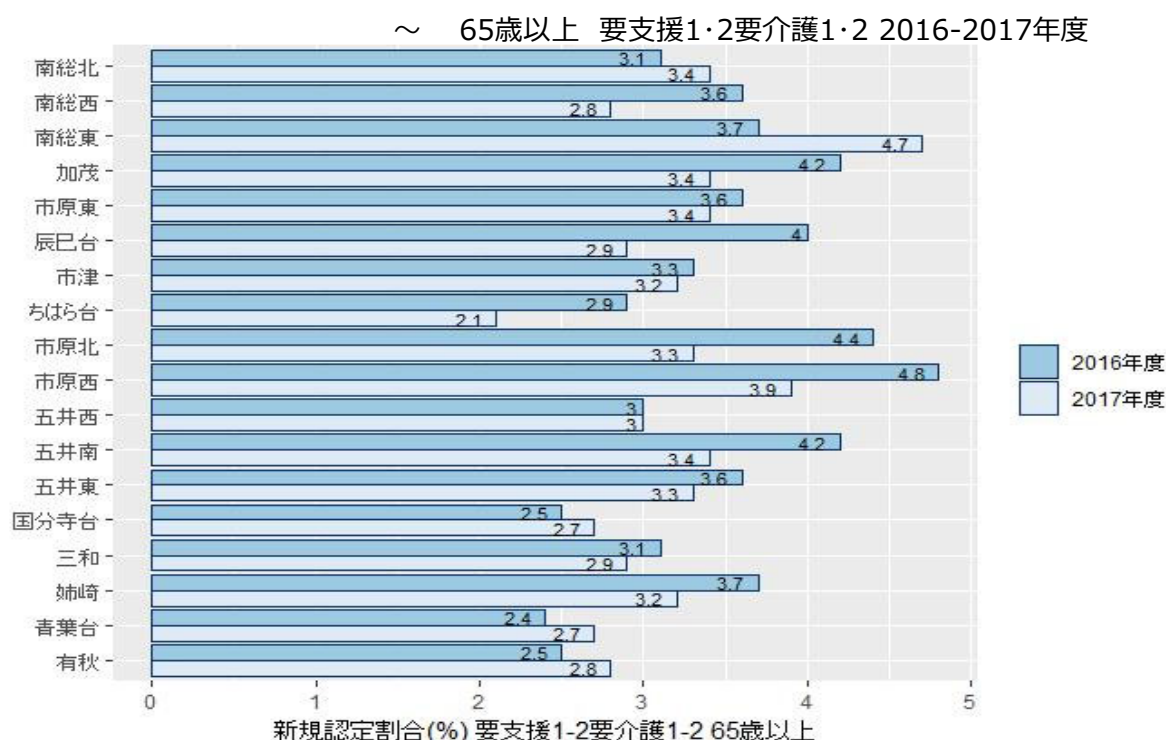
(*) 介護認定データより集計。日常生活圏域毎の高齢者率は、市原市ホームページを参照して加工。日常生活圏域毎の期初の要介護認定者数および期中の新規認定者数は、介護認定データにより集計している。日常生活圏域毎の要介護認定者数は、被保険者資格データに収録されている郵便番号により判断している。

◎ 分析の観点4:日常生活圏域毎の新規認定割合の傾向

(主な集計・分析結果の一覧) (3/3)

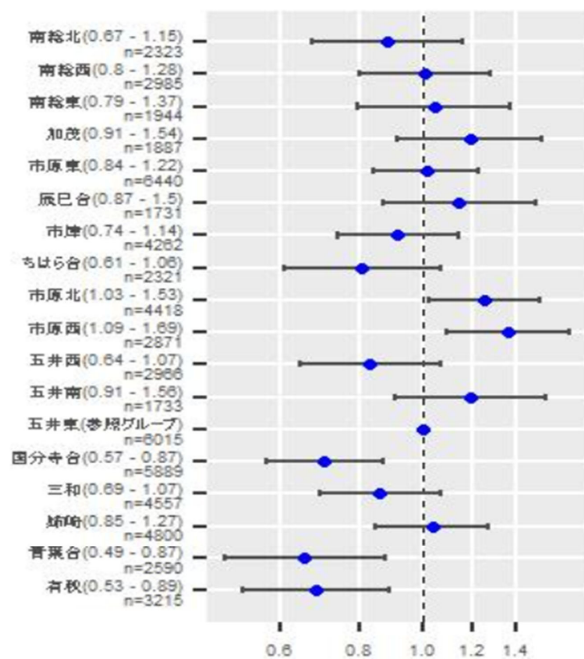
日常生活圏域毎の新規認定割合の増減 要支援1・2要介護1・2 (2016年度-2017年度)	・ 2016年度から2017年度に増加している日常生活圏域（南総東等）、減少している日常生活圏域（辰巳台、市原西等）がある（図4-4-1）
日常生活圏域による新規認定割合の差異 要支援1・2要介護1・2 (2016年度、2017年度)	・ 2016年度は、国分寺台、青葉台、有秋が低く、市原北、市原西が高い（図4-4-2a、図4-4-3a） ・ 2017年度は、ちはら台が低く、南総東が高い（図4-4-2a、図4-4-3b） ・ 65-74歳では、2016年度は市津、ちはら台、五井西、国分寺台、青葉台、有秋が低く、2017年度は特に差異はない（図4-4-2b） ・ 75-84歳では、2016年度は三和、青葉台が低く、2017年度は南総西が低い（図4-4-2c） ・ 85歳以上では、2016年度は南総西、辰巳台、市原北、市原西、五井南、三和、有秋が高く、2017年は南総東、市原西が高い（図4-4-2d）
日常生活圏域による高齢化率と新規認定割合の傾向 要支援1・2要介護1・2 (2016年度、2017年度)	・ 2016年度は、青葉台は高齢化を考慮すると低くなっている（図4-4-4a） ・ 2017年度は、南総東は高齢化を考慮しても高く、青葉台は高齢化を考慮すると低くなっている（図4-4-4b）

図4-4-1 日常生活圏域毎の新規認定割合の増減

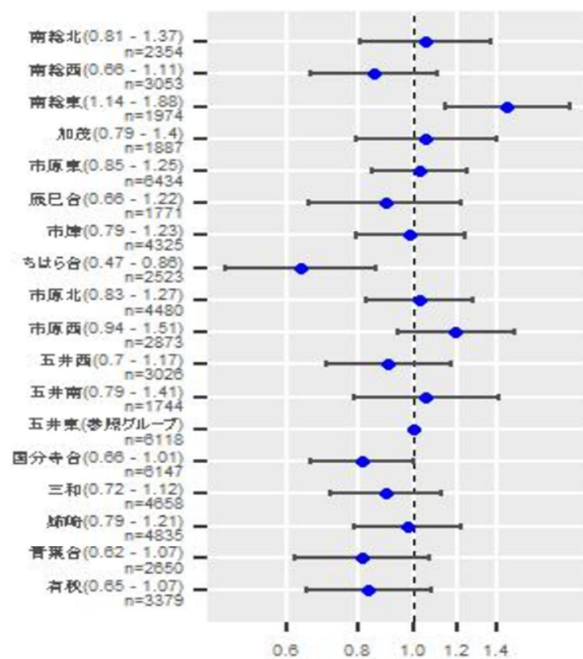


(*) 介護認定データより集計。日常生活圏域毎の高齢者数は、市原市ホームページを参照して加工。日常生活圏域毎の期初の要介護認定者数および期中の新規認定者数は、介護認定データにより集計している。日常生活圏域毎の要介護認定者数は、被保険者資格データに収録されている郵便番号により判断している。

図4-4-2a 日常生活圏域毎の新規認定の傾向 ～ 2016年度 65歳以上



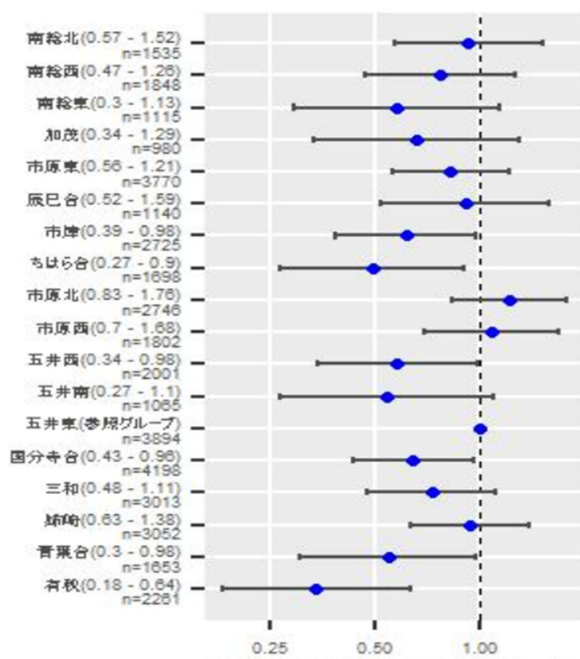
65歳以上要支援1・2要介護1・2 オッズ比 2017年度 65歳以上



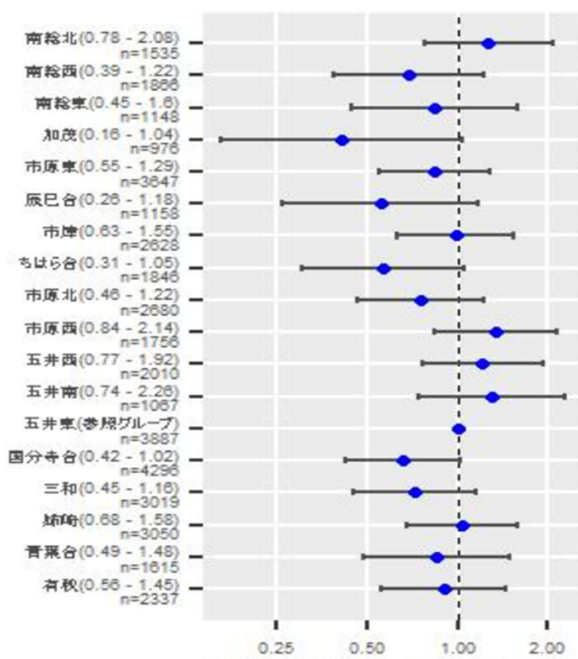
(*) 介護認定データより集計。日常生活圏域毎の高齢者数は、市原市ホームページを参照して加工。

日常生活圏域毎の期初に要介護認定者数および期中の新規認定者数は、介護認定データにより集計している。日常生活圏域毎の要介護認定者数は、被保険者資格データに収録されている郵便番号により判断している。オッズ比では各日常生活圏域を、人口が最も多い五井東と比較している。

図4-4-2b 日常生活圏域毎の新規認定の傾向 ～ 2016年度 65-74歳



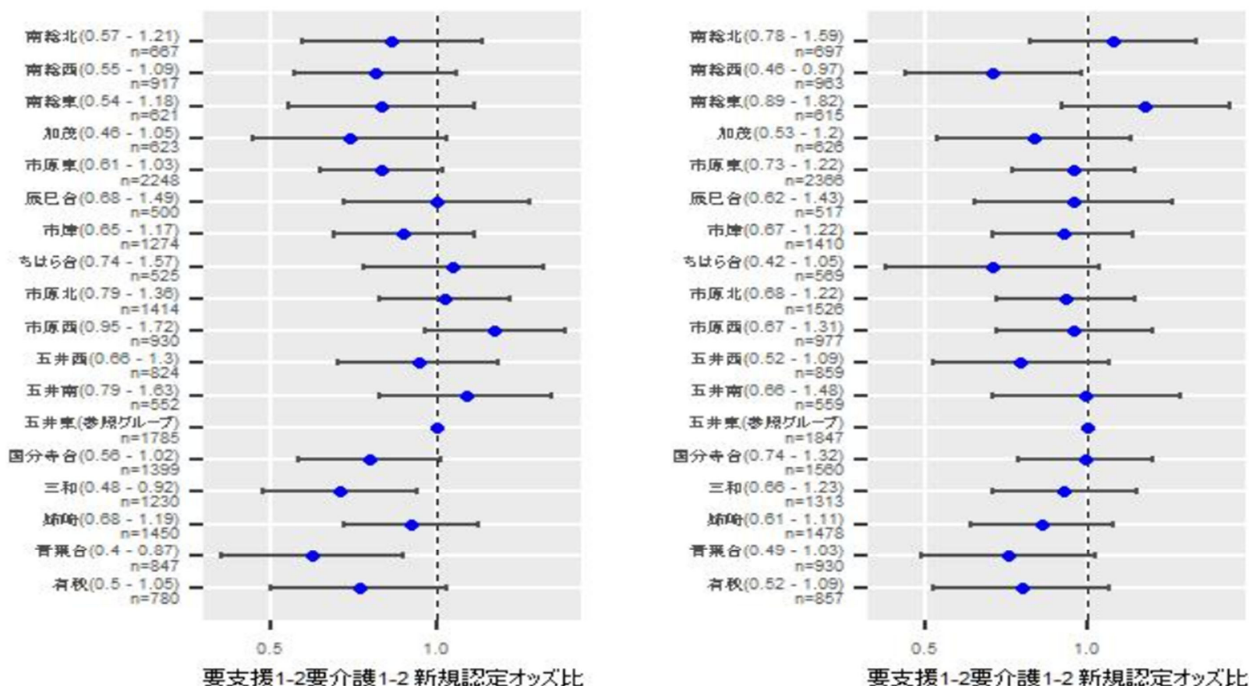
65歳-74歳 要支援1・2要介護1・2 オッズ比 2017年度 65-74歳



(*) 介護認定データより集計。日常生活圏域毎の高齢者数は、市原市ホームページを参照して加工。

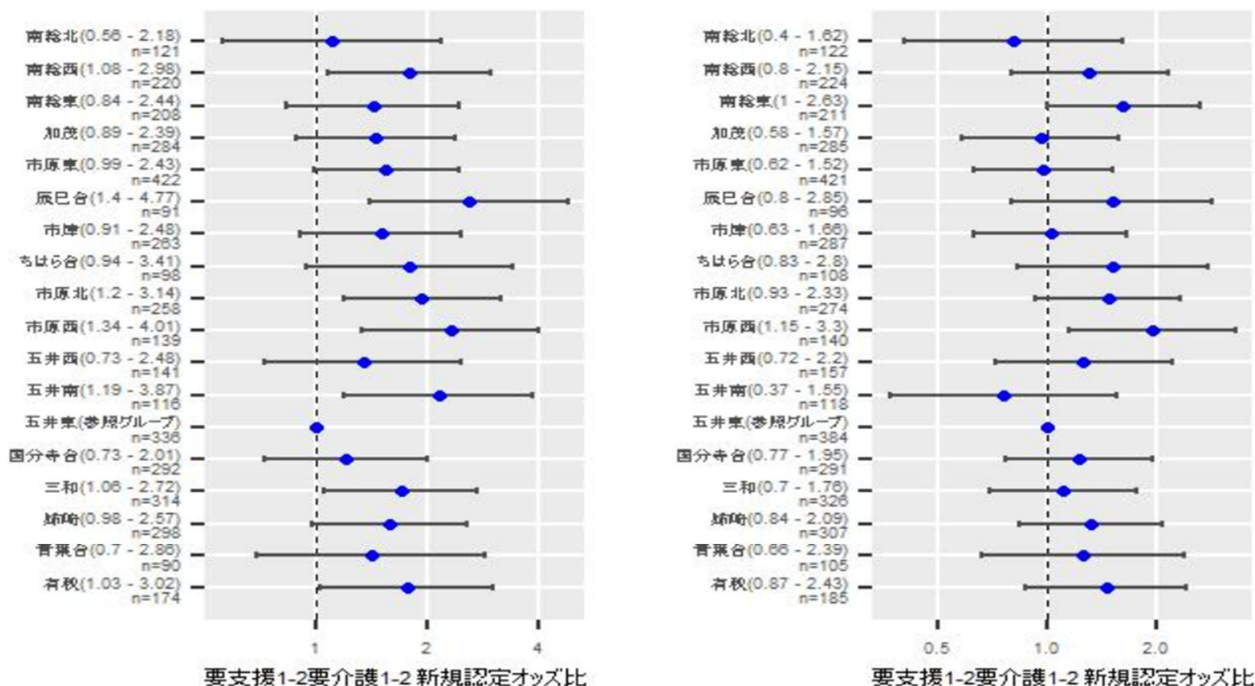
日常生活圏域毎の期初に要介護認定者数および期中の新規認定者数は、介護認定データにより集計している。日常生活圏域毎の要介護認定者数は、被保険者資格データに収録されている郵便番号により判断している。オッズ比では各日常生活圏域を、人口が最も多い五井東と比較している。

図4-4-2c 日常生活圏域毎の新規認定の傾向 ～ 75-84歳 要支援1・2要介護1・2 オッズ比
2016年度 75-84歳 2017年度 75-84歳



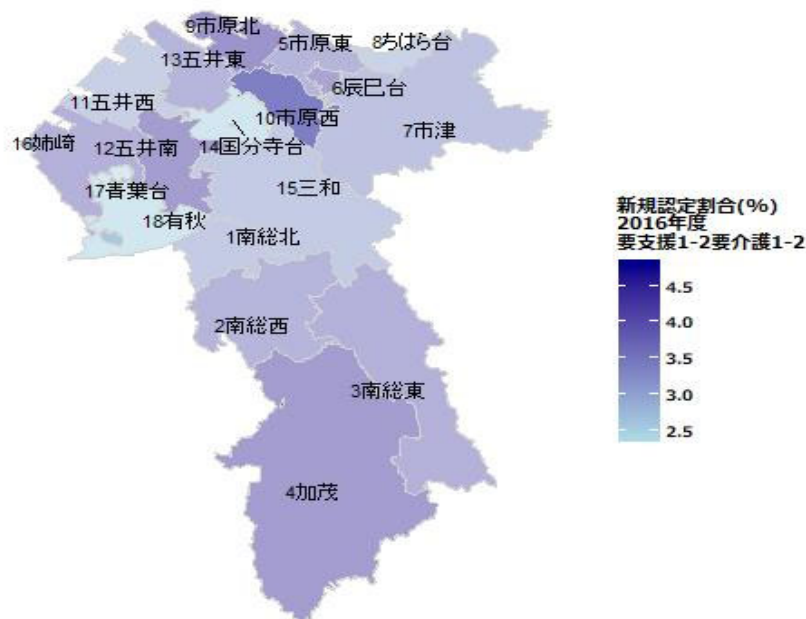
(*) 介護認定データより集計。日常生活圏域毎の高齢者数は、市原市ホームページを参照して加工。日常生活圏域毎の期初の要介護認定者数および期中の新規認定者数は、介護認定データにより集計している。日常生活圏域毎の要介護認定者数は、被保険者資格データに収録されている郵便番号により判断している。オッズ比では各日常生活圏域を、人口が最も多い五井東と比較している。

図4-4-2d 日常生活圏域毎の新規認定の傾向 ～ 85歳以上要支援1・2要介護1・2 オッズ比
2016年度 85歳以上 2017年度 85歳以上



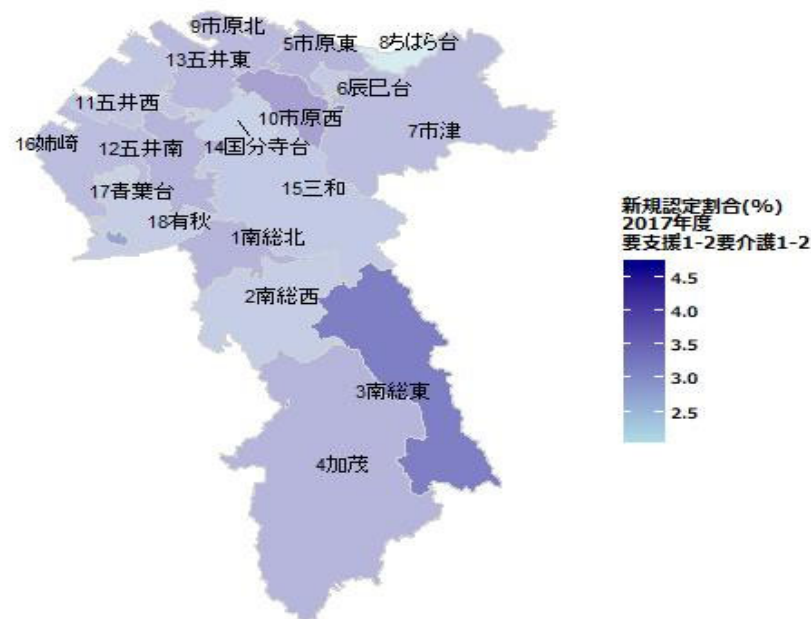
(*) 介護認定データより集計。日常生活圏域毎の高齢者数は、市原市ホームページを参照して加工。日常生活圏域毎の期初の要介護認定者数および期中の新規認定者数は、介護認定データにより集計している。日常生活圏域毎の要介護認定者数は、被保険者資格データに収録されている郵便番号により判断している。オッズ比では各日常生活圏域を、人口が最も多い五井東と比較している。

図4-4-3a 日常生活圏域毎の新規認定の傾向 ～ 65歳以上要支援1・2要介護1・2 2016年度 マップ



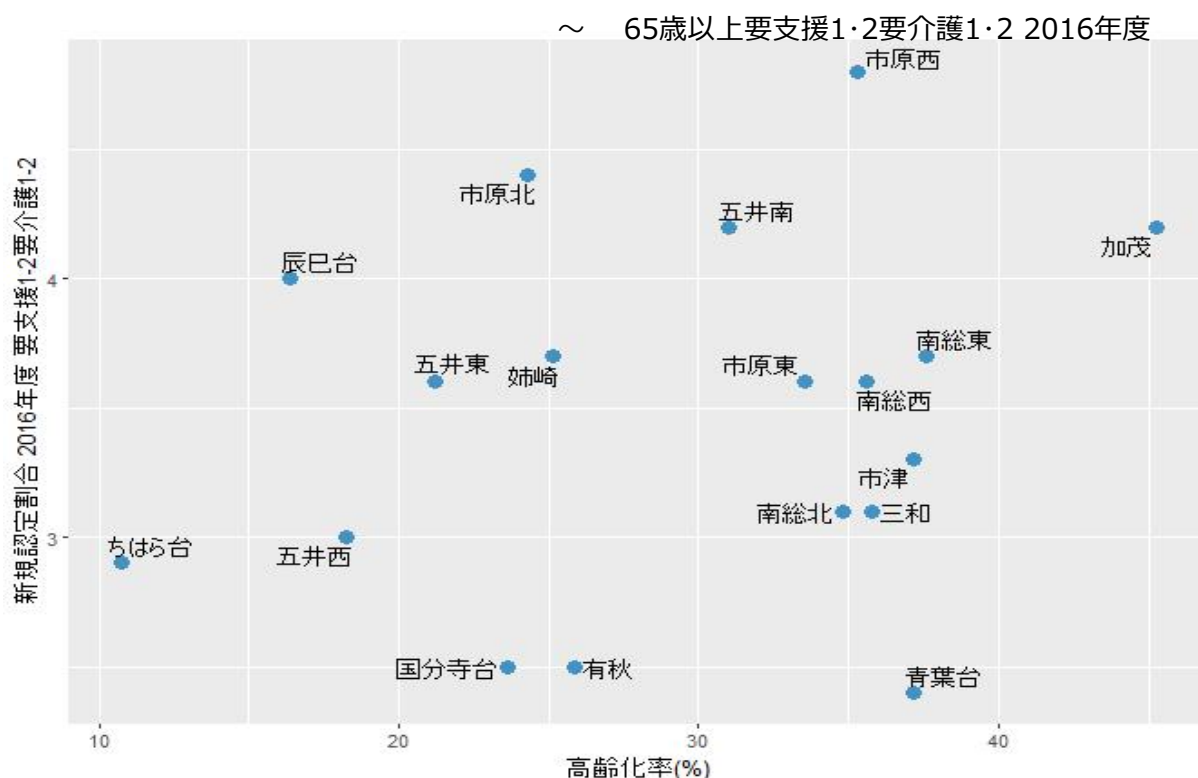
(*) 介護認定データより集計。日常生活圏域毎の高齢者数は、市原市ホームページを参照して加工。日常生活圏域毎の期初の要介護認定者数および期中の新規認定者数は、介護認定データにより集計している。日常生活圏域毎の要介護認定者数は、被保険者資格データに収録されている郵便番号により判断している。

図4-4-3b 日常生活圏域毎の新規認定の傾向 ～ 65歳以上要支援1・2要介護1・2 2017年度 マップ



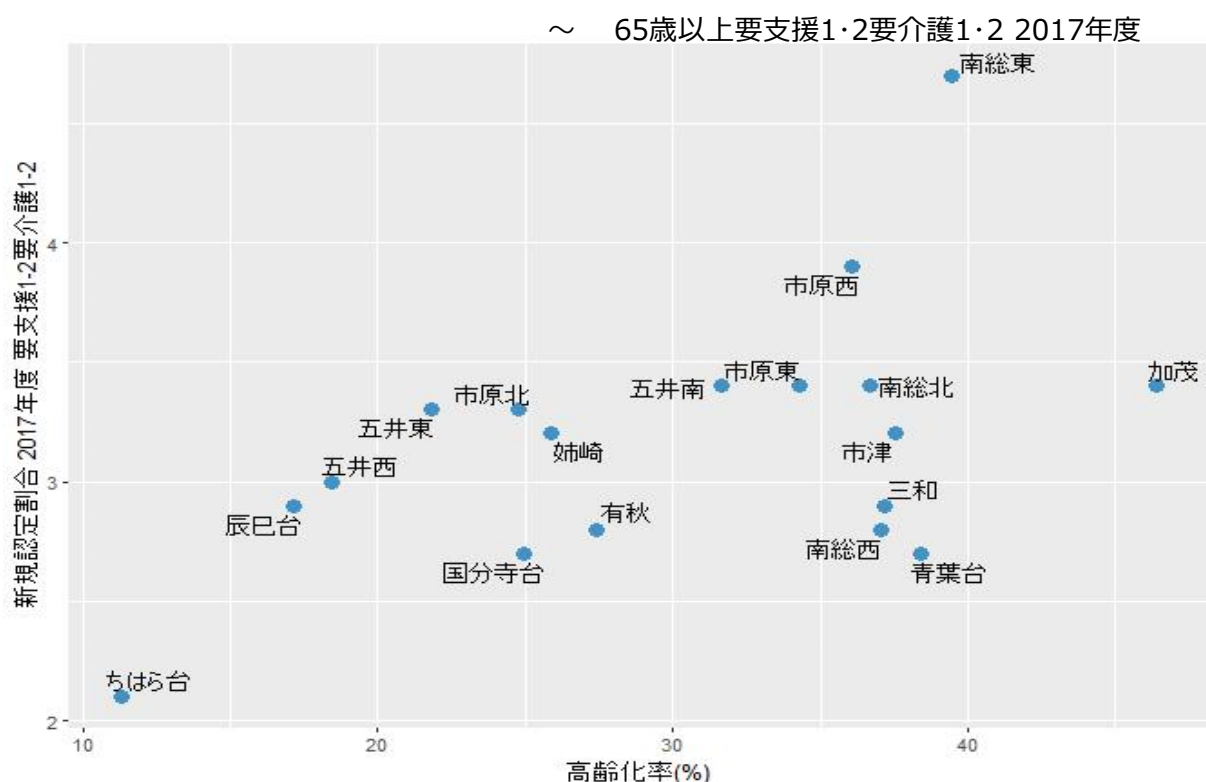
(*) 介護認定データより集計。日常生活圏域毎の高齢者数は、市原市ホームページを参照して加工。日常生活圏域毎の期初の要介護認定者数および期中の新規認定者数は、介護認定データにより集計している。日常生活圏域毎の要介護認定者数は、被保険者資格データに収録されている郵便番号により判断している。

図4-4-4a 日常生活圏域毎の高齢化率と新規認定の傾向



(*) 介護認定データより集計。日常生活圏域毎の高齢化率は、市原市ホームページを参照して加工。日常生活圏域毎の期初の要介護認定者数および期中の新規認定者数は、介護認定データにより集計している。日常生活圏域毎の要介護認定者数は、被保険者資格データに収録されている郵便番号により判断している。

図4-4-4b 日常生活圏域毎の高齢化率と新規認定の傾向



(*) 介護認定データより集計。日常生活圏域毎の高齢化率は、市原市ホームページを参照して加工。日常生活圏域毎の期初の要介護認定者数および期中の新規認定者数は、介護認定データにより集計している。日常生活圏域毎の要介護認定者数は、被保険者資格データに収録されている郵便番号により判断している。

補足資料

補足1 資料編の図の一覧

補足2 オッズ比、集計条件等の表

表1 利用者属性毎の重度化・軽度化オッズ比

表2 介護サービス利用パターン毎の重度化・軽度化オッズ比

表3 居宅サービス毎の重度化・軽度化オッズ比

表4 日常生活圏域毎の新規認定割合オッズ比

表5 要介護認定者の属性間の関連性

表6 集計で利用しているサービス種類コード等

補足 1 資料編の図の一覧

分析の観点1 重度化・軽度化と介護サービス利用の傾向

図1-1-1～1-1-6	要介護者の構成の変化(性別、年齢階級、認定区分、要介護度、障害高齢者自立度、認知症高齢者自立度)
図1-1-7a～b	要介護者の構成の変化 ～ 継続して要介護、転入・新規認定、非該当・転出・死亡(人数、要介護度別人数)
図1-2-1a・b～1-2-5a・b	重度化・軽度化の傾向(性別、年齢階級、日常生活圏域、認定区分、要介護度、各オッズ比)
図1-2-6a・b～1-2-7a・b	障害高齢者自立度、認知症高齢者自立度の重度化・軽度化の傾向(要介護度別、要介護度別オッズ比)
図1-2-8a・b・c～1-2-10a・b・c	認定区分別の重度化・軽度化の傾向(新規・更新・区分変更、要介護度・障害高齢者自立度・認知症高齢者自立度)
図1-3-1～1-3-2	利用パターン別の利用者の内訳(要介護度、年齢階級)
図1-3-3	利用パターン別の要介護度の重度化・軽度化の傾向
図1-4-1a・b・c～1-4-7a・b・c	居宅系サービス毎の要介護度の構成、重度化・軽度化の傾向、重度化・軽度化オッズ比(訪問介護、訪問看護、訪問リハビリテーション、通所介護、 通所リハビリテーション 、短期利用、小規模多機能)

分析の観点2 医療・介護連携に関連する重度化・軽度化の傾向

図2-1-1～2-1-5	特別な医療の必要な要介護者(特別な医療の種類、年齢階級、認定区分、要介護度、現在の状況)
図2-1-6a・b、2-1-7、2-1-8a・b	特別な医療の必要な要介護者(要介護度の変化、オッズ比、サービス利用パターン、訪問看護利用割合、老健利用割合)
図2-2-1～2-2-4	現在の場所別の要介護者の傾向(年齢階級、認定区分、要介護度 、特別な医療)
図2-2-5a・b、2-2-6、2-2-7a・b・c	現在の場所別の要介護度の変化と利用サービス(要介護度の変化、サービス利用パターン 、訪問看護利用割合、通所リハビリテーション利用割合、老健利用割合)
図2-2-8～2-2-11	居宅と医療機関の要介護度変化の比較(年齢階級別、要介護度別、認定区分別、利用パターン別)
図2-2-12a～e	現在の状況が医療機関の人の状態変化別の利用サービス(不変、軽度化、重度化 、非該当、 転出・死亡)

分析の観点3 医療・介護連携に関連する介護サービス事業所の傾向

図3-1-1～3-1-3	医療介護連携に関連するサービス利用の年次推移(退院時共同指導加算、退院退所加算、入院時情報連携加算)
図3-1-4～3-1-5	医療介護連携関連するサービス利用の全国データとの比較(算定事業所割合、 サービス単位数)
図3-1-6～3-1-7	医療介護連携に関連する事業所の傾向(退院時共同指導加算、退院退所加算、 入院時情報連携加算)
図3-2-1～3-2-5	看取り介護とターミナルケアに関連するサービス利用の年次推移(訪問看護、老健、特養、特定施設、グループホーム)
図3-2-6	看取り介護とターミナルケアに関連するサービス利用の全国データとの比較(サービス単位数)
図3-2-7～3-2-11	医療介護連携に関連する事業所の傾向(訪問看護、老健、特養、特定施設、グループホーム)

分析の観点4 日常生活圏域毎の新規認定割合の傾向

図4-1-1～4-1-3	新規認定の年次推移(軽度と中重度、現在の状況、特別な医療の必要性)
図4-2-1a・b	日常生活圏域毎の期初認定者、期中新規認定の割合(2016年度、2017年度)
図4-3-1、4-3-2a・b、4-3-3a・b、4-3-4a・b	日常生活圏域毎の新規認定の割合(年度推移 、新規認定オッズ比、新規認定割合マップ、高齢化率と新規認定割合)
図4-4-1、4-4-2a・b、4-4-3a・b、4-4-4a・b	日常生活圏域毎の新規認定の割合(年度推移、 新規認定オッズ比 、新規認定割合マップ、 高齢化率と新規認定割合)

(*) 太字は、報告書本文に掲載されていることを示す(一部の図は加工して掲載している)

補足 2 オッズ比、集計条件等の表

表1 利用者属性毎の重度化・軽度化オッズ比

(*) 介護認定データより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日）からみて直近の認定データを参照している。

要介護度の変化 重度化オッズ比					
属性名	属性値	N	オッズ比95%信頼区間	参照グループ	備考
性別	女	7396	(1.17 - 1.39)	男	重度化が多い
年齢階級	64歳以下	394	(0.78 - 1.30)	65-74歳	
年齢階級	75-84歳	4674	(1.16 - 1.47)	65-74歳	重度化が多い
年齢階級	85歳以上	4214	(1.17 - 1.49)	65-74歳	重度化が多い
圏域	南総北	357	(0.89 - 1.49)	五井東	
圏域	南総西	604	(0.76 - 1.19)	五井東	
圏域	南総東	430	(0.98 - 1.59)	五井東	
圏域	加茂	606	(0.85 - 1.31)	五井東	
圏域	市原東	986	(0.82 - 1.20)	五井東	
圏域	辰巳台	260	(0.95 - 1.69)	五井東	
圏域	市津	917	(0.80 - 1.18)	五井東	
圏域	ちはら台	368	(0.79 - 1.32)	五井東	
圏域	市原北	817	(0.89 - 1.33)	五井東	
圏域	市原西	685	(0.75 - 1.15)	五井東	
圏域	五井西	595	(0.75 - 1.18)	五井東	
圏域	五井南	314	(0.83 - 1.44)	五井東	
圏域	国分寺台	803	(0.88 - 1.31)	五井東	
圏域	三和	756	(0.98 - 1.47)	五井東	
圏域	姉崎	873	(0.77 - 1.14)	五井東	
圏域	青葉台	312	(0.65 - 1.15)	五井東	
圏域	有秋	504	(0.81 - 1.29)	五井東	
認定区分	新規	2171	(0.77 - 0.95)	更新	重度化が少ない
認定区分	区分変更	954	(0.52 - 0.72)	更新	重度化が少ない
現在の状況	指定介護老人福祉施設	663	(0.32 - 0.50)	居宅(施設利用なし)	重度化が少ない
現在の状況	介護老人保健施設	610	(0.50 - 0.74)	居宅(施設利用なし)	重度化が少ない
現在の状況	指定介護療養型医療施設	15	(0.15 - 1.85)	居宅(施設利用なし)	
現在の状況	グループホーム	185	(0.79 - 1.46)	居宅(施設利用なし)	
現在の状況	ケアハウス等	144	(0.48 - 1.02)	居宅(施設利用なし)	
現在の状況	医療機関(医療保険適用療養病床)	58	(0.08 - 0.49)	居宅(施設利用なし)	重度化が少ない
現在の状況	医療機関(療養病床以外)	1273	(0.29 - 0.40)	居宅(施設利用なし)	重度化が少ない
現在の状況	その他の施設	361	(0.85 - 1.33)	居宅(施設利用なし)	
特別な医療の必要性	有	1334	(0.22 - 0.31)	無	重度化が少ない
要介護度	要介護5		(NA - NA)	要介護1	
要介護度	要介護4	1513	(0.26 - 0.36)	要介護1	重度化が少ない
要介護度	要介護3	1478	(0.57 - 0.75)	要介護1	重度化が少ない
要介護度	要介護2	1770	(0.76 - 0.98)	要介護1	重度化が少ない
要介護度	要支援2	1402	(0.98 - 1.28)	要介護1	
要介護度	要支援1	1584	(1.10 - 1.42)	要介護1	重度化が多い
障害高齢者自立度	C2	465	(0.03 - 0.09)	A1	重度化が少ない
障害高齢者自立度	C1	224	(0.08 - 0.22)	A1	重度化が少ない
障害高齢者自立度	B2	2189	(0.23 - 0.31)	A1	重度化が少ない
障害高齢者自立度	B1	1185	(0.48 - 0.67)	A1	重度化が少ない
障害高齢者自立度	A2	3665	(0.82 - 1.04)	A1	
障害高齢者自立度	J2	1800	(0.71 - 0.94)	A1	重度化が少ない
障害高齢者自立度	J1	75	(0.44 - 1.18)	A1	
障害高齢者自立度	自立	7	(0.13 - 3.36)	A1	
認知症高齢者自立度	M	74	(0.01 - 0.23)	I	重度化が少ない
認知症高齢者自立度	IV	427	(0.09 - 0.20)	I	重度化が少ない
認知症高齢者自立度	IIIb	439	(0.35 - 0.58)	I	重度化が少ない
認知症高齢者自立度	IIIa	1697	(0.57 - 0.75)	I	重度化が少ない
認知症高齢者自立度	IIb	2260	(0.86 - 1.09)	I	
認知症高齢者自立度	IIa	1760	(0.81 - 1.05)	I	
認知症高齢者自立度	自立	1863	(0.66 - 0.86)	I	重度化が少ない

表1 利用者属性毎の重度化・軽度化オッズ比

(*) 介護認定データより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日）からみて直近の認定データを参照している。

要介護度の変化 軽度化オッズ比					
属性名	属性値	N	オッズ比95%信頼区間	参照グループ	備考
性別	女	7396	(0.91 - 1.18)	男	
年齢階級	64歳以下	394	(0.71 - 1.31)	65-74歳	
年齢階級	75-84歳	4674	(0.58 - 0.78)	65-74歳	軽度化が少ない
年齢階級	85歳以上	4214	(0.46 - 0.64)	65-74歳	軽度化が少ない
圏域	南総北	357	(0.61 - 1.33)	五井東	
圏域	南総西	604	(0.63 - 1.21)	五井東	
圏域	南総東	430	(0.51 - 1.11)	五井東	
圏域	加茂	606	(0.52 - 1.04)	五井東	
圏域	市原東	986	(0.69 - 1.20)	五井東	
圏域	辰巳台	260	(0.74 - 1.71)	五井東	
圏域	市津	917	(0.81 - 1.40)	五井東	
圏域	ちはら台	368	(0.82 - 1.68)	五井東	
圏域	市原北	817	(0.61 - 1.11)	五井東	
圏域	市原西	685	(0.73 - 1.34)	五井東	
圏域	五井西	595	(0.68 - 1.29)	五井東	
圏域	五井南	314	(0.63 - 1.42)	五井東	
圏域	国分寺台	803	(0.79 - 1.40)	五井東	
圏域	三和	756	(0.56 - 1.05)	五井東	
圏域	姉崎	873	(0.80 - 1.41)	五井東	
圏域	青葉台	312	(0.88 - 1.86)	五井東	
圏域	有秋	504	(0.67 - 1.33)	五井東	
認定区分	新規	2171	(1.66 - 2.20)	更新	軽度化が多い
認定区分	区分変更	954	(1.89 - 2.73)	更新	軽度化が多い
現在の状況	指定介護老人福祉施設	663	(0.56 - 1.03)	居宅(施設利用なし)	
現在の状況	介護老人保健施設	610	(0.47 - 0.93)	居宅(施設利用なし)	軽度化が少ない
現在の状況	指定介護療養型医療施設	15	(0.09 - 5.41)	居宅(施設利用なし)	
現在の状況	グループホーム	185	(0.08 - 0.59)	居宅(施設利用なし)	軽度化が少ない
現在の状況	ケアハウス等	144	(0.50 - 1.64)	居宅(施設利用なし)	
現在の状況	医療機関(医療保険適用療養病床)	58	(0.62 - 3.02)	居宅(施設利用なし)	
現在の状況	医療機関(療養病床以外)	1273	(3.09 - 4.14)	居宅(施設利用なし)	軽度化が多い
現在の状況	その他の施設	361	(0.35 - 0.88)	居宅(施設利用なし)	軽度化が少ない
特別な医療の必要性	有	1334	(1.29 - 1.80)	無	軽度化が多い
要介護度	要介護5	1077	(1.29 - 2.04)	要介護1	軽度化が多い
要介護度	要介護4	1513	(1.61 - 2.40)	要介護1	軽度化が多い
要介護度	要介護3	1478	(1.39 - 2.10)	要介護1	軽度化が多い
要介護度	要介護2	1770	(1.48 - 2.19)	要介護1	軽度化が多い
要介護度	要支援2	1402	(1.13 - 1.75)	要介護1	軽度化が多い
要介護度	要支援1		(NA - NA)	要介護1	
障害高齢者自立度	C2	465	(0.98 - 1.95)	A1	
障害高齢者自立度	C1	224	(2.41 - 4.95)	A1	軽度化が多い
障害高齢者自立度	B2	2189	(1.65 - 2.53)	A1	軽度化が多い
障害高齢者自立度	B1	1185	(1.67 - 2.68)	A1	軽度化が多い
障害高齢者自立度	A2	3665	(0.95 - 1.44)	A1	
障害高齢者自立度	J2	1800	(0.64 - 1.06)	A1	
障害高齢者自立度	J1	75	(0.43 - 2.39)	A1	
障害高齢者自立度	自立		(NA - NA)	A1	
認知症高齢者自立度	M	74	(0.09 - 0.96)	I	軽度化が少ない
認知症高齢者自立度	IV	427	(0.19 - 0.51)	I	軽度化が少ない
認知症高齢者自立度	IIIb	439	(0.47 - 0.96)	I	軽度化が少ない
認知症高齢者自立度	IIIa	1697	(0.51 - 0.77)	I	軽度化が少ない
認知症高齢者自立度	IIb	2260	(0.61 - 0.88)	I	軽度化が少ない
認知症高齢者自立度	IIa	1760	(0.83 - 1.19)	I	
認知症高齢者自立度	自立	1863	(0.84 - 1.20)	I	

表1 利用者属性毎の重度化・軽度化オッズ比

(*) 介護認定データより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日） からみて直近の認定データを参照している。

障害高齢者自立度の変化 重度化オッズ比					
属性名	属性値	N	オッズ比95%信頼区間	参照グループ	備考
性別	女	7396	(1.12 - 1.35)	男	重度化が多い
年齢階級	64歳以下	394	(0.61 - 1.09)	65-74歳	
年齢階級	75-84歳	4674	(1.17 - 1.51)	65-74歳	重度化が多い
年齢階級	85歳以上	4214	(1.15 - 1.50)	65-74歳	重度化が多い
圏域	南総北	357	(0.85 - 1.48)	五井東	
圏域	南総西	604	(0.74 - 1.20)	五井東	
圏域	南総東	430	(0.78 - 1.32)	五井東	
圏域	加茂	606	(0.82 - 1.30)	五井東	
圏域	市原東	986	(0.81 - 1.22)	五井東	
圏域	辰巳台	260	(0.90 - 1.67)	五井東	
圏域	市津	917	(0.81 - 1.22)	五井東	
圏域	ちはら台	368	(0.86 - 1.48)	五井東	
圏域	市原北	817	(0.76 - 1.17)	五井東	
圏域	市原西	685	(0.69 - 1.10)	五井東	
圏域	五井西	595	(0.67 - 1.09)	五井東	
圏域	五井南	314	(0.84 - 1.50)	五井東	
圏域	国分寺台	803	(0.90 - 1.37)	五井東	
圏域	三和	756	(1.01 - 1.55)	五井東	重度化が多い
圏域	姉崎	873	(0.77 - 1.17)	五井東	
圏域	青葉台	312	(0.57 - 1.07)	五井東	
圏域	有秋	504	(0.79 - 1.30)	五井東	
認定区分	新規	2171	(0.67 - 0.84)	更新	重度化が少ない
認定区分	区分変更	954	(0.51 - 0.73)	更新	重度化が少ない
現在の状況	指定介護老人福祉施設	663	(0.39 - 0.60)	居宅(施設利用なし)	重度化が少ない
現在の状況	介護老人保健施設	610	(0.38 - 0.60)	居宅(施設利用なし)	重度化が少ない
現在の状況	指定介護療養型医療施設	15	(0.19 - 2.40)	居宅(施設利用なし)	
現在の状況	グループホーム	185	(0.70 - 1.36)	居宅(施設利用なし)	
現在の状況	ケアハウス等	144	(0.45 - 1.03)	居宅(施設利用なし)	
現在の状況	医療機関(医療保険適用療養病床)	58	(0.13 - 0.73)	居宅(施設利用なし)	重度化が少ない
現在の状況	医療機関(療養病床以外)	1273	(0.20 - 0.31)	居宅(施設利用なし)	重度化が少ない
現在の状況	その他の施設	361	(0.54 - 0.90)	居宅(施設利用なし)	重度化が少ない
特別な医療の必要性	有	1334	(0.31 - 0.45)	無	重度化が少ない
要介護度	要介護5	1077	(0.23 - 0.35)	要介護1	重度化が少ない
要介護度	要介護4	1513	(0.28 - 0.40)	要介護1	重度化が少ない
要介護度	要介護3	1478	(0.70 - 0.95)	要介護1	重度化が少ない
要介護度	要介護2	1770	(0.90 - 1.18)	要介護1	
要介護度	要支援2	1402	(1.10 - 1.47)	要介護1	重度化が多い
要介護度	要支援1	1584	(0.90 - 1.20)	要介護1	
障害高齢者自立度	C2		(NA - NA)	A1	
障害高齢者自立度	C1	224	(0.09 - 0.23)	A1	重度化が少ない
障害高齢者自立度	B2	2189	(0.09 - 0.13)	A1	重度化が少ない
障害高齢者自立度	B1	1185	(0.31 - 0.44)	A1	重度化が少ない
障害高齢者自立度	A2	3665	(0.31 - 0.40)	A1	重度化が少ない
障害高齢者自立度	J2	1800	(0.73 - 0.96)	A1	重度化が少ない
障害高齢者自立度	J1	75	(2.01 - 5.52)	A1	重度化が多い
障害高齢者自立度	自立	7	(0.41 - 8.26)	A1	
認知症高齢者自立度	M	74	(0.01 - 0.28)	I	重度化が少ない
認知症高齢者自立度	IV	427	(0.32 - 0.58)	I	重度化が少ない
認知症高齢者自立度	IIIb	439	(0.51 - 0.85)	I	重度化が少ない
認知症高齢者自立度	IIIa	1697	(0.68 - 0.90)	I	重度化が少ない
認知症高齢者自立度	IIb	2260	(0.77 - 1.00)	I	重度化が少ない
認知症高齢者自立度	IIa	1760	(0.79 - 1.04)	I	
認知症高齢者自立度	自立	1863	(0.77 - 1.01)	I	

表1 利用者属性毎の重度化・軽度化オッズ比

(*) 介護認定データより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。
要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日）からみて直近の認定データを参照している。

障害高齢者自立度の変化 軽度化オッズ比					
属性名	属性値	N	オッズ比95%信頼区間	参照グループ	備考
性別	女	7396	(0.96 - 1.21)	男	
年齢階級	64歳以下	394	(0.80 - 1.43)	65-74歳	
年齢階級	75-84歳	4674	(0.70 - 0.94)	65-74歳	軽度化が少ない
年齢階級	85歳以上	4214	(0.51 - 0.69)	65-74歳	軽度化が少ない
圏域	南総北	357	(0.79 - 1.56)	五井東	
圏域	南総西	604	(0.67 - 1.22)	五井東	
圏域	南総東	430	(0.59 - 1.18)	五井東	
圏域	加茂	606	(0.56 - 1.05)	五井東	
圏域	市原東	986	(0.67 - 1.12)	五井東	
圏域	辰巳台	260	(0.61 - 1.37)	五井東	
圏域	市津	917	(0.72 - 1.21)	五井東	
圏域	ちはら台	368	(0.72 - 1.44)	五井東	
圏域	市原北	817	(0.59 - 1.04)	五井東	
圏域	市原西	685	(0.75 - 1.32)	五井東	
圏域	五井西	595	(0.87 - 1.54)	五井東	
圏域	五井南	314	(0.61 - 1.31)	五井東	
圏域	国分寺台	803	(0.78 - 1.33)	五井東	
圏域	三和	756	(0.68 - 1.19)	五井東	
圏域	姉崎	873	(0.81 - 1.35)	五井東	
圏域	青葉台	312	(0.79 - 1.61)	五井東	
圏域	有秋	504	(0.77 - 1.42)	五井東	
認定区分	新規	2171	(2.07 - 2.67)	更新	軽度化が多い
認定区分	区分変更	954	(1.90 - 2.70)	更新	軽度化が多い
現在の状況	指定介護老人福祉施設	663	(0.19 - 0.44)	居宅(施設利用なし)	軽度化が少ない
現在の状況	介護老人保健施設	610	(0.32 - 0.65)	居宅(施設利用なし)	軽度化が少ない
現在の状況	指定介護療養型医療施設		(NA - NA)	居宅(施設利用なし)	
現在の状況	グループホーム	185	(0.17 - 0.71)	居宅(施設利用なし)	軽度化が少ない
現在の状況	ケアハウス等	144	(0.30 - 1.10)	居宅(施設利用なし)	
現在の状況	医療機関(医療保険適用療養病床)	58	(0.58 - 2.60)	居宅(施設利用なし)	
現在の状況	医療機関(療養病床以外)	1273	(3.17 - 4.16)	居宅(施設利用なし)	軽度化が多い
現在の状況	その他の施設	361	(0.56 - 1.15)	居宅(施設利用なし)	
特別な医療の必要性	有	1334	(1.04 - 1.43)	無	軽度化が多い
要介護度	要介護5	1077	(0.56 - 0.90)	要介護1	軽度化が少ない
要介護度	要介護4	1513	(0.84 - 1.23)	要介護1	
要介護度	要介護3	1478	(0.89 - 1.29)	要介護1	
要介護度	要介護2	1770	(0.90 - 1.28)	要介護1	
要介護度	要支援2	1402	(0.96 - 1.41)	要介護1	
要介護度	要支援1	1584	(0.73 - 1.08)	要介護1	
障害高齢者自立度	C2	465	(1.32 - 2.39)	A1	軽度化が多い
障害高齢者自立度	C1	224	(3.30 - 6.29)	A1	軽度化が多い
障害高齢者自立度	B2	2189	(1.18 - 1.76)	A1	軽度化が多い
障害高齢者自立度	B1	1185	(2.10 - 3.21)	A1	軽度化が多い
障害高齢者自立度	A2	3665	(1.33 - 1.92)	A1	軽度化が多い
障害高齢者自立度	J2	1800	(0.13 - 0.27)	A1	軽度化が少ない
障害高齢者自立度	J1		(NA - NA)	A1	
障害高齢者自立度	自立		(NA - NA)	A1	
認知症高齢者自立度	M	74	(0.03 - 0.56)	I	軽度化が少ない
認知症高齢者自立度	IV	427	(0.19 - 0.45)	I	軽度化が少ない
認知症高齢者自立度	IIIb	439	(0.27 - 0.56)	I	軽度化が少ない
認知症高齢者自立度	IIIa	1697	(0.35 - 0.52)	I	軽度化が少ない
認知症高齢者自立度	IIb	2260	(0.46 - 0.65)	I	軽度化が少ない
認知症高齢者自立度	IIa	1760	(0.66 - 0.93)	I	軽度化が少ない
認知症高齢者自立度	自立	1863	(0.84 - 1.15)	I	

表1 利用者属性毎の重度化・軽度化オッズ比

(*) 介護認定データより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日） からみて直近の認定データを参照している。

認知症高齢者自立度の変化 重度化オッズ比					
属性名	属性値	N	オッズ比95%信頼区間	参照グループ	備考
性別	女	7396	(1.27 - 1.52)	男	重度化が多い
年齢階級	64歳以下	394	(0.49 - 0.87)	65-74歳	重度化が少ない
年齢階級	75-84歳	4674	(1.19 - 1.52)	65-74歳	重度化が多い
年齢階級	85歳以上	4214	(1.23 - 1.57)	65-74歳	重度化が多い
圏域	南総北	357	(0.73 - 1.27)	五井東	
圏域	南総西	604	(0.70 - 1.11)	五井東	
圏域	南総東	430	(1.13 - 1.83)	五井東	重度化が多い
圏域	加茂	606	(0.88 - 1.37)	五井東	
圏域	市原東	986	(0.85 - 1.25)	五井東	
圏域	辰巳台	260	(1.15 - 2.06)	五井東	重度化が多い
圏域	市津	917	(0.92 - 1.37)	五井東	
圏域	ちはら台	368	(0.86 - 1.45)	五井東	
圏域	市原北	817	(0.85 - 1.28)	五井東	
圏域	市原西	685	(0.89 - 1.36)	五井東	
圏域	五井西	595	(0.97 - 1.51)	五井東	
圏域	五井南	314	(0.77 - 1.37)	五井東	
圏域	国分寺台	803	(0.86 - 1.31)	五井東	
圏域	三和	756	(1.08 - 1.62)	五井東	重度化が多い
圏域	姉崎	873	(0.73 - 1.10)	五井東	
圏域	青葉台	312	(0.71 - 1.27)	五井東	
圏域	有秋	504	(0.70 - 1.15)	五井東	
認定区分	新規	2171	(0.99 - 1.22)	更新	
認定区分	区分変更	954	(0.78 - 1.06)	更新	
現在の状況	指定介護老人福祉施設	663	(0.62 - 0.91)	居宅(施設利用なし)	重度化が少ない
現在の状況	介護老人保健施設	610	(0.59 - 0.87)	居宅(施設利用なし)	重度化が少ない
現在の状況	指定介護療養型医療施設	15	(0.18 - 2.26)	居宅(施設利用なし)	
現在の状況	グループホーム	185	(0.53 - 1.06)	居宅(施設利用なし)	
現在の状況	ケアハウス等	144	(0.47 - 1.04)	居宅(施設利用なし)	
現在の状況	医療機関(医療保険適用療養病床)	58	(0.27 - 1.05)	居宅(施設利用なし)	
現在の状況	医療機関(療養病床以外)	1273	(0.69 - 0.91)	居宅(施設利用なし)	重度化が少ない
現在の状況	その他の施設	361	(0.96 - 1.51)	居宅(施設利用なし)	
特別な医療の必要性	有	1334	(0.43 - 0.58)	無	重度化が少ない
要介護度	要介護5	1077	(0.36 - 0.51)	要介護1	重度化が少ない
要介護度	要介護4	1513	(0.46 - 0.62)	要介護1	重度化が少ない
要介護度	要介護3	1478	(0.51 - 0.68)	要介護1	重度化が少ない
要介護度	要介護2	1770	(0.66 - 0.87)	要介護1	重度化が少ない
要介護度	要支援2	1402	(0.90 - 1.19)	要介護1	
要介護度	要支援1	1584	(0.76 - 1.00)	要介護1	
障害高齢者自立度	C2	465	(0.27 - 0.48)	A1	重度化が少ない
障害高齢者自立度	C1	224	(0.45 - 0.87)	A1	重度化が少ない
障害高齢者自立度	B2	2189	(0.53 - 0.71)	A1	重度化が少ない
障害高齢者自立度	B1	1185	(0.64 - 0.90)	A1	重度化が少ない
障害高齢者自立度	A2	3665	(0.78 - 1.01)	A1	
障害高齢者自立度	J2	1800	(0.86 - 1.15)	A1	
障害高齢者自立度	J1	75	(0.77 - 2.03)	A1	
障害高齢者自立度	自立	7	(0.66 - 13.33)	A1	
認知症高齢者自立度	M		(NA - NA)	I	
認知症高齢者自立度	IV	427	(0.15 - 0.30)	I	重度化が少ない
認知症高齢者自立度	IIIb	439	(0.23 - 0.42)	I	重度化が少ない
認知症高齢者自立度	IIIa	1697	(0.39 - 0.53)	I	重度化が少ない
認知症高齢者自立度	IIb	2260	(0.68 - 0.87)	I	重度化が少ない
認知症高齢者自立度	IIa	1760	(1.12 - 1.44)	I	重度化が多い
認知症高齢者自立度	自立	1863	(0.96 - 1.24)	I	

表1 利用者属性毎の重度化・軽度化オッズ比

(*) 介護認定データより集計。2016年4月1日時点の要介護者について、2016年4月1日からみて直近の認定データを参照し、集計している。要介護度の変化については、対象期間終了時（2018年3月31日）からみて直近の認定データを参照している。

認知症高齢者自立度の変化 軽度化オッズ比					
属性名	属性値	N	オッズ比95%信頼区間	参照グループ	備考
性別	女	7396	(0.81 - 1.10)	男	
年齢階級	64歳以下	394	(0.66 - 1.45)	65-74歳	
年齢階級	75-84歳	4674	(0.68 - 0.99)	65-74歳	軽度化が少ない
年齢階級	85歳以上	4214	(0.53 - 0.80)	65-74歳	軽度化が少ない
圏域	南総北	357	(0.50 - 1.37)	五井東	
圏域	南総西	604	(0.62 - 1.40)	五井東	
圏域	南総東	430	(0.48 - 1.27)	五井東	
圏域	加茂	606	(0.38 - 0.95)	五井東	軽度化が少ない
圏域	市原東	986	(0.99 - 1.88)	五井東	
圏域	辰巳台	260	(0.61 - 1.76)	五井東	
圏域	市津	917	(0.86 - 1.68)	五井東	
圏域	ちはら台	368	(0.83 - 1.98)	五井東	
圏域	市原北	817	(0.68 - 1.41)	五井東	
圏域	市原西	685	(0.74 - 1.56)	五井東	
圏域	五井西	595	(0.69 - 1.53)	五井東	
圏域	五井南	314	(0.68 - 1.78)	五井東	
圏域	国分寺台	803	(0.70 - 1.44)	五井東	
圏域	三和	756	(0.51 - 1.13)	五井東	
圏域	姉崎	873	(0.78 - 1.55)	五井東	
圏域	青葉台	312	(0.57 - 1.59)	五井東	
圏域	有秋	504	(0.85 - 1.87)	五井東	
認定区分	新規	2171	(0.76 - 1.12)	更新	
認定区分	区分変更	954	(1.11 - 1.77)	更新	軽度化が多い
現在の状況	指定介護老人福祉施設	663	(0.39 - 0.85)	居宅(施設利用なし)	軽度化が少ない
現在の状況	介護老人保健施設	610	(0.54 - 1.11)	居宅(施設利用なし)	
現在の状況	指定介護療養型医療施設		(NA - NA)	居宅(施設利用なし)	
現在の状況	グループホーム	185	(0.52 - 1.69)	居宅(施設利用なし)	
現在の状況	ケアハウス等	144	(1.08 - 3.02)	居宅(施設利用なし)	軽度化が多い
現在の状況	医療機関(医療保険適用療養病床)	58	(0.23 - 2.36)	居宅(施設利用なし)	
現在の状況	医療機関(療養病床以外)	1273	(1.10 - 1.67)	居宅(施設利用なし)	軽度化が多い
現在の状況	その他の施設	361	(0.41 - 1.09)	居宅(施設利用なし)	
特別な医療の必要性	有	1334	(0.58 - 0.96)	無	軽度化が少ない
要介護度	要介護5	1077	(0.53 - 0.98)	要介護1	軽度化が少ない
要介護度	要介護4	1513	(0.65 - 1.10)	要介護1	
要介護度	要介護3	1478	(0.87 - 1.42)	要介護1	
要介護度	要介護2	1770	(0.95 - 1.49)	要介護1	
要介護度	要支援2	1402	(0.76 - 1.27)	要介護1	
要介護度	要支援1	1584	(0.55 - 0.95)	要介護1	軽度化が少ない
障害高齢者自立度	C2	465	(0.47 - 1.21)	A1	
障害高齢者自立度	C1	224	(0.57 - 1.80)	A1	
障害高齢者自立度	B2	2189	(0.80 - 1.34)	A1	
障害高齢者自立度	B1	1185	(0.91 - 1.63)	A1	
障害高齢者自立度	A2	3665	(1.03 - 1.63)	A1	軽度化が多い
障害高齢者自立度	J2	1800	(0.79 - 1.37)	A1	
障害高齢者自立度	J1	75	(0.20 - 2.04)	A1	
障害高齢者自立度	自立		(NA - NA)	A1	
認知症高齢者自立度	M	74	(0.26 - 2.00)	I	
認知症高齢者自立度	IV	427	(0.56 - 1.29)	I	
認知症高齢者自立度	IIIb	439	(2.48 - 4.28)	I	軽度化が多い
認知症高齢者自立度	IIIa	1697	(0.86 - 1.36)	I	
認知症高齢者自立度	IIb	2260	(0.73 - 1.13)	I	
認知症高齢者自立度	IIa	1760	(1.06 - 1.63)	I	軽度化が多い
認知症高齢者自立度	自立		(NA - NA)	I	

表2 介護サービス利用パターン毎の重度化・軽度化オッズ比

(*) 要介護度は介護認定データより、サービス利用は介護レセプトデータより集計している。2016年度初の要介護者を、2016-2017年度の介護サービス利用パターンにより、居宅系だけ利用型（毎月利用/不使用月有）、施設系利用有（毎月利用/不使用月有）、混合型（それ以外のパターン）、サービス不使用型に分類している

要介護度の変化 重度化オッズ比					
属性名	属性値	N	オッズ比95%信頼区間	参照グループ	備考
給付パターン	居宅系だけ利用（不使用月あり）型	3428	(0.58 - 0.72)	居宅系だけ利用（毎月利用）型	重度化が少ない
給付パターン	施設系利用（毎月利用）型	1062	(0.78 - 1.05)	居宅系だけ利用（毎月利用）型	
給付パターン	施設系利用（不使用月あり）型	978	(0.14 - 0.22)	居宅系だけ利用（毎月利用）型	重度化が少ない
給付パターン	混合型	1024	(1.33 - 1.77)	居宅系だけ利用（毎月利用）型	重度化が多い
給付パターン	サービス不使用型	1539	(0.20 - 0.28)	居宅系だけ利用（毎月利用）型	重度化が少ない

表2 介護サービス利用パターン毎の重度化・軽度化オッズ比

(*) 要介護度は介護認定データより、サービス利用は介護レセプトデータより集計している。2016年度初の要介護者を、2016-2017年度の介護サービス利用パターンにより、居宅系だけ利用型（毎月利用/不使用月有）、施設系利用有（毎月利用/不使用月有）、混合型（それ以外のパターン）、サービス不使用型に分類している

要介護度の変化 軽度化オッズ比					
属性名	属性値	N	オッズ比95%信頼区間	参照グループ	備考
給付パターン	居宅系だけ利用（不使用月あり）型	3428	(0.45 - 0.61)	居宅系だけ利用（毎月利用）型	軽度化が少ない
給付パターン	施設系利用（毎月利用）型	1062	(0.63 - 0.95)	居宅系だけ利用（毎月利用）型	軽度化が少ない
給付パターン	施設系利用（不使用月あり）型	978	(0.13 - 0.27)	居宅系だけ利用（毎月利用）型	軽度化が少ない
給付パターン	混合型	1024	(0.39 - 0.64)	居宅系だけ利用（毎月利用）型	軽度化が少ない
給付パターン	サービス不使用型	1539	(0.44 - 0.66)	居宅系だけ利用（毎月利用）型	軽度化が少ない

表2 介護サービス利用パターン毎の重度化・軽度化オッズ比

(*) 要介護度は介護認定データより、サービス利用は介護レセプトデータより集計している。 2016年度初の要介護者を、2016-2017年度の介護サービス利用パターンにより、居宅系だけ利用型（毎月利用/不使用月有）、施設系利用有（毎月利用/不使用月有）、混合型（それ以外のパターン）、サービス不使用型に分類している

障害高齢者自立度の変化 重度化オッズ比					
属性名	属性値	N	オッズ比95%信頼区間	参照グループ	備考
給付パターン	居宅系だけ利用（不使用月あり）型	3428	(0.73 - 0.91)	居宅系だけ利用（毎月利用）型	重度化が少ない
給付パターン	施設系利用（毎月利用）型	1062	(0.94 - 1.27)	居宅系だけ利用（毎月利用）型	
給付パターン	施設系利用（不使用月あり）型	978	(0.21 - 0.34)	居宅系だけ利用（毎月利用）型	重度化が少ない
給付パターン	混合型	1024	(1.66 - 2.22)	居宅系だけ利用（毎月利用）型	重度化が多い
給付パターン	サービス不使用型	1539	(0.27 - 0.39)	居宅系だけ利用（毎月利用）型	重度化が少ない

表2 介護サービス利用パターン毎の重度化・軽度化オッズ比

(*) 要介護度は介護認定データより、サービス利用は介護レセプトデータより集計している。 2016年度初の要介護者を、2016-2017年度の介護サービス利用パターンにより、居宅系だけ利用型（毎月利用/不使用月有）、施設系利用有（毎月利用/不使用月有）、混合型（それ以外のパターン）、サービス不使用型に分類している

障害高齢者自立度の変化 軽度化オッズ比					
属性名	属性値	N	オッズ比95%信頼区間	参照グループ	備考
給付パターン	居宅系だけ利用（不使用月あり）型	3428	(0.46 - 0.61)	居宅系だけ利用（毎月利用）型	軽度化が少ない
給付パターン	施設系利用（毎月利用）型	1062	(0.39 - 0.60)	居宅系だけ利用（毎月利用）型	軽度化が少ない
給付パターン	施設系利用（不使用月あり）型	978	(0.08 - 0.17)	居宅系だけ利用（毎月利用）型	軽度化が少ない
給付パターン	混合型	1024	(0.30 - 0.48)	居宅系だけ利用（毎月利用）型	軽度化が少ない
給付パターン	サービス不使用型	1539	(0.41 - 0.58)	居宅系だけ利用（毎月利用）型	軽度化が少ない

表2 介護サービス利用パターン毎の重度化・軽度化オッズ比

(*) 要介護度は介護認定データより、サービス利用は介護レセプトデータより集計している。2016年度初の要介護者を、2016-2017年度の介護サービス利用パターンにより、居宅系だけ利用型（毎月利用/不使用月有）、施設系利用有（毎月利用/不使用月有）、混合型（それ以外のパターン）、サービス不使用型に分類している

認知症高齢者自立度の変化 重度化オッズ比

属性名	属性値	N	オッズ比95%信頼区間	参照グループ	備考
給付パターン	居宅系だけ利用（不使用月あり）型	3428	(0.57 - 0.71)	居宅系だけ	重度化が少ない
給付パターン	施設系利用（毎月利用）型	1062	(1.06 - 1.41)	居宅系だけ	重度化が多い
給付パターン	施設系利用（不使用月あり）型	978	(0.16 - 0.25)	居宅系だけ	重度化が少ない
給付パターン	混合型	1024	(1.26 - 1.68)	居宅系だけ	重度化が多い
給付パターン	サービス不使用型	1539	(0.23 - 0.32)	居宅系だけ	重度化が少ない

表2 介護サービス利用パターン毎の重度化・軽度化オッズ比

(*) 要介護度は介護認定データより、サービス利用は介護レセプトデータより集計している。2016年度初の要介護者を、2016-2017年度の介護サービス利用パターンにより、居宅系だけ利用型（毎月利用/不使用月有）、施設系利用有（毎月利用/不使用月有）、混合型（それ以外のパターン）、サービス不使用型に分類している

認知症高齢者自立度の変化 軽度化オッズ比					
属性名	属性値	N	オッズ比95%信頼区間	参照グループ	備考
給付パターン	居宅系だけ利用（不使用月あり）型	3428	(0.55 - 0.80)	居宅系だけ利用（毎月利用）型	軽度化が少ない
給付パターン	施設系利用（毎月利用）型	1062	(0.68 - 1.12)	居宅系だけ利用（毎月利用）型	
給付パターン	施設系利用（不使用月あり）型	978	(0.17 - 0.39)	居宅系だけ利用（毎月利用）型	軽度化が少ない
給付パターン	混合型	1024	(0.59 - 1.00)	居宅系だけ利用（毎月利用）型	軽度化が少ない
給付パターン	サービス不使用型	1539	(0.37 - 0.63)	居宅系だけ利用（毎月利用）型	軽度化が少ない

表3 居宅サービス毎の重度化・軽度化オッズ比

(*) 要介護度は介護認定データより、サービス利用は介護レセプトデータより集計している。 2016-2017年度に居宅系だけを利用した要介護者（毎月利用、不使用月有を含む）が対象。サービス利用者について、居宅系・施設系利用者も含めてサービス利用量（2016-2017年度のサービス利用単位数の合計）により4等分し、少ない順に25%まで、25-50%、50-75%、75%以上としている。

要介護度の変化 重度化オッズ比					
属性名	属性値	N	オッズ比95%信頼区間	参照グループ	備考
訪問介護	25%まで	704	(0.72 - 1.02)	0_無	
訪問介護	25-50%	703	(1.02 - 1.42)	0_無	重度化が多い
訪問介護	50-75%	688	(0.87 - 1.23)	0_無	
訪問介護	75%-	688	(0.92 - 1.30)	0_無	
訪問看護	25%まで	226	(0.75 - 1.33)	0_無	
訪問看護	25-50%	221	(0.66 - 1.20)	0_無	
訪問看護	50-75%	227	(0.70 - 1.25)	0_無	
訪問看護	75%-	227	(0.76 - 1.35)	0_無	
訪問リハビリテーション	25%まで	65	(0.33 - 1.07)	0_無	
訪問リハビリテーション	25-50%	69	(0.48 - 1.39)	0_無	
訪問リハビリテーション	50-75%	71	(0.58 - 1.60)	0_無	
訪問リハビリテーション	75%-	70	(1.20 - 3.08)	0_無	重度化が多い
通所介護	25%まで	753	(1.34 - 1.86)	0_無	重度化が多い
通所介護	25-50%	737	(1.48 - 2.05)	0_無	重度化が多い
通所介護	50-75%	674	(1.59 - 2.23)	0_無	重度化が多い
通所介護	75%-	675	(1.42 - 2.00)	0_無	重度化が多い
通所リハビリテーション	25%まで	458	(0.85 - 1.27)	0_無	
通所リハビリテーション	25-50%	445	(0.84 - 1.27)	0_無	
通所リハビリテーション	50-75%	426	(1.05 - 1.59)	0_無	重度化が多い
通所リハビリテーション	75%-	407	(0.77 - 1.20)	0_無	
短期利用	25%まで	395	(0.88 - 1.37)	0_無	
短期利用	25-50%	340	(1.23 - 1.93)	0_無	重度化が多い
短期利用	50-75%	265	(1.52 - 2.49)	0_無	重度化が多い
短期利用	75%-	232	(1.14 - 1.96)	0_無	重度化が多い
小規模多機能	25%まで	35	(0.42 - 1.81)	0_無	
小規模多機能	25-50%	38	(0.74 - 2.72)	0_無	
小規模多機能	50-75%	38	(0.93 - 3.34)	0_無	
小規模多機能	75%-	40	(0.86 - 3.01)	0_無	

表3 居宅サービス毎の重度化・軽度化オッズ比

(*) 要介護度は介護認定データより、サービス利用は介護レセプトデータより集計している。 2016-2017年度に居宅系だけを利用した要介護者（毎月利用、不使用月有を含む）が対象。サービス利用者について、居宅系・施設系利用者も含めてサービス利用量（2016-2017年度のサービス利用単位数の合計）により4等分し、少ない順に25%まで、25-50%、50-75%、75%以上としている。

要介護度の変化 軽度化オッズ比					
属性名	属性値	N	オッズ比95%信頼区間	参照グループ	備考
訪問介護	25%まで	704	(0.67 - 1.10)	0_無	
訪問介護	25-50%	703	(0.65 - 1.07)	0_無	
訪問介護	50-75%	688	(0.59 - 0.99)	0_無	軽度化が少ない
訪問介護	75%-	688	(0.39 - 0.70)	0_無	軽度化が少ない
訪問看護	25%まで	226	(0.51 - 1.23)	0_無	
訪問看護	25-50%	221	(0.61 - 1.41)	0_無	
訪問看護	50-75%	227	(0.51 - 1.22)	0_無	
訪問看護	75%-	227	(0.15 - 0.56)	0_無	軽度化が少ない
訪問リハビリテーション	25%まで	65	(1.01 - 3.45)	0_無	軽度化が多い
訪問リハビリテーション	25-50%	69	(0.95 - 3.19)	0_無	
訪問リハビリテーション	50-75%	71	(1.02 - 3.31)	0_無	軽度化が多い
訪問リハビリテーション	75%-	70	(0.55 - 2.23)	0_無	
通所介護	25%まで	753	(0.59 - 0.99)	0_無	軽度化が少ない
通所介護	25-50%	737	(0.82 - 1.30)	0_無	
通所介護	50-75%	674	(0.58 - 1.00)	0_無	軽度化が少ない
通所介護	75%-	675	(0.61 - 1.04)	0_無	
通所リハビリテーション	25%まで	458	(1.18 - 2.01)	0_無	軽度化が多い
通所リハビリテーション	25-50%	445	(1.27 - 2.15)	0_無	軽度化が多い
通所リハビリテーション	50-75%	426	(1.06 - 1.87)	0_無	軽度化が多い
通所リハビリテーション	75%-	407	(1.14 - 2.01)	0_無	軽度化が多い
短期利用	25%まで	395	(0.65 - 1.23)	0_無	
短期利用	25-50%	340	(0.30 - 0.71)	0_無	軽度化が少ない
短期利用	50-75%	265	(0.18 - 0.56)	0_無	軽度化が少ない
短期利用	75%-	232	(0.14 - 0.52)	0_無	軽度化が少ない
小規模多機能	25%まで	35	(0.11 - 1.84)	0_無	
小規模多機能	25-50%	38	(0.43 - 2.83)	0_無	
小規模多機能	50-75%	38	(0.19 - 2.03)	0_無	
小規模多機能	75%-	40	(0.29 - 2.27)	0_無	

表3 居宅サービス毎の重度化・軽度化オッズ比

(*) 要介護度は介護認定データより、サービス利用は介護レセプトデータより集計している。 2016-2017年度に居宅系だけを利用した要介護者（毎月利用、不使用月有を含む）が対象。サービス利用者について、居宅系・施設系利用者も含めてサービス利用量（2016-2017年度のサービス利用単位数の合計）により4等分し、少ない順に25%まで、25-50%、50-75%、75%以上としている。

障害高齢者自立度の変化 重度化オッズ比					
属性名	属性値	N	オッズ比95%信頼区間	参照グループ	備考
訪問介護	25%まで	704	(0.77 - 1.12)	0_無	
訪問介護	25-50%	703	(0.90 - 1.30)	0_無	
訪問介護	50-75%	688	(0.90 - 1.30)	0_無	
訪問介護	75%-	688	(0.93 - 1.35)	0_無	
訪問看護	25%まで	226	(0.83 - 1.51)	0_無	
訪問看護	25-50%	221	(0.57 - 1.11)	0_無	
訪問看護	50-75%	227	(0.64 - 1.21)	0_無	
訪問看護	75%-	227	(0.67 - 1.26)	0_無	
訪問リハビリテーション	25%まで	65	(0.28 - 1.10)	0_無	
訪問リハビリテーション	25-50%	69	(0.53 - 1.62)	0_無	
訪問リハビリテーション	50-75%	71	(0.61 - 1.78)	0_無	
訪問リハビリテーション	75%-	70	(1.19 - 3.13)	0_無	重度化が多い
通所介護	25%まで	753	(1.19 - 1.69)	0_無	重度化が多い
通所介護	25-50%	737	(1.32 - 1.87)	0_無	重度化が多い
通所介護	50-75%	674	(1.27 - 1.82)	0_無	重度化が多い
通所介護	75%-	675	(1.04 - 1.51)	0_無	重度化が多い
通所リハビリテーション	25%まで	458	(0.92 - 1.42)	0_無	
通所リハビリテーション	25-50%	445	(0.96 - 1.48)	0_無	
通所リハビリテーション	50-75%	426	(0.84 - 1.33)	0_無	
通所リハビリテーション	75%-	407	(0.70 - 1.14)	0_無	
短期利用	25%まで	395	(0.83 - 1.34)	0_無	
短期利用	25-50%	340	(0.99 - 1.61)	0_無	
短期利用	50-75%	265	(1.20 - 2.04)	0_無	重度化が多い
短期利用	75%-	232	(0.97 - 1.74)	0_無	
小規模多機能	25%まで	35	(0.50 - 2.29)	0_無	
小規模多機能	25-50%	38	(0.62 - 2.54)	0_無	
小規模多機能	50-75%	38	(0.72 - 2.83)	0_無	
小規模多機能	75%-	40	(1.09 - 3.88)	0_無	重度化が多い

表3 居宅サービス毎の重度化・軽度化オッズ比

(*) 要介護度は介護認定データより、サービス利用は介護レセプトデータより集計している。 2016-2017年度に居宅系だけを利用した要介護者（毎月利用、不使用月有を含む）が対象。サービス利用者について、居宅系・施設系利用者も含めてサービス利用量（2016-2017年度のサービス利用単位数の合計）により4等分し、少ない順に25%まで、25-50%、50-75%、75%以上としている。

障害高齢者自立度の変化 軽度化オッズ比					
属性名	属性値	N	オッズ比95%信頼区間	参照グループ	備考
訪問介護	25%まで	704	(0.74 - 1.14)	0_無	
訪問介護	25-50%	703	(0.76 - 1.16)	0_無	
訪問介護	50-75%	688	(0.56 - 0.91)	0_無	軽度化が少ない
訪問介護	75%-	688	(0.27 - 0.49)	0_無	軽度化が少ない
訪問看護	25%まで	226	(0.46 - 1.04)	0_無	
訪問看護	25-50%	221	(0.52 - 1.14)	0_無	
訪問看護	50-75%	227	(0.46 - 1.03)	0_無	
訪問看護	75%-	227	(0.23 - 0.65)	0_無	軽度化が少ない
訪問リハビリテーション	25%まで	65	(1.10 - 3.37)	0_無	軽度化が多い
訪問リハビリテーション	25-50%	69	(0.85 - 2.69)	0_無	
訪問リハビリテーション	50-75%	71	(0.39 - 1.59)	0_無	
訪問リハビリテーション	75%-	70	(0.60 - 2.10)	0_無	
通所介護	25%まで	753	(0.75 - 1.16)	0_無	
通所介護	25-50%	737	(0.96 - 1.45)	0_無	
通所介護	50-75%	674	(0.68 - 1.09)	0_無	
通所介護	75%-	675	(0.63 - 1.01)	0_無	
通所リハビリテーション	25%まで	458	(1.13 - 1.85)	0_無	軽度化が多い
通所リハビリテーション	25-50%	445	(1.30 - 2.10)	0_無	軽度化が多い
通所リハビリテーション	50-75%	426	(1.09 - 1.82)	0_無	軽度化が多い
通所リハビリテーション	75%-	407	(1.04 - 1.76)	0_無	軽度化が多い
短期利用	25%まで	395	(0.58 - 1.05)	0_無	
短期利用	25-50%	340	(0.51 - 0.99)	0_無	軽度化が少ない
短期利用	50-75%	265	(0.18 - 0.50)	0_無	軽度化が少ない
短期利用	75%-	232	(0.24 - 0.64)	0_無	軽度化が少ない
小規模多機能	25%まで	35	(0.15 - 1.63)	0_無	
小規模多機能	25-50%	38	(0.22 - 1.76)	0_無	
小規模多機能	50-75%	38	(0.02 - 1.05)	0_無	
小規模多機能	75%-	40	(0.21 - 1.66)	0_無	

表3 居宅サービス毎の重度化・軽度化オッズ比

(*) 要介護度は介護認定データより、サービス利用は介護レセプトデータより集計している。 2016-2017年度に居宅系だけを利用した要介護者（毎月利用、不使用月有を含む）が対象。サービス利用者について、居宅系・施設系利用者も含めてサービス利用量（2016-2017年度のサービス利用単位数の合計）により4等分し、少ない順に25%まで、25-50%、50-75%、75%以上としている。

認知症高齢者自立度の変化 重度化オッズ比					
属性名	属性値	N	オッズ比95%信頼区間	参照グループ	備考
訪問介護	25%まで	704	(0.88 - 1.26)	0_無	
訪問介護	25-50%	703	(1.07 - 1.51)	0_無	重度化が多い
訪問介護	50-75%	688	(1.03 - 1.46)	0_無	重度化が多い
訪問介護	75%-	688	(0.86 - 1.23)	0_無	
訪問看護	25%まで	226	(0.63 - 1.15)	0_無	
訪問看護	25-50%	221	(0.48 - 0.92)	0_無	重度化が少ない
訪問看護	50-75%	227	(0.67 - 1.22)	0_無	
訪問看護	75%-	227	(0.61 - 1.12)	0_無	
訪問リハビリテーション	25%まで	65	(0.41 - 1.32)	0_無	
訪問リハビリテーション	25-50%	69	(0.64 - 1.80)	0_無	
訪問リハビリテーション	50-75%	71	(0.53 - 1.52)	0_無	
訪問リハビリテーション	75%-	70	(0.46 - 1.37)	0_無	
通所介護	25%まで	753	(1.33 - 1.85)	0_無	重度化が多い
通所介護	25-50%	737	(1.34 - 1.88)	0_無	重度化が多い
通所介護	50-75%	674	(1.61 - 2.27)	0_無	重度化が多い
通所介護	75%-	675	(1.25 - 1.78)	0_無	重度化が多い
通所リハビリテーション	25%まで	458	(0.78 - 1.20)	0_無	
通所リハビリテーション	25-50%	445	(1.04 - 1.58)	0_無	重度化が多い
通所リハビリテーション	50-75%	426	(0.95 - 1.45)	0_無	
通所リハビリテーション	75%-	407	(0.73 - 1.16)	0_無	
短期利用	25%まで	395	(0.71 - 1.13)	0_無	
短期利用	25-50%	340	(0.87 - 1.40)	0_無	
短期利用	50-75%	265	(1.24 - 2.07)	0_無	重度化が多い
短期利用	75%-	232	(1.24 - 2.13)	0_無	重度化が多い
小規模多機能	25%まで	35	(0.48 - 2.08)	0_無	
小規模多機能	25-50%	38	(0.75 - 2.81)	0_無	
小規模多機能	50-75%	38	(0.66 - 2.53)	0_無	
小規模多機能	75%-	40	(0.79 - 2.84)	0_無	

表3 居宅サービス毎の重度化・軽度化オッズ比

(*) 要介護度は介護認定データより、サービス利用は介護レセプトデータより集計している。 2016-2017年度に居宅系だけを利用した要介護者（毎月利用、不使用月有を含む）が対象。サービス利用者について、居宅系・施設系利用者も含めてサービス利用量（2016-2017年度のサービス利用単位数の合計）により4等分し、少ない順に25%まで、25-50%、50-75%、75%以上としている。

認知症高齢者自立度の変化 軽度化オッズ比					
属性名	属性値	N	オッズ比95%信頼区間	参照グループ	備考
訪問介護	25%まで	704	(0.72 - 1.30)	0_無	
訪問介護	25-50%	703	(0.71 - 1.28)	0_無	
訪問介護	50-75%	688	(0.60 - 1.13)	0_無	
訪問介護	75%-	688	(0.37 - 0.78)	0_無	軽度化が少ない
訪問看護	25%まで	226	(0.28 - 1.02)	0_無	
訪問看護	25-50%	221	(0.49 - 1.44)	0_無	
訪問看護	50-75%	227	(0.79 - 1.95)	0_無	
訪問看護	75%-	227	(0.32 - 1.09)	0_無	
訪問リハビリテーション	25%まで	65	(0.52 - 2.82)	0_無	
訪問リハビリテーション	25-50%	69	(0.61 - 2.96)	0_無	
訪問リハビリテーション	50-75%	71	(0.26 - 1.96)	0_無	
訪問リハビリテーション	75%-	70	(0.37 - 2.29)	0_無	
通所介護	25%まで	753	(0.76 - 1.36)	0_無	
通所介護	25-50%	737	(0.99 - 1.70)	0_無	
通所介護	50-75%	674	(0.54 - 1.06)	0_無	
通所介護	75%-	675	(0.70 - 1.31)	0_無	
通所リハビリテーション	25%まで	458	(1.34 - 2.43)	0_無	軽度化が多い
通所リハビリテーション	25-50%	445	(0.69 - 1.46)	0_無	
通所リハビリテーション	50-75%	426	(0.69 - 1.49)	0_無	
通所リハビリテーション	75%-	407	(1.13 - 2.18)	0_無	軽度化が多い
短期利用	25%まで	395	(0.75 - 1.56)	0_無	
短期利用	25-50%	340	(0.57 - 1.34)	0_無	
短期利用	50-75%	265	(0.24 - 0.85)	0_無	軽度化が少ない
短期利用	75%-	232	(0.39 - 1.20)	0_無	
小規模多機能	25%まで	35	(0.17 - 2.99)	0_無	
小規模多機能	25-50%	38	(0.04 - 2.33)	0_無	
小規模多機能	50-75%	38	(0.04 - 2.33)	0_無	
小規模多機能	75%-	40	(0.29 - 3.11)	0_無	

表4 日常生活圏域毎の新規認定割合オッズ比

(*) 介護認定データより集計。日常生活圏域毎の高齢者数は、市原市ホームページを参照して加工。日常生活圏域毎の期初の要介護認定者数および期中の新規認定者数は、介護認定データにより集計している。日常生活圏域毎の要介護認定者数は、被保険者資格データに収録されている郵便番号により判断している。オッズ比では各日常生活圏域を、人口が最も多い五井東と比較している

2016年度 全体					
属性名	属性値	N	オッズ比95%信頼区間	参照グループ	備考
圏域	南総北	2323	(0.79 - 1.24)	五井東	
圏域	南総西	2985	(0.77 - 1.18)	五井東	
圏域	南総東	1944	(0.86 - 1.38)	五井東	
圏域	加茂	1887	(0.87 - 1.39)	五井東	
圏域	市原東	6440	(0.81 - 1.13)	五井東	
圏域	辰巳台	1731	(0.93 - 1.50)	五井東	
圏域	市津	4262	(0.80 - 1.16)	五井東	
圏域	ちはら台	2321	(0.62 - 1.01)	五井東	
圏域	市原北	4418	(0.98 - 1.39)	五井東	
圏域	市原西	2871	(1.10 - 1.62)	五井東	新規認定が多い
圏域	五井西	2966	(0.67 - 1.05)	五井東	
圏域	五井南	1733	(0.89 - 1.45)	五井東	
圏域	国分寺台	5889	(0.57 - 0.82)	五井東	新規認定が少ない
圏域	三和	4557	(0.73 - 1.07)	五井東	
圏域	姉崎	4800	(0.87 - 1.25)	五井東	
圏域	青葉台	2590	(0.50 - 0.83)	五井東	新規認定が少ない
圏域	有秋	3215	(0.52 - 0.83)	五井東	新規認定が少ない

表4 日常生活圏域毎の新規認定割合オッズ比

(*) 介護認定データより集計。日常生活圏域毎の高齢者数は、市原市ホームページを参照して加工。日常生活圏域毎の期初の要介護認定者数および期中の新規認定者数は、介護認定データにより集計している。日常生活圏域毎の要介護認定者数は、被保険者資格データに収録されている郵便番号により判断している。オッズ比では各日常生活圏域を、人口が最も多い五井東と比較している

2016年度 要支援1-2要介護1-2					
属性名	属性値	N	オッズ比95%信頼区間	参照グループ	備考
圏域	南総北	2323	(0.67 - 1.15)	五井東	
圏域	南総西	2985	(0.80 - 1.28)	五井東	
圏域	南総東	1944	(0.79 - 1.37)	五井東	
圏域	加茂	1887	(0.91 - 1.54)	五井東	
圏域	市原東	6440	(0.84 - 1.22)	五井東	
圏域	辰巳台	1731	(0.87 - 1.50)	五井東	
圏域	市津	4262	(0.74 - 1.14)	五井東	
圏域	ちはら台	2321	(0.61 - 1.06)	五井東	
圏域	市原北	4418	(1.03 - 1.53)	五井東	新規認定が多い
圏域	市原西	2871	(1.09 - 1.69)	五井東	新規認定が多い
圏域	五井西	2966	(0.64 - 1.07)	五井東	
圏域	五井南	1733	(0.91 - 1.56)	五井東	
圏域	国分寺台	5889	(0.57 - 0.87)	五井東	新規認定が少ない
圏域	三和	4557	(0.69 - 1.07)	五井東	
圏域	姉崎	4800	(0.85 - 1.27)	五井東	
圏域	青葉台	2590	(0.49 - 0.87)	五井東	新規認定が少ない
圏域	有秋	3215	(0.53 - 0.89)	五井東	新規認定が少ない

表4 日常生活圏域毎の新規認定割合オッズ比

(*) 介護認定データより集計。日常生活圏域毎の高齢者数は、市原市ホームページを参照して加工。日常生活圏域毎の期初の要介護認定者数および期中の新規認定者数は、介護認定データにより集計している。日常生活圏域毎の要介護認定者数は、被保険者資格データに収録されている郵便番号により判断している。オッズ比では各日常生活圏域を、人口が最も多い五井東と比較している

2017年度 全体

属性名	属性値	N	オッズ比95%信頼区間	参照グループ	備考
圏域	南総北	2354	(0.85 - 1.34)	五井東	
圏域	南総西	3053	(0.71 - 1.10)	五井東	
圏域	南総東	1974	(1.06 - 1.66)	五井東	新規認定が多い
圏域	加茂	1887	(0.80 - 1.32)	五井東	
圏域	市原東	6434	(0.80 - 1.13)	五井東	
圏域	辰巳台	1771	(0.68 - 1.16)	五井東	
圏域	市津	4325	(0.80 - 1.17)	五井東	
圏域	ちはら台	2523	(0.46 - 0.79)	五井東	新規認定が少ない
圏域	市原北	4480	(0.82 - 1.19)	五井東	
圏域	市原西	2873	(0.93 - 1.41)	五井東	
圏域	五井西	3026	(0.78 - 1.20)	五井東	
圏域	五井南	1744	(0.79 - 1.32)	五井東	
圏域	国分寺台	6147	(0.62 - 0.90)	五井東	新規認定が少ない
圏域	三和	4658	(0.72 - 1.05)	五井東	
圏域	姉崎	4835	(0.81 - 1.17)	五井東	
圏域	青葉台	2650	(0.59 - 0.96)	五井東	新規認定が少ない
圏域	有秋	3379	(0.75 - 1.13)	五井東	

表4 日常生活圏域毎の新規認定割合オッズ比

(*) 介護認定データより集計。日常生活圏域毎の高齢者数は、市原市ホームページを参照して加工。日常生活圏域毎の期初の要介護認定者数および期中の新規認定者数は、介護認定データにより集計している。日常生活圏域毎の要介護認定者数は、被保険者資格データに収録されている郵便番号により判断している。オッズ比では各日常生活圏域を、人口が最も多い五井東と比較している

2017年度 要支援1-2要介護1-2

属性名	属性値	N	オッズ比95%信頼区間	参照グループ	備考
圏域	南総北	2354	(0.81 - 1.37)	五井東	
圏域	南総西	3053	(0.66 - 1.11)	五井東	
圏域	南総東	1974	(1.14 - 1.88)	五井東	新規認定が多い
圏域	加茂	1887	(0.79 - 1.40)	五井東	
圏域	市原東	6434	(0.85 - 1.25)	五井東	
圏域	辰巳台	1771	(0.66 - 1.22)	五井東	
圏域	市津	4325	(0.79 - 1.23)	五井東	
圏域	ちはら台	2523	(0.47 - 0.86)	五井東	新規認定が少ない
圏域	市原北	4480	(0.83 - 1.27)	五井東	
圏域	市原西	2873	(0.94 - 1.51)	五井東	
圏域	五井西	3026	(0.70 - 1.17)	五井東	
圏域	五井南	1744	(0.79 - 1.41)	五井東	
圏域	国分寺台	6147	(0.66 - 1.01)	五井東	
圏域	三和	4658	(0.72 - 1.12)	五井東	
圏域	姉崎	4835	(0.79 - 1.21)	五井東	
圏域	青葉台	2650	(0.62 - 1.07)	五井東	
圏域	有秋	3379	(0.65 - 1.07)	五井東	

表5 属性間の関連性

介護認定データ、資格データより、市原市の2016年度初時点の要介護認定者（11,289人）について、集計したもの

二つの属性ペアごとのクロス集計表より算出したクラメールの連関係数（0から1の値を取り、1に近いほど二つの属性の関連性が高い）を示している

属性	性別	年齢階級	圏域	認定区分	現在の状況	特別な医療の 必要性	要介護度	障害高齢者自 立度	認知症高齢者 自立度
性別	0	0.21	0.07	0.08	0.11	0.10	0.07	0.08	0.06
年齢階級	0.21	0	0.09	0.10	0.11	0.09	0.09	0.10	0.14
圏域	0.07	0.09	0	0.05	0.09	0.05	0.06	0.06	0.06
認定区分	0.08	0.10	0.05	0	0.33	0.14	0.19	0.15	0.18
現在の状況	0.11	0.11	0.09	0.33	0	0.36	0.22	0.21	0.18
特別な医療の必要性	0.10	0.09	0.05	0.14	0.36	0	0.37	0.45	0.25
要介護度	0.07	0.09	0.06	0.19	0.22	0.37	0	0.42	0.35
障害高齢者自立度	0.08	0.10	0.06	0.15	0.21	0.45	0.42	0	0.25
認知症高齢者自立度	0.06	0.14	0.06	0.18	0.18	0.25	0.35	0.25	0

表6_1 集計で使用しているサービス種類コード等 ～ 介護サービス種類

(*) 本調査研究の介護レセプトデータ集計・分析では、複数のサービス種類コードをまとめて集計用サービス種類を設定し、集計・分析している。なおこの表で集計用サービス種類名が空白のサービス種類については、本調査研究では集計・分析対象としていない

集計用サービス種類名	サービス種類コード	サービス種類名
訪問介護	11	訪問介護
	12	訪問入浴介護
訪問看護	13	訪問看護
訪問リハビリテーション	14	訪問リハビリテーション
通所介護	15	通所介護
通所リハビリテーション	16	通所リハビリテーション
	17	福祉用具貸与
短期利用	21	短期入所生活介護
	22	短期入所療養介護（介護老人保健施設）
	23	短期入所療養介護（介護療養型医療施設等）
短期利用	24	介護予防短期入所生活介護
	25	介護予防短期入所療養介護（介護老人保健施設）
	26	介護予防短期入所療養介護（介護療養型医療施設等）
	27	特定施設入居者生活介護（短期利用）
	28	地域密着型特定施設入居者生活介護（短期利用）
居宅療養管理指導	31	居宅療養管理指導
グループホーム	32	認知症対応型共同生活介護（短期利用以外）
特定施設	33	特定施設入居者生活介護（短期利用以外）
居宅療養管理指導	34	介護予防居宅療養管理指導
特定施設	35	介護予防特定施設入居者生活介護
特定施設	36	地域密着型特定施設入居者生活介護（短期利用以外）
グループホーム	37	介護予防認知症対応型共同生活介護（短期利用以外）
短期利用	38	認知症対応型共同生活介護（短期利用）
短期利用	39	介護予防認知症対応型共同生活介護（短期利用）
	41	特定福祉用具販売
	42	住宅改修
居宅介護支援	43	居宅介護支援
	44	特定介護予防福祉用具販売
	45	介護予防住宅改修
居宅介護支援	46	介護予防支援
	50	食事提供費
特養	51	介護福祉施設サービス
老健	52	介護保健施設サービス
	53	介護療養施設サービス
特養	54	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護
	59	特定介護サービス等
	60	特定診療
訪問介護	61	介護予防訪問介護
	62	介護予防訪問入浴介護
訪問看護	63	介護予防訪問看護
訪問リハビリテーション	64	介護予防訪問リハビリテーション
通所介護	65	介護予防通所介護
通所リハビリテーション	66	介護予防通所リハビリテーション
	67	介護予防福祉用具貸与
短期利用	68	小規模多機能型居宅介護（短期利用）
短期利用	69	介護予防小規模多機能型居宅介護（短期利用）
	70	特別療養
	71	夜間対応型訪問介護
	72	認知症対応型通所介護
小規模多機能	73	小規模多機能型居宅介護（短期利用以外）
	74	介護予防認知症対応型通所介護
小規模多機能	75	介護予防小規模多機能型居宅介護（短期利用以外）
	76	定期巡回・随時対応型訪問介護看護
小規模多機能	77	複合型サービス（看護小規模多機能型居宅介護・短期利用以外）
短期利用	79	複合型サービス（看護小規模多機能型居宅介護・短期利用）

表6_2 集計で使用しているサービス種類コード等 ～ 医療・介護連携、看取り介護とターミナルケアに関する加算

(*) 本調査研究の介護レセプトデータ集計・分析では、いくつかのサービスコードをまとめて医療・介護連携、看取り介護とターミナルケアに関する加算の集計名を設定し、集計・分析している。

医療・介護連携、看取り介護とターミナルケアに関する加算の集計名	サービス種類コード	サービスコード	サービス名
入院時情報連携加算	43	6125	居宅支援入院時情報連携加算Ⅰ
入院時情報連携加算	43	6129	居宅支援入院時情報連携加算Ⅱ
退院退所加算	43	6132	居宅支援退院退所加算Ⅰ 1 (1)
退院退所加算	43	6143	居宅支援退院退所加算Ⅰ 2 (2)
退院退所加算	43	6144	居宅支援退院退所加算Ⅱ 1 (3)
退院退所加算	43	6145	居宅支援退院退所加算Ⅱ 2 (4)
退院退所加算	43	6146	居宅支援退院退所加算Ⅲ (5)
退院時共同指導加算	13	4003	訪問看護ホ 退院時共同指導加
退院時共同指導加算	63	4003	予防訪問看護退院時共同指導加算 二
入院時情報連携加算Ⅰ	43	6125	居宅支援入院時情報連携加算Ⅰ
入院時情報連携加算ⅠⅠ	43	6129	居宅支援入院時情報連携加算Ⅱ
特養看取り介護加算	51	6276	福祉施設看取り介護加算Ⅰ 1
特養看取り介護加算	51	6277	福祉施設看取り介護加算Ⅰ 2
特養看取り介護加算	51	6283	福祉施設看取り介護加算Ⅰ 3
特養看取り介護加算	51	6284	福祉施設看取り介護加算Ⅱ 1
特養看取り介護加算	51	6285	福祉施設看取り介護加算ⅠⅠ 2
特養看取り介護加算	51	6286	福祉施設看取り介護加算ⅠⅠ 3
特養看取り介護加算	54	6276	福祉施設看取り介護加算Ⅰ 1
特養看取り介護加算	54	6277	福祉施設看取り介護加算Ⅰ 2
特養看取り介護加算	54	6283	福祉施設看取り介護加算Ⅰ 3
特養看取り介護加算	54	6284	福祉施設看取り介護加算Ⅱ 1
特養看取り介護加算	54	6285	福祉施設看取り介護加算ⅠⅠ 2
特養看取り介護加算	54	6286	福祉施設看取り介護加算ⅠⅠ 3
老健ターミナルケア加算	52	6600	保健施設ターミナルケア加算 1 1
老健ターミナルケア加算	52	6001	保健施設ターミナルケア加算 1 2
老健ターミナルケア加算	52	6602	保健施設ターミナルケア加算 2 1
老健ターミナルケア加算	52	6002	保健施設ターミナルケア加算 2 2
老健ターミナルケア加算	52	6603	保健施設ターミナルケア加算 3 1
老健ターミナルケア加算	52	6003	保健施設ターミナルケア加算 3 2
訪問看護ターミナルケア加算	13	7000	訪問看護ターミナルケア加算
特定施設看取り介護加算	33	6125	特定施設看取り介護加算 1
特定施設看取り介護加算	33	6126	特定施設看取り介護加算 2
特定施設看取り介護加算	33	6127	特定施設看取り介護加算 3
グループホーム看取り介護加算	32	6142	認知症対応型看取り介護加算1
グループホーム看取り介護加算	32	6143	認知症対応型看取り介護加算2
グループホーム看取り介護加算	32	6144	認知症対応型看取り介護加算3
小規模多機能看取り連携体制加算	73	4000	看取り連携体制加算